

構造関係特記仕様書		項 目	特 記 事 項	項 目	特 記 事 項	項 目	特 記 事 項																																																																																																								
① 建物概要 ② 構造種別・仕様 ③ 主体構造形式 ④ 計算ルート	建築概要 <table border="1"> <tr><td>工事名称</td><td colspan="3">意匠図参照</td></tr> <tr><td>建設地</td><td colspan="3">意匠図参照</td></tr> <tr><td>建物用途</td><td colspan="3">意匠図参照</td></tr> <tr><td>建物規模</td><td colspan="3">地下 1 階、地上 2 階、棟屋 一階</td></tr> <tr> <td></td> <td>建築面積</td> <td>意匠図参照</td> <td>延べ面積</td> <td>意匠図参照</td> </tr> <tr> <td></td> <td>軒 高</td> <td>意匠図参照</td> <td>建物高さ</td> <td>意匠図参照</td> </tr> <tr> <td></td> <td>最高高さ</td> <td>意匠図参照</td> <td>基礎底深さ</td> <td>意匠図参照</td> </tr> <tr> <td>工事種別</td> <td>○新 築</td> <td>・増 築</td> <td>・別棟増築</td> <td>・改築</td> </tr> <tr> <td>増築予定</td> <td>・有</td> <td>○無</td> <td>(・増増</td> <td>・上増)</td> </tr> <tr> <td>計画供用期間</td> <td>・短期</td> <td>○標準期</td> <td>・長期</td> <td>・超長期</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th>部 位</th> <th>構造種別・仕様</th> <th>部 位</th> <th>構造種別・仕様</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">基 礎</td> <td>・直接基礎 (・独立・連続 ・ベタ・____) ・杭 ・ラブルコンクリート ○地盤改良</td> <td>大 梁</td> <td>○RC ・W ・ ○RC ・SRC ・W ・</td> </tr> <tr> <td>○RC ・SRC ・W ・</td> <td>スラブ</td> <td>○RC ・PC ・ALC ・デッキプレート ・合成スラブ ・W ・</td> </tr> <tr> <td>柱</td> <td>○RC ・SRC ・W ・</td> <td>壁(ブレース ・筋交い)</td> <td>○RC ・S ・W ・ ・アンボンドブレース</td> </tr> <tr> <td>構造形式</td> <td colspan="3">○耐力壁付ラーメン構造(X/Y方向)</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr><td>本体棟</td><td>ル ー ト</td><td>判定用種別</td></tr> <tr> <td>X・Y 方向</td> <td>・1- ○2- ・3 ・</td> <td>○RC ・SRC ○S ・W</td> </tr> <tr> <td>重要度係数</td> <td>★1.0 ○1.25 ・1.5</td> <td></td> </tr> </table> <table border="1"> <tr><td>02 和+03 会+06 発+07 作</td><td>ル ー ト</td><td>判定用種別</td></tr> <tr> <td>X・Y 方向</td> <td>○1- ・2- ・3 ・</td> <td>○RC ・SRC ○S ・W</td> </tr> <tr> <td>重要度係数</td> <td>★1.0 ○1.25 ・1.5</td> <td></td> </tr> </table> <table border="1"> <tr><td>08 演</td><td>ル ー ト</td><td>判定用種別</td></tr> <tr> <td>X・Y 方向</td> <td>・1- ・2- ・3 ○仕様規定</td> <td>○RC ・SRC ・S ・W</td> </tr> <tr> <td>重要度係数</td> <td>★1.0 ○1.25 ・1.5</td> <td></td> </tr> </table>	工事名称	意匠図参照			建設地	意匠図参照			建物用途	意匠図参照			建物規模	地下 1 階、地上 2 階、棟屋 一階				建築面積	意匠図参照	延べ面積	意匠図参照		軒 高	意匠図参照	建物高さ	意匠図参照		最高高さ	意匠図参照	基礎底深さ	意匠図参照	工事種別	○新 築	・増 築	・別棟増築	・改築	増築予定	・有	○無	(・増増	・上増)	計画供用期間	・短期	○標準期	・長期	・超長期	部 位	構造種別・仕様	部 位	構造種別・仕様	基 礎	・直接基礎 (・独立・連続 ・ベタ・____) ・杭 ・ラブルコンクリート ○地盤改良	大 梁	○RC ・W ・ ○RC ・SRC ・W ・	○RC ・SRC ・W ・	スラブ	○RC ・PC ・ALC ・デッキプレート ・合成スラブ ・W ・	柱	○RC ・SRC ・W ・	壁(ブレース ・筋交い)	○RC ・S ・W ・ ・アンボンドブレース	構造形式	○耐力壁付ラーメン構造(X/Y方向)			本体棟	ル ー ト	判定用種別	X・Y 方向	・1- ○2- ・3 ・	○RC ・SRC ○S ・W	重要度係数	★1.0 ○1.25 ・1.5		02 和+03 会+06 発+07 作	ル ー ト	判定用種別	X・Y 方向	○1- ・2- ・3 ・	○RC ・SRC ○S ・W	重要度係数	★1.0 ○1.25 ・1.5		08 演	ル ー ト	判定用種別	X・Y 方向	・1- ・2- ・3 ○仕様規定	○RC ・SRC ・S ・W	重要度係数	★1.0 ○1.25 ・1.5		共通事項 ① 標準仕様書 / 項目・特記事項の適用 ② 設計図書の優先順位 ③ 提出書類等	④ 建設発生土 (3.2.5) ⑤ 障害物 (3.2.1) ⑥ 道路補修 7. 土質調査	処理方法 ◎構外搬出適切処理 ・構内指定場所に堆積 ・現場説明書による ・構内指定場所に敷き均し ◎工事に支障があるものは完全撤去 ◎工事により破損した構内外の道路は完全補修 調査項目 ・ボーリング ____m ____本 ・標準貫入試験(★1.0m毎 ・)	④ 基礎の設計支持力 5. 試験杭及び支持力の確認 (4.2.2)	⑤ 帯筋 (別図2.2) ⑥ ガス圧接 (5.4)	◎H形 (スパイラル筋) ・ W- I 形(溶接閉鎖型) (別図2.2) ・ 丸形 ガス圧接技量資格者 ◎手動圧接 (社)日本圧接協会がJIS Z 3881の試験に基づき認めた技量資格種別 2種以上(呼び径D32以下)の者とする。 ・自動圧接 (社)日本圧接協会に認定された者とする。 試験及び検査 <table border="1"> <tr> <th>検査項目</th> <th>試験方法</th> <th>時期・回数</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td>◎外観検査</td> <td>目視</td> <td>圧接作業完了時に全数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>◎抜取り検査</td> <td>・引張 JIS Z 3120 ・3本 ・5本 ◎超音波探傷 JIS Z 3082</td> <td>1検査ロットに1検査ロットに30箇所以上</td> <td></td> </tr> </table> 1検査ロットは1組の作業班が1日に行った圧接箇所の数値及び200箇所以内とする。 コンクリート打設前に必ず監督員に検査結果を報告すること。 鉄筋の種類が異なる場合、形状が著しく異なる場合、及び径の差が5mmを超える場合は圧接をしない事。ただし、鉄筋の種類が異なる場合においてはSD390とSD345の圧接を行うことができる。 試験片を採取した部分の修正 ◎同種の鉄筋を両端圧接する。 ・同種の鉄筋(D25以下)を両端重ね継手とする。 不良圧接の修正 ◎「標準仕様書」J5.4.11 不合格圧接部の修正による。 補強方法 ◎図示による。現場にて変更が生じた場合は、監督員の指示に従う。 補強箇所 ◎該当設備図及び電気図による。 ・適宜位置図による。 現場にて位置・寸法の変更が生じた場合は、監督員の指示に従う。 防錆鉄筋 使用箇所: 性能: ____ヶ月程度	検査項目	試験方法	時期・回数	備 考	◎外観検査	目視	圧接作業完了時に全数		◎抜取り検査	・引張 JIS Z 3120 ・3本 ・5本 ◎超音波探傷 JIS Z 3082	1検査ロットに1検査ロットに30箇所以上	
	工事名称	意匠図参照																																																																																																													
	建設地	意匠図参照																																																																																																													
	建物用途	意匠図参照																																																																																																													
建物規模	地下 1 階、地上 2 階、棟屋 一階																																																																																																														
	建築面積	意匠図参照	延べ面積	意匠図参照																																																																																																											
	軒 高	意匠図参照	建物高さ	意匠図参照																																																																																																											
	最高高さ	意匠図参照	基礎底深さ	意匠図参照																																																																																																											
工事種別	○新 築	・増 築	・別棟増築	・改築																																																																																																											
増築予定	・有	○無	(・増増	・上増)																																																																																																											
計画供用期間	・短期	○標準期	・長期	・超長期																																																																																																											
部 位	構造種別・仕様	部 位	構造種別・仕様																																																																																																												
基 礎	・直接基礎 (・独立・連続 ・ベタ・____) ・杭 ・ラブルコンクリート ○地盤改良	大 梁	○RC ・W ・ ○RC ・SRC ・W ・																																																																																																												
	○RC ・SRC ・W ・	スラブ	○RC ・PC ・ALC ・デッキプレート ・合成スラブ ・W ・																																																																																																												
柱	○RC ・SRC ・W ・	壁(ブレース ・筋交い)	○RC ・S ・W ・ ・アンボンドブレース																																																																																																												
構造形式	○耐力壁付ラーメン構造(X/Y方向)																																																																																																														
本体棟	ル ー ト	判定用種別																																																																																																													
X・Y 方向	・1- ○2- ・3 ・	○RC ・SRC ○S ・W																																																																																																													
重要度係数	★1.0 ○1.25 ・1.5																																																																																																														
02 和+03 会+06 発+07 作	ル ー ト	判定用種別																																																																																																													
X・Y 方向	○1- ・2- ・3 ・	○RC ・SRC ○S ・W																																																																																																													
重要度係数	★1.0 ○1.25 ・1.5																																																																																																														
08 演	ル ー ト	判定用種別																																																																																																													
X・Y 方向	・1- ・2- ・3 ○仕様規定	○RC ・SRC ・S ・W																																																																																																													
重要度係数	★1.0 ○1.25 ・1.5																																																																																																														
検査項目	試験方法	時期・回数	備 考																																																																																																												
◎外観検査	目視	圧接作業完了時に全数																																																																																																													
◎抜取り検査	・引張 JIS Z 3120 ・3本 ・5本 ◎超音波探傷 JIS Z 3082	1検査ロットに1検査ロットに30箇所以上																																																																																																													
① 根切り (3.2.1) 山留め (3.3) 2. 排水 (3.2.2) ③ 埋戻し及び盛土 (3.2.3)	③ 土 工 事 特記なき限り日本建築学会 JASS3 -2009による。 根切りにより工事現場内外に有害な影響を与えないよう、かつ土砂が崩壊しないよう関係法令等に従い、下記の工法を参考にし、諸負者の責任において適切な法、または山留めを設けて根切りを行うこと。山留はX・Y方向に対して変位計測を行い、監督員に報告すること。 山留め壁 ○法付けオープンカット工法 ○鋼杭横矢板工法(地下部) ・鋼矢板工法 ・ソイルセメント柱列山留め壁工法 ・場所打ち鉄筋コンクリート地中壁工法 支保工 ○水平切張り工法 ・アイランド工法 根切り底の検査 ◎要 ・ 不要 排水により工事現場内外、根切り底、法面などに有害な影響を与えないよう、下記の工法を参考にし、諸負者の責任において工事を行うこと。 排水工法 ・金場工法 ・ディープウェル工法 ・明渠・暗渠工法 埋戻し及び盛土の種類 ○A 種 山砂の類 ○B 種 根切り土の中の良質土 ・C 種 他現場の建設発生土の中の良質土 ・D 種 再生コンクリート砂 ・水締め、機器による締固め ・機器による締固め ・水締め、機器による締固め	④ 鋼杭地業 (4.4) ⑤ 鋼杭地業 (4.4) ⑥ 鋼杭地業 (4.4) ⑦ 鋼杭地業 (4.4) ⑧ 鋼杭地業 (4.4) ⑨ 鋼杭地業 (4.4) ⑩ 鋼杭地業 (4.4)	④ 鋼杭地業 (4.4) ⑤ 鋼杭地業 (4.4) ⑥ 鋼杭地業 (4.4) ⑦ 鋼杭地業 (4.4) ⑧ 鋼杭地業 (4.4) ⑨ 鋼杭地業 (4.4) ⑩ 鋼杭地業 (4.4)	④ 鋼杭地業 (4.4) ⑤ 鋼杭地業 (4.4) ⑥ 鋼杭地業 (4.4) ⑦ 鋼杭地業 (4.4) ⑧ 鋼杭地業 (4.4) ⑨ 鋼杭地業 (4.4) ⑩ 鋼杭地業 (4.4)	④ 鋼杭地業 (4.4) ⑤ 鋼杭地業 (4.4) ⑥ 鋼杭地業 (4.4) ⑦ 鋼杭地業 (4.4) ⑧ 鋼杭地業 (4.4) ⑨ 鋼杭地業 (4.4) ⑩ 鋼杭地業 (4.4)	④ 鋼杭地業 (4.4) ⑤ 鋼杭地業 (4.4) ⑥ 鋼杭地業 (4.4) ⑦ 鋼杭地業 (4.4) ⑧ 鋼杭地業 (4.4) ⑨ 鋼杭地業 (4.4) ⑩ 鋼杭地業 (4.4)	④ 鋼杭地業 (4.4) ⑤ 鋼杭地業 (4.4) ⑥ 鋼杭地業 (4.4) ⑦ 鋼杭地業 (4.4) ⑧ 鋼杭地業 (4.4) ⑨ 鋼杭地業 (4.4) ⑩ 鋼杭地業 (4.4)																																																																																																								

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項																																																																																																																																																																																
④ 普通コンクリート-1 (6.3)	セメント 水セメント比 単位水量 単位セメント量 混和材料 水 骨 材 乾燥収縮 ◎ 乾燥収縮率の級 (収縮率上限値 × 10 ⁻⁴) ○ 標準 (800) ・ 高級 (650) ・ 特級 (500) ・ 超特級 (400)	⑩ 型枠 (6.8) ⑪ 型枠の存置期間及び取外し (6.8.5)	コンクリートの強度試験(表6.9.2) 試験項目 試験の目的 養生方法 材齢 調査管理強度の管理試験 調査管理強度の管理 JIS A 1132による標準養生 28日 構造体のコンクリート強度の推定試験 構造体コンクリートの28日圧縮強度の推定 現場水中養生 28日 又はコア供試験体 現場封かん養生 28～91日 型枠取外し時期の決定 現場水中養生/現場封かん養生 必要に応じて 寒中コンクリートの強度試験(表6.11.1) 試験項目 試験の目的 養生方法 材齢 調査管理強度の管理試験 調査管理強度の管理 JIS A 1132に準ずる養生 28日 構造体のコンクリート強度の推定試験 構造体コンクリートの強度が設計基準強度を満足することの推定 工事現場における封かん養生又はコア供試験体 28日を超え91日以内 試験回数 ◎ 普通コンクリートの場合コンクリートの種類が異なるごとに1日1回以上かつ打込み区ごと、打込み日ごと、150mを超える場合は、150m以下にほぼ均等に分割した単位ごと ○ 軽量コンクリート及び高強度コンクリートの場合、コンクリートの種類が異なるごとに1日1回以上かつ打込み区ごと、打込み日ごと、100mを超える場合は、100m以下にほぼ均等に分割した単位ごと ◎ 型枠の仕様は意匠図による。 ・ コンクリート打放し部: ◎ せき板の最小存置期間は下記による。 <table><tr><th rowspan="2">施工箇所</th><th rowspan="2">セメントの種類</th><th colspan="4">基礎、梁側、柱、壁</th></tr><tr><th>早強ポルトランドセメント</th><th>普通ポルトランドセメント</th><th>混合セメントB種</th><th>中腐熱及び低熱ポルトランドセメント</th></tr><tr><td rowspan="3">コンクリートの材齢による場合(日)</td><td>15℃以上</td><td>2</td><td>3</td><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>5℃以上</td><td>3</td><td>5</td><td>7</td><td>8</td></tr><tr><td>0℃以上</td><td>5</td><td>8</td><td>10</td><td>12</td></tr></table> コンクリートの圧縮強度による場合 圧縮強度 ◎ 5N/mm ² 以上 ・ 10N/mm ² 以上 推定方法 ・ 圧縮強度試験による ・ 等価材齢換算式による ◎ 支柱の最小存置期間は下記による。 <table><tr><th rowspan="2">施工箇所</th><th rowspan="2">セメントの種類</th><th colspan="2">スラブ下</th><th rowspan="2">梁 下</th></tr><tr><th>普通ポルトランドセメント</th><th>混合セメントB種、中腐熱及び低熱ポルトランドセメント</th></tr><tr><td rowspan="3">コンクリートの材齢による場合(日)</td><td>15℃以上</td><td>8</td><td>17</td><td rowspan="4">28</td></tr><tr><td>5℃以上</td><td>12</td><td>25</td></tr><tr><td>0℃以上</td><td>15</td><td>28</td></tr></table> コンクリートの圧縮強度による場合 圧縮強度が設計基準強度の85%以上又は12N/mm ² 以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。圧縮強度が設計基準強度以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。 湿潤養生の期間 セメントの種類 期間 普通ポルトランドセメント ◎ 5日以上 ・ 日 以上 混合セメントのA種 ・ 3日以上 ・ 日 以上 早強ポルトランドセメント ・ 7日以上 ・ 日 以上 中腐熱及び低熱ポルトランドセメント 高炉セメントB種 ・ 日 以上 フライアッシュセメントB種 普通エコセメント ・ 日 以上 仕 様 適用箇所 打継水平目地 ◎ 図示 ・ 図示 ◎ 意匠図による 化粧目地 ◎ 図示 ◎ 意匠図による 読取目地 ◎ 図示 ・ 図示 ◎ 意匠図による 構造スリット ◎ 図示 仕様 使用箇所 ・ 塩化ビニール製 JIS K 6773 ・ 鉄板入りアスファルト系 中厚 200×6 止水板外貼型 20×10 ・ 水能弾性ゴム シール 地下躯体 打継ぎ部 ◎ 可塑性ペントナイト系止水材	施工箇所	セメントの種類	基礎、梁側、柱、壁				早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	混合セメントB種	中腐熱及び低熱ポルトランドセメント	コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	2	3	5	6	5℃以上	3	5	7	8	0℃以上	5	8	10	12	施工箇所	セメントの種類	スラブ下		梁 下	普通ポルトランドセメント	混合セメントB種、中腐熱及び低熱ポルトランドセメント	コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	8	17	28	5℃以上	12	25	0℃以上	15	28	② 高力ボルト (7.2.2) (7.4) 鋼材の材料 ・ 高炉材使用箇所 ・ 柱 ・ 大梁 ・ ○ 電炉材使用箇所 ○ 全て ・ ボルトの種類 ・ JIS型高力ボルト JIS B 1186 の規格品 (セツトの種類 ・ 2種 (F10T) ・) ◎ トルシア型高力ボルト(認定品) (セツトの種類 ◎ JISの2種 (S10T) ・) ◎ トルシア型超高力ボルト(認定品) (セツトの種類 ◎ SHTB(S14T,F12T) ・) ・ 耐候性高力ボルト (セツトの種類 ・ JISの2種と同等品 ・) 摩擦面の処理 ◎ 「標準仕様書」J7.4.2による。尚、ミルスケールはディスクグラインダー掛け等により原則として添え板全面の範囲について除去したもの、一様に錆を発生させる。 試験及び検査 ◎ 規格証明書又は、製造管理方法及び品質管理試験結果による確認「標準仕様書」J7.2.10 ◎ 摩擦接合面の確認「標準仕様書」J7.4.2 ◎ 溶け付け検査「標準仕様書」J7.4.8 ・ すべり係数試験 ・ JIS B 1186 に準じた試験 ・ 「標準仕様書」J7.2.3、7.5による。 ・ 4.6 ・ 4.8 ・ グブレース 溶接施工管理技術者(7.6.2) ◎ 溶接施工管理技術者は、「標準仕様書」J7.6.2による。 技能資格者(7.6.3) ◎ AW検定合格者を従事させる。 ◎ 技量付加試験を実施する。(AW認定がない場合) ・ 標準仕様書による エンドタブ(7.6.7) ◎ 鋼製エンドタブを使用する場合は、「標準仕様書」J7.6.7による。 ◎ 鋼製エンドタブ以外のエンドタブを使用する場合は監督員の承諾を得ること。 ◎ 仕口部はノンスラップ工法とする。 溶接部の検査及び試験(7.6.10)、(7.6.12) 検査項目 検査方法 ◎ 寸法検査 ・ 行う ○ 行わない ◎ 組立検査 ◎ 行う ・ 行わない ◎ 行う ・ 行わない ◎ 溶接後検査 ◎ 行う ・ 行わない ◎ 行う ・ 行わない 第三者検査機関の組立検査は各節1回とする。 溶接部の試験(7.6.12) 検査箇所 検査方法 工場安全せ溶接部 超音波探傷検査 100% 30% 外観(目視)検査 100% 100% 隅肉溶接 外観(目視)試験 100% 100% 現場安全せ溶接部 超音波探傷検査 100% 100% 抜き取り方法は1節1回ごととし、検査ロットは溶接部位ごとに構成し、1検査ロットの溶接箇所数300個程度とする。抜き取りはランダムサンプリング方法を原則とする。 第三者検査機関は、アウトエーションハートとし、超音波探傷検査第3種技術者が行い、監督員の承諾を得る。 検査規程 ◎ 外観・精度検査規程 ◎ JASS 6「鉄骨精度検査規程」による。 ◎ 超音波探傷検査による溶接部の合格判定規程 ◎ 日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規程・同解説」の疲労を考慮しない溶接部 (1)溶接部に引張応力が作用する場合による。 スタッド溶接材料及びデッキプレート溶接(7.7) ◎ 引付きスタッド JIS B 1198 ◎ 図示 ・ 異形棒鋼スタッド 引張強さ400N/㎡以上 D16以下 ・ KSW400 ・ SD295 ・ 引張強さ490N/㎡以上 D19以上 ・ KSW490 ・ SD345 ・ デッキプレートはJIS G 3352の規格品とする。(7.7.2) 種類 規格の記号 ・ デッキプレート ・ SDP1TG (・ Z12 ・ Z27) ・ SDP2 ・ SDP2G (・ Z12 ・ Z27) ・ 合成スラブ用 ・ SDP1T ・ SDP1TG (・ Z12 ・ Z27) デッキプレート ・ SDP2 ・ SDP2G (・ Z12 ・ Z27) ・ フラット型 ・ SDP1T ・ SDP1TG (・ Z12 ・ Z27) デッキプレート ・ SDP2 ・ SDP2G (・ Z12 ・ Z27) デッキプレート貫通溶接可能箇所 ◎ 小梁 ・ 小梁及び大梁 デッキプレート溶接 ◎ アークスポット溶接 ・ すみ肉溶接 ・ フラグ溶接 ・ 焼抜栓溶接 アーク溶接、アークスポット溶接、スタッド溶接は日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事」、「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」に準じて行う。 溶接工は溶接溶接に十分な技量を有する者とし、JIS Z 3801(溶接技術検定における試験方法及びその判定基準)の有資格者とする。 鉄鋼面の素地ごしらえの種別(18.2.3) 種 別 適用箇所 備 考 ◎ 1種 ◎ 2種 さび止め塗装全面	鉄鋼面のさび止め塗料種別(18.3.2) ◎ 鉄骨部のさび止め塗料種別は下記とする。 ◎ 鉄骨造部分 ◎ A種(JIS K 5674 1種) ・ デッキプレート下端 ・ さび塗装なし ・ ・ 耐火被覆面 ・ さび塗装なし ・ ・ SRC造の鋼製スリーブ内面 ◎ A種(JIS K 5674 1種) 鉄鋼面さび止め塗料塗り(18.3.3) ◎ 見え掛り部分は A種、見え隠れ部分は B種とする。 適用箇所 ◎ 外部に接する部分(屋上階、屋外階段) めっき面の素地ごしらえ ◎ 「標準仕様書」18.2.4のA種とする。 めっきの種類及び付着量 ◎ 溶融亜鉛めっき(JIS H 8641)のA種(HDZ55) 高力ボルト ◎ 高力ボルトは溶融亜鉛めっき高力ボルト1種A(F8T相当)とする。 ◎ 摩擦面の処理は「標準仕様書」J7.12.5による。 種類及び適用箇所:意匠図参照 工 法 適用箇所 備 考 ・ 吹付け工法 ・ 耐火塗料 ◎ 構造用アンカーボルト ◎ JIS B 1220 転造 (・ ABR400 ◎ ABR490) ・ JIS B 1221 切削 (・ ABM400 ・ ABM490) ・ JIS G 3101のSS400 ◎ 建方用アンカーボルト ◎ JIS G 3101のSS400 ・ 半固定栓型(既製品) <table><tr><th>種 別</th><th>アンカーボルト</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・ ハイベース</td><td>認定品</td><td>日立機材(株)</td></tr><tr><td>・ ベースバック</td><td>認定品</td><td>旭化成建材(株)</td></tr><tr><td>・ NCベース</td><td>認定品</td><td>日本鋼造(株)</td></tr></table> アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別 種 別 適用 箇所 備 考 ◎ A種 支持材に固定 ・ B種 型枠の類に固定 柱底均しモルタルの工法 種 別 適用 箇所 備 考 ◎ A種 柱脚 無収縮モルタル圧入 (50mm) ◎ B種 鉄骨梁接合部 モルタル詰め (30mm) 均しモルタル(7.2.9) ・ モルタル ◎ 無収縮モルタル 無収縮モルタルの品質及び試験方法は下表による。 <table><tr><th>項目</th><th>品質及び試験方法</th></tr><tr><td>ブリーディング 経置後2時間後のブリーディング率:2.0%以下</td><td></td></tr><tr><td>無収縮性 材齢 7日:収縮しない。</td><td></td></tr><tr><td>圧縮強度 材齢 3日:25 N/mm2以上 材齢 28日:45 N/mm2以上</td><td></td></tr></table> 試験方法 NEXCO試験方法 312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。 試験 ・ 行う ○ 行わない 建方方法及び仮設材 ◎ 建方は請負者の責任で安全に行う。 検査(「標準仕様書」J7.10.5)による ◎ 建入れ検査(建方精度は、日本建築学会「鉄骨精度測定指針」による) ◎ たわみ測定(適用箇所: 10m以上スパンする屋根トラスの中央部) 12 梁貫通孔補強 補強方法 ◎ 図示による。現場にて変更が生じた場合は、監督員の指示に従う。 補強箇所 ◎ 該当設備図及び電気図による。 ・ 梁貫通位置図による。 現場にて位置・寸法の変更が生じた場合は、監督員の指示に従う。 13 鉄骨製作工場 ◎ 建築基準法施行規則第1条の3第1項による認定を取得し、かつ監督者が事前に承認した下記グレード以上の工場とする。 ◎ M グレード以上 14 関連工事による溶接 (7.6.9) ◎ 金属工事及び建具工事など鉄骨部材に溶接を必要とする場合は、原則工場にて下地鉄骨を予め取り付け付すること。又、現場にて取り付けを行う場合は母材に悪影響を与えないように予熱等の処置を行い、7.6.3による技量を有する溶接技能者が行う。 15 寸法精度 受入検査 ◎ 対物検査1 ・ 対物検査2 16 その他 1. 鉄骨屋根トラスの仮組検査 鉄骨トラスを部分的に鉄骨製作工場で仮組を行う。合計3回の仮組検査を行う 2. 鉄骨図 単品図を提出する。 3. 配筋詳細図 主要部位配筋詳細図を提出する。 4. トラス部材は3Dモデルを作成し、詳細を確認する。 8. そ の 他 1. 設備関係 注意事項 (1)特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は工事監督者の承認を得ること。 (2)設備機器の架台および基礎については工事監督者と設計者の承認を得ること。 (3)床スラブ内に設備配管等を埋め込む場合は、鉄筋のかぶり厚を確保し、設備配管径はスラブ厚さの1/3未満、管の間隔を30cm以上とする。 (4)建築物に設ける昇降機にあつては、構造耐力上安全なものとして以下の構造方法による。 ・ 令第129条の4(エレベーターの構造上主要な部分) ・ 令第129条の5(エレベーターの荷重) ・ 令第129条の6第1号(かご内の人又は物による衝撃に対する安全) ・ 令第129条の8第1項(駆動装置及び制御器の地震等の転倒、移動防止対策) (5)建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして以下の構造方法による。 ・ 建築設備の支持構造及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。 ・ 屋上から突出する水櫃、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に緊結すること。 ・ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。 ・ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。 ・ 令第138号第4号第5及び、令第138号に該当する設備は本告示に準拠した構造とする。	種 別	アンカーボルト	備 考	・ ハイベース	認定品	日立機材(株)	・ ベースバック	認定品	旭化成建材(株)	・ NCベース	認定品	日本鋼造(株)	項目	品質及び試験方法	ブリーディング 経置後2時間後のブリーディング率:2.0%以下		無収縮性 材齢 7日:収縮しない。		圧縮強度 材齢 3日:25 N/mm2以上 材齢 28日:45 N/mm2以上																																																																																																																			
施工箇所	セメントの種類	基礎、梁側、柱、壁																																																																																																																																																																																					
		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	混合セメントB種	中腐熱及び低熱ポルトランドセメント																																																																																																																																																																																		
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	2	3	5	6																																																																																																																																																																																		
	5℃以上	3	5	7	8																																																																																																																																																																																		
	0℃以上	5	8	10	12																																																																																																																																																																																		
施工箇所	セメントの種類	スラブ下		梁 下																																																																																																																																																																																			
		普通ポルトランドセメント	混合セメントB種、中腐熱及び低熱ポルトランドセメント																																																																																																																																																																																				
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	8	17	28																																																																																																																																																																																			
	5℃以上	12	25																																																																																																																																																																																				
	0℃以上	15	28																																																																																																																																																																																				
種 別	アンカーボルト	備 考																																																																																																																																																																																					
・ ハイベース	認定品	日立機材(株)																																																																																																																																																																																					
・ ベースバック	認定品	旭化成建材(株)																																																																																																																																																																																					
・ NCベース	認定品	日本鋼造(株)																																																																																																																																																																																					
項目	品質及び試験方法																																																																																																																																																																																						
ブリーディング 経置後2時間後のブリーディング率:2.0%以下																																																																																																																																																																																							
無収縮性 材齢 7日:収縮しない。																																																																																																																																																																																							
圧縮強度 材齢 3日:25 N/mm2以上 材齢 28日:45 N/mm2以上																																																																																																																																																																																							
⑤ 普通コンクリート-2 (6.3)	セメント 水セメント比 単位水量 単位セメント量 混和材料 水 骨 材 乾燥収縮 ◎ 乾燥収縮率の級 (収縮率上限値 × 10 ⁻⁴) ○ 標準 (800) ・ 高級 (650) ・ 特級 (500) ・ 超特級 (400)		コンクリートの強度試験(表6.9.2) 試験項目 試験の目的 養生方法 材齢 調査管理強度の管理試験 調査管理強度の管理 JIS A 1132による標準養生 28日 構造体のコンクリート強度の推定試験 構造体コンクリートの28日圧縮強度の推定 現場水中養生 28日 又はコア供試験体 現場封かん養生 28～91日 型枠取外し時期の決定 現場水中養生/現場封かん養生 必要に応じて 寒中コンクリートの強度試験(表6.11.1) 試験項目 試験の目的 養生方法 材齢 調査管理強度の管理試験 調査管理強度の管理 JIS A 1132に準ずる養生 28日 構造体のコンクリート強度の推定試験 構造体コンクリートの強度が設計基準強度を満足することの推定 工事現場における封かん養生又はコア供試験体 28日を超え91日以内 試験回数 ◎ 普通コンクリートの場合コンクリートの種類が異なるごとに1日1回以上かつ打込み区ごと、打込み日ごと、150mを超える場合は、150m以下にほぼ均等に分割した単位ごと ○ 軽量コンクリート及び高強度コンクリートの場合、コンクリートの種類が異なるごとに1日1回以上かつ打込み区ごと、打込み日ごと、100mを超える場合は、100m以下にほぼ均等に分割した単位ごと ◎ 型枠の仕様は意匠図による。 ・ コンクリート打放し部: ◎ せき板の最小存置期間は下記による。 <table><tr><th rowspan="2">施工箇所</th><th rowspan="2">セメントの種類</th><th colspan="4">基礎、梁側、柱、壁</th></tr><tr><th>早強ポルトランドセメント</th><th>普通ポルトランドセメント</th><th>混合セメントB種</th><th>中腐熱及び低熱ポルトランドセメント</th></tr><tr><td rowspan="3">コンクリートの材齢による場合(日)</td><td>15℃以上</td><td>2</td><td>3</td><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>5℃以上</td><td>3</td><td>5</td><td>7</td><td>8</td></tr><tr><td>0℃以上</td><td>5</td><td>8</td><td>10</td><td>12</td></tr></table> コンクリートの圧縮強度による場合 圧縮強度 ◎ 5N/mm ² 以上 ・ 10N/mm ² 以上 推定方法 ・ 圧縮強度試験による ・ 等価材齢換算式による ◎ 支柱の最小存置期間は下記による。 <table><tr><th rowspan="2">施工箇所</th><th rowspan="2">セメントの種類</th><th colspan="2">スラブ下</th><th rowspan="2">梁 下</th></tr><tr><th>普通ポルトランドセメント</th><th>混合セメントB種、中腐熱及び低熱ポルトランドセメント</th></tr><tr><td rowspan="3">コンクリートの材齢による場合(日)</td><td>15℃以上</td><td>8</td><td>17</td><td rowspan="4">28</td></tr><tr><td>5℃以上</td><td>12</td><td>25</td></tr><tr><td>0℃以上</td><td>15</td><td>28</td></tr></table> コンクリートの圧縮強度による場合 圧縮強度が設計基準強度の85%以上又は12N/mm ² 以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。圧縮強度が設計基準強度以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。 湿潤養生の期間 セメントの種類 期間 普通ポルトランドセメント ◎ 5日以上 ・ 日 以上 混合セメントのA種 ・ 3日以上 ・ 日 以上 早強ポルトランドセメント ・ 7日以上 ・ 日 以上 中腐熱及び低熱ポルトランドセメント 高炉セメントB種 ・ 日 以上 フライアッシュセメントB種 普通エコセメント ・ 日 以上 仕 様 適用箇所 打継水平目地 ◎ 図示 ・ 図示 ◎ 意匠図による 化粧目地 ◎ 図示 ◎ 意匠図による 読取目地 ◎ 図示 ・ 図示 ◎ 意匠図による 構造スリット ◎ 図示 仕様 使用箇所 ・ 塩化ビニール製 JIS K 6773 ・ 鉄板入りアスファルト系 中厚 200×6 止水板外貼型 20×10 ・ 水能弾性ゴム シール 地下躯体 打継ぎ部 ◎ 可塑性ペントナイト系止水材	施工箇所	セメントの種類	基礎、梁側、柱、壁				早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	混合セメントB種	中腐熱及び低熱ポルトランドセメント	コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	2	3	5	6	5℃以上	3	5	7	8	0℃以上	5	8	10	12	施工箇所	セメントの種類	スラブ下		梁 下	普通ポルトランドセメント	混合セメントB種、中腐熱及び低熱ポルトランドセメント	コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	8	17	28	5℃以上	12	25	0℃以上	15	28	② 高力ボルト (7.2.2) (7.4) 鋼材の材料 ・ 高炉材使用箇所 ・ 柱 ・ 大梁 ・ ○ 電炉材使用箇所 ○ 全て ・ ボルトの種類 ・ JIS型高力ボルト JIS B 1186 の規格品 (セツトの種類 ・ 2種 (F10T) ・) ◎ トルシア型高力ボルト(認定品) (セツトの種類 ◎ JISの2種 (S10T) ・) ◎ トルシア型超高力ボルト(認定品) (セツトの種類 ◎ SHTB(S14T,F12T) ・) ・ 耐候性高力ボルト (セツトの種類 ・ JISの2種と同等品 ・) 摩擦面の処理 ◎ 「標準仕様書」J7.4.2による。尚、ミルスケールはディスクグラインダー掛け等により原則として添え板全面の範囲について除去したもの、一様に錆を発生させる。 試験及び検査 ◎ 規格証明書又は、製造管理方法及び品質管理試験結果による確認「標準仕様書」J7.2.10 ◎ 摩擦接合面の確認「標準仕様書」J7.4.2 ◎ 溶け付け検査「標準仕様書」J7.4.8 ・ すべり係数試験 ・ JIS B 1186 に準じた試験 ・ 「標準仕様書」J7.2.3、7.5による。 ・ 4.6 ・ 4.8 ・ グブレース 溶接施工管理技術者(7.6.2) ◎ 溶接施工管理技術者は、「標準仕様書」J7.6.2による。 技能資格者(7.6.3) ◎ AW検定合格者を従事させる。 ◎ 技量付加試験を実施する。(AW認定がない場合) ・ 標準仕様書による エンドタブ(7.6.7) ◎ 鋼製エンドタブを使用する場合は、「標準仕様書」J7.6.7による。 ◎ 鋼製エンドタブ以外のエンドタブを使用する場合は監督員の承諾を得ること。 ◎ 仕口部はノンスラップ工法とする。 溶接部の検査及び試験(7.6.10)、(7.6.12) 検査項目 検査方法 ◎ 寸法検査 ・ 行う ○ 行わない ◎ 組立検査 ◎ 行う ・ 行わない ◎ 行う ・ 行わない ◎ 溶接後検査 ◎ 行う ・ 行わない ◎ 行う ・ 行わない 第三者検査機関の組立検査は各節1回とする。 溶接部の試験(7.6.12) 検査箇所 検査方法 工場安全せ溶接部 超音波探傷検査 100% 30% 外観(目視)検査 100% 100% 隅肉溶接 外観(目視)試験 100% 100% 現場安全せ溶接部 超音波探傷検査 100% 100% 抜き取り方法は1節1回ごととし、検査ロットは溶接部位ごとに構成し、1検査ロットの溶接箇所数300個程度とする。抜き取りはランダムサンプリング方法を原則とする。 第三者検査機関は、アウトエーションハートとし、超音波探傷検査第3種技術者が行い、監督員の承諾を得る。 検査規程 ◎ 外観・精度検査規程 ◎ JASS 6「鉄骨精度検査規程」による。 ◎ 超音波探傷検査による溶接部の合格判定規程 ◎ 日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規程・同解説」の疲労を考慮しない溶接部 (1)溶接部に引張応力が作用する場合による。 スタッド溶接材料及びデッキプレート溶接(7.7) ◎ 引付きスタッド JIS B 1198 ◎ 図示 ・ 異形棒鋼スタッド 引張強さ400N/㎡以上 D16以下 ・ KSW400 ・ SD295 ・ 引張強さ490N/㎡以上 D19以上 ・ KSW490 ・ SD345 ・ デッキプレートはJIS G 3352の規格品とする。(7.7.2) 種類 規格の記号 ・ デッキプレート ・ SDP1TG (・ Z12 ・ Z27) ・ SDP2 ・ SDP2G (・ Z12 ・ Z27) ・ 合成スラブ用 ・ SDP1T ・ SDP1TG (・ Z12 ・ Z27) デッキプレート ・ SDP2 ・ SDP2G (・ Z12 ・ Z27) ・ フラット型 ・ SDP1T ・ SDP1TG (・ Z12 ・ Z27) デッキプレート ・ SDP2 ・ SDP2G (・ Z12 ・ Z27) デッキプレート貫通溶接可能箇所 ◎ 小梁 ・ 小梁及び大梁 デッキプレート溶接 ◎ アークスポット溶接 ・ すみ肉溶接 ・ フラグ溶接 ・ 焼抜栓溶接 アーク溶接、アークスポット溶接、スタッド溶接は日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事」、「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」に準じて行う。 溶接工は溶接溶接に十分な技量を有する者とし、JIS Z 3801(溶接技術検定における試験方法及びその判定基準)の有資格者とする。 鉄鋼面の素地ごしらえの種別(18.2.3) 種 別 適用箇所 備 考 ◎ 1種 ◎ 2種 さび止め塗装全面	鉄鋼面のさび止め塗料種別(18.3.2) ◎ 鉄骨部のさび止め塗料種別は下記とする。 ◎ 鉄骨造部分 ◎ A種(JIS K 5674 1種) ・ デッキプレート下端 ・ さび塗装なし ・ ・ 耐火被覆面 ・ さび塗装なし ・ ・ SRC造の鋼製スリーブ内面 ◎ A種(JIS K 5674 1種) 鉄鋼面さび止め塗料塗り(18.3.3) ◎ 見え掛り部分は A種、見え隠れ部分は B種とする。 適用箇所 ◎ 外部に接する部分(屋上階、屋外階段) めっき面の素地ごしらえ ◎ 「標準仕様書」18.2.4のA種とする。 めっきの種類及び付着量 ◎ 溶融亜鉛めっき(JIS H 8641)のA種(HDZ55) 高力ボルト ◎ 高力ボルトは溶融亜鉛めっき高力ボルト1種A(F8T相当)とする。 ◎ 摩擦面の処理は「標準仕様書」J7.12.5による。 種類及び適用箇所:意匠図参照 工 法 適用箇所 備 考 ・ 吹付け工法 ・ 耐火塗料 ◎ 構造用アンカーボルト ◎ JIS B 1220 転造 (・ ABR400 ◎ ABR490) ・ JIS B 1221 切削 (・ ABM400 ・ ABM490) ・ JIS G 3101のSS400 ◎ 建方用アンカーボルト ◎ JIS G 3101のSS400 ・ 半固定栓型(既製品) <table><tr><th>種 別</th><th>アンカーボルト</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・ ハイベース</td><td>認定品</td><td>日立機材(株)</td></tr><tr><td>・ ベースバック</td><td>認定品</td><td>旭化成建材(株)</td></tr><tr><td>・ NCベース</td><td>認定品</td><td>日本鋼造(株)</td></tr></table> アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別 種 別 適用 箇所 備 考 ◎ A種 支持材に固定 ・ B種 型枠の類に固定 柱底均しモルタルの工法 種 別 適用 箇所 備 考 ◎ A種 柱脚 無収縮モルタル圧入 (50mm) ◎ B種 鉄骨梁接合部 モルタル詰め (30mm) 均しモルタル(7.2.9) ・ モルタル ◎ 無収縮モルタル 無収縮モルタルの品質及び試験方法は下表による。 <table><tr><th>項目</th><th>品質及び試験方法</th></tr><tr><td>ブリーディング 経置後2時間後のブリーディング率:2.0%以下</td><td></td></tr><tr><td>無収縮性 材齢 7日:収縮しない。</td><td></td></tr><tr><td>圧縮強度 材齢 3日:25 N/mm2以上 材齢 28日:45 N/mm2以上</td><td></td></tr></table> 試験方法 NEXCO試験方法 312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。 試験 ・ 行う ○ 行わない 建方方法及び仮設材 ◎ 建方は請負者の責任で安全に行う。 検査(「標準仕様書」J7.10.5)による ◎ 建入れ検査(建方精度は、日本建築学会「鉄骨精度測定指針」による) ◎ たわみ測定(適用箇所: 10m以上スパンする屋根トラスの中央部) 12 梁貫通孔補強 補強方法 ◎ 図示による。現場にて変更が生じた場合は、監督員の指示に従う。 補強箇所 ◎ 該当設備図及び電気図による。 ・ 梁貫通位置図による。 現場にて位置・寸法の変更が生じた場合は、監督員の指示に従う。 13 鉄骨製作工場 ◎ 建築基準法施行規則第1条の3第1項による認定を取得し、かつ監督者が事前に承認した下記グレード以上の工場とする。 ◎ M グレード以上 14 関連工事による溶接 (7.6.9) ◎ 金属工事及び建具工事など鉄骨部材に溶接を必要とする場合は、原則工場にて下地鉄骨を予め取り付け付すること。又、現場にて取り付けを行う場合は母材に悪影響を与えないように予熱等の処置を行い、7.6.3による技量を有する溶接技能者が行う。 15 寸法精度 受入検査 ◎ 対物検査1 ・ 対物検査2 16 その他 1. 鉄骨屋根トラスの仮組検査 鉄骨トラスを部分的に鉄骨製作工場で仮組を行う。合計3回の仮組検査を行う 2. 鉄骨図 単品図を提出する。 3. 配筋詳細図 主要部位配筋詳細図を提出する。 4. トラス部材は3Dモデルを作成し、詳細を確認する。 8. そ の 他 1. 設備関係 注意事項 (1)特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は工事監督者の承認を得ること。 (2)設備機器の架台および基礎については工事監督者と設計者の承認を得ること。 (3)床スラブ内に設備配管等を埋め込む場合は、鉄筋のかぶり厚を確保し、設備配管径はスラブ厚さの1/3未満、管の間隔を30cm以上とする。 (4)建築物に設ける昇降機にあつては、構造耐力上安全なものとして以下の構造方法による。 ・ 令第129条の4(エレベーターの構造上主要な部分) ・ 令第129条の5(エレベーターの荷重) ・ 令第129条の6第1号(かご内の人又は物による衝撃に対する安全) ・ 令第129条の8第1項(駆動装置及び制御器の地震等の転倒、移動防止対策) (5)建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして以下の構造方法による。 ・ 建築設備の支持構造及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。 ・ 屋上から突出する水櫃、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に緊結すること。 ・ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。 ・ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。 ・ 令第138号第4号第5及び、令第138号に該当する設備は本告示に準拠した構造とする。	種 別	アンカーボルト	備 考	・ ハイベース	認定品	日立機材(株)	・ ベースバック	認定品	旭化成建材(株)	・ NCベース	認定品	日本鋼造(株)	項目	品質及び試験方法	ブリーディング 経置後2時間後のブリーディング率:2.0%以下		無収縮性 材齢 7日:収縮しない。		圧縮強度 材齢 3日:25 N/mm2以上 材齢 28日:45 N/mm2以上																																																																																																																			
施工箇所	セメントの種類	基礎、梁側、柱、壁																																																																																																																																																																																					
		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	混合セメントB種	中腐熱及び低熱ポルトランドセメント																																																																																																																																																																																		
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	2	3	5	6																																																																																																																																																																																		
	5℃以上	3	5	7	8																																																																																																																																																																																		
	0℃以上	5	8	10	12																																																																																																																																																																																		
施工箇所	セメントの種類	スラブ下		梁 下																																																																																																																																																																																			
		普通ポルトランドセメント	混合セメントB種、中腐熱及び低熱ポルトランドセメント																																																																																																																																																																																				
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	8	17	28																																																																																																																																																																																			
	5℃以上	12	25																																																																																																																																																																																				
	0℃以上	15	28																																																																																																																																																																																				
種 別	アンカーボルト	備 考																																																																																																																																																																																					
・ ハイベース	認定品	日立機材(株)																																																																																																																																																																																					
・ ベースバック	認定品	旭化成建材(株)																																																																																																																																																																																					
・ NCベース	認定品	日本鋼造(株)																																																																																																																																																																																					
項目	品質及び試験方法																																																																																																																																																																																						
ブリーディング 経置後2時間後のブリーディング率:2.0%以下																																																																																																																																																																																							
無収縮性 材齢 7日:収縮しない。																																																																																																																																																																																							
圧縮強度 材齢 3日:25 N/mm2以上 材齢 28日:45 N/mm2以上																																																																																																																																																																																							
6. マスコンクリート (6.13)	セメント 水セメント比 スランプ 単位水量 単位セメント量 混和材料 調査強度を決める材令 ・ 28日 構造体強度補正值(S) <table><tr><th rowspan="2">セメントの種類</th><th rowspan="2">設計基準強度</th><th colspan="5">構造体強度補正值</th></tr><tr><th>θ<5</th><th>5≤θ<10</th><th>10≤θ<15</th><th>15≤θ<25</th><th>25≤θ</th></tr><tr><td rowspan="2">普通ポルトランドセメント</td><td>Fe ≤ 38</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>3</td><td>6</td></tr><tr><td>38 < Fe ≤ 48</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td><td>9</td><td>9</td></tr><tr><td rowspan="2">混合セメントのA種</td><td>48 < Fe ≤ 60</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>12</td></tr><tr><td>Fe ≤ 38</td><td>6</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td rowspan="2">早強ポルトランドセメント</td><td>Fe ≤ 38</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>38 < Fe ≤ 60</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td rowspan="2">中腐熱ポルトランドセメント</td><td>Fe ≤ 38</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>38 < Fe ≤ 60</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td rowspan="2">低熱ポルトランドセメント</td><td>Fe ≤ 38</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>38 < Fe ≤ 60</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td rowspan="2">高炉セメントB種</td><td>Fe ≤ 38</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>6</td></tr><tr><td>Fe ≤ 38</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>3</td><td>6</td></tr></table> θ :コンクリート打込みから材齢28日までの予想平均気温 荷卸し時のコンクリートの温度 ・ 35℃以下 ・ ____℃以下 コンクリートの温度測定 ・ 測定箇所: _____ ・ 測定点 : ____点 ・ 測定期間: ____ 日 7. 高強度コンクリート 適用強度 設計基準強度 36N/mm2 を超える普通コンクリート セメント 水セメント比 単位水量 単位セメント量 混和材料 水 スランプ コンクリート中の塩化物質 混和剤 ◎ 強化イオンとして 0.3 kg/m ³ 以下 ・ ハイパーエクスパンM ⑧ 無筋コンクリート (6.14) 種 類 設計基準強度 (換算強度F _c) (N/mm ²) 気乾比重 スランプ 適用 箇所 ○ 普通 ◎ 18 2.3 15 ・ 均しコンクリート ・ 軽量 ◎ 不要 ・ 要 強度補正 ◎ 不要 ・ 要 調査計画書 ◎ コンクリートの調査計画書を提出し、監督員の承諾を受ける。 ◎ 調査計画において、各指定事項を満足できない場合は協議する。 試験練り ◎ 要 ・ 不要 監督員の立会い ◎ 立ち会う ・ 立ち会わない 使用材料の試験 使用材料は下記の材料の試験結果を提出し、監督員の承諾を受ける。 ◎ セメント ◎ 骨材 ◎ 水 ◎ 混和材料 ◎ アルカリシリカ反応性試験結果 フレッシュコンクリートの試験 試験項目 備考 試験回数 ◎ スランプ ◎ 強度試験用供試体採取時 ◎ 空気量 ・ 単位容積質量 軽量コンクリート ◎ 温度 暑中・寒中 コンクリートの期間 ◎ 塩化物質 ・ 打込み当初及び強度試験用供試体採取時 塩化物質測定器は、(財)国土開発技術研究センターの技術評価を受けたものとする。	セメントの種類	設計基準強度	構造体強度補正值					θ<5	5≤θ<10	10≤θ<15	15≤θ<25	25≤θ	普通ポルトランドセメント	Fe ≤ 38	6	6	3	3	6	38 < Fe ≤ 48	6	6	6	9	9	混合セメントのA種	48 < Fe ≤ 60	9	9	9	9	12	Fe ≤ 38	6	3	3	3	3	早強ポルトランドセメント	Fe ≤ 38	6	6	3	3	3	38 < Fe ≤ 60	3	3	3	3	3	中腐熱ポルトランドセメント	Fe ≤ 38	6	6	6	3	3	38 < Fe ≤ 60	3	0	0	0	0	低熱ポルトランドセメント	Fe ≤ 38	6	6	6	3	3	38 < Fe ≤ 60	3	0	0	0	0	高炉セメントB種	Fe ≤ 38	6	6	6	3	6	Fe ≤ 38	6	6	3	3	6	⑩ 型枠 (6.8) ⑪ 型枠の存置期間及び取外し (6.8.5) 6. マスコンクリート (6.13) セメント 水セメント比 スランプ 単位水量 単位セメント量 混和材料 調査強度を決める材令 ・ 28日 構造体強度補正值(S) <table><tr><th rowspan="2">セメントの種類</th><th rowspan="2">設計基準強度</th><th colspan="5">構造体強度補正值</th></tr><tr><th>θ<5</th><th>5≤θ<10</th><th>10≤θ<15</th><th>15≤θ<25</th><th>25≤θ</th></tr><tr><td rowspan="2">普通ポルトランドセメント</td><td>Fe ≤ 38</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>3</td><td>6</td></tr><tr><td>38 < Fe ≤ 48</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td><td>9</td><td>9</td></tr><tr><td rowspan="2">混合セメントのA種</td><td>48 < Fe ≤ 60</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>12</td></tr><tr><td>Fe ≤ 38</td><td>6</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td rowspan="2">早強ポルトランドセメント</td><td>Fe ≤ 38</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>38 < Fe ≤ 60</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td rowspan="2">中腐熱ポルトランドセメント</td><td>Fe ≤ 38</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>38 < Fe ≤ 60</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td rowspan="2">低熱ポルトランドセメント</td><td>Fe ≤ 38</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>38 < Fe ≤ 60</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td rowspan="2">高炉セメントB種</td><td>Fe ≤ 38</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>6</td></tr><tr><td>Fe ≤ 38</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>3</td><td>6</td></tr></table> θ : コンクリート打込みから材齢28日までの予想平均気温 荷卸し時のコンクリートの温度 ・ 35℃以下 ・ ____℃以下 コンクリートの温度測定 ・ 測定箇所: _____ ・ 測定点 : ____点 ・ 測定期間: ____ 日 7. 高強度コンクリート 適用強度 設計基準強度 36N/mm2 を超える普通コンクリート セメント 水セメント比 単位水量 単位セメント量 混和材料 水 スランプ コンクリート中の塩化物質 混和剤 ◎ 強化イオンとして 0.3 kg/m ³ 以下 ・ ハイパーエクスパンM ⑧ 無筋コンクリート (6.14) 種 類 設計基準強度 (換算強度F _c) (N/mm ²) 気乾比重 スランプ 適用 箇所 ○ 普通 ◎ 18 2.3 15 ・ 均しコンクリート ・ 軽量 ◎ 不要 ・ 要 強度補正 ◎ 不要 ・ 要 調査計画書 ◎ コンクリートの調査計画書を提出し、監督員の承諾を受ける。 ◎ 調査計画において、各指定事項を満足できない場合は協議する。 試験練り ◎ 要 ・ 不要 監督員の立会い ◎ 立ち会う ・ 立ち会わない 使用材料の試験 使用材料は下記の材料の試験結果を提出し、監督員の承諾を受ける。 ◎ セメント ◎ 骨材 ◎ 水 ◎ 混和材料 ◎ アルカリシリカ反応性試験結果 フレッシュコンクリートの試験 試験項目 備考 試験回数 ◎ スランプ ◎ 強度試験用供試体採取時 ◎ 空気量 ・ 単位容積質量 軽量コンクリート ◎ 温度 暑中・寒中 コンクリートの期間 ◎ 塩化物質 ・ 打込み当初及び強度試験用供試体採取時 塩化物質測定器は、(財)国土開発技術研究センターの技術評価を受けたものとする。	セメントの種類	設計基準強度	構造体強度補正值					θ<5	5≤θ<10	10≤θ<15	15≤θ<25	25≤θ	普通ポルトランドセメント	Fe ≤ 38	6	6	3	3	6	38 < Fe ≤ 48	6	6	6	9	9	混合セメントのA種	48 < Fe ≤ 60	9	9	9	9	12	Fe ≤ 38	6	3	3	3	3	早強ポルトランドセメント	Fe ≤ 38	6	6	3	3	3	38 < Fe ≤ 60	3	3	3	3	3	中腐熱ポルトランドセメント	Fe ≤ 38	6	6	6	3	3	38 < Fe ≤ 60	3	0	0	0	0	低熱ポルトランドセメント	Fe ≤ 38	6	6	6	3	3	38 < Fe ≤ 60	3	0	0	0	0	高炉セメントB種	Fe ≤ 38	6	6	6	3	6	Fe ≤ 38	6	6	3	3	6	コンクリートの強度試験(表6.9.2) 試験項目 試験の目的 養生方法 材齢 調査管理強度の管理試験 調査管理強度の管理 JIS A 1132による標準養生 28日 構造体のコンクリート強度の推定試験 構造体コンクリートの28日圧縮強度の推定 現場水中養生 28日 又はコア供試験体 現場封かん養生 28～91日 型枠取外し時期の決定 現場水中養生/現場封かん養生 必要に応じて 寒中コンクリートの強度試験(表6.11.1) 試験項目
セメントの種類	設計基準強度			構造体強度補正值																																																																																																																																																																																			
		θ<5	5≤θ<10	10≤θ<15	15≤θ<25	25≤θ																																																																																																																																																																																	
普通ポルトランドセメント	Fe ≤ 38	6	6	3	3	6																																																																																																																																																																																	
	38 < Fe ≤ 48	6	6	6	9	9																																																																																																																																																																																	
混合セメントのA種	48 < Fe ≤ 60	9	9	9	9	12																																																																																																																																																																																	
	Fe ≤ 38	6	3	3	3	3																																																																																																																																																																																	
早強ポルトランドセメント	Fe ≤ 38	6	6	3	3	3																																																																																																																																																																																	
	38 < Fe ≤ 60	3	3	3	3	3																																																																																																																																																																																	
中腐熱ポルトランドセメント	Fe ≤ 38	6	6	6	3	3																																																																																																																																																																																	
	38 < Fe ≤ 60	3	0	0	0	0																																																																																																																																																																																	
低熱ポルトランドセメント	Fe ≤ 38	6	6	6	3	3																																																																																																																																																																																	
	38 < Fe ≤ 60	3	0	0	0	0																																																																																																																																																																																	
高炉セメントB種	Fe ≤ 38	6	6	6	3	6																																																																																																																																																																																	
	Fe ≤ 38	6	6	3	3	6																																																																																																																																																																																	
セメントの種類	設計基準強度	構造体強度補正值																																																																																																																																																																																					
		θ<5	5≤θ<10	10≤θ<15	15≤θ<25	25≤θ																																																																																																																																																																																	
普通ポルトランドセメント	Fe ≤ 38	6	6	3	3	6																																																																																																																																																																																	
	38 < Fe ≤ 48	6	6	6	9	9																																																																																																																																																																																	
混合セメントのA種	48 < Fe ≤ 60	9	9	9	9	12																																																																																																																																																																																	
	Fe ≤ 38	6	3	3	3	3																																																																																																																																																																																	
早強ポルトランドセメント	Fe ≤ 38	6	6	3	3	3																																																																																																																																																																																	
	38 < Fe ≤ 60	3	3	3	3	3																																																																																																																																																																																	
中腐熱ポルトランドセメント	Fe ≤ 38	6	6	6	3	3																																																																																																																																																																																	
	38 < Fe ≤ 60	3	0	0	0	0																																																																																																																																																																																	
低熱ポルトランドセメント	Fe ≤ 38	6	6	6	3	3																																																																																																																																																																																	
	38 < Fe ≤ 60	3	0	0	0	0																																																																																																																																																																																	
高炉セメントB種	Fe ≤ 38	6	6	6	3	6																																																																																																																																																																																	
	Fe ≤ 38	6	6	3	3	6																																																																																																																																																																																	

鉄筋コンクリート構造標準図

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 本標準図及び構造図面にない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」最新版および、日本建築学会「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」最新版による。

- (3) 特記事項の適用
本標準仕様書内における下記事項は、○印の付いたものを適用する。
1. 直線重ね継手長さは、表 1-3-1による。

表 1-3-1

指示欄	構造計算方法	直線重ね継手長さ L1
・	保有水平耐力計算等を用いたため、建築基準法施行令第73条2項の適用を除外する。	表 2-4-1のL1
◎	上記以外	表 2-4-1のL1かつ40d以上(軽量コンクリートを使用する場合は、50dとする)。

2. 地中梁配筋は、以下のタイプのものを採用する。
・ A1 ○ B1 ・ C1 ・ B2 (基礎に浮き上がりが生じる場合) ・ C2 (基礎に浮き上がりが生じる場合)

2. 地中小梁配筋は、以下のタイプのものを採用する。
・ A1 / A2 (基礎に浮き上がりが生じる場合) ○ B1 / B2

3. 構造スリットは、以下のものを採用する。
・ 在来工法 ○ 既製品

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋の表示記号

表 2-1-1

異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
記 号	●	×	∅	●	○	○	⊗	⊙	●	∅	⊗

(2) 鉄筋の折曲げ形状及び寸法

表 2-2-1

折曲げ形状	折曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)
180° フック	180°	SD295A SD295B SD345	D16以下	3d以上
135° フック	135°		D19～D41	4d以上
90° フック	90°	SD390	D41以下	5d以上
	90°	SD490	D25以下	5d以上
			D29～D41	6d以上

1. ♱は折り曲げ開始点を示す。この開始点位置は、以下の図面において共通とする。
2. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フックまたは135° フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
3. 90° 未満の折曲げ内法直径は構造図による。記載のない場合、表 2-2-1の90° フックの場合と同じとする。

(3) 継手の基本事項

1. 対象とする継手は重ね継手・ガス圧接継手・フレア溶接継手とし、その他(機械式継手・突合せアーク溶接継手など)の仕様は構造図による。
2. 柱梁主筋の異形鉄筋重ね継手長さは構造図による。
3. 耐力壁主筋に直線重ね継手を使用する場合、継手長さは、表 1-3-1による。
4. D29以上の異形鉄筋には、原則として重ね継手を用いない。
5. 径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の呼び径(d)により算出する。
6. あき重ね継手は、原則としてスラブ筋・基礎スラブ筋・壁筋に適用する。その場合、あき重ね継手の継手長さは表 1-3-1の直線重ね継手長さを確保し、あき寸法は、0.2L1かつ150mm以下とする。
7. 梁主筋の重ね継手は水平重ね継手を原則とし、上下重ね継手とする場合は監理者と協議すること。(図 2-3-1)
8. 杭に用いる鉄筋の重ね継手の長さは構造図による。

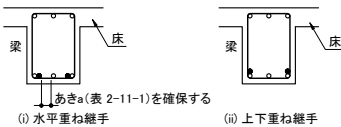


図 2-3-1

(4) 鉄筋の重ね継手長さ L1 L1h

表 2-4-1

L1: フックなし L1h: フック付	鉄筋の種類	Fc(N/mm ²)	18	21	24 ? 27	30 ? 36	39 ? 45	48 ? 60
直線重ね継手の長さ L1	SD295A SD295B	45d	40d	35d	35d	30d	30d	
	SD345	50d	45d	40d	35d	35d	30d	
	SD390	/	50d	45d	40d	40d	35d	
	SD490	/		55d	50d	45d	40d	
フック付重ね継手の長さ L1h	SD295A SD295B	35d	30d	25d	25d	20d	20d	
	SD345	35d	30d	30d	25d	25d	20d	
	SD390	/	35d	35d	30d	30d	25d	
	SD490	/		40d	35d	35d	30d	

1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。
2. 継手位置は、各標準図に示す継手の好ましい位置に設けること。
3. L1hのフックを135° フック、90° フックとする場合のフック形状は表 2-2-1による。
4. SD490でL1hとする場合は、90° フックの場合に限る。90° フックとしない場合は監理者と協議すること。

(5) 隣り合う継手の位置

表 2-5-1

フックありの場合	
フックなしの場合	
圧接継手・溶接継手	

1. スラブ筋(基礎スラブ筋を含む)でD16以下の場合および壁筋の場合を除く。

(6) ガス圧接・フレア溶接の形状

表 2-6-1

ガス圧接		2mm以下 圧接面形状
フレア溶接		

1. 径の異なる鉄筋のガス圧接は、細い方の鉄筋の径(d)により算出する。径の差は原則として、7mm以下とする。
2. 鉄筋のフレア溶接は、原則として鉄筋の種類はSD345まで、鉄筋の径はD16までとする。
3. フレア溶接は、被覆アーク溶接またはガスシールドアーク溶接により、使用する溶接材料は、表 2-6-2による。

表 2-6-2

溶接される鉄筋の種類	被覆アーク溶接棒の種類 JIS Z 3211	ソリッドワイヤの種類 JIS Z 3312
SD295A SD295B	E4316,E4915,E4916等の低水素系溶接棒	YGW11 YGW12 YGW13 YGW15 YGW16 YGW18 YGW19
SD345	E4915,E4916等の低水素系溶接棒	

(7) 鉄筋の定着長さ L2 L2h

表 2-7-1

L2: 直線定着 L2h: フック付定着	鉄筋の種類	Fc(N/mm ²)	18	21	24 ? 27	30 ? 36	39 ? 45	48 ? 60
直線定着長さ L2	SD295A SD295B	40d	35d	30d	30d	25d	25d	
	SD345	40d	35d	35d	30d	30d	25d	
	SD390	/	40d	40d	35d	35d	30d	
	SD490	/		45d	40d	40d	35d	
フック付定着長さ L2h 90° フックの場合※	SD295A SD295B	30d	25d	20d	20d	15d	15d	
	SD345	30d	25d	25d	20d	20d	15d	
	SD390	/	30d	30d	25d	25d	20d	
	SD490	/		35d	30d	30d	25d	

1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。
2. L2hのフックを135° フック、180° フックとする場合のフック形状は表 2-2-1による。
3. SD490でL2hとする場合は、90° フックの場合に限る。90° フックとしない場合は監理者と協議すること。

(8) 鉄筋の定着長さ L3 L3h

表 2-8-1

L3: 直線定着 L3h: フック付定着	鉄筋の種類	Fc(N/mm ²)	18~60
直線定着長さ L3	SD295A SD295B SD345 SD390	20d <25d>	10dかつ 150mm <25d>
フック付定着長さ L3h	SD295A SD295B SD345 SD390	10d	

1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。
2. < >は片持ち部材の場合を示す。

(9) 鉄筋の定着長さ La Lb

表 2-9-1

折曲げ定着長さ	鉄筋の種類	Fc(N/mm ²)	18	21	24 ? 27	30 ? 36	39 ? 45	48 ? 60
梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ La	SD295A SD295B	20d	15d	15d	15d	15d	15d	
	SD345	20d	20d	20d	15d	15d	15d	
	SD390	/	20d	20d	20d	15d	15d	
	SD490	/		25d	25d	20d	20d	
小梁及びスラブの上端筋の 梁内折曲げ定着の投影長さ Lb	SD295A SD295B	15d	15d	15d	15d	15d	15d	
	SD345	20d	20d	15d	15d	15d	15d	
	SD390	/	20d	20d	15d	15d	15d	
	SD490	/						

1. La: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ(基礎梁・片持ち梁及び片持ちスラブの上端筋を含む)
2. Lb: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブの上端筋を除く)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

(10) かぶり厚さ

1. 柱・梁かぶり厚さは図 2-10-1に示される各部位に対応する表 2-10-1の値を満足し、かつ主筋に対する最小かぶり厚さは、主筋径の1.5倍以上とする。D29以上の鉄筋を使用する場合は、最小かぶり厚さが表 2-10-1より大きくなる部位があるため、注意すること。
2. 配筋は構造体寸法(打増しを除いた寸法)から所定の設計かぶり厚さを確保できる位置にて行う。
3. 耐久性上有効な仕上がりがある場合、表 2-10-1の※1の値を10mm減じてよい。
- 耐久性有効な仕上げの例
- ・タイル張り
 - ・モルタル塗り(10mm以上)
 - ・打増し(10mm以上)
4. ひび割れ誘発目地・打継ぎ目地・化粧目地等がある場合は、目地からのかぶり厚さを確保する。
5. 柱・梁で打継ぎ目地を設ける場合は、構造体寸法に目地深さを打増しとする。この打増しは上記3により、耐久性上有効な仕上げと考えることができる。
6. 捨てコンクリートは、かぶり厚さに含まない。
7. 軽量コンクリートを用いる場合は表 2-10-1の※2の値に10mmを加えた値とする。
8. ※3は施工誤差の割増10mmを標準として見込むことによつて、打設後最小かぶり厚さを下回る危険性を低減するために、設計時点で配慮したかぶり厚さ(設計かぶり厚さ)を示す。
9. ※4は建築基準法施行令に規定されたかぶり厚さを基に、屋外側については耐久性の観点から10mm増したかぶり厚さ(最小かぶり厚さ)を示す。

表 2-10-1

部 位	設計 ※3 かぶり厚さ	最小 ※4 かぶり厚さ	分類記号
土に接しない部分	スラブ	屋内 30	20 a
		屋外 40	※1 30 ※1 b
	柱・梁	屋内 40	30 c
	耐力壁	屋外 50	※1 40 ※1 d
	非耐力壁	屋内 30	20 e
		屋外 40	※1 30 ※1 f
土に接する部分	煙突内面	60	50
	擁壁・基礎スラブ	50	40 h
	柱・梁・壁・スラブ 連続基礎の立上り部分	50	※2 40 ※2 i
	基礎スラブ・擁壁	70	※2 60 ※2 j
	基礎	70	※2 60 ※2 k

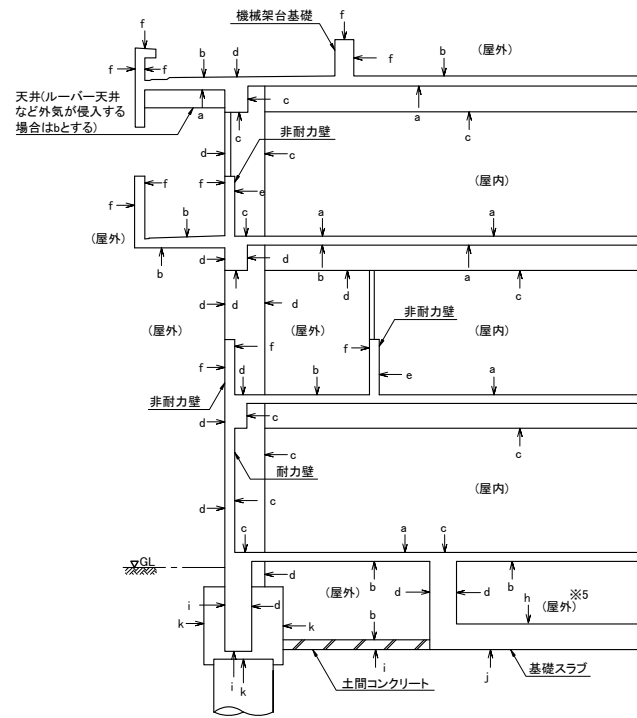


図 2-10-1

(11) 主筋のあき・2段筋の間隔

1. 主筋相互のあきaは粗骨材最大寸法の1.25倍以上、隣り合う鉄筋呼び径の平均値の1.5倍以上とする。
2. 粗骨材の最大寸法を25mmとして算出した数値を表 2-11-1に示す。
3. 粗骨材の最大寸法が25mm以外の場合のあき寸法、2段筋の間隔の最小値は、監理者に確認すること。
4. 2段筋の間隔P2は構造図による。構造図に記載がない場合は表 2-11-1による。
5. 2段筋の間隔P2の最大値については、監理者に確認すること。

表 2-11-1

呼び名 (d)	最外径	主筋のあきaの最小値	2段筋の間隔P2の最小値
D10	11	32	43
D13	14	32	46
D16	18	32	50
D19	21	32	53
D22	25	33	58
D25	28	38	66
D29	33	44	77
D32	36	48	84
D35	40	53	93
D38	43	57	100
D41	46	62	108

※ 鉄筋の最外径は銘柄ごとに異なるため、使用する鉄筋に合わせて適宜判断すること。

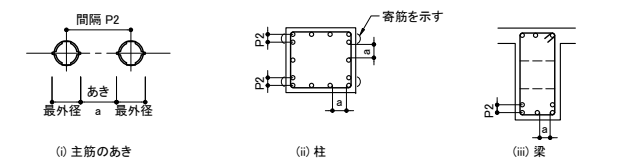


図 2-11-1

(12) 鉄筋のフック

1. 次に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。
- ・あばら筋、帯筋、および幅止筋
 - ・煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
 - ・柱・梁(基礎梁は除く)の出すみ部分
 - ・および下端の両端にある場合の部分
 - ・単純梁の下端筋
 - ・その他、本配筋標準に記載する箇所

図の●印の鉄筋の重ね継手の
末端にはフックが必要

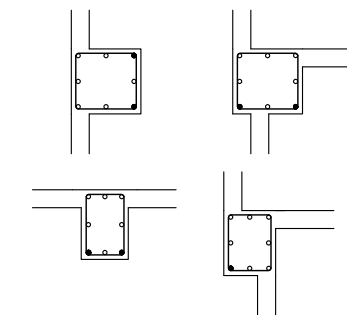


図 2-12-1

3. 杭

(1) 場所打ちコンクリート杭

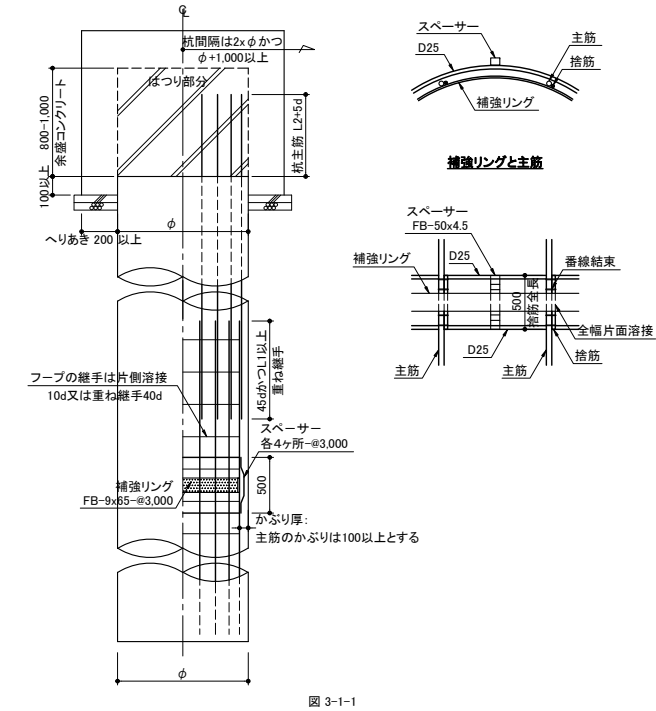


図 3-1-1

4. 基礎

(1) 基礎接合部の補強

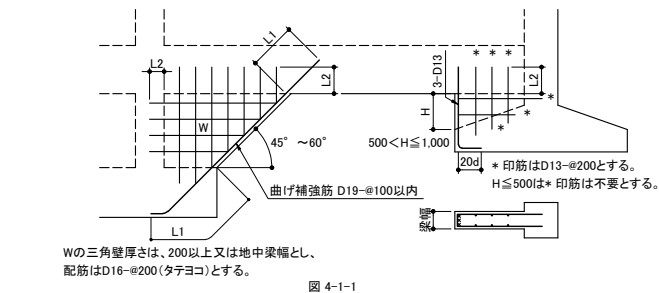


図 4-1-1

(2) ベタ基礎配筋要領

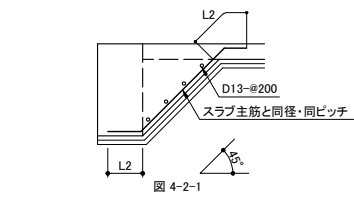


図 4-2-1

5. 地中梁

(1) 基礎大梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

- 柱を介して連続する基礎梁の主筋本数が異なる場合は、通し筋以外の基礎梁主筋を柱内に定着する。または柱コンクリート面より定着長さとして反対側の梁内に定着する。
- カットオフ筋長さは、構造図による。構造図に記載のない場合は、図 5-1-1、図 5-1-2、図 5-1-3による。

A1. 基礎・連続基礎の場合

- 定着およびカットオフ筋長さ(タイプA1)

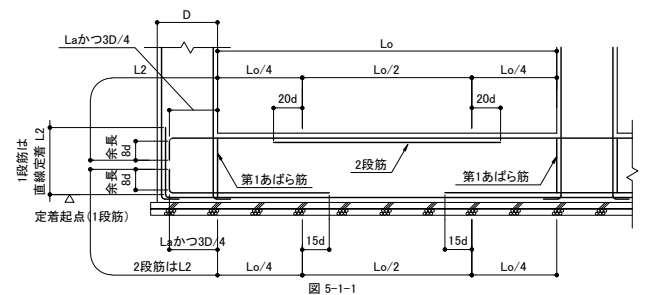


図 5-1-1

(ii) 継手位置

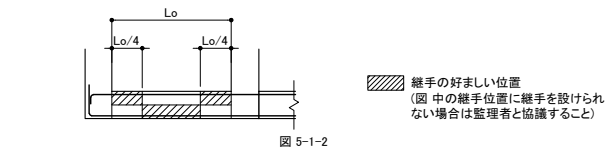


図 5-1-2

B1/B2. 杭基礎・独立基礎の場合

- 定着およびカットオフ筋長さ(タイプB1)

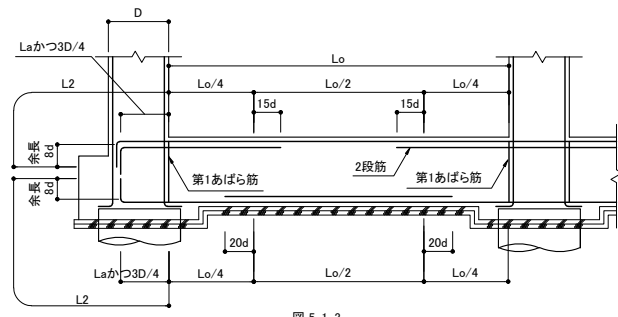


図 5-1-3

(ii) 定着およびカットオフ筋長さ(タイプB2)

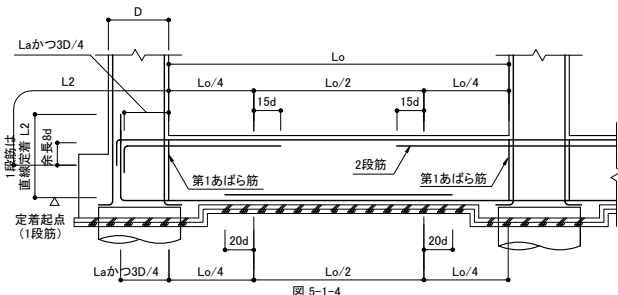


図 5-1-4

(iii) 継手位置

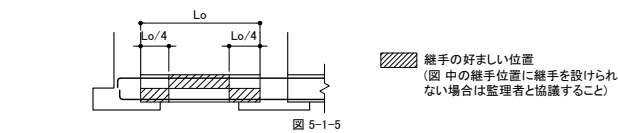


図 5-1-5

C1/C2. 杭基礎・独立基礎の場合

- 定着およびカットオフ筋長さ(タイプC1)

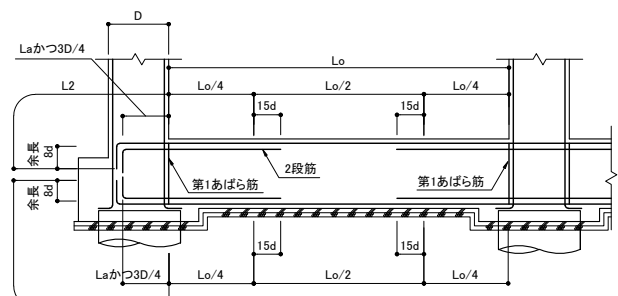


図 5-1-6

(ii) 定着およびカットオフ筋長さ(タイプC2)

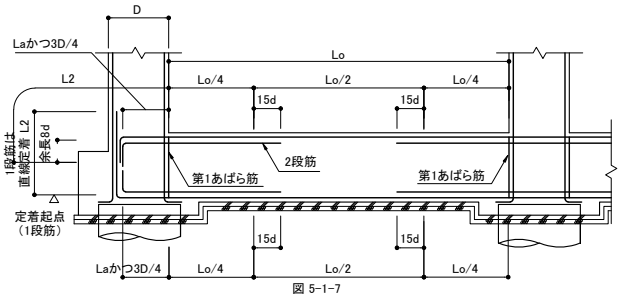


図 5-1-7

(iii) 継手位置

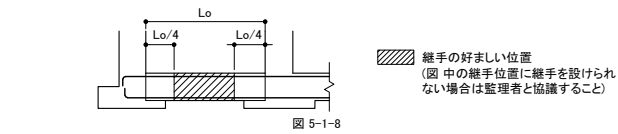


図 5-1-8

(2) 基礎小梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

- 採用するタイプは、基礎小梁が連続する場合はA1、B1、連続しない場合はA2、B2とする。

A1. 基礎小梁が連続梁の場合

- 定着およびカットオフ筋長さ

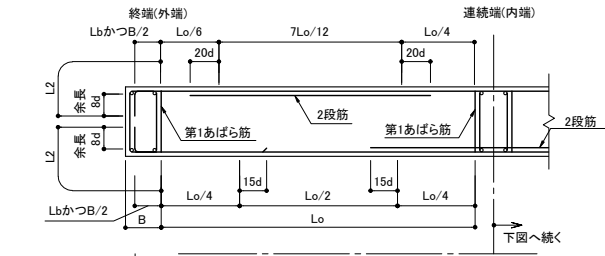


図 5-2-1

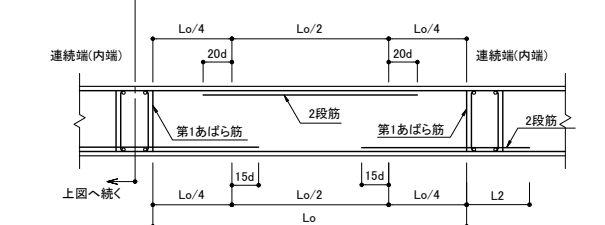


図 5-2-2

(ii) 継手位置

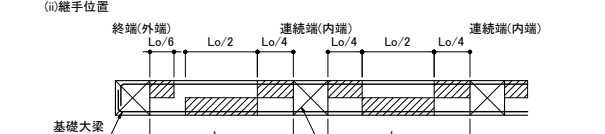


図 5-2-3

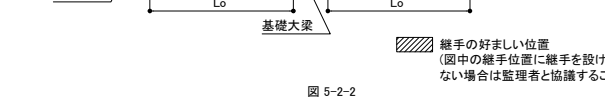


図 5-2-4

A2. 基礎小梁が単独梁の場合

- 定着およびカットオフ筋長さ

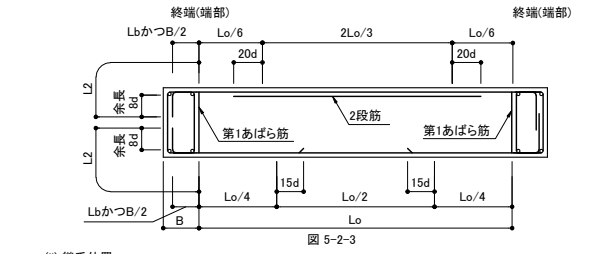


図 5-2-5

(ii) 継手位置

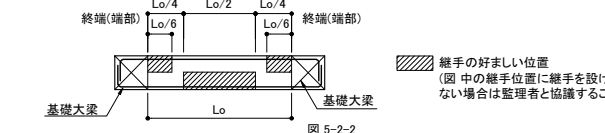


図 5-2-6

B1. 基礎小梁が連続梁の場合

- 定着およびカットオフ筋長さ

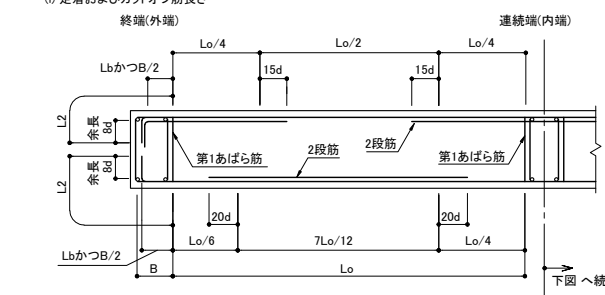


図 5-2-7

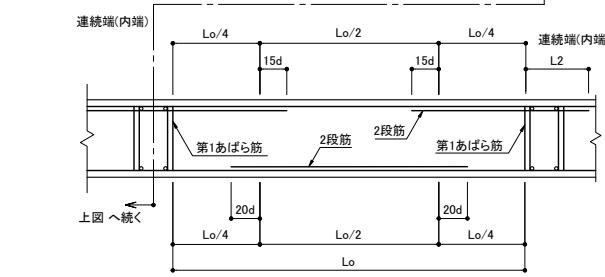


図 5-2-8

(ii) 継手位置

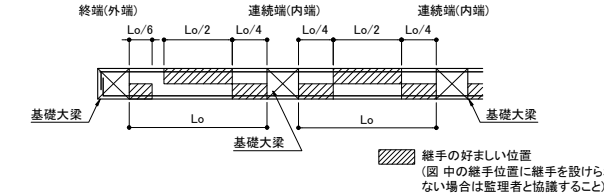


図 5-2-9

B2. 基礎小梁が単独梁の場合

- 定着およびカットオフ筋長さ

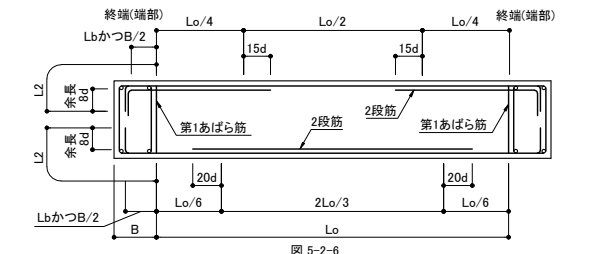


図 5-2-10

(ii) 継手位置

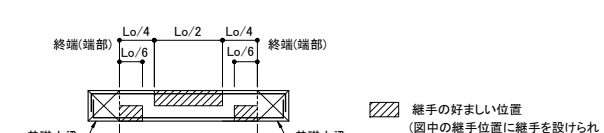


図 5-2-11

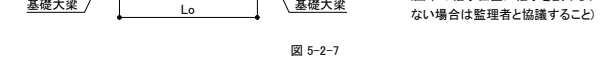


図 5-2-12

(3) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

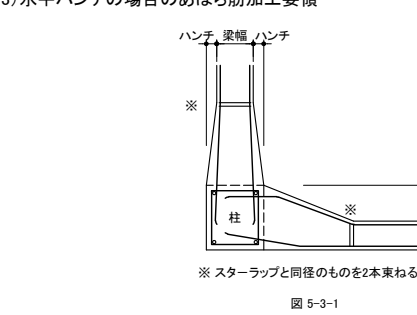


図 5-3-1

(4) せいの高い梁のあばら筋加工要領図

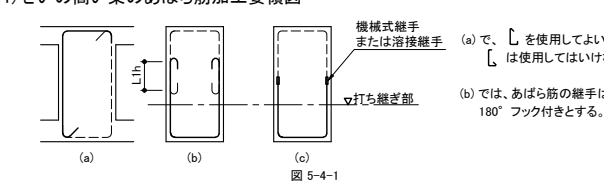


図 5-4-1

(5) 基礎大梁と最下階柱の取合い部配筋要領

- 基礎大梁幅が柱幅より大きい柱脚の場合
- 基礎大梁幅が柱幅より小さい柱脚の場合

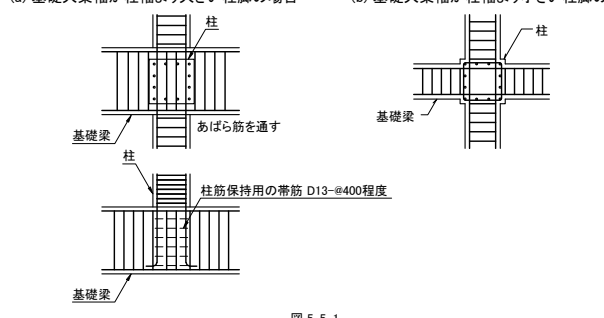


図 5-5-1

6. 柱

(1) 柱主筋の継手位置

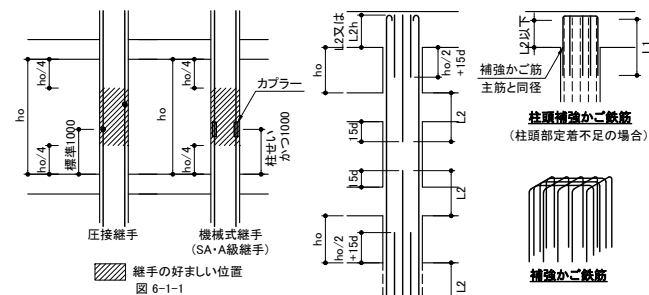


図 6-1-1

(2) 柱主筋の定着

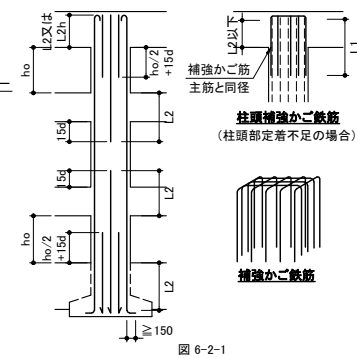


図 6-2-1

(3) 帯筋

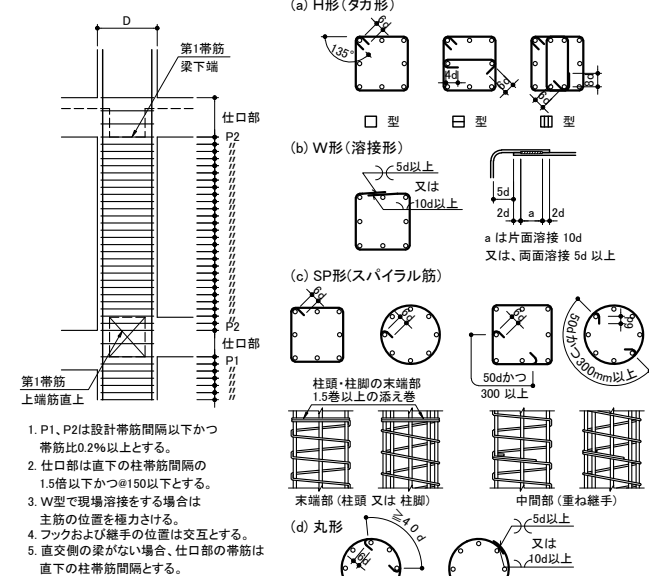


図 6-3-1

(4) 斜め柱

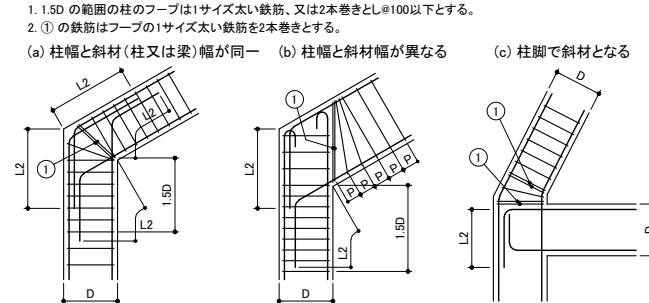


図 6-4-1

(5) 絞り

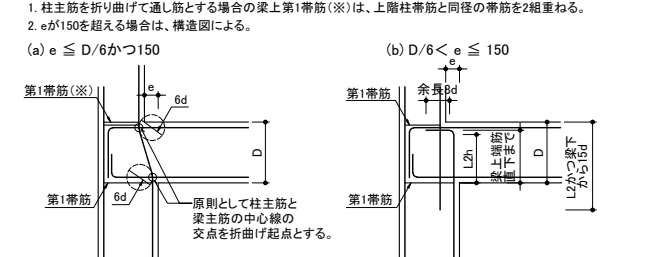


図 6-5-1

(6) 寄筋の保持

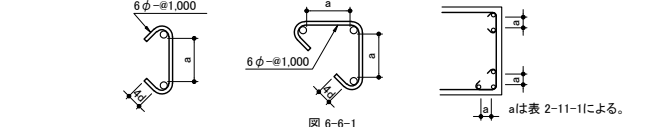


図 6-6-1

7. 大梁、小梁、片持梁

(1) 定着

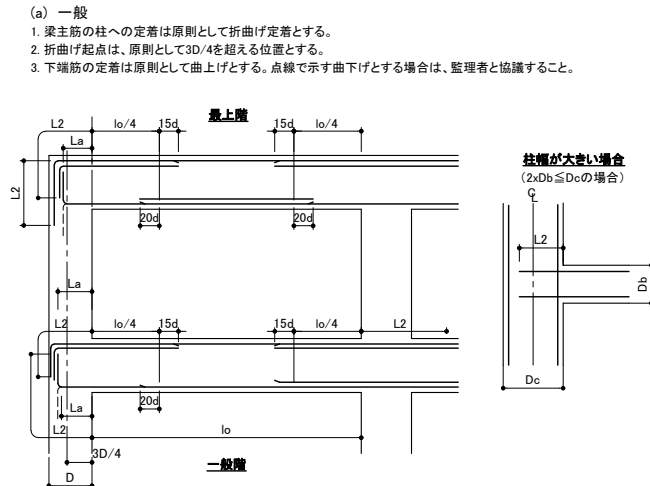


図 7-1-1

(b) ハンチのある場合

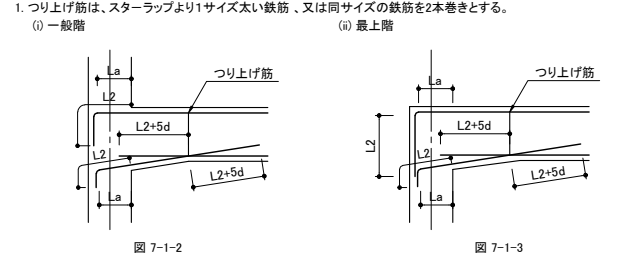


図 7-1-2

図 7-1-3

(2) 大梁主筋の継手

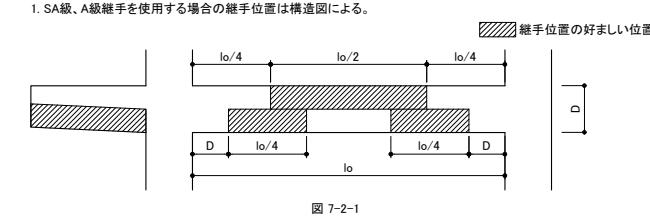


図 7-2-1

(3) あばら筋、腹筋、幅止め筋の配置

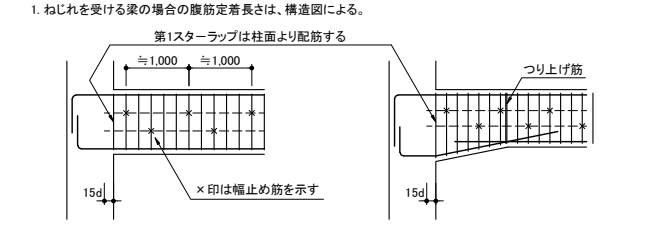


図 7-3-1

(4) あばら筋の型

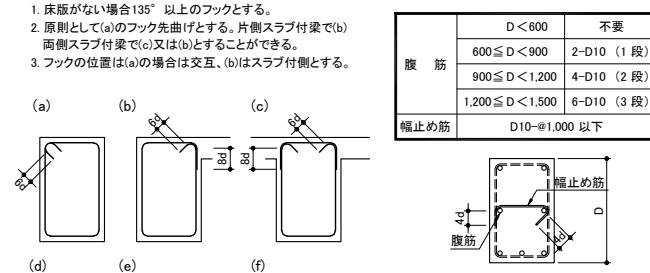


図 7-5-1

(5) 幅止め筋の本数、加工

	D < 600	不要
腹筋	600 ≤ D < 900	2-D10 (1段)
	900 ≤ D < 1,200	4-D10 (2段)
	1,200 ≤ D < 1,500	6-D10 (3段)
幅止め筋	D10-#1,000 以下	

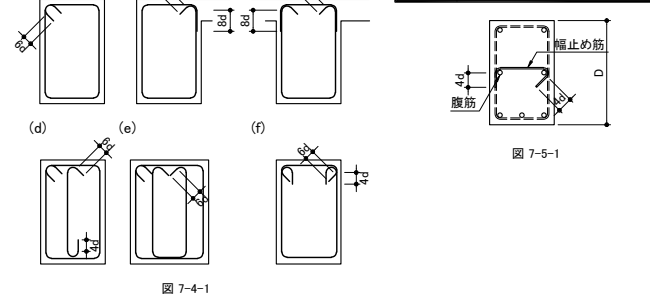


図 7-4-1

(6) 梁主筋の定着

(a) 直線定着

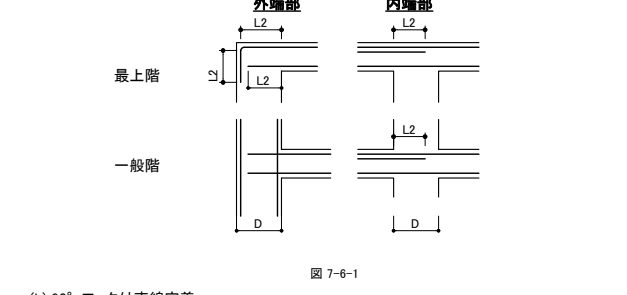


図 7-6-1

(b) 90° フック付直線定着

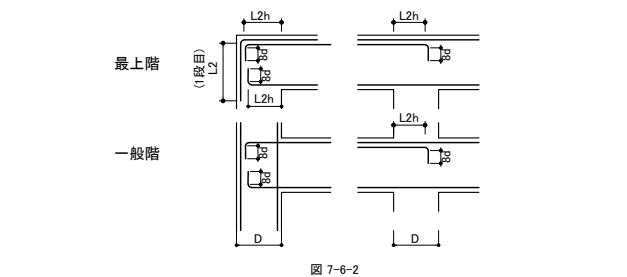


図 7-6-2

(c) 折り曲げ定着

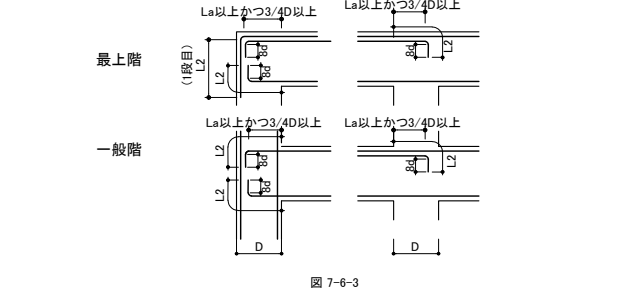


図 7-6-3

(7) 梁主筋が真直ぐ通らない場合のおさまり

1. 梁主筋は原則として通し筋とするが、鉄筋のあき寸法が確保できる場合は折曲げ定着としてもよい。
2. 直線定着とする場合は、監理者と協議すること。

(a) 鉛直方向にずれのある場合

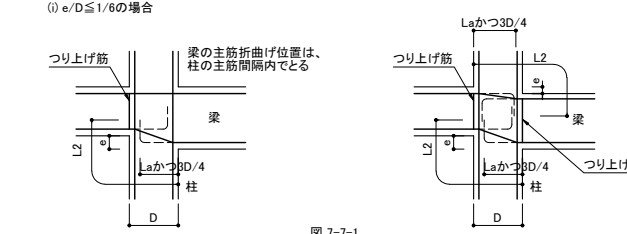


図 7-7-1

(ii) e/D > 1/6 の場合

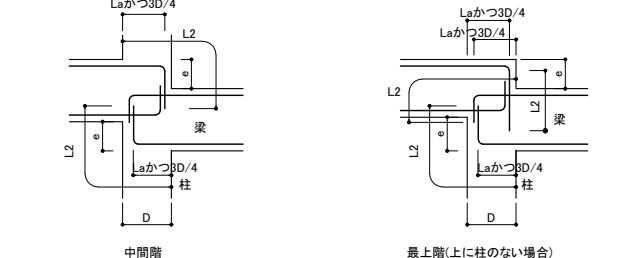


図 7-7-2

(b) 水平方向にずれのある場合

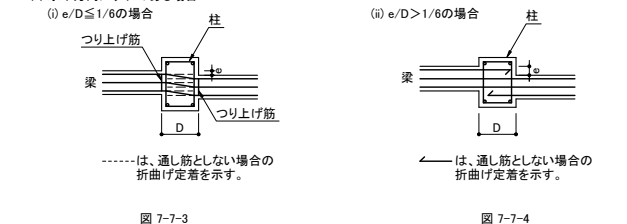


図 7-7-3

図 7-7-4

(8) 小梁・片持ち梁

(a) 小梁の定着

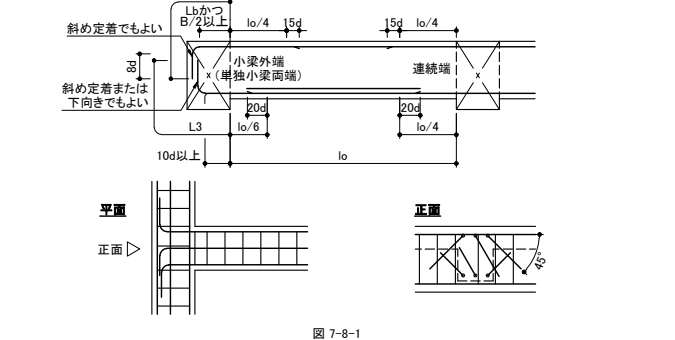


図 7-8-1

(b) 段差小梁の配筋 (連続端の場合)

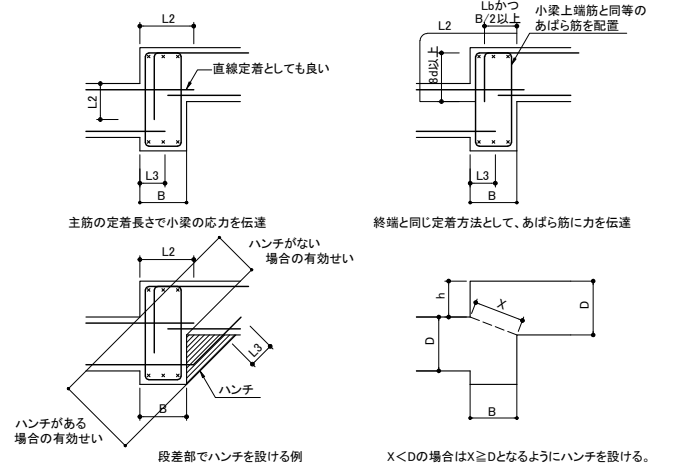


図 7-8-2

(c) 小梁筋の継手位置

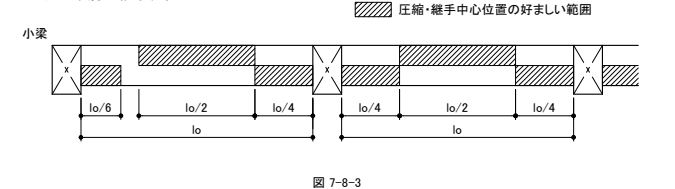


図 7-8-3

(d) 片持梁の定着

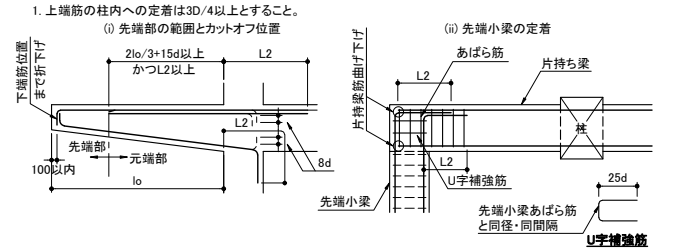


図 7-8-4

(iii) 隣接する梁がある場合で柱定着

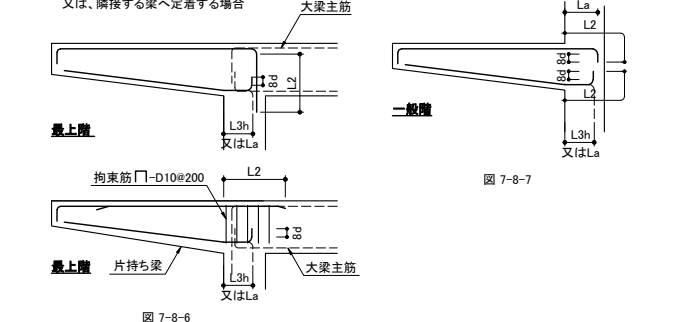


図 7-8-6

(iv) 隣接する梁がない場合で柱定着

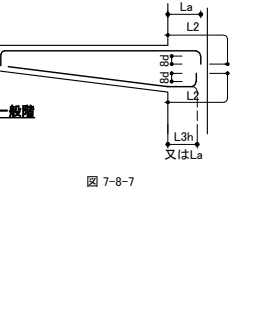


図 7-8-7

8. スラブ

(1) スラブ筋の定着

(a) 一般スラブの定着

1. スラブの配筋が梁左右で同じ場合は通し筋としてもよい。

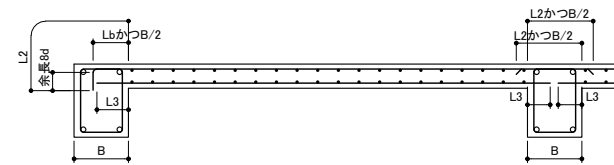


図 8-1-1

(b) 幅の小さい梁への定着 (Lbが確保できない場合)

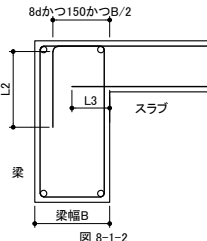


図 8-1-2

(c) 片持ちスラブの梁への定着

1. 以下の配筋とする場合、連続スラブの配筋に留意すること。
2. 片持ちスラブ主筋には原則として継手を設けないこと。

i) 隣接スラブと同一レベルの場合

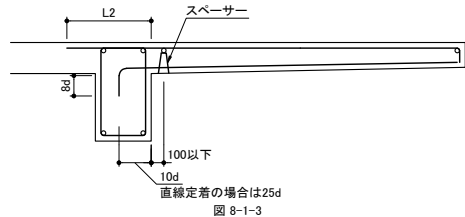


図 8-1-3

ii) 梁の中間にスラブが付く場合

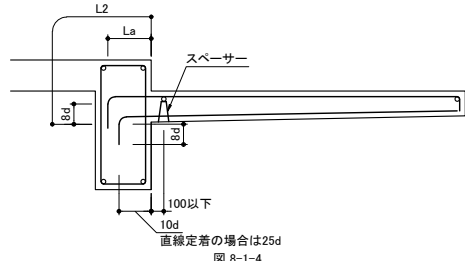


図 8-1-4

iii) 逆スラブの場合

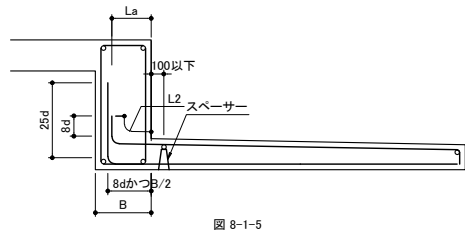


図 8-1-5

(2) カットオフ筋長さおよび継手位置

(a) カットオフ筋長さ

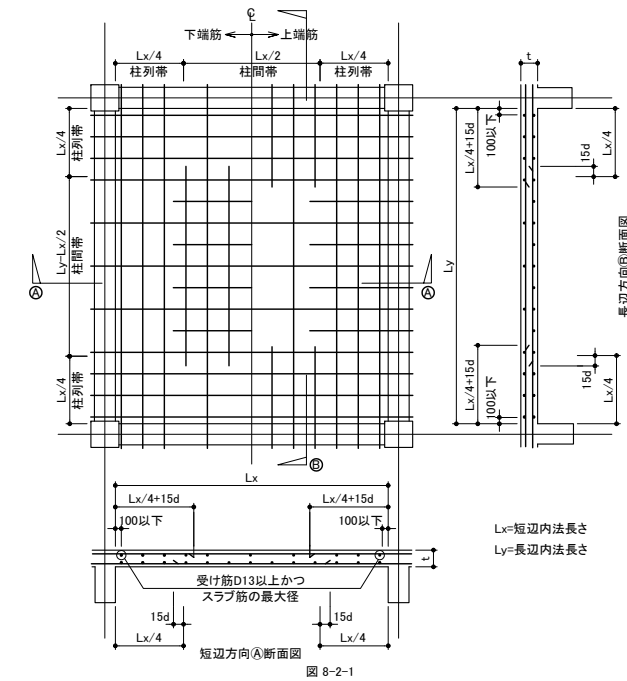


図 8-2-1

(b) 継手位置

1. 耐圧版の場合は下図の逆とする。

i) 上端筋の継手

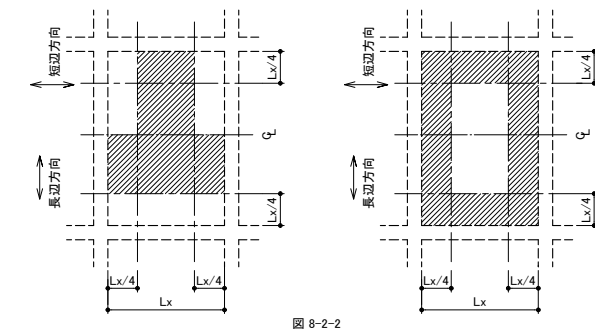


図 8-2-2

ii) 下端筋の継手

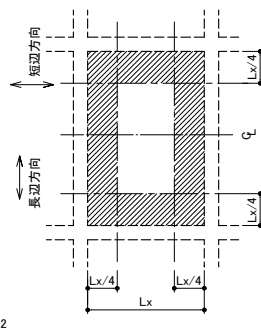


図 8-2-3

(3) 高低差のある場合のスラブ筋のおさまり

(a) スラブが梁側面に付く場合

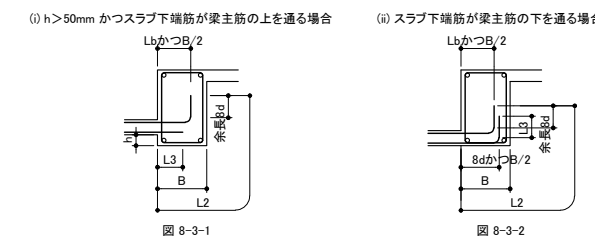


図 8-3-1

(b) 片側スラブが梁より上がる場合

1. (i) ~ (iii) は壁がない場合を、(iv) は壁がある場合を示す。

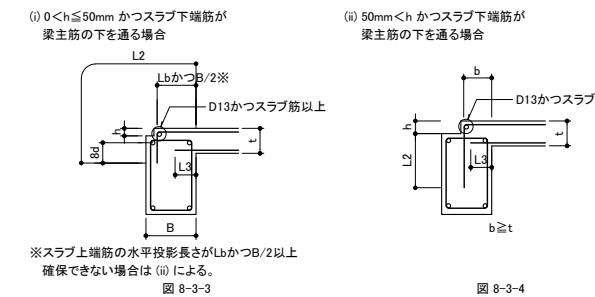


図 8-3-2

※スラブ上端筋の水平投影長さがLbかつB/2以上確保できない場合は (ii) による。

図 8-3-3

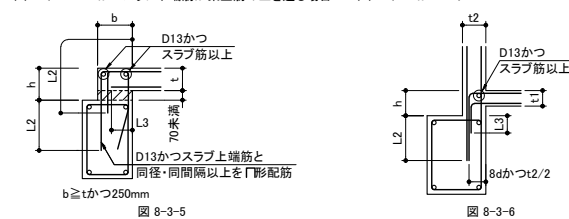
(iii) $h < t + 70\text{mm}$ かつスラブ下端筋が梁主筋の上を通る場合

図 8-3-5

(c) 梁の両側のスラブが上がる場合

- (i) $h \geq 0$ かつスラブ下端筋が梁主筋の下を通る場合

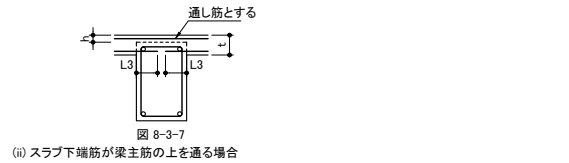


図 8-3-6

(ii) スラブ下端筋が梁主筋の上を通る場合

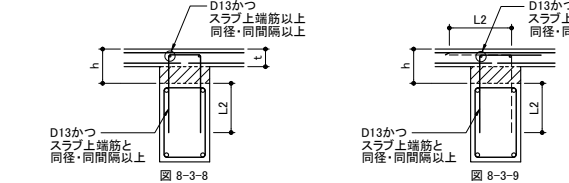


図 8-3-7

(d) スラブ中間部に高低差のある場合

1. 下記以外の場合は構造図による。

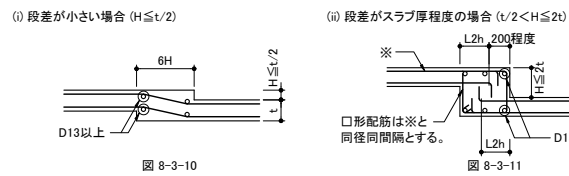


図 8-3-8

(4) 釜場

1. t: 底盤と同厚以上。

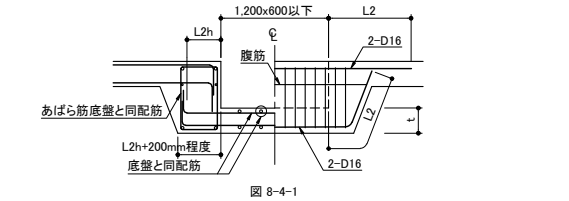


図 8-4-1

9. 壁

(1) 一般壁

(a) 壁と柱・梁との取まり

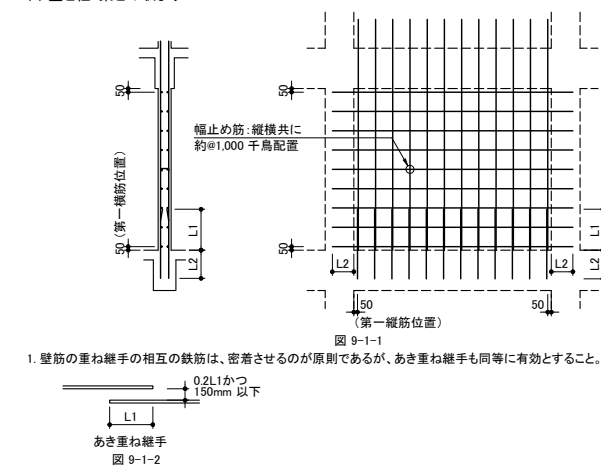


図 9-1-1

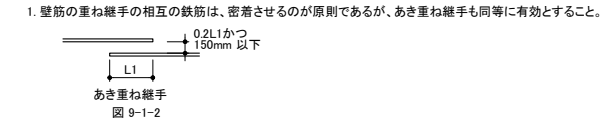


図 9-1-2

1. 壁筋の重ね継手の相互の鉄筋は、密着させるのが原則であるが、あき重ね継手も同等に有効とすること。

(b) 各部の定着

(i) 壁・柱

1. a 区間の部分は通し配筋でもよい。
2. (エ)、(オ) は増打ちコンクリートのある非耐力壁の場合。耐力壁の場合は構造図の特記による。
3. ※1. ※2. 鉄筋の径及び間隔は、図示による。

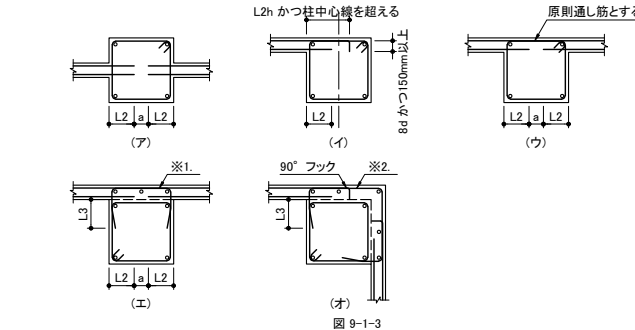


図 9-1-3

(ii) 壁・梁

1. a 区間の部分は通し配筋でもよい。
2. (エ) は増打ちコンクリートのある非耐力壁の場合。耐力壁の場合は設計図書の特記による。
3. ※1. 鉄筋の径及び間隔は、構造図による。

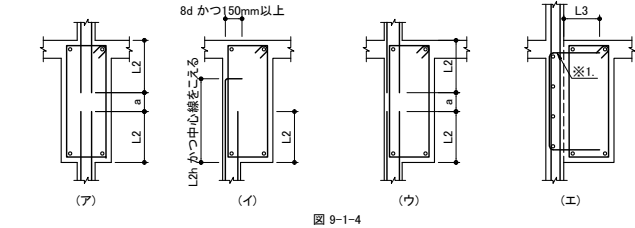


図 9-1-4

(iii) 壁・スラブ (非耐力壁とスラブが取り合う場合)

(ア) スラブ上端筋がある場合

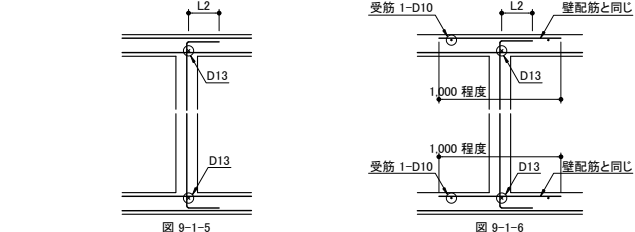


図 9-1-5

(イ) スラブ上端筋がない場合

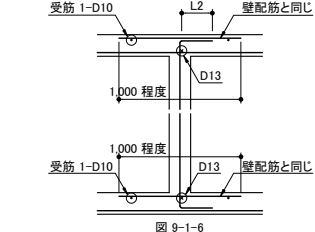


図 9-1-6

(iv) 壁・壁 (平面)

(ア) シングル配筋

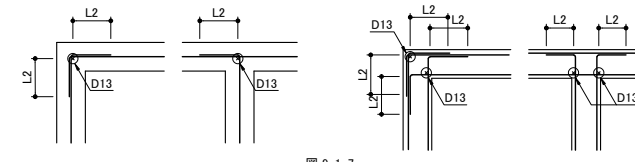


図 9-1-7

(イ) ダブル配筋

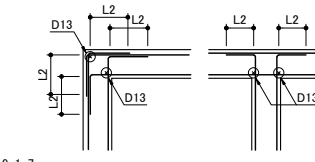


図 9-1-8

(2) 壁端部・開口部小口補強

1. 耐震壁の場合、コ形補強筋は壁筋と同径・同間隔とする。
2. 寸法は構造図による。構造図に記載がない場合は15dとする。
3. 壁筋にフックを設けた壁で、壁厚が250mm以下の場合、開口部小口補強は省略とすることができる。

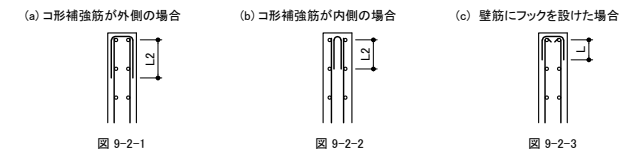


図 9-2-1

(b) コ形補強筋が内側の場合

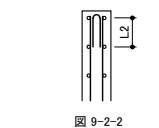


図 9-2-2

(c) 壁筋にフックを設けた場合

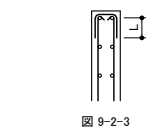


図 9-2-3

(3) スリット

1. 鉛直方向のスリット幅は壁の高さの1/100以上、水平方向のスリット幅は50mm程度とする。

(a) 在来工法を用いる場合

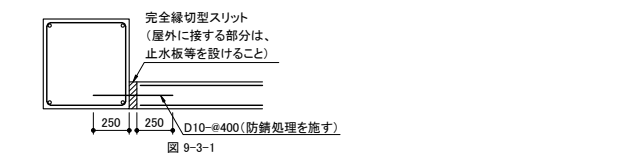


図 9-3-1

(b) 既製品を用いる場合

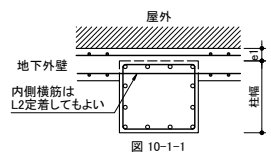
1. 耐震スリットの要領図を作成し、管理者に提出のこと。
2. 旧都市基盤整備公団の品質判定基準に合格していること。(耐火性・水密性)
3. スリット材は耐火仕様とすること。(耐火が求められる場合)

10. 地下外壁

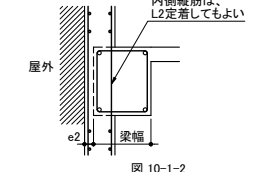
(1) 地下外壁と各部のおさまり

- 地下外壁の壁筋の継手は、地下外壁内とし、柱・梁に設けない。
- e1は壁外面と柱外面のずれ、e2は壁外面と梁外面のずれを示し、e1、e2寸法は構造図による。
- e1、e2が70mm以上の打増し部補強は、表 13-1-1、表 13-2-1および表 13-2-2による。
- 土に接する側の縦筋・横筋は原則として柱・梁主筋の外側を通す。

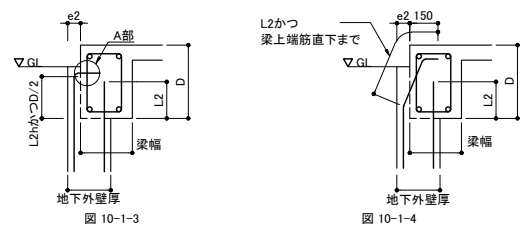
(a) 柱とのおさまり



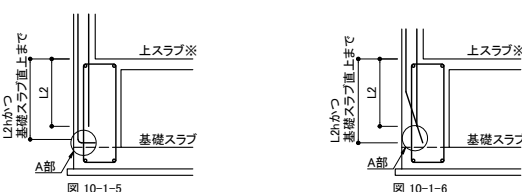
(b) 梁とのおさまり



(c) 壁上部のおさまり(特記なき限り図 10-1-3とする。)



(d) 地下外壁と基礎梁の接合部おさまり(特記なき限り図 10-1-3とする。)

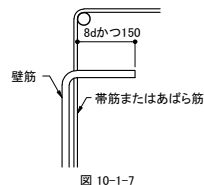


※ 上スラブがない場合、または上スラブが置きスラブの場合の、地下外壁定着は構造図による。

(e) A部鉄筋折曲げ形状と寸法

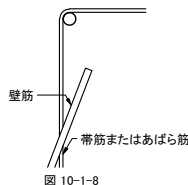
- 壁筋が帯筋・あばら筋から離れた位置となる場合は、90° フックの余長部分を8dかつ150以上、帯筋・あばら筋内に定着する。

(i) 先端90° フックとする場合

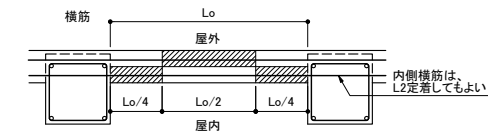
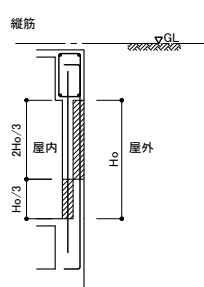


(ii) 先端を斜めに折り曲げる場合

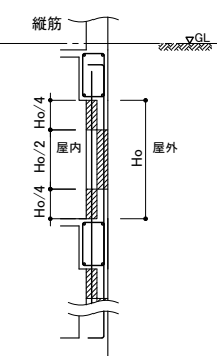
- 定着長さはL2とする。



(2) 継手位置

(a) 地下階が1層の場合
(地下階が多層の場合の地下1階)

(b) 地下階が多層の場合



継手の好ましい位置
(図中の継手位置に継手を設けられない場合は監理者と協議すること)

図 10-2-1

11. 開口補強

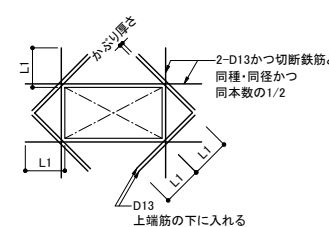
(1) スラブおよび非耐力壁

- 開口が連続するスラブの場合および片持ちスラブに開口を設ける場合の補強は構造図による。
- スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下の場合、鉄筋を1/6以下の勾配で曲げること、または50mm以下でずらすことにより補強筋を省略することができる。ただし、開口部から設計かぶりを確保すること。
- 壁開口、スラブ開口が柱または梁に接する場合、接する柱・梁の部分には補強筋を省略できる。
- 壁開口の最大径が両方向の配筋間隔以下の場合、鉄筋を1/6以下の勾配で曲げること、または50mm以下でずらすことにより補強筋を省略することができる。ただし、開口部から設計かぶりを確保すること。
- 開口幅700mmを超える場合は、監理者に開口補強要領を確認すること。

(a) スラブ開口補強

- 開口寸法がスラブの配筋間隔以下の小開口の補強は、図 11-1-3による。

(i) 角形開口(一辺の最大寸法が700mm以下)



(ii) 円形開口(直径700mm以下)

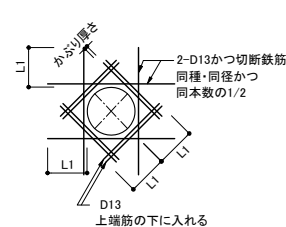
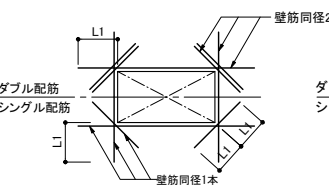


図 11-1-1

(b) 非耐力壁の開口補強

- 開口寸法が壁の配筋間隔以下の小開口の補強は、図 11-1-3による。

(i) 角形開口(一辺の最大寸法が700mm以下)



(ii) 円形開口(直径700mm以下)

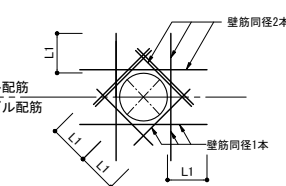


図 11-1-2

(c) 単独円形小開口の配筋要領(開口の大きさが、床壁の配筋間隔以下の場合)

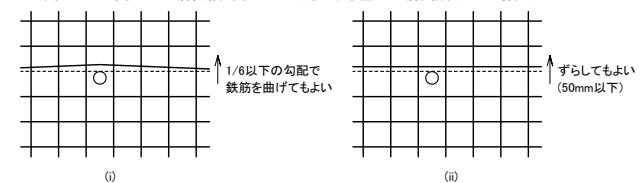
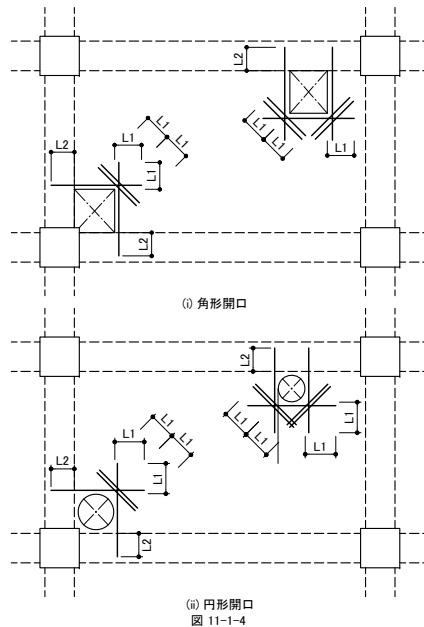
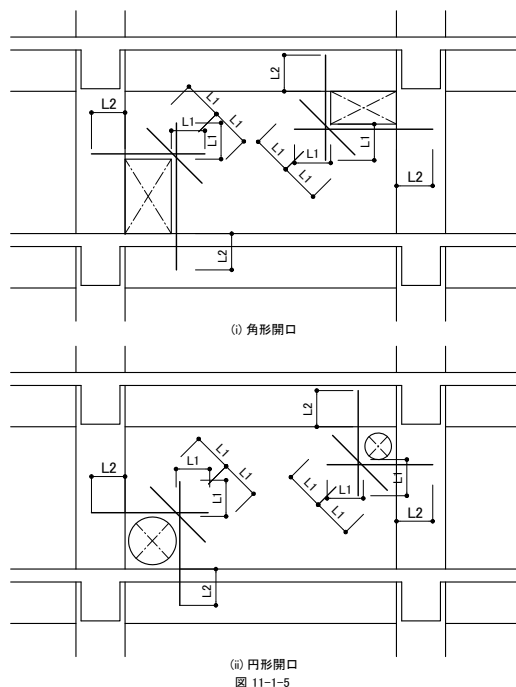


図 11-1-3

(d) スラブ開口部が柱または梁に接する場合の配筋要領



(e) 壁開口部が柱または梁に接する場合の配筋要領(耐震壁を含む)



(f) 壁開口部が連続する場合の配筋要領(耐力壁の場合)

- 円形連続開口まわりの補強筋の定着長さは図 11-1-5fに準ずる。

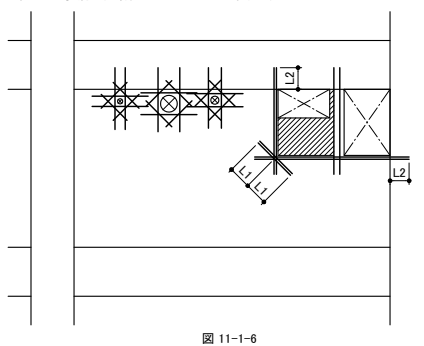


図 11-1-6

(g) 壁開口部が連続する場合の配筋要領(非耐力壁)

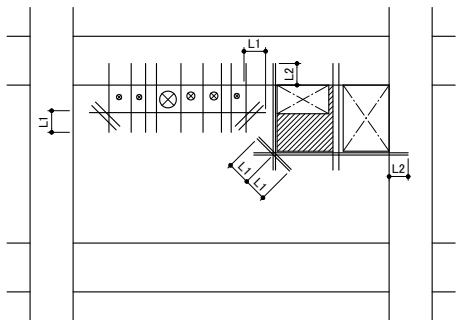
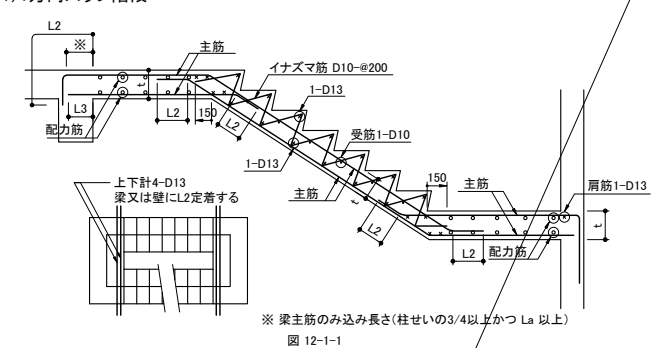


図 11-1-7

12. 階段

(1) 1方向スラブ階段



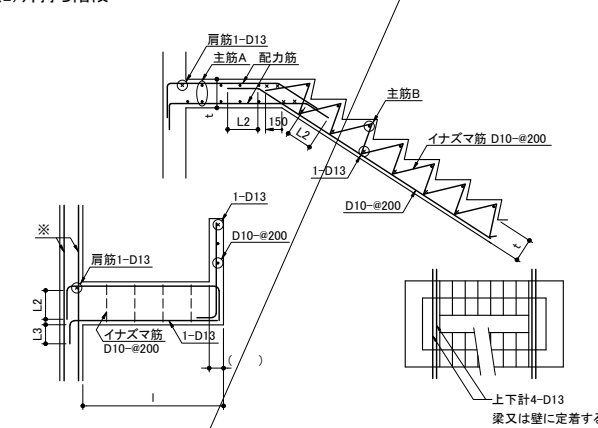
※ 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4以上かつ La 以上)

図 12-1-1

表 12-1-1

階段種別	厚さ t	配 筋	
		主 筋	配力筋

(2) 片持ち階段



階段で壁厚が250未満の場合は、壁配筋表にかかわらず

※印筋(縦筋)をD13-#200以上の配筋とする

階段主筋は、壁中心線を超えてから縦に下す。

図 12-1-1

表 12-1-1

階段種別	厚さ t	配 筋		
		主 筋 A	主 筋 B	配力筋

13. 柱・梁・壁・スラブ打増し部配筋要領

(1) 一般事項

- 構造図に記載のない打増しを行う場合は事前に監理者と協議すること。
- 柱・梁の打増し部に耐力壁を取り付く場合の打増し配筋要領は構造図による。
- 打増し寸法 $a1$ 、 $a2$ が70mm未満の場合は補強筋不要とする。
- 斜線部は打増しコンクリートを示す。
- ふかし部分の F_c 強度は、監理者と協議すること。

(2) 柱

- 梁、耐力壁およびスラブの鉄筋の定着長さは、柱躯体内で確保し、打増し部は定着長さに算定しない。

(a) 柱補強筋

表 13-2-1

補強主筋	D16-#300程度
補強帯筋	D13-#100程度

(b) 柱の打増し要領

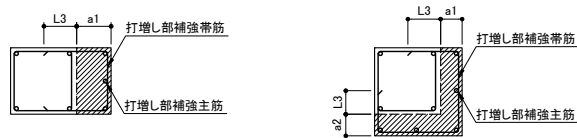


図 13-2-2

(c) 柱の打増し部の補強主筋の定着要領

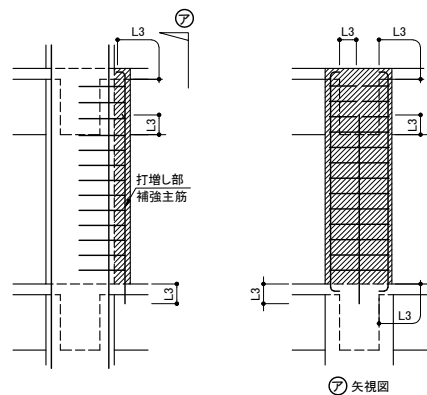


図 13-2-3

(3) 梁

- 小梁・耐力壁およびスラブの鉄筋の定着長さは、梁躯体内で確保し、打増し部は定着長さに算定しない。
- 梁の打増し部配筋要領は表13-3-1、表13-3-2、図13-3-1、図13-3-2、図13-3-3による。
- 打増し部腹筋は梁と同径・同段数とする。

(a) 梁補強筋

(i) 梁側面補強筋

(ii) 梁上下面補強筋

表 13-3-1

補強主筋	D16
補強あばら筋	梁あばら筋と同径、間隔200mm以下

表 13-3-2

梁幅	$B \leq 350\text{mm}$	$350\text{mm} < B$
補強主筋	2-D16	D16-#250以下
補強あばら筋	梁あばら筋と同径、間隔200mm以下	

(b) 梁の打ち増し要領

(i) 梁側面を打増しする場合

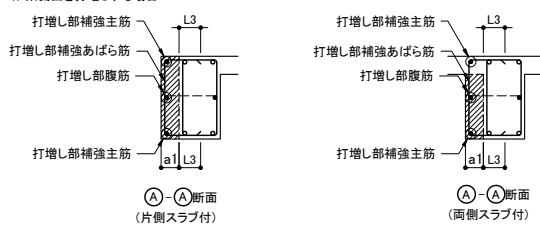


図 13-3-1

(ii) 梁側面および梁下面を打増しする場合

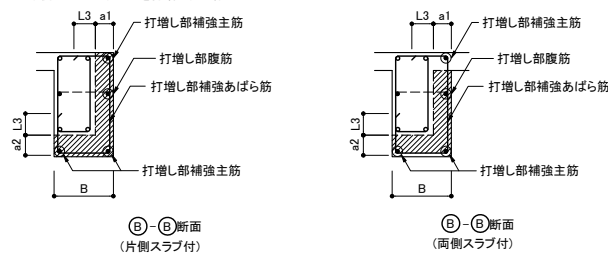


図 13-3-2

(iii) 梁上面を打増しする場合 (スラブなし)

- スラブが取付く場合は図 8-3-5から図 8-3-9を参照。

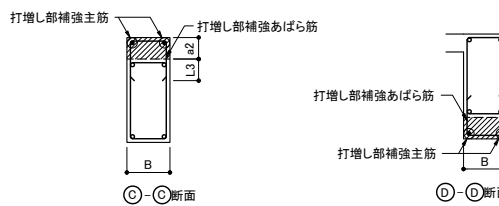
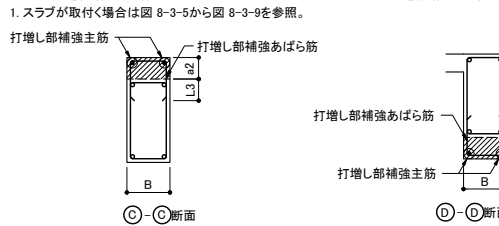


図 13-2-3

(iv) 梁下面を打増しする場合



(c) 梁打増し部の補強主筋の定着

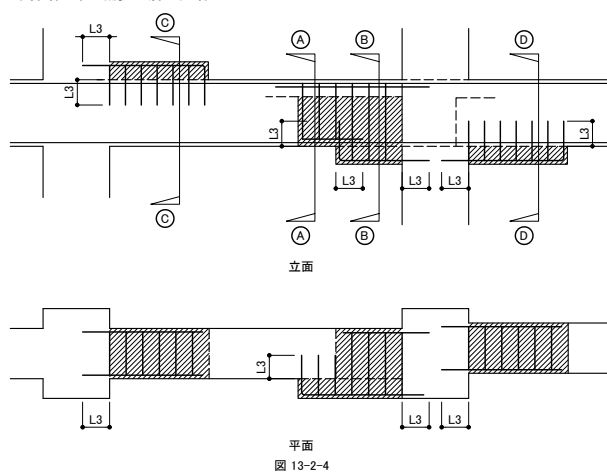


図 13-2-4

(4) 壁・スラブ

(a) 壁の打増し要領

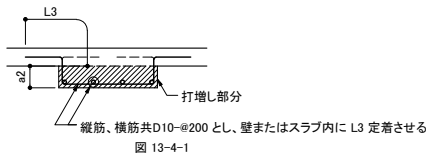


図 13-4-1

(b) スラブの打増し要領

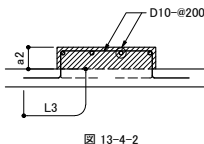
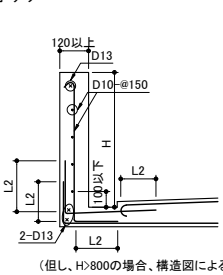


図 13-4-2

14. その他

(1) 手すり、パラベット

(a) 手すり



(但し、H>800の場合、構造図による)

図 14-1-1

(b) パラベット

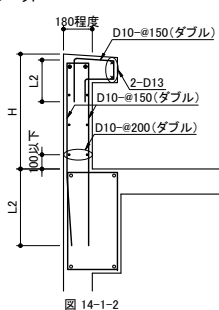


図 14-1-2

(2) ハト小屋詳細図

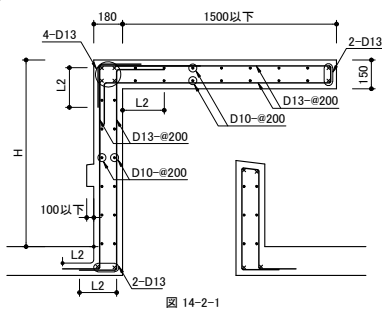


図 14-2-1

(3) 設備基礎

(a) TYPE A ($H \leq 150$)

- 図 13-4-2による。

(b) TYPE A ($H > 150$)

- $H > 150$ の場合はスタイロフォームにて高さ調整を行う
- BまたはDが2000を超える場合は、超えるごとに $c=200$ のRCリブを設ける

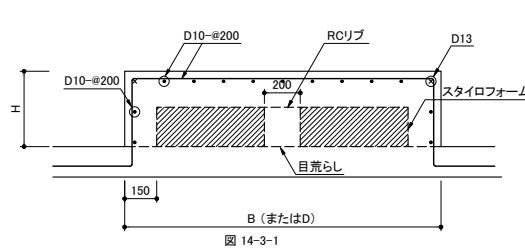


図 14-3-1

(c) TYPE B (屋外)

- cL は $2H$ を最大とする。
- $H > 1000$ の場合は監理者の指示による。
- 基礎はスラブ上で止めず、鉄骨小梁間をスパンする。ただし、マットスラブ上は配置自由とする。

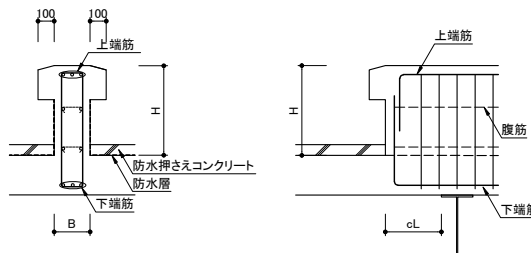


図 14-3-2

表 14-3-1

H	$H < 600$	$600 \leq H \leq 1000$
上端筋	3-D19	3-D22
下端筋	3-D19	3-D22
あばら筋	D10-#200	D13-#200
腹筋	-	2-D10

(d) TYPE B (屋内)

- cL は $2H$ を最大とする。
- $H > 1000$ の場合は監理者の指示による。
- 基礎はスラブ上で止めず、鉄骨小梁間をスパンする。ただし、マットスラブ上は配置自由とする。

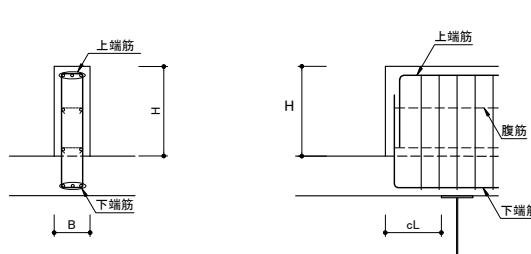


図 14-3-3

表 14-3-2

H	$H < 600$	$600 \leq H \leq 1000$
上端筋	3-D19	3-D22
下端筋	3-D19	3-D22
あばら筋	D10-#200	D13-#200
腹筋	-	2-D10

鉄骨鉄筋コンクリート構造標準図

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
 (2) 鉄骨鉄筋コンクリートの鉄骨部分の標準は鉄骨基準図に従う。
 (3) 鉄骨鉄筋コンクリートの鉄筋部分の標準は本標準図に従う。
 但し、本標準図にないかぶり、鉄筋加工、継手・定着長さ、各種継手位置、各種定着方法等は鉄筋コンクリート構造標準図による。
 (4) 構造図面、本標準図、鉄筋コンクリート構造標準図、鉄骨基準図にない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(建築編)」最新版及び、日本建築学会「鉄骨鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」最新版による。


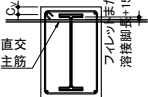
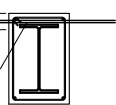
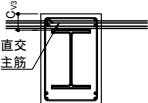
2. 鉄骨貫通孔・鉄骨と主筋の位置関係

(1) 鉄筋貫通孔の標準径

鉄筋径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41	D51
貫通孔径	21	24	28	31	35	38	43	46	50	53	56	68

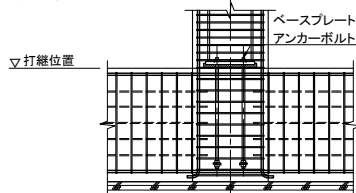
(2) 鉄骨と主筋の位置関係

- ・鉄骨のかぶりは構造図により、鉄骨と主筋の関係は以下の表を参照する。
 ・下表は鉄筋かぶりを50mmと仮定したときの値を示し、耐久性等の条件によりかぶり厚さが異なる場合は適宜寸法を変更すること。
 ・下表は最大骨材寸法25mm、直交主筋と鉄骨フランジのあき10mm、施工誤差10mm以上を仮定したときの値を示す。
 ・鉄骨のフランジ継手により外側にスプライスプレートが取り付けられる場合は、上表値にスプライスプレート厚を加える。
 あるいはスプライスプレート区間のみあばら筋を135°フック以外の形状に切り換える等の措置をとること。
 ・下表における主筋径は2方向の梁主筋、柱主筋を全て同径と仮定したときの値とする。
 ・ C_{V1} の値はせい方向に鉄骨-主筋間のあきががないため、部材幅方向に十分なあきを設けることを前提とする。

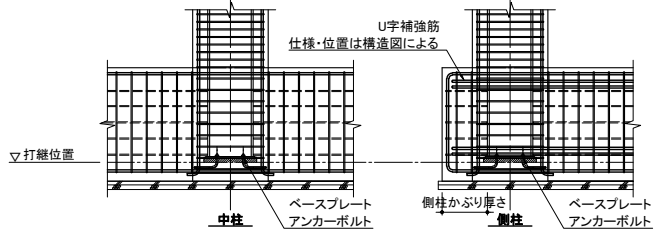
鉄骨かぶりの必要寸法	帯筋 あばら筋	主筋径									
		D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41	D51
幅方向C _H											
		D10	120	120	120	120	—	—	—	—	—
		D13	135	135	135	135	135	135	135	—	—
		D16	155	155	155	155	155	155	155	155	155
せい方向C _{V1}											
		D10	90	95	100	100	105	—	—	—	—
		D13	95	95	100	105	110	110	115	120	—
		D16	100	100	105	110	115	115	120	125	140
せい方向C _{V2}											
		D10	125	125	135	140	150	—	—	—	—
		D13	135	135	140	145	155	160	165	170	—
		D16	155	155	155	155	160	165	170	175	205
せい方向C _{V3}											
		D10	165	175	190	205	225	—	—	—	—
		D13	170	180	195	210	230	245	260	270	—
		D16	175	185	200	215	235	250	265	275	340

3. 柱脚

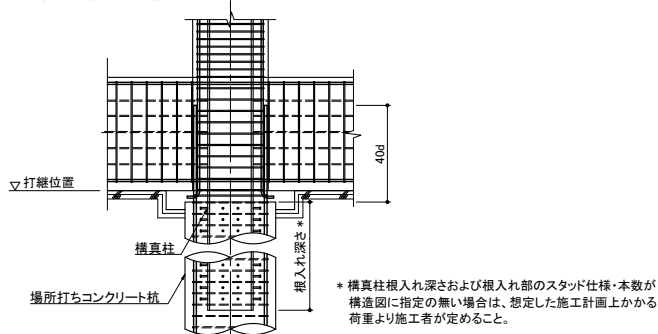
(1) 非埋込柱脚



(2) 埋込柱脚

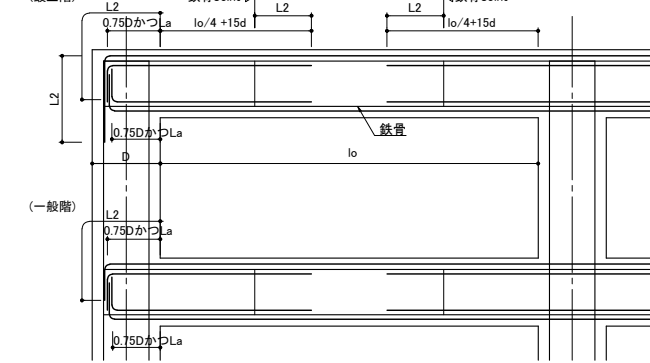


(3) 埋込柱脚(逆打ち工法の場合)



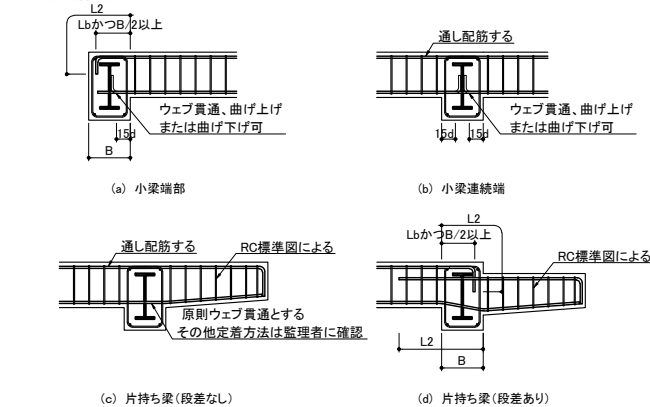
4. 梁

(1) 一般(最上階)

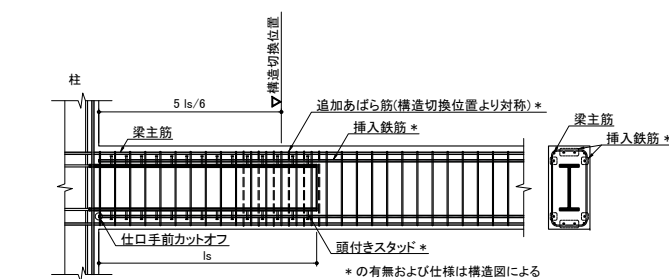


* せいが大きい梁断面で、コンクリート打設時のスターアップのはらみ等、施工上の支障が懸念される場合は適宜幅止め筋を設けること。

(2) 小梁・片持ち梁

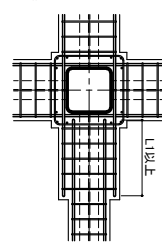


(3) SRC梁からRC梁への切り替え

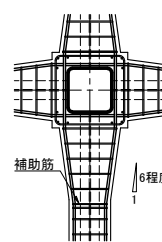


(3) 角型鋼管鉄骨柱

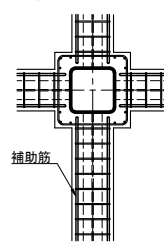
(a) 重ね継手



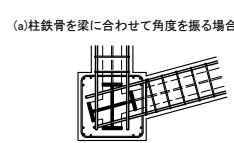
(b) 水平ハンチ



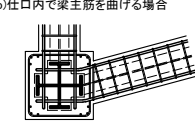
(c) 補助筋*



(4) 斜めに取りつく梁主筋の納まり



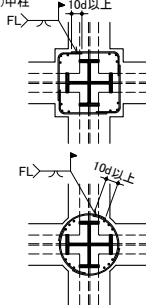
(b) 仕口内から梁主筋を曲げる場合



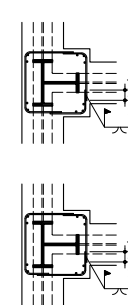
(5) 柱梁接合部フープ

接合部内の帯筋は、以下に例示するような形に帯筋を分割して配筋する。分割された帯筋はそれぞれを現場溶接(機械式継手もしくは重ね継手に置き換え可能)により適切に接続すること。

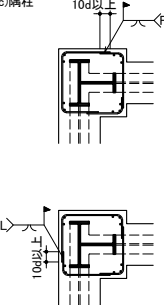
(a) 中柱



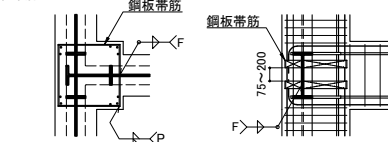
(b) 側柱



(c) 隅柱



(6) 鋼板帯筋



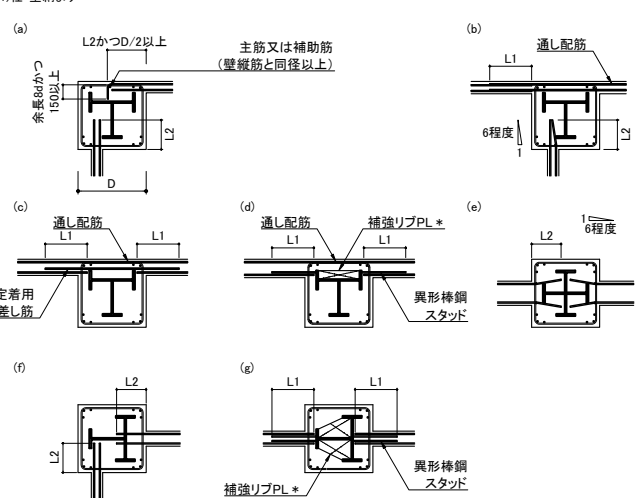
鋼板帯筋を採用する場合は梁せい内に2段以上かつ帯筋間の離隔75~200mmとすること。
 仕口内帯筋は、下表の鋼板帯筋φ250に置き換えることを可とする。
 また、表値以外の仕様は置き換える場合は設計者と協議の上で仕様を決定すること。

	φ150	φ125	φ100	φ75
□-D10	FB-6x50	FB-9x50	FB-9x50	FB-12x50
□-D13	FB-12x50	FB-12x50	FB-16x50	FB-19x50
□-D16	FB-16x50	FB-16x50	FB-19x65	FB-19x90

鋼板材料: SN400B

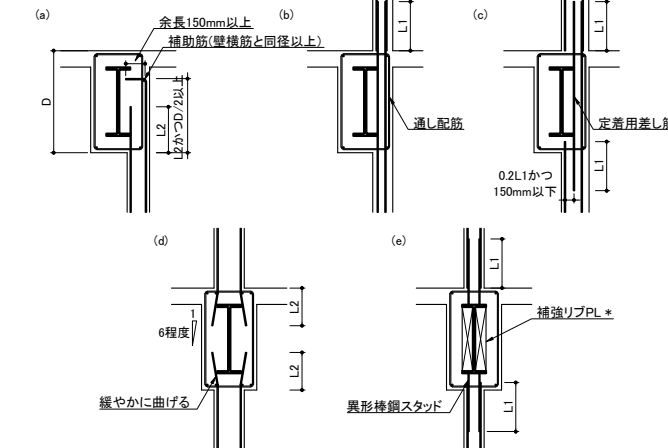
6. 壁

(1) 柱-壁納まり



* 構造図面に特記がなく(d) (e)に示す異形棒鋼スタッドを用いた納まりを採用する際には、補強リブPLの要否およびその仕様(板厚・ピッチ)を設計者との協議の上決定すること。

(2) 梁-壁 定着

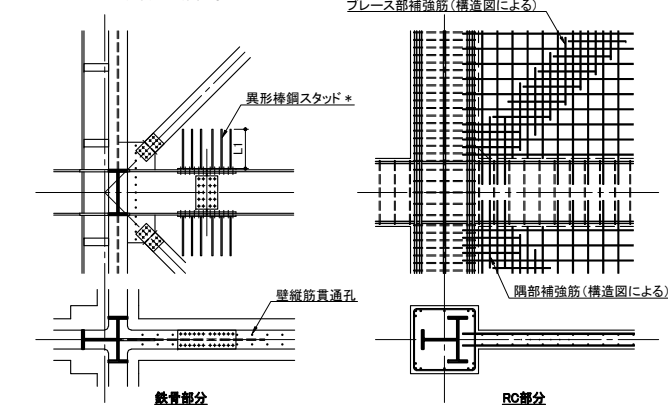


* (e)に示す異形棒鋼スタッドを用いた納まりを採用する際には、補強リブPLの要否およびその仕様(板厚・ピッチ)を設計者との協議の上決定すること。

(3) 開口補強

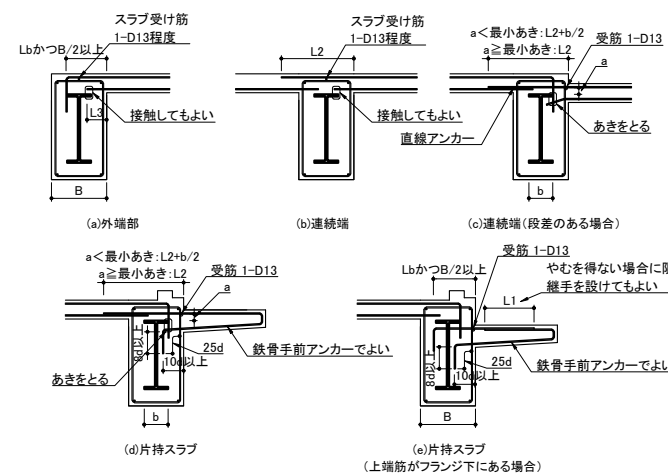
- 鉄筋コンクリート造壁開口の補強要領は、鉄筋コンクリート構造標準図に準じる。
- 壁筋がSRC内蔵鉄骨によって切断される場合は、開口部同様に扱い、異形棒鋼スタッドあるいはあき重ね継手によって補強を施す。

(4) プレース付きSRC耐震壁の端部補強



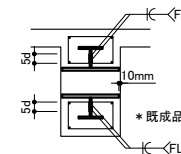
* 壁筋が柱または梁のフランジを貫通する場合は、ボルトによる継手区間に貫通孔が取れないためフランジ添板に切断筋の断面積同等の異形棒鋼スタッドを見込むこと。
 なお、柱または梁のフランジ貫通および鉄骨補強の有無は構造図による。

7. スラブ



8. 梁貫通孔補強

RC部分の梁貫通孔補強は鉄筋コンクリート構造標準図、鉄骨部分の補強は鉄骨基準図の補強要領による。ただし、貫通部の分割あばら筋は下図のように鉄骨ウェブにフレア溶接すること。



* 既成品による補強は、設計者の承認が必要である。

(財) 日本建築センター評定取得
(BCJ評定-RC0218-06)

※参考図(荷重表に基づき再設計を行えば、変更することは可能)

J F 1 0 0 設 計 ・ 施 工 標 準

JFE 建材 株式会社

J F 1 0 0 の設計・施工は、一般社団法人 公共建築協会「平成18年版 床型枠用鋼製デッキプレート（フラットデッキ）設計施工指針・同解説」による
J F 1 0 0 は、一般財団法人 建材試験センターによる性能試験にて構造性能を確認しています〔発行番号：第15A2530号(H27.12.25)〕

設 計

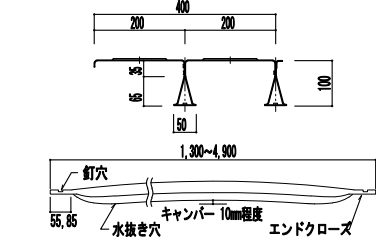
材料／デッキプレート

デッキ種類	板厚 mm	種類の記号	表面処理〔亜鉛めっき〕	使用材料
J F 1 0 0	□ 0.8	SGCC	■ Z12〔両面最小付着量 120g/m ² 〕	JIS G 3302
	□ 1.0	SGHC	□ Z27〔両面最小付着量 275g/m ² 〕	〔溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯〕 昇降点2550mm ² 、引張強さ2950N/mm ² 以上
	□ 1.2			
	□ 1.4	SZACC		JIS G 3317
	□ 1.6	SZAHC	□ Y18〔両面最小付着量 180g/m ² 〕	〔溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯〕 昇降点2550mm ² 、引張強さ2950N/mm ² 以上

注意 ※表面処理がZ27、Y18の場合、事前にご相談下さい。

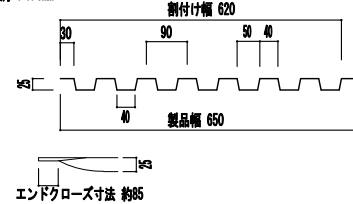
J F 1 0 0

標準型〔T〕



キーストンプレート

原則として、デッキ長さが1,000mm以下の場合に使用。(L=350~1,200mm)
※板厚: 0.8mm



断面応力・たわみの計算

断面応力・たわみの計算は、一般に単純支持梁モデルを用いて計算する。
算定式および許容値は、下表とする。

項 目	算 定 式
曲げ応力 (N/mm ²)	$\sigma = \frac{M}{Z} = \frac{m^2}{8Z} \times 10^4 \leq f_b$
たわみ (mm)	$\delta = \frac{5WL^4}{384EI} \times 10^{-4} \leq \frac{f_b}{\alpha} \times 10^4 + 5$
支圧耐力 (N/m)	$P = WL \leq P_a$

デッキの許容支圧荷重 Pa	(幅1m当たり)
デッキ板厚 (mm)	0.8 1.0 1.2 1.4 1.6
許容支圧荷重 (N/m)	9,800 14,700 19,600 24,500 29,400

設計荷重W=W₁+W₂+W₃

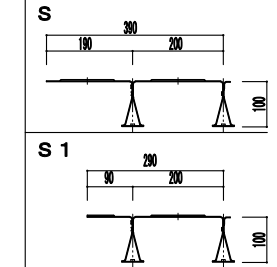
W₁: スラブ自重=(スラブ厚)×(鉄筋コンクリート単重)

W₂: デッキ自重

W₃: 作業荷重(下記)

施 工 時 作業荷重	□ 1,470N/m ² 〔ポンプ工法〕 □ 2,450N/m ² 〔ホッパー・バケット工法〕 □ (N/m ²)〔 〕
コンクリート 〔RC単位重量〕	□ 普通コンクリート〔24kN/m ³ 〕 □ 軽量コンクリート〔20kN/m ³ 〕 □ (kN/m ³)〔 〕

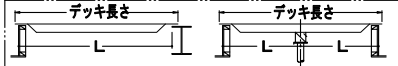
役物デッキプレート



調整プレート

記号	幅(mm)	板厚(mm)
JFPL200	200	1.2
JFPL300	300	1.2
JFPL400	400	1.6

スパンLの取り方



断面性能及び質量

J F 1 0 0						
品 名	板 厚 mm	有効幅考慮 断面係数 Z×10 ⁴ mm ³ /m	全断面有効 断面2次モーメント I ×10 ⁴ mm ⁴ /m	製 品 質 量		
				亜鉛めっき(Z12)	亜鉛めっき(Z27)	エコガル(Y18)
JF100-08	0.8	34.0	271	15.3	15.7	15.4
JF100-10	1.0	46.8	352	18.9	19.4	19.0
JF100-12	1.2	56.4	420	22.5	23.0	22.7
JF100-14	1.4	66.5	485	26.2	26.5	26.2
JF100-16	1.6	76.2	550	29.8	30.2	29.8

キーストンプレート

板 厚 mm	有効幅考慮 断面係数	全断面有効 断面2次モーメント	製 品 質 量	
			亜鉛めっき(Z12)	亜鉛めっき(Z27)
0.8	9.80	12.2	5.89	6.07

スラブ厚と別許容スパン早見表〔施工時作業荷重1,470N/m²、施工割増係数考慮〕(単位: mm)

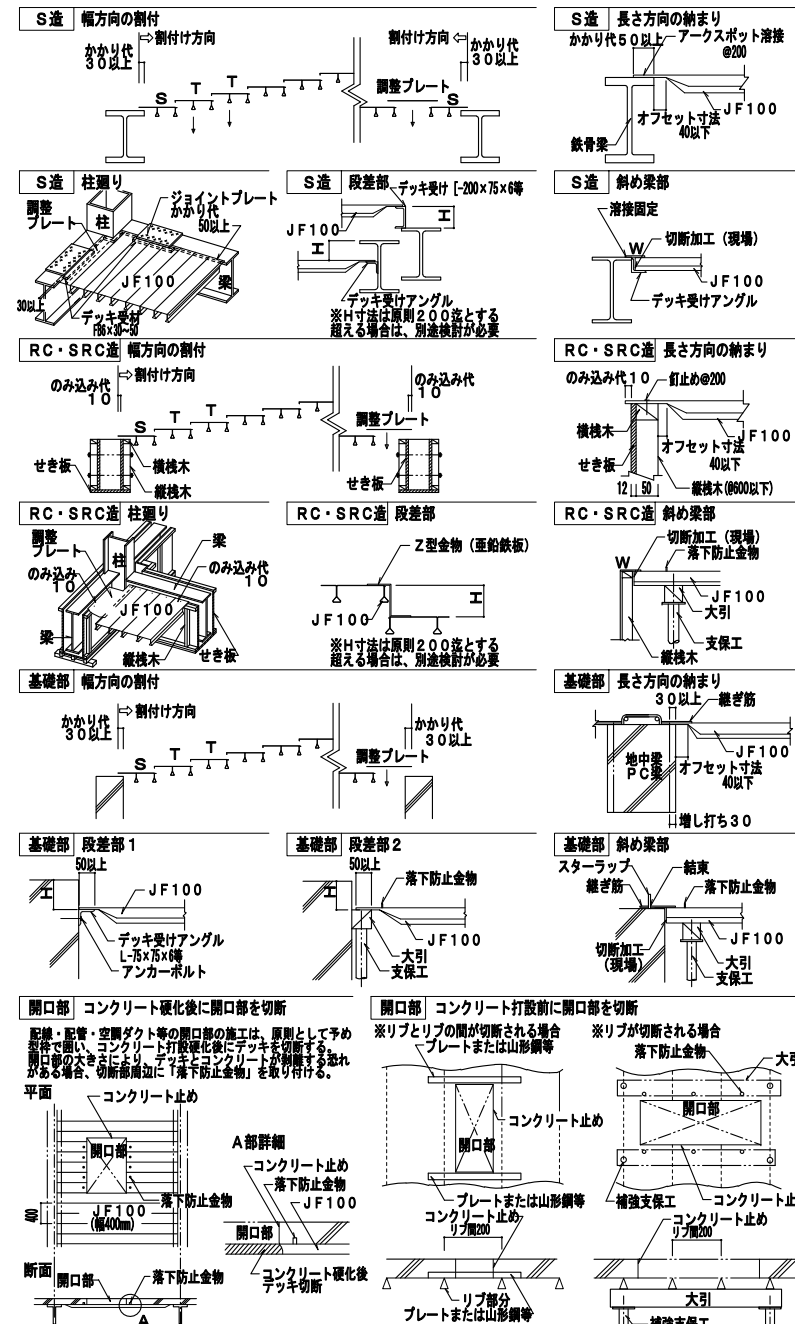
普通コンクリート 24kN/m ³										軽量コンクリート 20kN/m ³									
S造、RC・SRC造					RC・SRC造					S造、RC・SRC造					RC・SRC造				
I類					II類					I類					II類				
〔施工割増係数: α=1.0〕					〔α=1.25〕					〔α=1.0〕					〔α=1.25〕				
板厚t (mm)					板厚t (mm)					板厚t (mm)					板厚t (mm)				
120	3,460	3,740	3,950	4,120	4,270	3,670	3,950	2,870	120	3,580	3,860	4,090	4,280	4,420	3,880	4,090	3,040	120	3,580
125	3,430	3,710	3,910	4,080	4,240	3,630	3,910	2,830	125	3,550	3,830	4,060	4,250	4,390	3,840	4,060	3,000	125	3,550
130	3,400	3,680	3,880	4,050	4,210	3,590	3,880	2,800	130	3,520	3,800	4,030	4,220	4,360	3,790	4,030	2,960	130	3,520
135	3,370	3,650	3,850	4,020	4,180	3,540	3,850	2,760	135	3,500	3,780	4,000	4,170	4,330	3,750	4,000	2,930	135	3,500
140	3,340	3,620	3,820	3,990	4,140	3,490	3,820	2,730	140	3,480	3,760	3,970	4,140	4,300	3,710	3,970	2,900	140	3,480
145	3,300	3,600	3,800	3,960	4,110	3,450	3,780	2,690	145	3,450	3,740	3,940	4,110	4,270	3,670	3,940	2,860	145	3,450
150	3,260	3,570	3,770	3,930	4,080	3,410	3,730	2,660	150	3,420	3,710	3,910	4,080	4,240	3,630	3,910	2,830	150	3,420
155	3,230	3,550	3,740	3,910	4,060	3,370	3,690	2,630	155	3,410	3,690	3,890	4,060	4,210	3,590	3,890	2,800	155	3,410
160	3,190	3,520	3,720	3,880	4,030	3,340	3,650	2,600	160	3,380	3,660	3,860	4,030	4,190	3,550	3,860	2,770	160	3,380
170	3,120	3,460	3,670	3,830	3,960	3,270	3,580	2,550	170	3,320	3,620	3,810	3,980	4,130	3,480	3,810	2,720	170	3,320
180	3,060	3,420	3,620	3,780	3,930	3,200	3,500	2,500	180	3,280	3,570	3,770	3,930	4,080	3,410	3,730	2,680	180	3,280
190	3,000	3,380	3,580	3,740	3,880	3,140	3,440	2,450	190	3,220	3,520	3,720	3,880	4,040	3,350	3,670	2,610	190	3,220
200	2,940	3,350	3,540	3,690	3,830	3,080	3,370	2,400	200	3,140	3,440	3,640	3,800	3,950	3,290	3,600	2,570	200	3,140
250	2,700	3,160	3,350	3,500	3,640	2,830	3,100	2,200	250	2,900	3,320	3,500	3,660	3,800	3,030	3,320	2,360	250	2,900
300	2,510	2,940	3,200	3,350	3,490	2,630	2,800	2,050	300	2,700	3,160	3,350	3,500	3,640	2,830	3,100	2,200	300	2,700

* 梁側板型枠でJ F 1 0 0 を支持する場合、スラブスパンが3.0mを超えるときは中間支保工を設けることを原則とする

施 工

計 画	1) 工事に先立ち、J F 1 0 0 使用の目的に合致するように、工法及び工程の計画を立てる また、各施工段階における荷重に基づき強度や剛性について検討する 2) あらかじめ割付図を作成し、柱・梁の取り合いを明確にし、現場における作業や役物を少なくする
運搬 保管	1) J F 1 0 0 の荷おろし時、梱包したデッキプレートに局部変形を与えないようにする 2) 高所で突風の恐れがある場所では保管方法を適切に行い、飛散防止を行う
敷込み	1) デッキプレートの敷込み前に、梁上を十分に清掃する。施工図に従い、柱廻り、梁接合部、構合H型柱、 開口部、斜め梁等のにデッキプレート受けが施工されているか確認する 2) 敷き込みは最初の1枚を疊出し位置に合わせて仮止め後、通りや不陸を修正しながら2枚目以降を割付図 に従って敷き並べていく。敷込みを完了したデッキプレート、調整プレートはその日のうちに仮止める
切断 穴あけ	1) J F 1 0 0 の切断・穴あけ作業は、ガス切断、アーク溶接機で溶断等の方法もあるが、機械加工を原則とし、材質・強度および形状を損なわないようにする 2) リブ部の切取りは、局部破壊の原因となるので補強等十分に検討する 3) スリーブ等の開口部がある場合には、鉄板で補強する
接 合	1) J F 1 0 0 と支持梁の接合は、S造の場合アーク溶接で行う。また薄肉溶接に十分技量を有する有資格者の作業員を指名する。RC造及びSRC造の場合は、釘を用いて、型枠に対して釘打ち機又は金機・ハンマーで仮止める。RC造置きスラブ上(地中梁)の場合は、丸棒(φ10mm程度)等の継ぎ筋でデッキ端部とスターラップ筋を結束する
その他	1) J F 1 0 0 上に鉄筋等の重物を置くことは避ける。止むを得ず置く場合は、デッキプレート弱辺方向の上部にバタ角等台木を数本並べ、デッキプレートに直接局部荷重をかけないようにする 2) コンクリート打設時は、コンクリートの山を作らないようにし、集中荷重を選ける 3) コンクリート打設前までに、中間サポートの設置を確認する

納 ま り 例



特記事項:

梁貫通孔補強材

ダイアレNS設計・施工標準仕様書

(BCJ評定RC0124-06)

標準

加工寸法

施

工

1. 一般事項

(1) 本仕様書は、ダイアレNSの標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。

(2) 本設計仕様に記載のない事項については、建築基準法・同施行令、(財)日本建築センター及び(社)日本建築学会の関連する諸指針や諸規準、ダイアレNS技術マニュアルによる。

2. 使用材料の適用範囲

(1) コンクリート
Fc=21〜70N/mm²

(2) 鉄筋

- 主筋：基準強度295〜490N/mm²のJIS鉄筋、490を超え685N/mm²以下の大径認定品
- あばら筋：基準強度295〜490N/mm²のJIS鉄筋、490を超え1275N/mm²以下の大径認定品
- ダイアレNS：KSS785-K (MSRB-0004), MK785 (MSRB-0067), ウルボン785 (MSRB-0007, MSRB-0015)

3. 貫通孔適用範囲

(1) 開口の形状は円形又は多角形とし、多角形の場合はその外接円を開口とみなす。

(2) 開口径(H)は開口外径とし、750mm以下でかつ、梁せいの1/3以下とする。ただし、上下に複数の開口を設ける場合は当該複数孔の孔径の合計は梁せいの1/3以下とする。

(3) 隣接する開口の水平及び鉛直方向中心間距離(L)は開口径の3倍以上とし、隣接する開口の径が異なる場合は両開口径の平均値の3倍以上とする。また、縦並び開口を設ける場合には、最大径の範囲内に複数孔を配置することとする。

(4) ヘリあき(HC1, HC2)の最小寸法は下式により定める。
(ダイアレNSのE1寸法 - 孔径H)/2+ダイアレNSの鉄筋径/2+あばら筋径+コンクリート被り厚さ(40mm以上)

(5) 水平方向の開口位置は、柱際から開口中心までの距離(L')を梁せい以上とする。ただし、縦並び開口を設ける場合は梁せいの1.5倍以上とする。

4. 孔際あばら筋の配筋要領

(1) 開口部あばら筋の組数は、開口が無いとした場合に配置できるあばら筋組数以上とする。

(2) 孔際あばら筋の標準組数は下表とする。

【開口に対して片側に配置する孔際あばら筋の標準組数】		
開口径		一般部あばら筋比(Pw)
H<150	1%未満	1%以上
	1組	2組
150≦H<300	2組	3組
	3組	3組

5. 大孔径の場合の補強方法の一例(350φ以上の場合)

開口上下部分の補強要領 (U型補強筋で補強する場合の例)

・開口部上下補強筋の間隔は一般部あばら筋のピッチ以下とする。

・開口部上下補強筋は一般部あばら筋と同鋼種・同径とする。(丸鋼及びインデントは不可)

6. ダイアレNS標準製品寸法表 (特記外単位: mm) 鉄筋芯寸法

スリーブ径	タイプ	サイズ	寸法						形状	重量	ヘリあき
			A	B	C	D	E1	E2		(kg/枚)	
100φ	I	6	205	115	127	45	289	289	①	0.55	204
	II	8	205	115	127	45	289	289	①	0.85	205
	III	10	205	95	155	55	289	289	②	1.14	206
	IV	13	210	80	183	65	296	296	②	2.01	211
	V	16	230	100	183	65	321	328	③	3.46	225
125φ	I	6	230	140	127	45	325	325	①	0.60	222
	II	8	230	140	127	45	325	325	①	0.94	223
	III	10	235	125	155	55	332	332	②	1.27	227
	IV	13	240	110	183	65	339	339	②	2.26	232
	V	16	240	110	183	65	335	341	③	3.57	232
150φ	I	6	255	165	127	45	360	360	①	0.66	239
	II	8	255	165	127	45	360	360	①	1.03	240
	III	10	260	150	155	55	367	367	②	1.38	245
	IV	13	260	130	183	65	367	367	②	2.41	246
	V	16	265	135	183	65	367	376	③	3.88	248
175φ	I	6	280	190	127	45	395	395	①	0.71	257
	II	8	280	190	127	45	395	395	①	1.12	258
	III	10	285	175	155	55	403	403	②	1.50	263
	IV	13	285	155	183	65	403	403	②	2.61	264
	V	16	290	160	183	65	407	413	③	4.19	268
200φ	I	6	305	215	127	45	431	431	①	0.77	275
	II	8	305	215	127	45	431	431	①	1.20	276
	III	10	310	200	155	55	438	438	②	1.61	280
	IV	13	310	180	183	65	438	438	②	2.81	282
	V	16	320	190	183	65	448	457	③	4.57	288
250φ	I	6	360	270	127	45	509	509	①	0.89	314
	II	8	360	270	127	45	509	509	①	1.40	315
	III	10	360	250	155	55	509	509	②	1.83	316
	IV	13	370	240	183	65	523	523	②	3.29	324
	V	16	370	210	226	80	523	523	③	5.31	326
300φ	I	6	410	320	127	45	579	579	①	1.01	349
	II	8	410	320	127	45	579	579	①	1.57	350
	III	10	410	300	155	55	579	579	②	2.05	351
	IV	13	420	290	183	65	593	593	②	3.69	359
	V	16	420	260	226	80	593	593	③	5.93	361
350φ	I	6	460	370	127	45	650	650	①	1.12	384
	II	8	460	370	127	45	650	650	①	1.75	385
	III	10	460	350	155	55	650	650	②	2.28	386
	IV	13	470	340	183	65	664	664	②	4.09	395
	V	16	470	310	226	80	664	664	③	6.55	396
400φ	I	8	510	420	127	45	721	721	①	1.92	421
	II	10	510	400	155	55	721	721	②	2.50	422
	III	13	520	390	183	65	735	735	②	4.48	430
	IV	16	530	370	226	80	749	749	③	7.31	439
	IV-3R	16	530	436	292	80	909	909	④	12.11	519
450φ	I	8	560	470	127	45	791	791	①	2.10	456
	II	10	560	450	155	55	791	791	②	2.73	457
	III	13	570	440	183	65	806	806	②	4.88	466
	IV	16	580	420	226	80	820	820	③	7.94	474
	IV-3R	16	580	486	292	80	980	980	④	13.04	554
500φ	II	10	610	500	155	55	862	862	②	2.95	492
	III	13	620	490	183	65	876	876	②	5.28	501
	IV	16	630	470	226	80	890	890	③	8.56	509
	IV-3R	16	630	536	292	80	1050	1050	④	13.98	589
550φ	II	10	660	550	155	55	933	933	②	3.17	528
	III	13	670	540	183	65	947	947	②	5.68	536
	IV	16	680	520	226	80	961	961	③	9.18	545
	IV-3R	16	680	586	292	80	1121	1121	④	14.92	625
600φ	II	10	720	610	155	55	1018	1018	②	3.44	570
	III	13	730	600	183	65	1032	1032	②	6.16	579
	IV	16	750	590	226	80	1060	1060	③	10.07	594
	IV-3R	16	750	656	292	80	1220	1220	④	16.24	674
650φ	II	10	770	660	155	55	1088	1088	②	3.67	605
	III	13	780	650	183	65	1103	1103	②	6.55	614
	IV	16	800	640	226	80	1131	1131	③	10.69	630
	IV-3R	16	800	706	292	80	1291	1291	④	17.17	710
700φ	II	10	820	710	155	55	1159	1159	②	3.89	641
	III	13	830	700	183	65	1173	1173	②	6.95	649
	IV	16	850	690	226	80	1202	1202	③	11.32	665
	IV-3R	16	850	756	292	80	1362	1362	④	18.11	745
750φ	II	10	870	760	155	55	1230	1230	②	4.11	676
	III	13	880	750	183	65	1244	1244	②	7.35	685
	IV	16	900	740	226	80	1272	1272	③	11.94	700
	IV-3R	16	900	806	292	80	1432	1432	④	19.05	780

7. 施工要領例

(1) 型枠上に開口の位置と開口径等を墨出しする。

(2) 補強設計に必要な孔際あばら筋と一般部あばら筋を配筋する。孔際あばら筋は孔際から50mmの位置にセットし、2組目、3組目等はそれぞれ50mmピッチで配筋する。孔際あばら筋と一般部あばら筋の間隔は設計ピッチ以下とする。

(3) ダイアレNSを左右の孔際あばら筋の間から挿入し、孔際あばら筋等に4ヶ所以上結束する。

(4) スリーブをダイアレNSのスリーブ受け筋にセットし、スリーブを針金等でダイアレNSに結束する。

(5) 孔際あばら筋を配筋するのが困難な場合は、1組目と2組目を束ね配筋にすることが出来る。
(束ね筋は1組目と2組目を束ねることが出来るがそれ以上は束ねてはならない。)

(6) ダイアレNSのコンクリート被り厚、スリーブとダイアレNS内リングとの被り厚を適正に確保する。

8. 施工における注意事項

(1) 補強設計によってダイアレNSが3枚以上になった場合で中子筋が無い場合は下図のように保持鉄筋等に結束する。

(2) ダイアレNSはあばら筋に対して斜め45度の傾きをもって必要な耐力が期待できるため、下図の様に行うこと。

9. 開口芯のヘリあき

各ダイアレNSを使用した場合のコンクリート面より孔芯までのヘリあき寸法(H。)を左表に示す。
(設計被り厚さ40mm、あばら筋径を16mmと仮定した数値)

$$H1 = E1 / 2 + \text{鉄筋径} / 2$$
$$H。 = \text{設計被り厚さ} + \text{あばら筋径} + H1$$

コーリョー建販株式会社

〒113-0021 東京都文京区本駒込 1-4-3
TEL 03-6902-5451(代) FAX 03-6902-5453
http://www.koryo-kenpan.co.jp
E-Mail: info@koryo-kenpan.co.jp

仙台 〒984-0816 仙台市若林区河原町 1-7-14
TEL 022-261-8985 FAX 022-265-1263

名古屋 〒460-0002 名古屋市中区丸の内 2-3-23
TEL 052-228-7061 FAX 052-228-7062

大阪 〒550-0002 大阪市西区江戸堀 3-7-8
TEL 06-6444-7751 FAX 06-6444-7753

広島 〒730-0052 広島市中区千田町 3-9-6
TEL 082-246-7235 FAX 082-246-7245

九州 〒812-0014 福岡市博多区博多駅南 3-1-1
TEL 092-452-8020 FAX 092-452-8021



コーリョー建販株式会社

〒113-0021 東京都文京区本駒込 1-4-3

TEL 03-6902-5451(代) FAX 03-6902-5453

http://www.koryo-kenpan.co.jp

E-Mail: info@koryo-kenpan.co.jp

仙台 〒984-0816 仙台市若林区河原町 1-7-14
TEL 022-261-8985 FAX 022-265-1263

名古屋 〒460-0002 名古屋市中区丸の内 2-3-23
TEL 052-228-7061 FAX 052-228-7062

大阪 〒550-0002 大阪市西区江戸堀 3-7-8
TEL 06-6444-7751 FAX 06-6444-7753

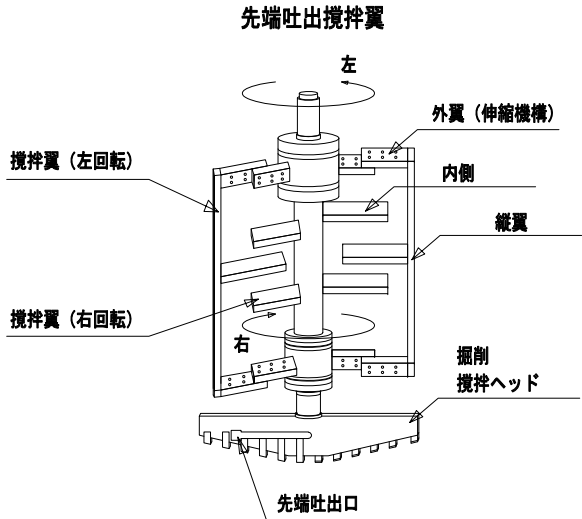
広島 〒730-0052 広島市中区千田町 3-9-6
TEL 082-246-7235 FAX 082-246-7245

九州 〒812-0014 福岡市博多区博多駅南 3-1-1
TEL 092-452-8020 FAX 092-452-8021

セメント系深層混合処理工法 特記仕様書

1. 工事概要

本地業は、セメント系深層混合処理工法による地盤改良地業であり、その工法概要はスラリー状のセメント系固化材を地盤に注入しながら、「共廻り」「つれ廻り」を防止し、羽根きり作用と強制的な練り混み作用を持つ機械式相対攪はん機構を装備した攪はん装置を用いて、原地盤土と機械的に混合攪はんし、固化材の化学反応により所要の強度を持つ改良柱体を築造する物である。



2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか 2018年版「改訂版建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針(2018年11月30日・日本築センター著 以下指針という) による。

3. 特記事項

- (1) コラムの径、掘削深度(改良長+空堀長)、配置、本数は設計図による。但し、コラム径・長さ・本数・位置及び固化材液の配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切だと判断される場合は、監督員の承認の上変更できる。
- (2) 設計基準強度 設計図に示す
- (3) 施工法は、設計時に想定する変動係数が2.5%以下であることが証明できる工法とする。
- (4) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理、施工管理および品質検査を実施する
- (5) 工法の選定においては「共廻り」「つれ廻り」の防止機能を有した機械式相対攪はん機構を装備した攪はん装置とする。又、土質により引抜き時にスラリー注入を行う場合を想定し、スラリーを確実に攪はん装置内に吐出できる機構を有する攪はん装置とする。
- (6) 施工業者の選定は、本工法の施工技術に精通したもので、施工管理が十分に行える業者とする。
- (7) 品質検査方法は、改良体のばらつきが把握されているため、検査手法Aを適用する。

4. 施工計画

- (1) 本工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したものとし、責任施工とする。
- (2) 工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

- | | |
|----------------------------------|-------------------|
| ① 地盤概要 | ⑧ 施工管理の方法 |
| ② 工事内容(コラム径・改良長・空堀長・コラム数・設計基準強度) | ⑨ 品質検査の方法 |
| ③ 工事時期及び工程 | ⑩ 各種作業の主たる従事者の組織表 |
| ④ 工事要領(使用固化材・配合・攪はん翼の昇降速度・吐出量等) | ⑪ 施工記録の方法 |
| ⑤ 施工機器および仮設設備と配置 | ⑫ 安全対策 |
| ⑥ 品質確認書(変動係数の証明できるもの) | ⑬ 総合請負業者の本工事責任者名 |
| ⑦ 配合管理の方法 | ⑭ 本工事施工業者名及び責任者名 |

5. 施工

- (1) 作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒等しないよう養生する。
- (2) 処理機・プラント設備の組立が完了した時点において、施工機械、プラントのキャリブレーションを監督員の立会いの上、実施する。
※ キャリブレーションの内容は以下の項目とする。

① 攪はんロッド全長の確認	④ 深度計の確認	⑦ 流量計の確認
② 攪はん翼径・攪はんヘッド径の確認	⑤ 掘進・引抜速度計の確認	⑧ スラリー比重の確認
③ 回転計の確認	⑥ プラント計量器の確認	⑨ 改良機の鉛直度の確認
- (3) 本施工の前に監督員立ち会いのもつでボーリングゲーター等の地盤の状況が把握できる地点の近くで試験施工を行い、所定の下部地盤に到達した時に次の事項を確認し管理指標値を決定する。

① 深さ	② オーガーの負荷(電流値)	③ 貫入速度の変化
------	----------------	-----------
- (4) 基本的な施工手順を以下に示す。また、施工の障害になる事項が判明した場合は別途検討する。

① 攪はん装置をコラム芯にセットする。
② 所定の空堀深度まで掘削する。
③ スラリーを吐出しながら混合攪拌する。
④ 所定深度に到達したら、スラリー吐出を停止し、先端処理を行う。
⑤ 攪はん装置を回転させながら引き上げる。
⑥ 本工事により排出される発生残土は場内処分または場外処分とする。
⑦ 施工に対して擬義が生じた場合は、ただちに監督員と協議し、その指示を受ける。

6. 施工機器

- (1) 固化材と原位置土を一体のものとして確実に混合覚はんでき、「共廻り」「つれ廻り」現象を防止する相対攪はん機構を装備した攪はん装置を用いること。
- (2) 所定の施工管理項目を計測、記録できるシステム管理計(デジタル・アナログの併用ができる)を用いること。
- (3) 改良機本体は本地業の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。
- (4) ミキシングプラントは所定吐出量を十分供給できるものとする。

7. 配合管理

- (1) 固化材液に使用する固化材は、セメント系固化材とする。
- (2) 配合強度
配合管理目標変動係数を想定し、「9、品質管理」に規定する抜き取り個所数Nから表-1を用いて αt を求め、配合強度 $X f$ を設定する。
 $X f = F c \cdot \alpha t$ ($X f$: 配合強度, $F c$: 設計基準強度, αt : 割り増し係数)

表-1 割り増し係数(L(p)=9.5%, Vd=2.5%の場合)

配合管理目標変動係数(Vc)	N	1	2	3	4~6	7~8	9~
2.5%	αt	2.900	2.301	2.090	1.907	1.799	1.718
3.0%		3.374	2.507	2.230	1.998	1.868	1.774
3.5%		4.302	2.754	2.389	2.097	1.943	1.835

- (3) 室内配合試験
固化材液の配合(W/C)と使用量(添加量)は、室内配合試験の結果に基づいて現場強度比をを考慮して、配合強度を満足するように決定する。

8. 施工管理

- (1) 施工の安定性を確保するために下記に示す項目について施工管理をする。

① 形状・寸法	・鉛直性	: 改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する。
	・コラム芯	: 事前にコラム芯にマークを設ける。
	・掘削深度	: 深度計で計測し記録する。
	・改良径	: 攪はん装置の形状・寸法を記録する。
② 固化材	・材料計量	: 水・固化材の重量を計量し記録する。
	・スラリー比重	: 比重計(マッドバランス等)で計測する。
	・スラリー吐出量	: 流量計で計測し記録する。
③ 攪はん混合度	・掘進、引抜き速度	: 速度計で計測し記録する。
	・攪はん装置	: 掘進翼、攪はん翼の形状・枚数、回転方向等を確認する。
④ 支持地盤	・掘進速度、オーガー電流値、電流値、電流計を参考に管理する。	
- ⑤ 改良天端処理
・コラム頭部の位置を所定の仕上がり高さにするために、施工後適切な時期にバックホー等でコラム頭部を削り取って天端処理を行う。ただし、深基礎等は、現場状況により改良天端処理が不可能な場合は、根切り掘削時に改良体を損傷ないようにコラム頭部を削り撮ること。
- ⑥ 施工の立会い
・総合工事の請負者は、本地業責任者(請負業者の中から選定)及び施工責任者を定め、両者は、本地業の施工中は立会うものとする。

9. 品質検査

- (1) 検査対象群、検査対象層および調査ヶ所数

① 検査対象群は概ね300本を1単位とし、層厚1.0m以上の土層毎に検査対象層を決める。
② 検査対象層は、粘性土と砂質土であり、設計対象層を粘性土とする。 設計対象層の平均強度は他の検査対象層の平均を越えないこと。越える場合は最も低い平均強度の層を設計対象層とする。
③ 調査ヶ所数 全長コアボーリング; 4ヶ所(3深度) 頭部コア : 4ヶ所
- (2) コア採取率
1検査対象群に1ヶ所の割合で、コア採取率を調査する。
コア採取率が、全長に対して粘性土で90%、砂質土で95%、深さ1m毎に、粘性土で85%、砂質土で90%以上であることを確認する。
- (3) 合格判定(検査手法A)

① 一軸圧縮試験は公的機関あるいは検査員立ち会いの下に行うものとする。
② 可否の判定は設計対象層におけるNヶ所(抜取ヶ所数)の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格と判定する。 $X N \geq X L = F c + K a \cdot \sigma = F c + K a \{ V d \times F c / (1 - 1.3 V d) \}$ $X N$: Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値($k N / m^2$) $X L$: 合格判定値($k N / m^2$) $F c$: 設計基準強度($k N / m^2$) $K a$: 合格判定係数 σ : 標準偏差($k N / m^2$) $= V \cdot q u d$ $V d$: 変動係数(2.5%とする)

抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4~6	7~8	9以上
合格判定係数 K a	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

10. 報告

施工完了後、次の事項について報告書をまとめ、監督員に提出する。

- | | | | |
|-------------|--------------|---------------|----------|
| ① コラム伏図及び番号 | ③ コラム径及び掘削深度 | ⑤ 固化材液の配合と使用量 | ⑦ 合格判定結果 |
| ② コラム施工日 | ④ 掘削及び引き上げ速度 | ⑥ コア強度管理試験結果 | |

11. その他

施工に当たっては、セメント系固化材等からの六価クロムの溶出試験を実施し、環境庁告示第46号の基準値を満足するよう必要な措置を講じること。また、試験方法、試験個数とうに関しては、平成12年3月24日付建設省技調発第48号審議官通達「セメント系及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要綱(案)による。
六価クロム溶出試験 : 1検体(粘性土)

project 図書館等複合施設新築(建築主体)工事	akihisa hirata architecture office 一級建築士第339532号 杉山征利 一級建築士事務所 東京都知事登録第 57148号	株式会社平田晃久建築設計事務所 106-0031 東京都港区西麻布2-9-13F西麻布ビル 2-9-13 nishi-azabu minatoku tokyo 106-0031 tel 03-3409-1455 fax 03-3409-1458	オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録 第 35571 号 構造 一級建築士 第339507号 構造一級建築士 第9408号 伊藤 潤一郎	date R04.06.30	scale	subject 深層混合処理工法特記仕様書	S-16
-------------------------------	--	---	--	-------------------	-------	--------------------------	------

ボイドスラブ設計・施工標準図－2【ダイサンダイヤモンド】

アンカー・スパーサーの取付け方

1

2

3

アンカーの取付け ①②③
↓
下端筋の配筋 ④
↓
スパーサーの取付け ⑤
↓
上端筋の配筋 ⑥
↓
コンクリート打設後、
パラシュートの取外し ⑦

4

5

6

7

アンカー取付け調整後、下端筋の配筋をする。

下端筋の配筋終了後、上端筋用スパーサーを取り付ける

スパーサー取付け後、上端筋の配筋をする

アンカー先端の六角ボルトを回しながらパラシュートを取り外す

アンカーを、縦・横900間隔に開けられた13.5φまたは、16φの穴に押込む

押し込んだ後、少し引上げながら回し閉込む

締付け後、グリッドラインに直角になる様に方向を調整する

配筋パターン

グリッドライン

主筋方向スラブ鉄筋

配筋方向スラブ鉄筋

長辺方向

グリッドライン

主筋方向スラブ鉄筋

配筋方向スラブ鉄筋

短辺方向

ボイドスラブ施工要領図

一般部

【 X方向 】

450

トップスパーサー

ダイヤモンド

巾止メ筋

型枠

アンカー部材
パラシュート

アンカー部材
曲止金具

【 Y方向 】

450

トップスパーサー

アンカー部材
パラシュート

アンカー部材
曲止金具

鉄筋被り

【 巾止メ筋加工寸法 】

8d

h(内寸)

D10

※掛け施工(鉄筋工事)

サイズ	スラブ厚	巾止メ(h)
◆ XO	350	265
	400	315

※巾止メ筋は、ダイヤモンド設置後曲げ込みを行う。

ボイドスラブ版厚違いでの戸境部主筋納まり要領(大梁有)

SL

D51

主筋

配力筋

D52

h

下端筋を引き通す場合は、1/6以下の勾配でベンドする事。

上端筋片側のみトップ補強がある場合トップ筋は梁内定着とする。

アルコープ段差配筋要領

L1

居室部スラブ配筋

1/6以下の勾配で折曲げる

L2

居室部ダイヤモンド

ダイヤモンドカット

上端筋は下端筋上端にてカット

L3

ボイドスラブと段差スラブの戸境部定着要領

SL

D

D

h

段差部スラブ配筋

※ 戸境部に欠損スラブがある場合は壁内定着とする
(ボイド筋のみかぶり確保できれば引通し可能)

ボイドスラブ版厚違いでの戸境部主筋納まり要領

SL

D51

主筋

勾配は1/6以下とし折曲げる

かぶりを確保する

配力筋

D52

h

※ 曲げ込みができない場合は版厚が大きいほうの下端筋は壁内定着とする

壁周辺部定着要領

SL

D

L2

スペーサー

ダイヤモンドカット

アンカー

※ 壁配筋とダイヤモンドが干渉する箇所はダイヤモンドカット

段差部補強配筋要領

1. 出隅部

a. 水平定着(ダイヤモンドカット) 【 上端筋 】

b. Z型定着 【 下端筋 】

c. 梁内定着 【 上端筋・下端筋 】

L2

L2

L2

段差梁補強筋(上端筋)
水平定着

※スターラップが無い場合
L2(上端筋)
L2(下端筋)

段差梁補強筋(下端筋)
Z型定着

※スターラップがある場合
L2(上端筋)
L2(下端筋)

A断面

	上端筋	下端筋
ケース1	a. 水平定着	b. Z型定着
ケース2	a. 水平定着	c. 梁内定着
ケース3	c. 梁内定着	c. 梁内定着

2. 入隅部

d. 梁内定着 【 上端筋・下端筋 】

e. Z型定着 【 上端筋 】

f. 水平定着 【 下端筋 】

L2

L2

L2

下端に折曲げ

上端に折曲げ

段差梁補強筋(上端筋)
Z型定着

※スターラップがある場合
L2(上端筋)

段差梁補強筋(下端筋)
水平定着

※スターラップが無い場合
L2(上端筋)
L2(下端筋)

I断面

	上端筋	下端筋
ケース1	d. 梁内定着	f. 水平定着
ケース2	e. Z型定着	f. 水平定着
ケース3	d. 梁内定着	d. 梁内定着

ボイドスラブ周辺大梁振れ補強要領

B

D

BxD

大梁リスト参照

L2

補強筋(腹筋兼用)

補強筋(腹筋兼用)

※設計図中に特記がある場合は、鉄筋量の多いほうを優先するものとする。

project

図書館等複合施設新築(建築主体)工事

akihisa hirata architecture office

一級建築士第339532号 杉山征利
一級建築士事務所 東京都知事登録第 57148号

株式会社平田晃久建築設計事務所
106-0031 東京都港区西麻布2-8-13F西麻布ビル
2-8-13 nishi-azabu minatoku tokyo 106-0031
tel 03-3409-1455 fax 03-3409-1458

オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド
一級建築士事務所 東京都知事登録 第 35571 号
構造 一級建築士 第339507号
構造一級建築士 第9408号 伊藤 潤一郎

date

R04.06.30

scale

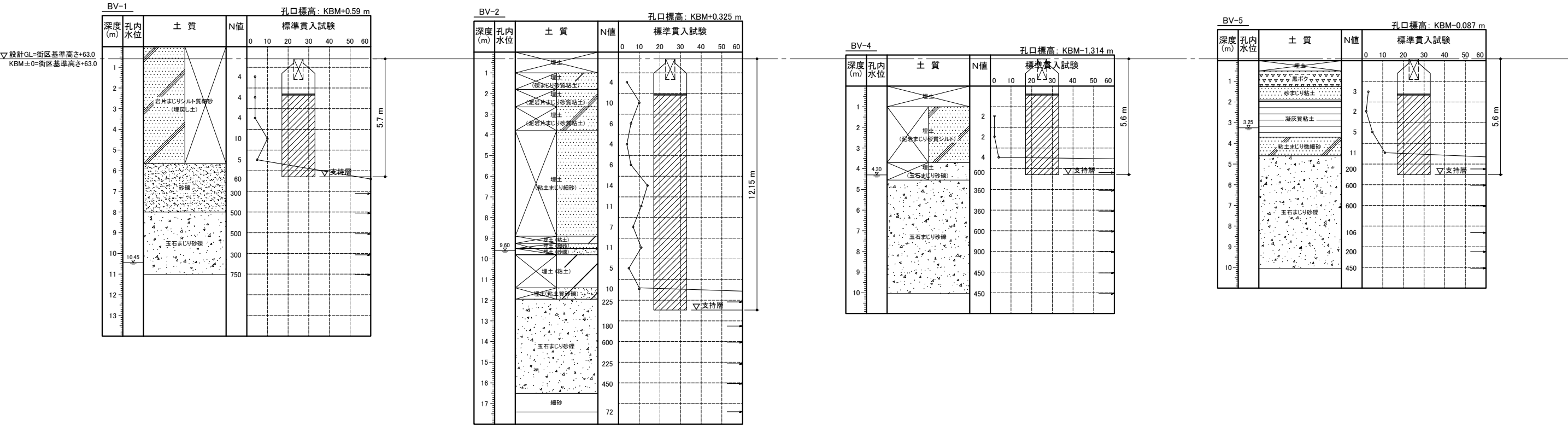
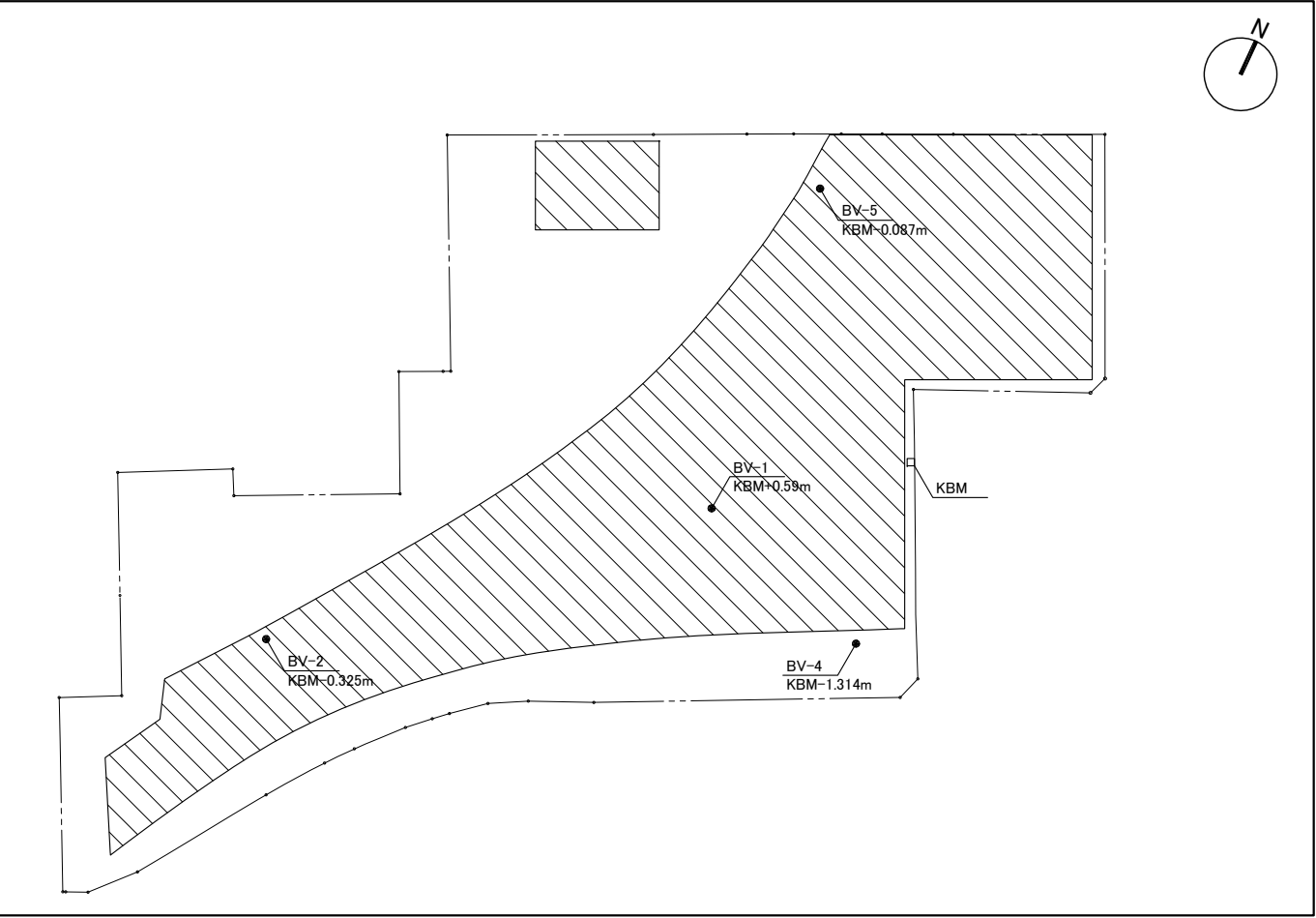
subject

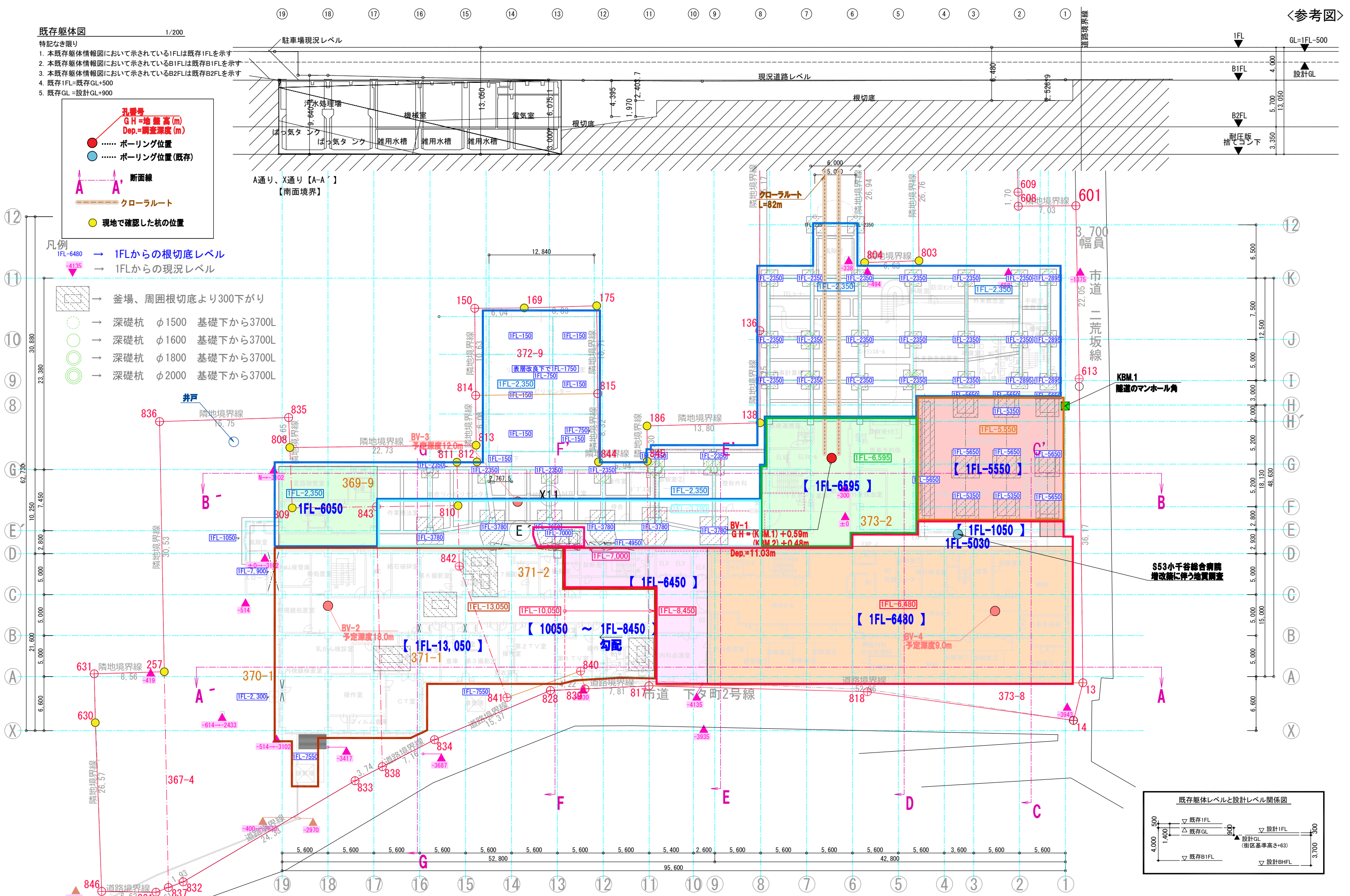
ボイドスラブ設計・施工標準図-2

S-18

ボーリング柱状図

調査位置平面図





既存躯体図

1/200

特記なき限り

1. 本既存躯体情報図において示されている1FLは既存1FLを示す

2. 本既存躯体情報図において示されているB1FLは既存B1FLを示す

3. 本既存躯体情報図において示されているB2FLは既存B2FLを示す

4. 既存1FL=既存GL+500

5. 既存GL=設計GL+900

● GH=地盤高(m)
Dep.=調査深度(m)

● ボーリング位置

● ボーリング位置(既存)

断面線

クロールルート

● 現地で確認した杭の位置

凡例

1FL-6480 → 1FLからの根切底レベル

-4135 → 1FLからの現況レベル

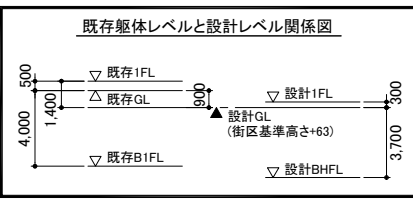
釜場、周囲根切底より300下がり

深礎杭 φ1500 基礎下から3700L

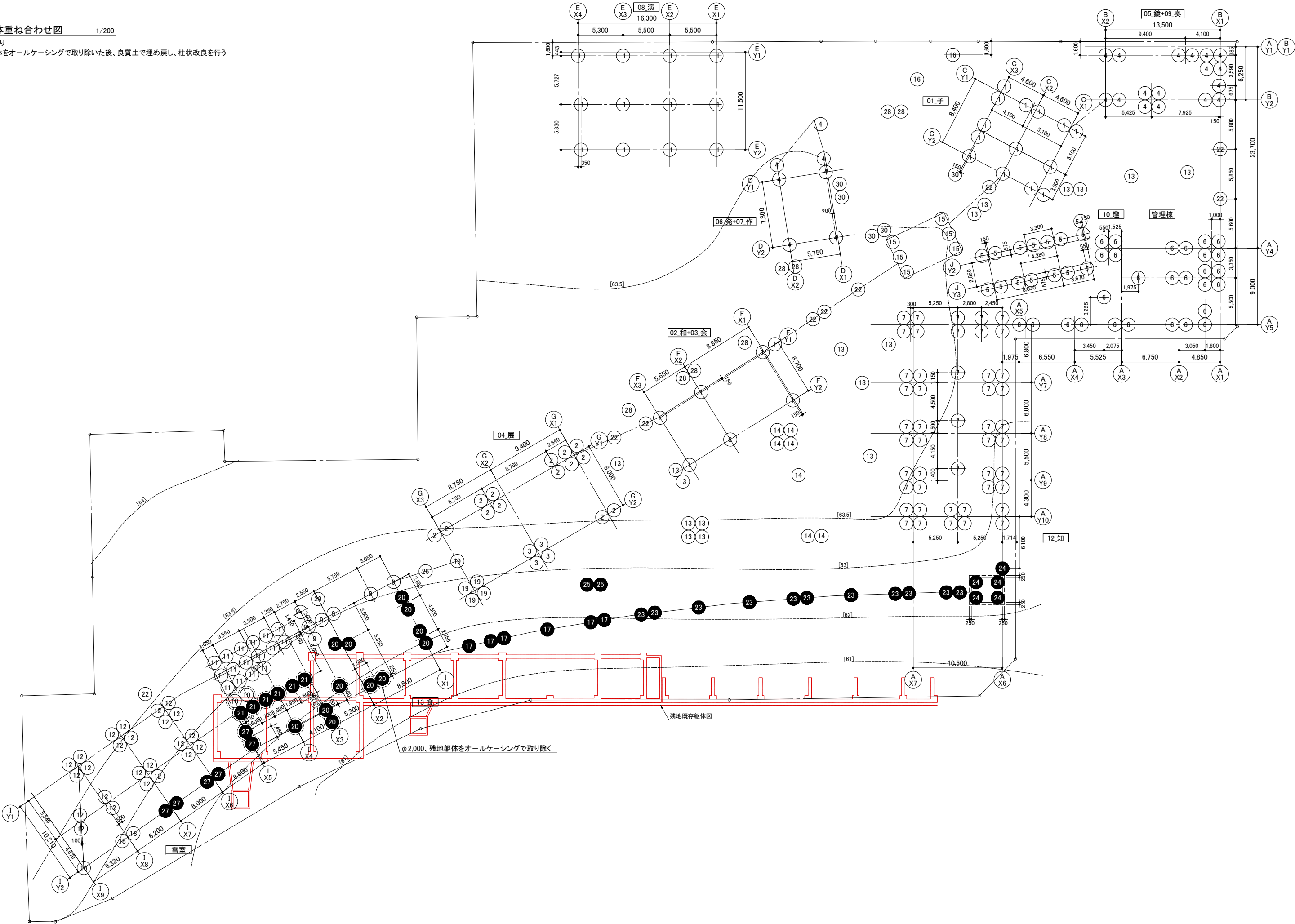
深礎杭 φ1600 基礎下から3700L

深礎杭 φ1800 基礎下から3700L

深礎杭 φ2000 基礎下から3700L



特記なき限り
1. 既存躯体をオールケーシングで取り除いた後、良質土で埋め戻し、柱状改良を行う



project	akihisa hirata architecture office	株式会社平田晃久建築設計事務所 106-0031 東京都港区西麻布2-8-13F西麻布ビル 2-8-13 nishi-azabu minatoku tokyo 106-0031 tel 03-3409-1455 fax 03-3409-1458	オープ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録 第 35571 号 構造 一級建築士 第339507号 構造一級建築士 第9408号 伊藤 潤一郎	date	R04.06.30	scale	1/200	subject	既存躯体重ね合わせ図	S-21
図書館等複合施設新築(建築主体)工事	一級建築士第339532号 杉山征利 一級建築士事務所 東京都知事登録第 57148号									

- 特記なき限り
- 地盤改良下端レベル 設計GL-5,600
()内数値は、設計GLからの地盤改良下端レベルを示す
 - []内数値は、街区基準高さを示す
 - 地盤改良工事より先に浅層改良工事を行うこととする。
 - 想定施工地盤レベル 設計GL±0(基準街区高さ63)
 - 地盤改良施工時における想定現状地盤レベルを
街区基準高さ+62.0(設計GL-1.0m)とする地盤改良体を
●(黒丸・白文字)で示す

改良コラム数量表

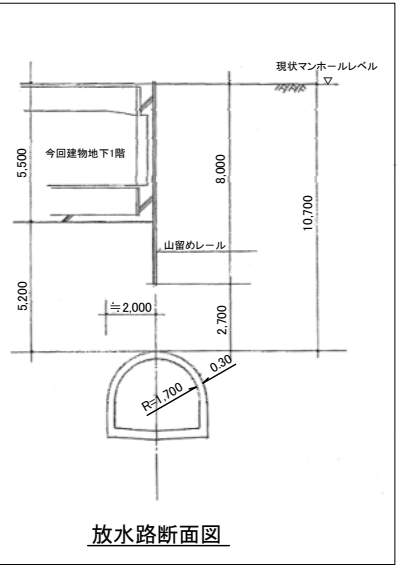
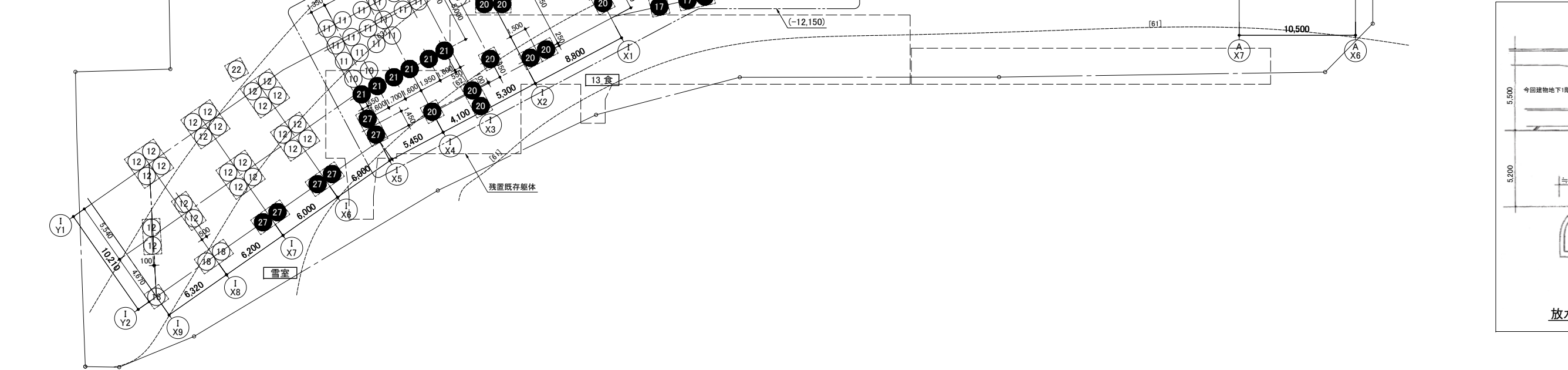
記 号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
改良体径	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm
設計基準強度	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²
採掘長	5.60 m	5.60 m	6.10 m	5.60 m	5.60 m	5.60 m	5.60 m	5.70 m	12.15 m	12.15 m
空堀長	1.85 m	2.10 m	2.10 m	1.55 m	2.70 m	1.50 m	2.25 m	1.85 m	2.05 m	4.25 m
設計コラム長	3.75 m	3.50 m	4.00 m	4.05 m	2.90 m	4.10 m	3.35 m	3.85 m	10.1 m	7.90 m
本 数	32	14	4	24	15	28	47	1	7	2

記 号	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲
改良体径	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm
設計基準強度	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²
採掘長	12.15 m	5.60 m	5.60 m	5.70 m	5.60 m	5.60 m	11.15 m	5.60 m	12.15 m
空堀長	5.65 m	4.90 m	1.35 m	1.35 m	1.25 m	0.85 m	3.45 m	3.35 m	2.10 m
設計コラム長	6.50 m	0.70 m	4.25 m	4.35 m	4.35 m	4.75 m	7.70 m	2.25 m	10.05 m
本 数	16	24	17	7	6	2	6	3	5

記 号	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘
改良体径	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm	φ 1,600 mm
設計基準強度	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²	1,400 kN/m ²
採掘長	11.15 m	11.15 m	5.60 m	4.60 m	4.60 m	4.60 m	12.15 m	11.15 m	5.60 m
空堀長	1.05 m	3.25 m	1.65 m	3.45 m	1.35 m	1.65 m	3.35 m	0.85 m	0.85 m
設計コラム長	10.10 m	7.90 m	3.95 m	1.15 m	1.15 m	3.25 m	10.5 m	7.80 m	4.75 m
本 数	12	6	9	11	5	2	1	6	8

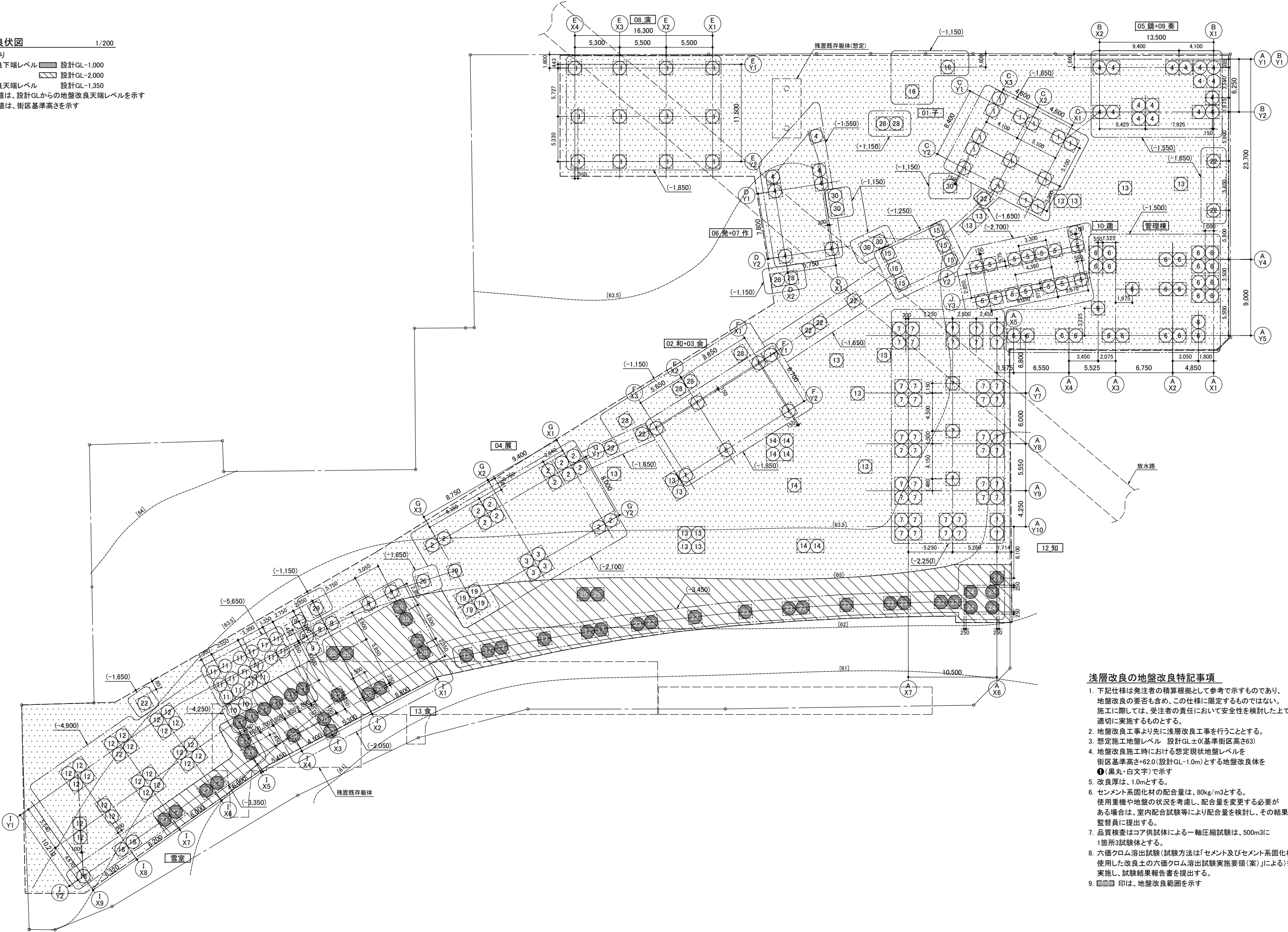
記 号	㉙
改良体径	φ 1,600 mm
設計基準強度	1,400 kN/m ²
採掘長	12.15 m
空堀長	0.85 m
設計コラム長	11.30 m
本 数	1

記 号	㉚
改良体径	φ 1,600 mm
設計基準強度	1,400 kN/m ²
採掘長	5.60 m
空堀長	0.85 m
設計コラム長	4.75 m
本 数	5









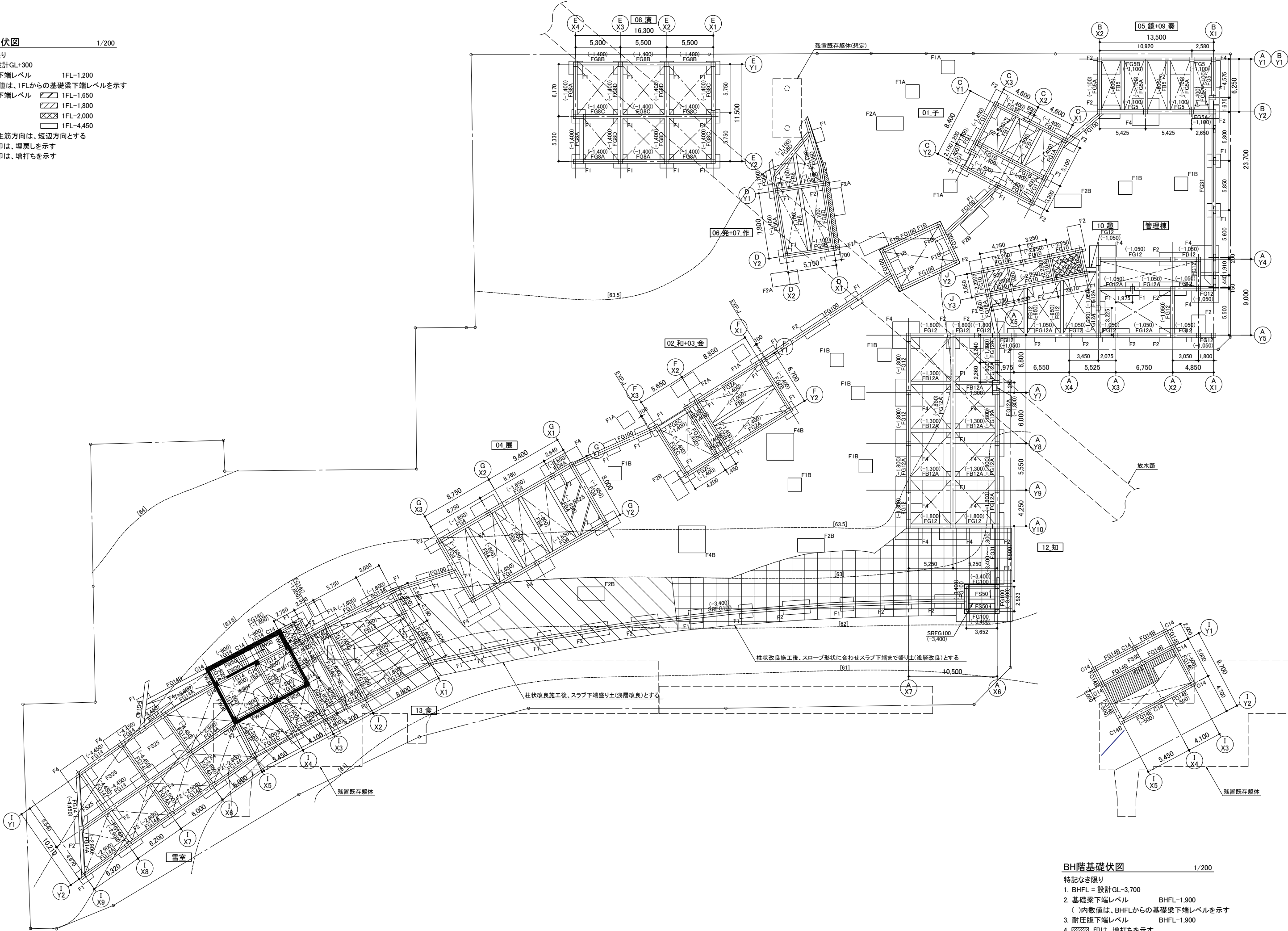
浅層改良伏図 1/200

- 特記なき限り
1. 浅層改良下端レベル 設計GL-1,000
設計GL-2,000
2. 地盤改良天端レベル 設計GL-1,350
()内数値は、設計GLからの地盤改良天端レベルを示す
3. []内数値は、街区基準高さを示す




1階基礎伏図 1/200

- 特記なき限り
1. 1FL = 設計GL+300
2. 基礎梁下端レベル 1FL-1,200
()内数値は、1FLからの基礎梁下端レベルを示す
3. 耐圧版下端レベル  1FL-1,650
 1FL-1,800
 1FL-2,000
 1FL-4,450
4. 耐圧版主筋方向は、短辺方向とする
5.  印は、埋戻しを示す
6.  印は、増打ちを示す

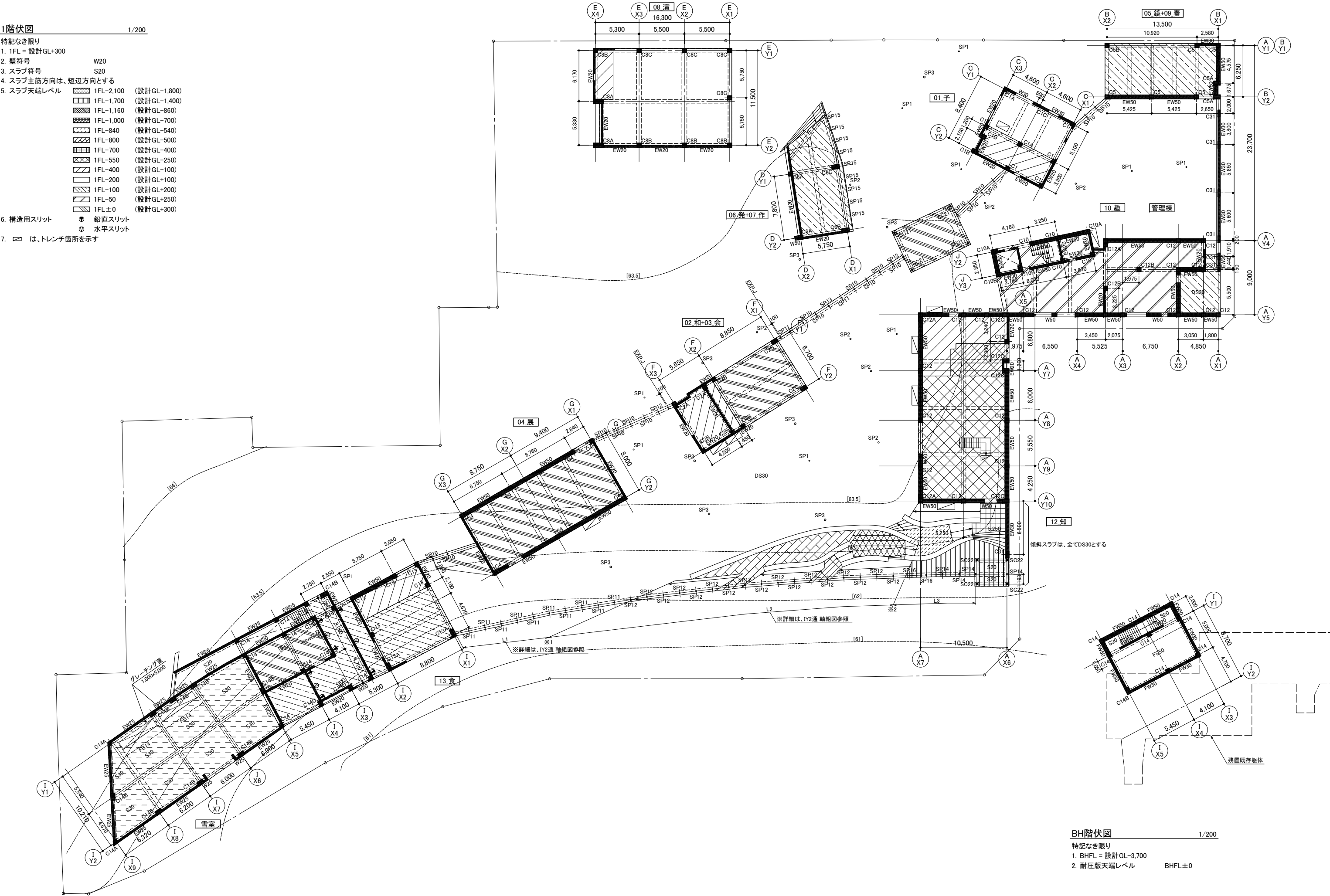


BH階基礎伏図 1/200

- 特記なき限り
1. BHFL = 設計GL-3,700
2. 基礎梁下端レベル BHFL-1,900
()内数値は、BHFLからの基礎梁下端レベルを示す
3. 耐圧版下端レベル BHFL-1,900
4.  印は、増打ちを示す

1階伏図 1/200

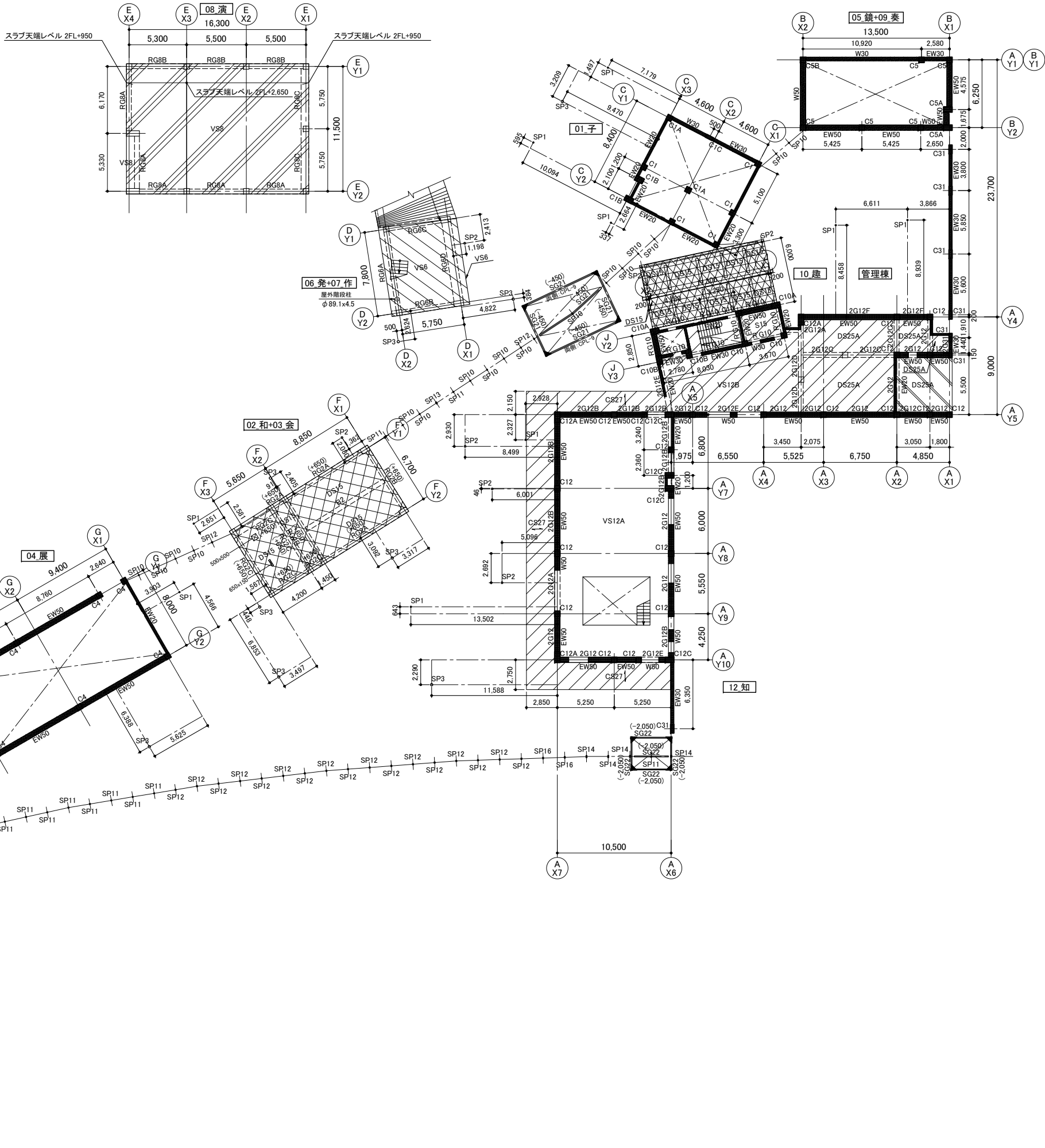
- 特記なき限り
1. 1FL = 設計GL+300
2. 壁符号 W20
3. スラブ符号 S20
4. スラブ主筋方向は、短辺方向とする
5. スラブ天端レベル
- 1FL-2,100 (設計GL-1,800)
 - 1FL-1,700 (設計GL-1,400)
 - 1FL-1,160 (設計GL-860)
 - 1FL-1,000 (設計GL-700)
 - 1FL-840 (設計GL-540)
 - 1FL-800 (設計GL-500)
 - 1FL-700 (設計GL-400)
 - 1FL-550 (設計GL-250)
 - 1FL-400 (設計GL-100)
 - 1FL-200 (設計GL+100)
 - 1FL-100 (設計GL+200)
 - 1FL-50 (設計GL+250)
 - 1FL±0 (設計GL+300)
6. 構造用スリット
- 鉛直スリット
 - 水平スリット
7. は、トレンチ箇所を示す



2階伏図 1/200

- 特記なき限り
- 2FL = 設計GL+3,450
 - 壁符号 W20
 - スラブ主筋方向は、短辺方向とする
 - スラブ天端レベル
 - 梁天端レベル
 - ()内数値は、2FLからの梁天端レベルを示す
 - 構造用スリット
 - 印は、剛接合を示す

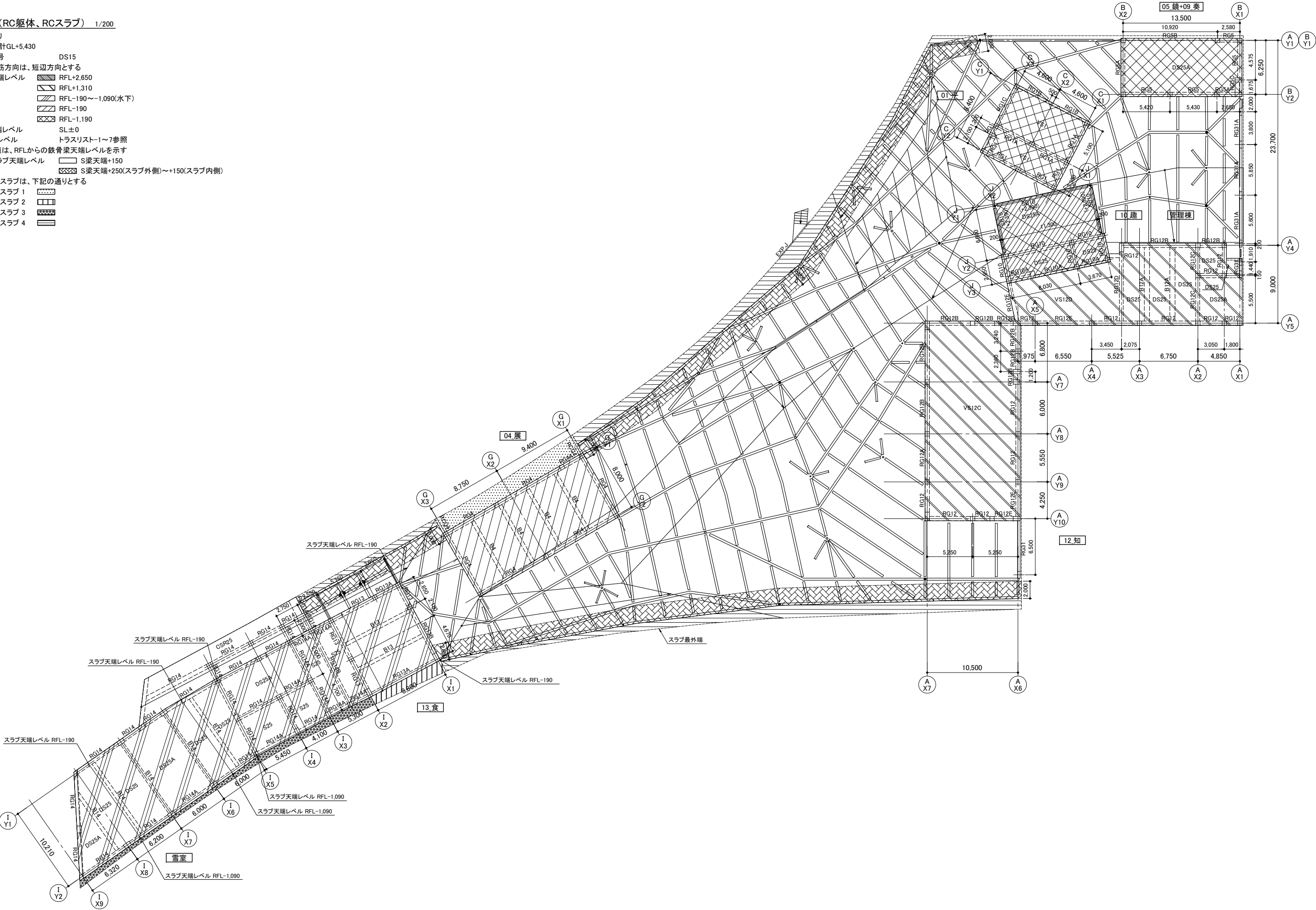
- 2FL+2,650～+950(水下)
- 2FL+790
- 2FL+150
- 2FL+500
- 2FL+990
- 2FL+250
- 2FL±0
- 2FL-50
- SL±0
- 鉛直スリット
- 水平スリット



project	akihisa hirata architecture office	株式会社平田晃久建築設計事務所 106-0031 東京都港区西麻布2-8-13F西麻布ビル 2-8-13 nishi-azabu minatoku tokyo 106-0031 tel 03-3409-1455 fax 03-3409-1458	オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録 第 35571 号 構造 一級建築士 第339507号 構造一級建築士 第9408号 伊藤 潤一郎	date	R04.06.30	scale	1/200	subject	2階伏図	S-26
図書館等複合施設新築(建築主体)工事		一級建築士 第339532号 杉山征利 一級建築士事務所 東京都知事登録第 57148号								

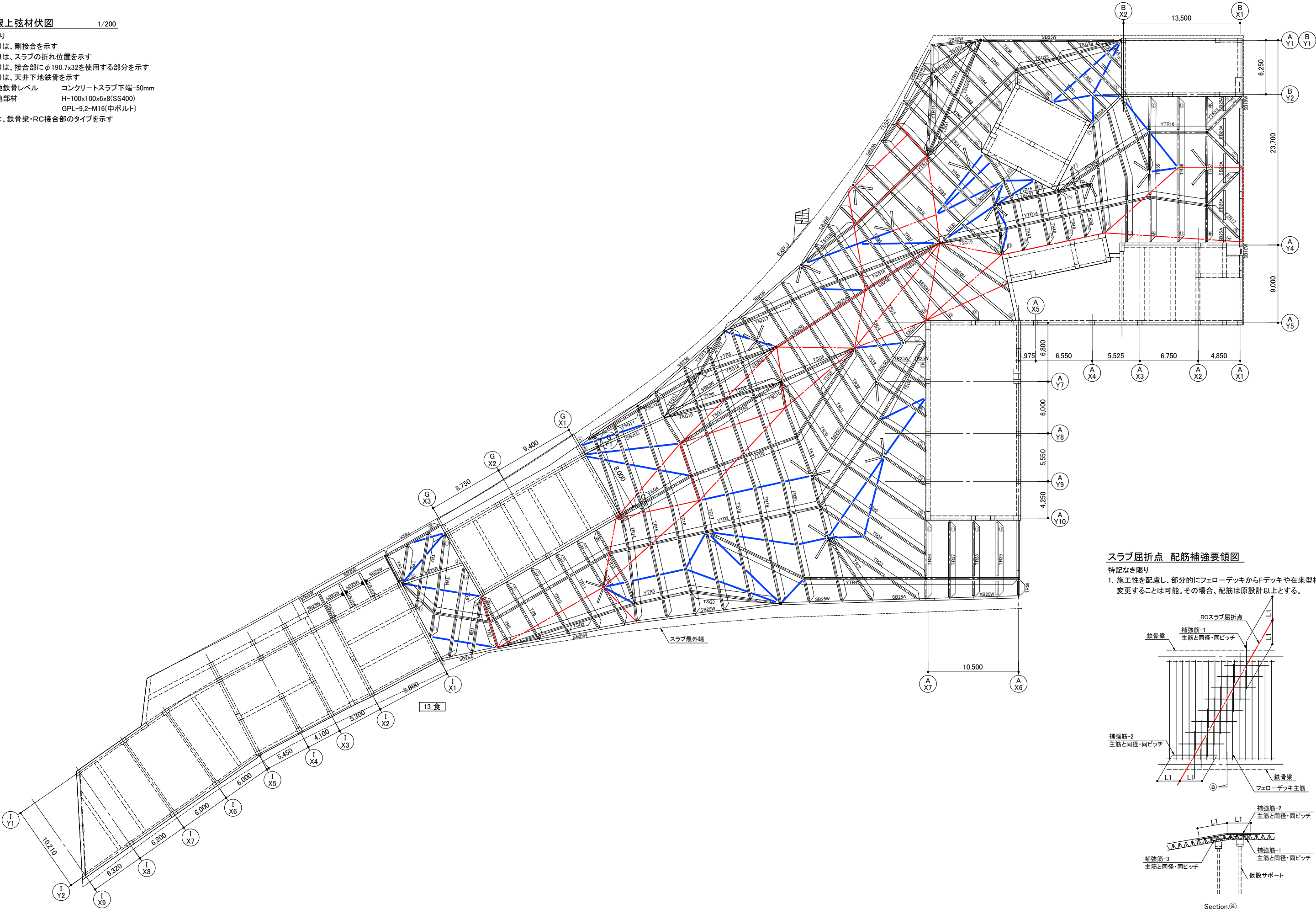
R階伏図 (RC躯体、RCスラブ) 1/200

- 特記なき限り
1. RFL = 設計GL+5,430
2. スラブ符号 DS15
3. スラブ主筋方向は、短辺方向とする
4. スラブ天端レベル
- RFL+2,650
 - RFL+1,310
 - RFL-190~-1,090(水下)
 - RFL-190
 - RFL-1,190
5. RC梁天端レベル SL±0
6. S梁天端レベル トラスリスト1~7参照
- ()内数値は、RFLからの鉄骨梁天端レベルを示す
7. S梁上スラブ天端レベル
- S梁天端+150
 - S梁天端+250(スラブ外側)~+150(スラブ内側)
8. 雪庇防止スラブは、下記の通りとする
- 雪庇防止スラブ 1
 - 雪庇防止スラブ 2
 - 雪庇防止スラブ 3
 - 雪庇防止スラブ 4



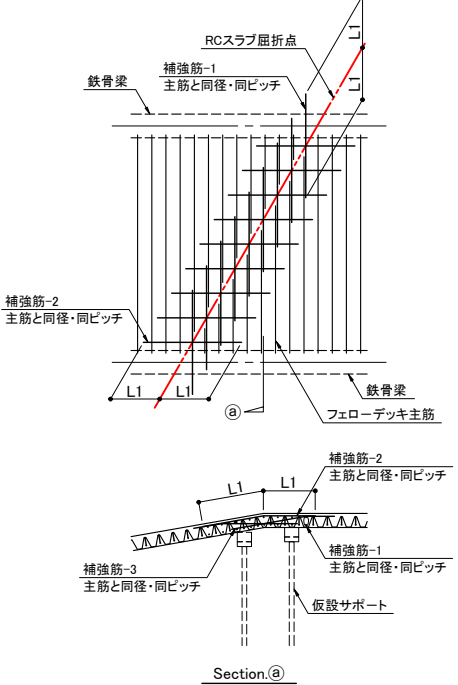
project	akihisa hirata architecture office			株式会社平田晃久建築設計事務所 106-0031 東京都港区西麻布2-8-13Fe西麻布ビル 2-8-13 nishi-azabu minatoku tokyo 106-0031 tel 03-3409-1455 fax 03-3409-1458	date	R04.06.30	scale	1/200	subject	R階伏図 (RC躯体、RCスラブ)	S-27
図書館等複合施設新築 (建築主体) 工事	一級建築士第 339532号 杉山 征利 一級建築士事務所 東京都知事登録第 57148号			オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録 第 35571 号 構造 一級建築士 第339507号 構造一級建築士 第9408号 伊藤 潤一郎							

- 特記なき限り
- 印は、剛接合を示す
 - 線は、スラブの折れ位置を示す
 - 印は、接合部にφ190.7x32を使用する部分を示す
 - 印は、天井地下鉄骨を示す
- 天井地下鉄骨レベル コンクリートスラブ下端-50mm
天井地下部材 H-100x100x6x8(SS400)
 GPL-9.2-M16(中ボルト)
- は、鉄骨梁・RC接合部のタイプを示す



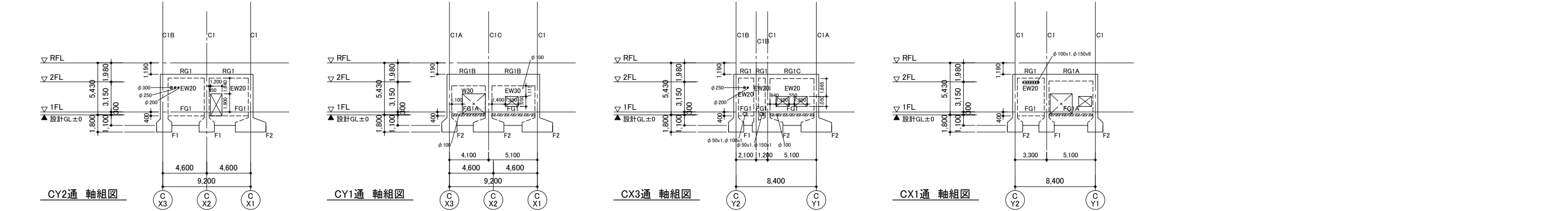
スラブ屈折点 配筋補強要領図

- 特記なき限り
- 施工性を配慮し、部分的にフェローデッキからFデッキや在来型枠に変更することは可能。その場合、配筋は原設計以上とする。

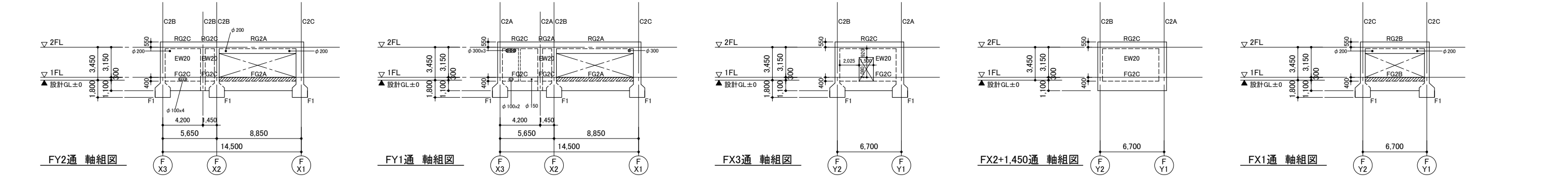


project	図書館等複合施設新築(建築主体)工事	akihisa hirata architecture office 一級建築士第339532号 杉山征利 一級建築士事務所 東京都知事登録第 57148号	株式会社平田晃久建築設計事務所 106-0031 東京都港区西麻布2-8-13F西麻布ビル 2-8-13 nishi-azabu minatoku tokyo 106-0031 tel 03-3409-1455 fax 03-3409-1458	オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録 第 35571 号 構造 一級建築士 第339507号 構造一級建築士 第9408号 伊藤 潤一郎	date	R04.06.30	scale	1/200	subject	鉄骨屋根上弦材伏図	S-29
---------	--------------------	--	---	--	------	-----------	-------	-------	---------	-----------	------

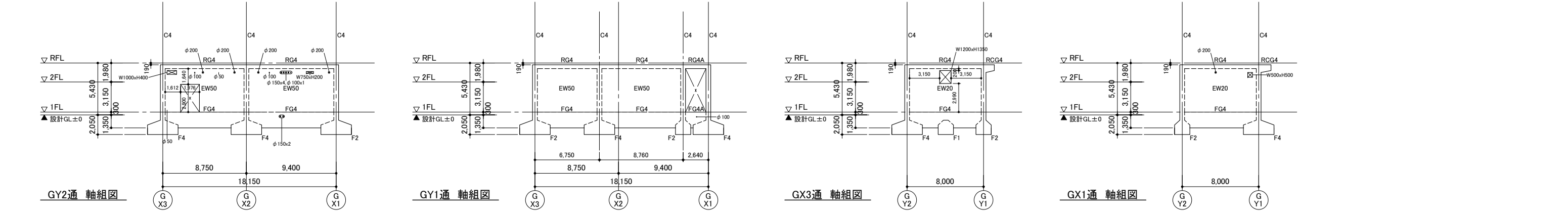
01.子



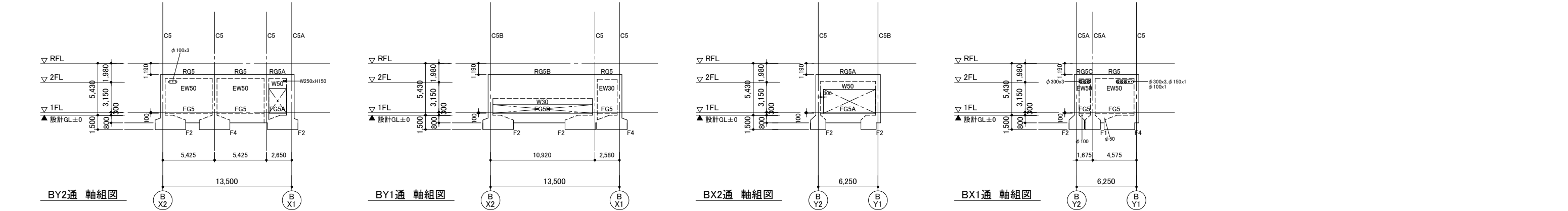
02.和+03.会



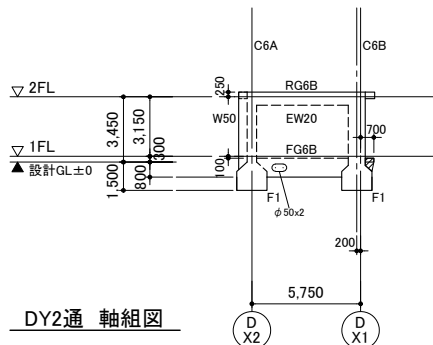
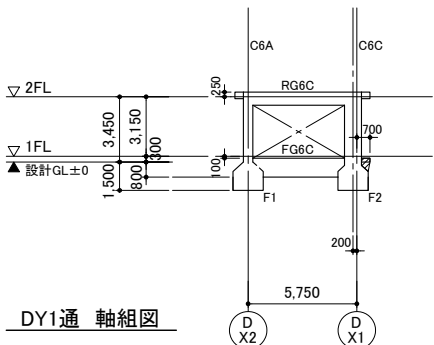
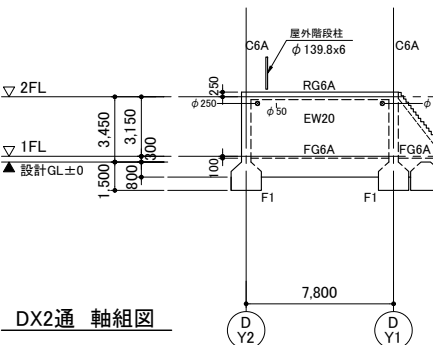
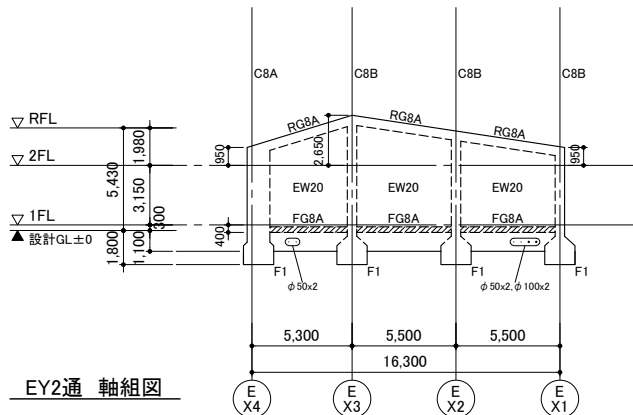
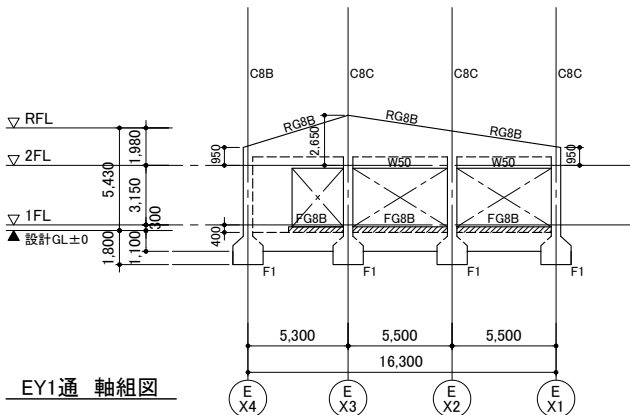
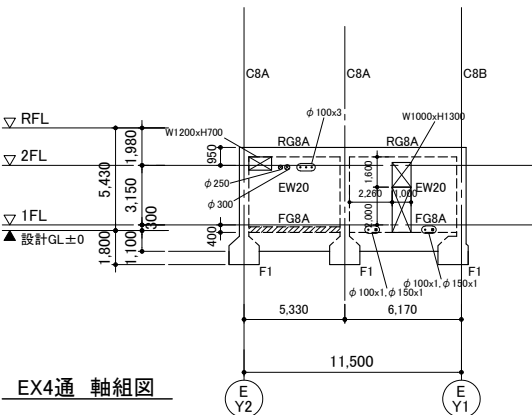
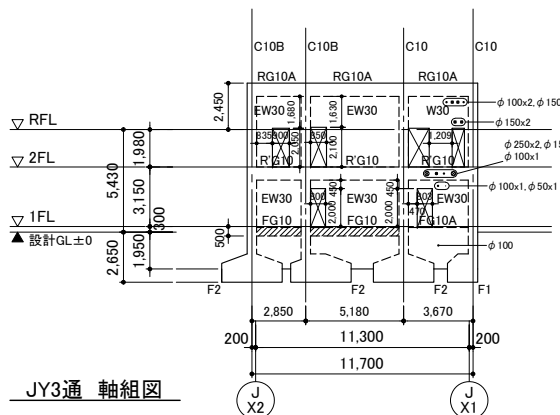
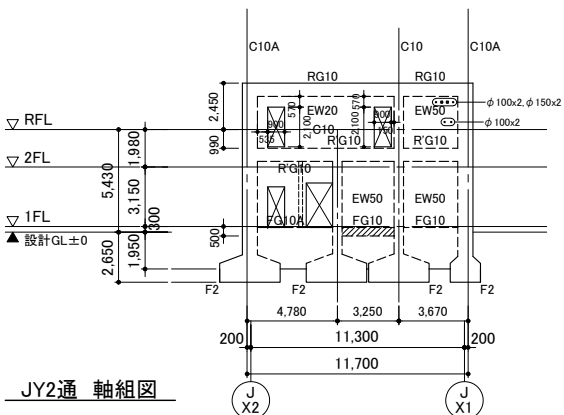
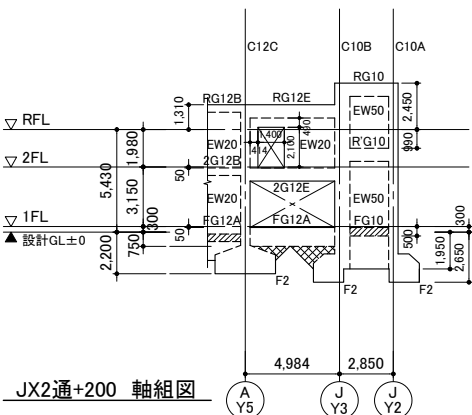
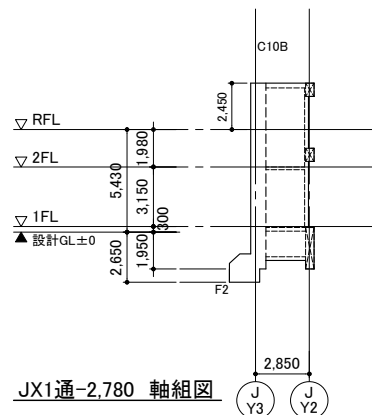
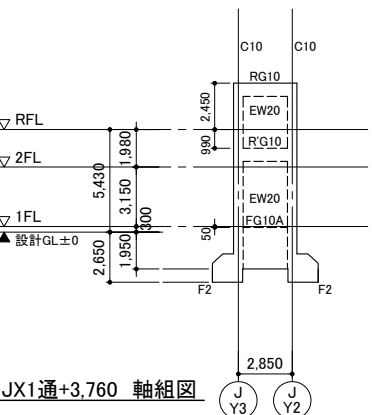
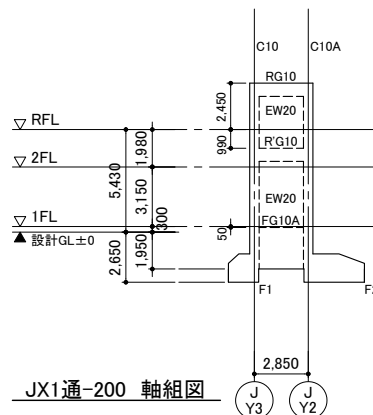


04.展



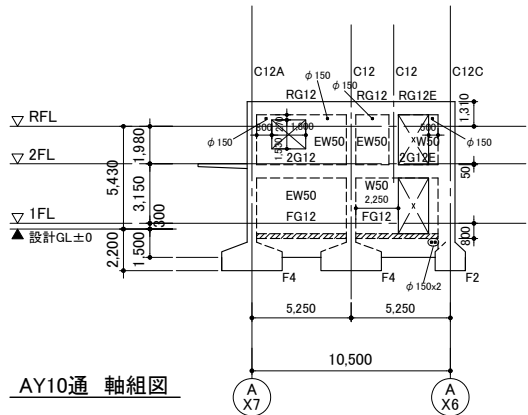
05.鏡+09.奏



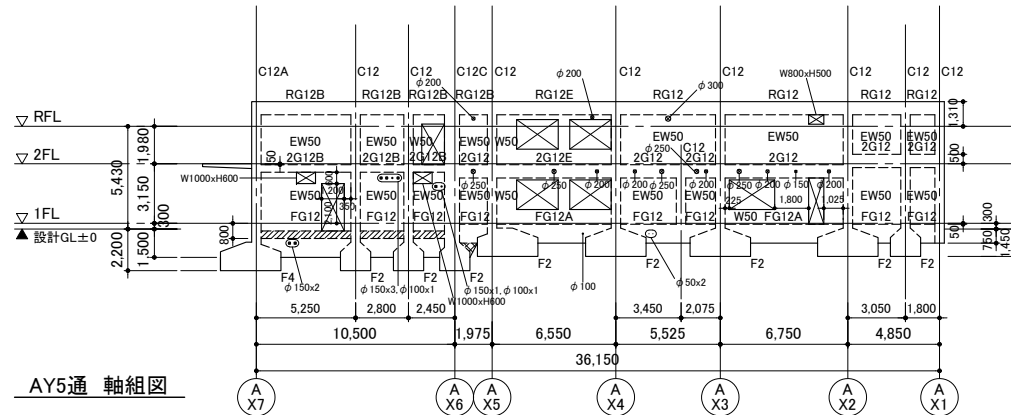
軸組図-2		1/200		特記なき限り 1. 壁符号 W20 2.  は、増打ちを示す 3.  は、パットレスを示す	
06 発+07 作					
					
DY2通 軸組図		DY1通 軸組図		DX2通 軸組図	
08 演					
					
EY2通 軸組図		EY1通 軸組図		EX4通 軸組図	
10 趣					
					
JY3通 軸組図		JY2通 軸組図		JX2通+200 軸組図	
					
JX1通-2,780 軸組図		JX1通+3,760 軸組図		JX1通-200 軸組図	

project	図書館等複合施設新築(建築主体)工事	akihisa hirata architecture office	株式会社平田晃久建築設計事務所 106-0031 東京都港区西麻布2-8-13Fe西麻布ビル 2-8-13 nishi-azabu minatoku tokyo 106-0031 tel 03-3409-1455 fax 03-3409-1458	オープ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録 第 35571 号 構造 一級建築士 第339507号 構造一級建築士 第9408号 伊藤 潤一郎	date	R04.06.30	scale	1/200	subject	軸組図-2	S-31
---------	--------------------	------------------------------------	--	--	------	-----------	-------	-------	---------	-------	------

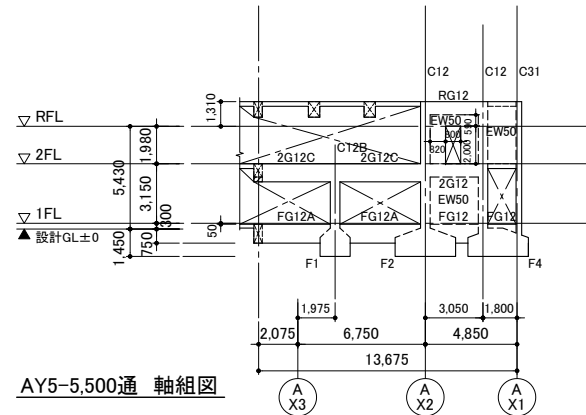
12_知+管理棟



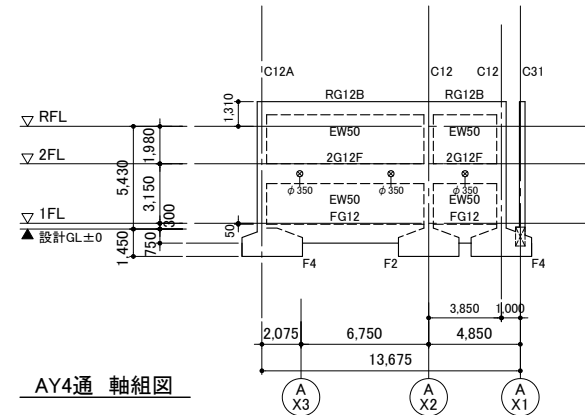
AY10通 軸組図



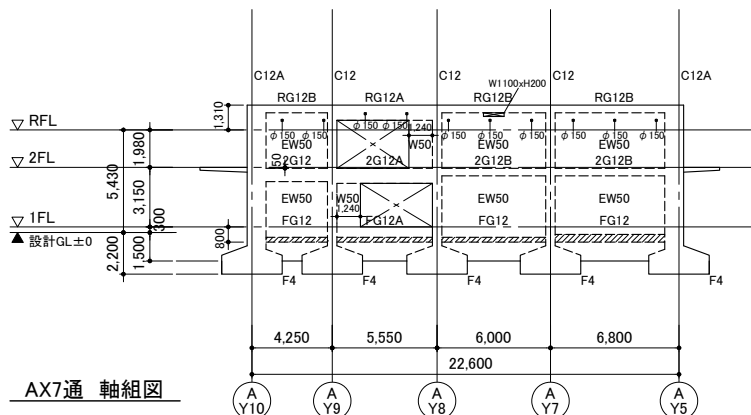
AY5通 軸組図



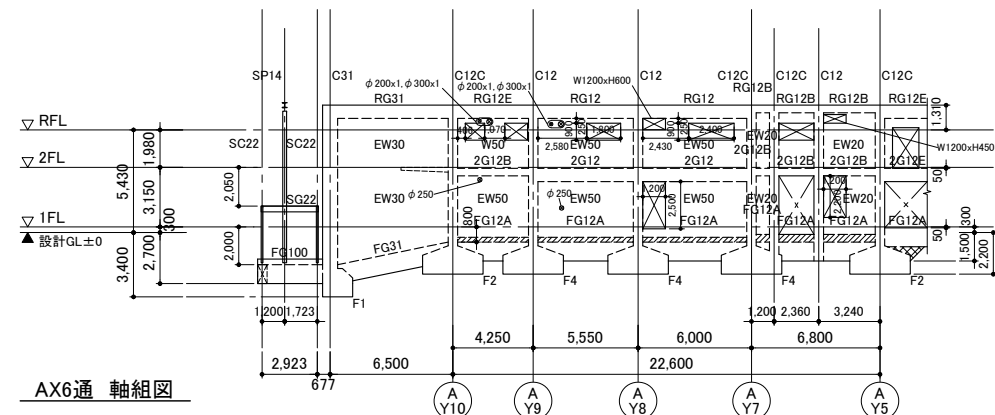
AY5-5,500通 軸組図



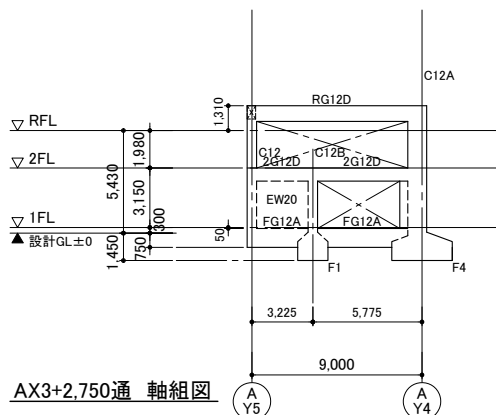
AY4通 軸組図



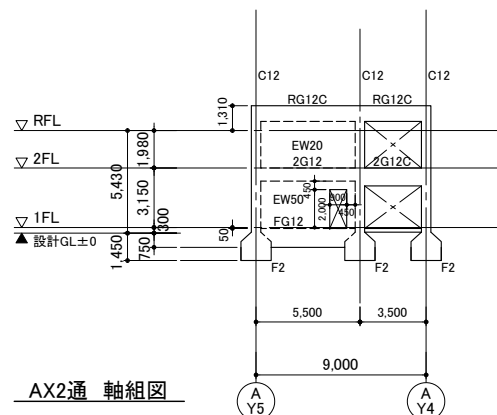
AX7通 軸組図



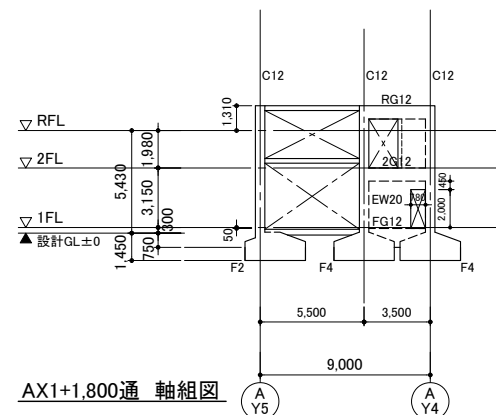
AX6通 軸組図



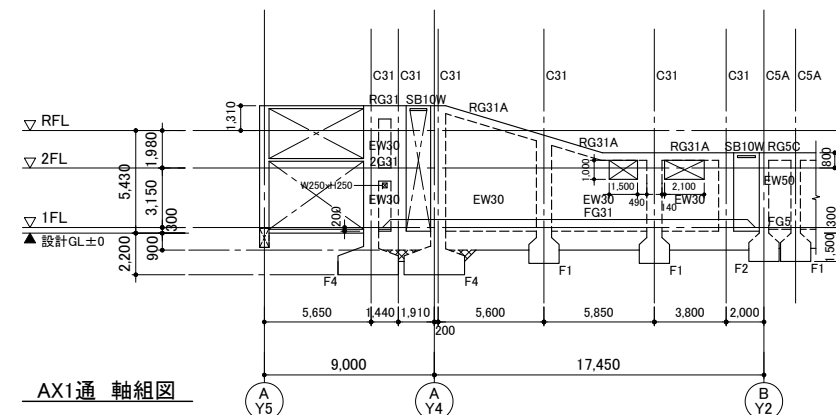
AX3+2,750通 軸組図



AX2通 軸組図

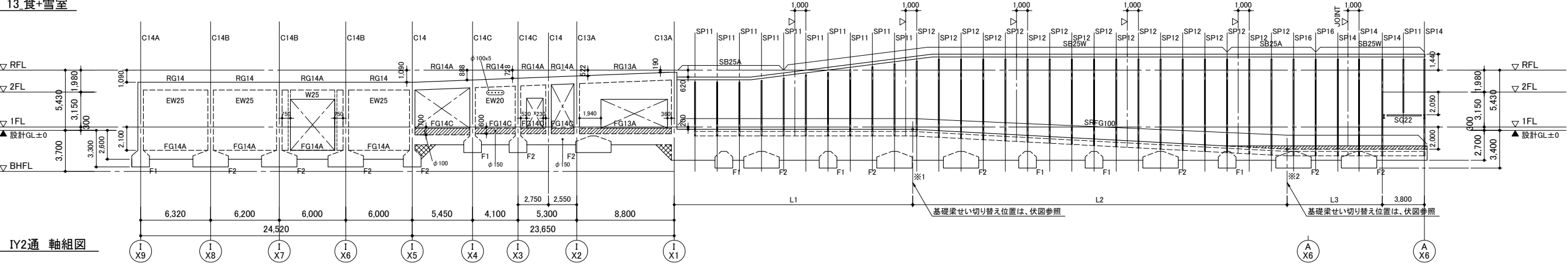


AX1+1,800通 軸組図

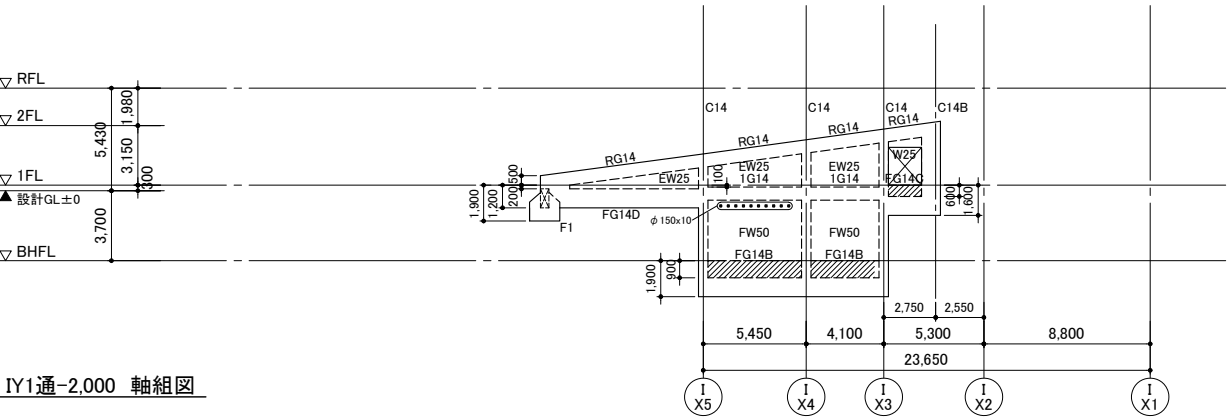


AX1通 軸組図

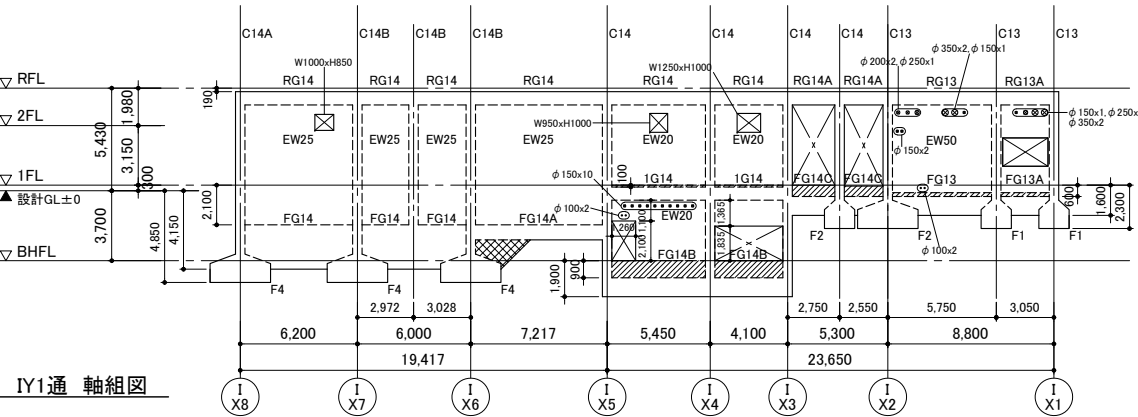
13 食+雪室



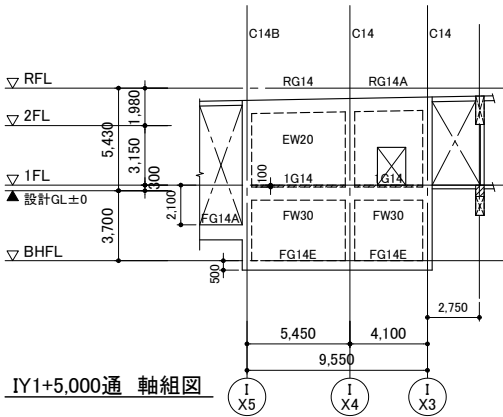
IY2通 軸組図

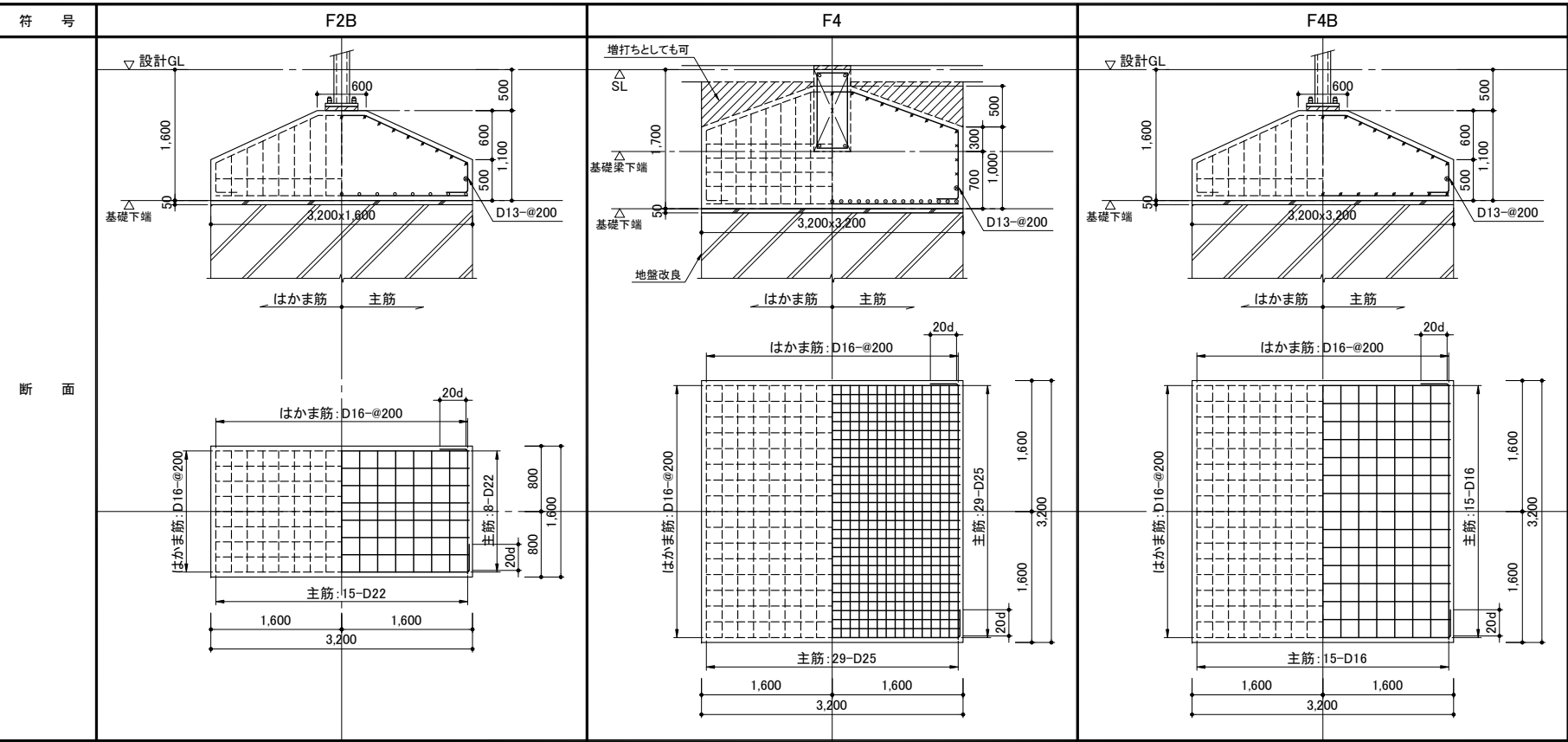
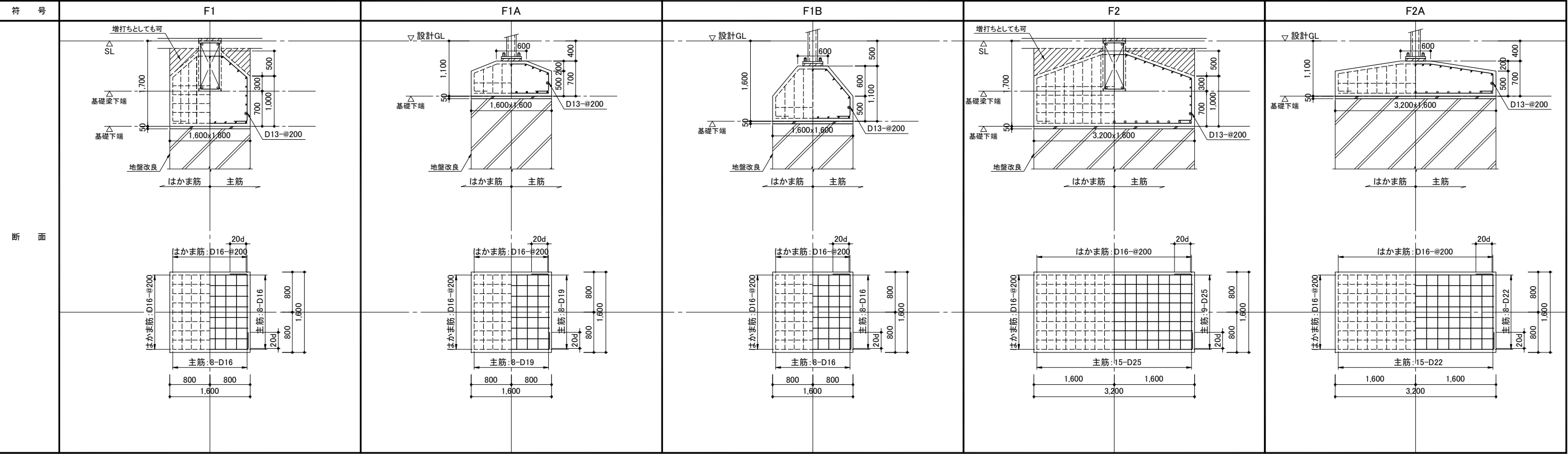


IY1通-2,000 軸組図



IY1通 軸組図





01.子

符 号	FG1	FG1A	FG1B	
位 置	全断面	全断面	全断面	
1階基礎伏図				
上 端 筋	4/1-D22	4/1-D22	4/1-D22	
下 端 筋	4/1-D22	4/1-D22	4/1-D22	
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	
腹 筋	4-D13	4-D13	4-D13	
備 考				

02.和+03.会

符 号	FG2A	FG2B	FG2C	
位 置	全断面	全断面	全断面	
1階基礎伏図				
上 端 筋	4/1-D22	4/1-D22	4/1-D22	
下 端 筋	4/1-D22	4/1-D22	4/1-D22	
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	
腹 筋	4-D13	4-D13	4-D13	
備 考				

04.展

符 号	FG4	FG4A
位 置	全断面	全断面
1階基礎伏図		
上 端 筋	4/4-D22	4/4-D22
下 端 筋	4/4-D22	4/4-D22
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200
腹 筋	6-D13	6-D13
備 考		

05.鏡+09.奏

符 号	FG5	FG5A	FG5B
位 置	全断面	全断面	全断面
1階基礎伏図			
上 端 筋	4/1-D22	4/3-D22	4/4/2-D22
下 端 筋	4/1-D22	4/3-D22	4/4/2-D22
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200
腹 筋	4-D13	4-D13	4-D13
備 考			

06.発+07.作

符 号	FG6A	FG6B	FG6C	FG6D
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面
1階基礎伏図				
上 端 筋	4/1-D22	4/1-D22	4/4-D22	4/4-D22
下 端 筋	4/1-D22	4/1-D22	4/4-D22	4/4-D22
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200
腹 筋	4-D13	4-D13	4-D13	4-D13
備 考				

08.演

符 号	FG8A	FG8B	FG8C	FG8D
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面
1階基礎伏図				
上 端 筋	4/1-D22	4/1-D22	4/1-D22	4/2-D22
下 端 筋	4/1-D22	4/1-D22	4/1-D22	4/1-D22
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@100
腹 筋	4-D13	4-D13	4-D13	4-D13
備 考				

10.趣

符 号	FG10	FG10A
位 置	全断面	全断面
1階基礎伏図		
上 端 筋	4/4-D22	4/4/4-D22
下 端 筋	4/4-D22	4/4/4-D22
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200
腹 筋	6-D13	10-D13
備 考		

12.知+管理棟

符 号	FG12	FG12A	
位 置	全断面	全断面	
1階基礎伏図			
上 端 筋	4/1-D22	4/4-D22	
下 端 筋	4/1-D22	4/4-D22	
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200	
腹 筋	4-D13	4-D13	
備 考			

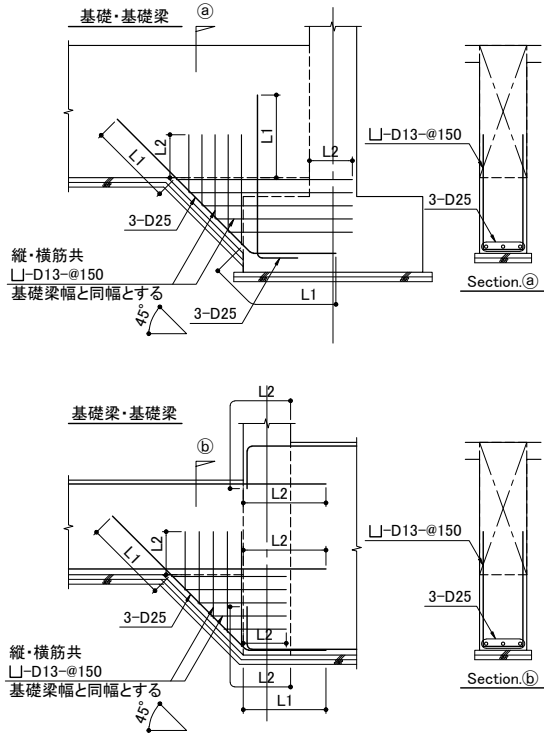
13.食+雪室

符 号	FG13	FG13A	FG14	FG14A	FG14B	FG14C	FG14D	FG14E	FG14F
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
1階基礎伏図									
上 端 筋	4/1-D22	4/1-D22	4/4/4-D22	4/4-D22	4/1-D22	4/4-D22	4/1-D22	4-D22	4/4/2-D22
下 端 筋	4/1-D22	4/1-D22	4/4/4-D22	4/4-D22	4/1-D22	4/4-D22	4/1-D22	4-D22	4/4/2-D22
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200
腹 筋	4-D13	4-D13	10-D13	2-D13	4-D13	4-D13	4-D13	—	10-D13
備 考									

符 号	SRFG100			FG100	FG31
位 置	1X1通端	中 央	AX6通端	全断面	全断面
1階基礎伏図					
上 端 筋	2-D22	2-D22	2-D22	4/1-D22	4/1-D22
下 端 筋	2-D22	2-D22	2-D22	4/1-D22	4/1-D22
スターラップ	□-D13-@200			□-D13-@200	□-D13-@200
腹 筋	12-D13	8-D13	4-D13	4-D13	4-D13
鉄 骨	H-400x200x8x13(SN490B)				
備 考	詳細は、1階伏図・1Y2通軸組図参照				

バットレス配筋要領図

1/40



鉄骨継手リスト

特記なき限り 1. 鉄骨材質
2. 高力ボルト

SN490B
S10T

3. SPL材質
母材と同材質

符 号	部 材	鉄骨材質	剛接 継手							備 考
			ボルト径	フランジ			ウェブ			
				H.T.B	外添板	内添板	H.T.B	添板		
				nF x mF	厚 x 長さ	厚 x 幅	mW x nW	Pc	厚 x 幅 x 長さ	
SRFG100	H-400x200x8x13		M20	3x2	9x410	9x80	3x2	90	9x260x290	

基礎小梁リスト

1/40

特記なき限り 1. 巾止め筋
2. 地 業

D10-@1,000
捨てコンクリート t=50, 砂利 t=60

符 号	FB1	FB2	FB4	FB5	FB6
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面					
上 端 筋	4-D22	4-D22	4/2-D22	4-D22	4-D22
下 端 筋	4-D22	4/2-D22	4/2-D22	4-D22	4-D22
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200
腹 筋	—	4-D13	4-D13	2-D13	4-D13
備 考					

符 号	FB12	FB12A	FB13	FB14	
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	
断 面					
上 端 筋	4/2-D22	4-D22	4-D22	9-D22	
下 端 筋	4/2-D22	4-D22	4/2-D22	9-D22	
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	
腹 筋	4-D13	—	4-D13	—	
備 考					

擁壁リスト

1/40

特記なき限り 1. 巾止め筋

D10-@1,000

符 号	FW30	FW50		
鉛直断面				
縦 筋	土圧側 内 側	D13-@100(ダブル)	D13-@75(ダブル)	
横 筋	土圧側 内 側	D13-@100(ダブル)	D13-@75(ダブル)	
開口部	縦 筋 横 筋 斜め筋			
備 考				

耐圧版リスト

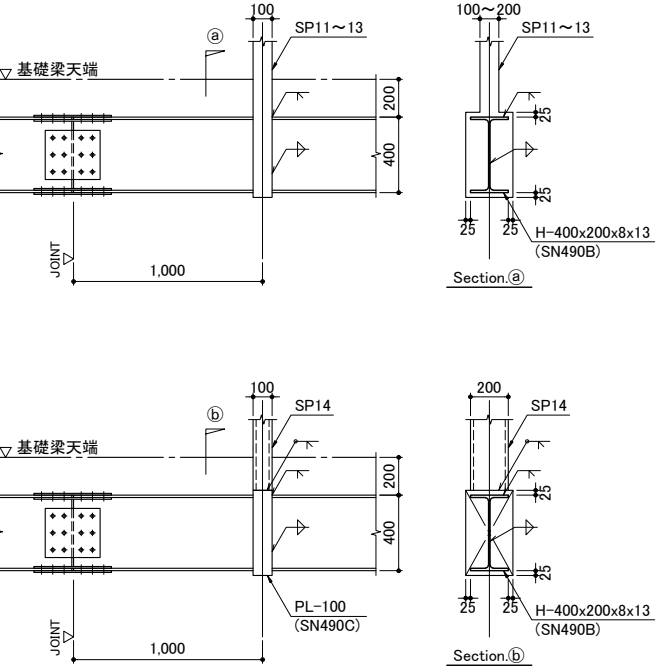
特記なき限り 1. 巾止め筋
2. 地 業

D10-@1,000
捨てコンクリート t=50, 砂利 t=60

符 号	版 厚	位 置	主 筋 方 向	配 力 筋 方 向	備 考
FS25	250	上端筋	D13-@200	D10・D13-@200	
		下端筋	D13-@200	D10・D13-@200	
FS50	500	上端筋	D22-@100	D13-@200	
		下端筋	D22-@100	D13-@200	
		上端筋			
		下端筋			
DS30	300	上端筋	D13-@200	D13-@200	土間コンクリートスラブ
		下端筋	D13-@200	D13-@200	
		上端筋			
		下端筋			

SRFG100詳細図

1/20



01_子				
符 号	C1	C1A	C1B	C1C
全階共通				
主筋	X方向 3-D22 Y方向 3-D22	5-D22 5-D22	3-D22 5-D22	3-D22 5-D22
フープ	□-D13-@100	□-D13-@100	▧-D13-@100	▧-D13-@100
備考				

02_和+03_会				
符 号	C2A	C2B	C2C	
全階共通				
主筋	X方向 5-D22 Y方向 5-D22	5-D22 5-D22	5-D22 5-D22	
フープ	▨-D13-@100	□-D13-@100	▧-D13-@100	
備考				

04_展			
符 号	C4		
全階共通			
主筋	X方向 3-D22 Y方向 3-D22		
フープ	□-D13-@100		
備考			


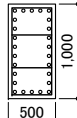

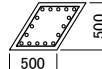
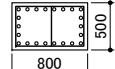

05_鏡+09_奏			
符 号	C5	C5A	C5B
全階共通			
主筋	X方向 3-D22 Y方向 3-D22	3-D22 5-D22	5-D25 5-D25
フープ	□-D13-@100	▧-D13-@100	▧-D13-@100
備考			

06_発+07_作			
符 号	C6A	C6B	C6C
全階共通			
主筋	X方向 5-D19 Y方向 5-D19	7-D22 3-D22	10-D25 5-D25
フープ	□-D13-@100	▨-D13-@100	▨-D13-@100
備考			

08_演				
符 号		C8A	C8B	C8C
全階共通				
主筋	X方向	5-D22	5-D22	5-D22
	Y方向	5-D22	5-D22	5-D22
フープ		▧-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100
備考				

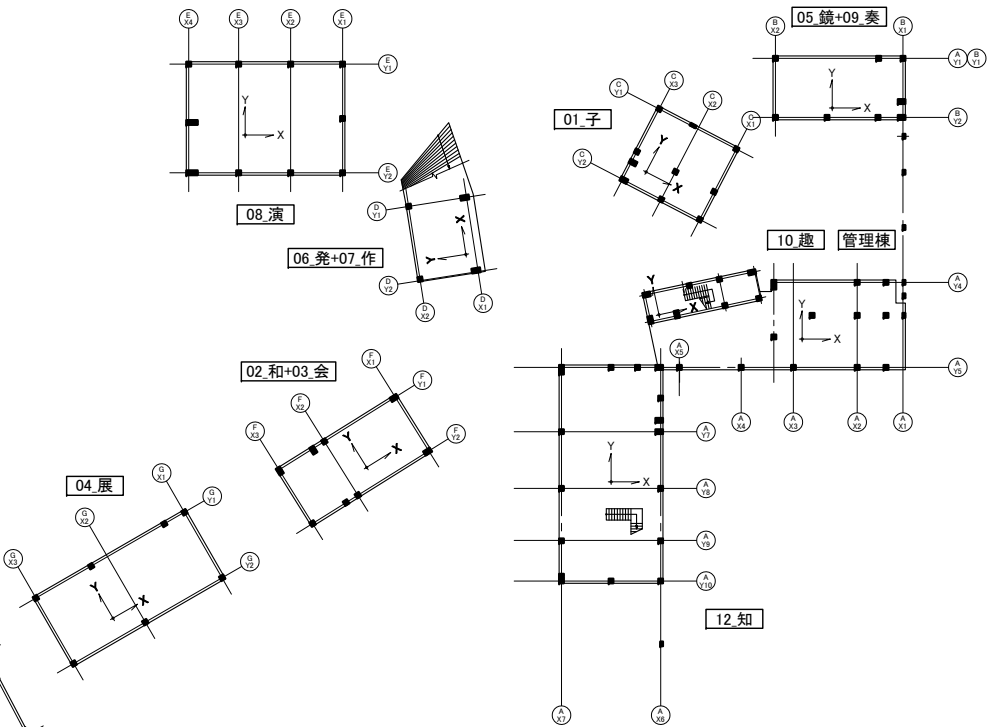
10_趣			
符 号	C10	C10A	C10B
全階共通			
主筋	X方向 3-D22 Y方向 3-D22	5-D22 5-D22	5-D22 5-D22
フープ	□-D13-@100	▧-D13-@100	▧-D13-@100
備考			

12_知+管理棟					
符 号		C12	C12A	C12B	C12C
全階共通					
主筋	X方向	3-D22	8-D22	5-D22	3-D22
	Y方向	3-D22	5-D22	5-D22	5-D22
フープ		□-D13-@100	目-D13-@100	□-D13-@100	田-D13-@100
備 考					

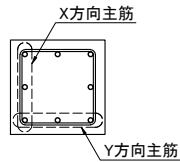
13_食+雪室							
符 号		C13	C13A	C14	C14A	C14B	C14C
全階共通							
	Y ↑ X →						
主筋	X方向	3-D22	10-D22	5-D22	5-D22	5-D22	3-D22
	Y方向	3-D22	5-D22	5-D22	5-D22	8-D22	3-D22
フープ		□-D13-@100	目-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100	田-D13-@100	□-D13-@100
備 考							

符 号		C31
全階共通		
主筋	X方向 8-D22 Y方向 3-D22	
フープ	▨-D13-@100	
備考		

柱・梁軸方向図

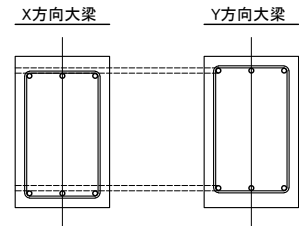


主筋方向図


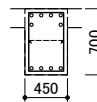
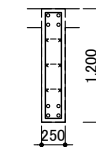



主筋の順序

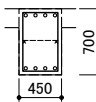
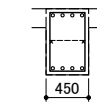
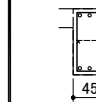
梁せいが同じ場合、主筋の組み方は、Y方向を上、X方向を下とする







01.子

符 号	RG1	RG1A	RG1B	RG1C
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面
R階伏図				
上 端 筋	4-D22	4/2-D22	2/2-D22	4-D22
下 端 筋	4-D22	4-D22	2/2-D22	4-D22
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@200
腹 筋	—	2-D13	6-D13	—
備 考				


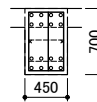
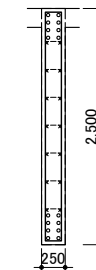

02.和+03.会

符 号	RG2A	RG2B	RG2C	
位 置	全断面	全断面	全断面	
2階伏図				
上 端 筋	4-D22	4-D22	4-D22	
下 端 筋	4-D22	4-D22	4-D22	
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	
腹 筋	2-D13	2-D13	2-D13	
備 考				


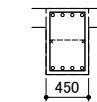
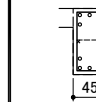

04.展

符 号	RG4	RG4A	RCG4	
位 置	全断面	全断面	元 端	中央・先端
R階伏図				
上 端 筋	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22
下 端 筋	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	
腹 筋	—	—	—	
備 考				



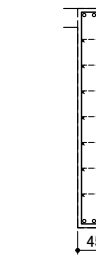

05.鏡+09.奏

符 号	RG5	RG5A	RG5B	RG5C
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面
R階伏図				
上 端 筋	4-D22	4/4-D22	2/2/2/2-D22	4-D22
下 端 筋	4-D22	4/4-D22	2/2/2/2-D22	4-D22
スターラップ	□-D13-@200	▣-D13-@100	□-D13-@200	□-D13-@200
腹 筋	—	2-D13	14-D13	—
備 考				



06.発+07.作

符 号	RG6A	RG6B	RG6C	RG6D
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面
2階伏図				
上 端 筋	4-D22	4-D22	4/2-D22	9-D25
下 端 筋	4-D22	4-D22	4/2-D22	9-D25
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@100	□-D13-@200	▣-D13-@200
腹 筋	—	2-D13	4-D13	—
備 考				


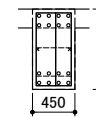

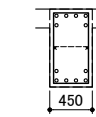
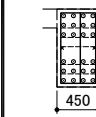
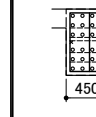


08.演

符 号	RG8A	RG8B		RG8C
位 置	全断面	端 部	中 央	全断面
2階伏図				
上 端 筋	4-D22	4-D22	4-D22	7/7-D22
下 端 筋	4-D22	4-D22	4-D22	7/7-D22
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200		▣-D13-@100
腹 筋	—	—	14-D13	—
備 考				



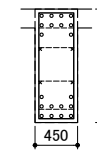


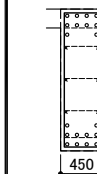

10.趣


符 号	RG10	RG10A
位 置	全断面	全断面
R階伏図		
上 端 筋	4-D22	2/2-D22
下 端 筋	4-D22	2/2-D22
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200
腹 筋	2-D13	2-D13
備 考		


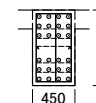

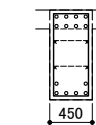
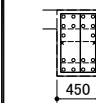
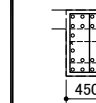
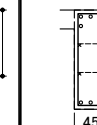

12.知+管理棟


符 号	RG12	RG12A	RG12B	RG12C	RG12D	RG12E	RG31	RG31A
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
R階伏図								
上 端 筋	4-D22	4/4-D22	4-D22	4/2-D22	4/4/4-D25	4/4/4-D22	2-D22	2-D22
下 端 筋	4-D22	4/4-D22	4-D22	4/2-D22	4/4/4-D25	4/4/4-D22	2-D22	2-D22
スターラップ	□-D13-@200	▣-D13-@200	▣-D13-@200	□-D13-@200	▣-D13-@100	▣-D13-@100	□-D13-@200	□-D13-@200
腹 筋	2-D13	2-D13	—	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	—
備 考								

13.食+雪室

符 号	RG13	RG13A	RG13B	RG14	RG14A	RG14B	RCG14
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
R階伏図							
上 端 筋	4-D22	4/4-D22	4/4/2-D22	4-D22	4/4-D22	4/4/2-D22	9-D22
下 端 筋	4-D22	4/4-D22	4/4/2-D22	4-D22	4/4-D22	4/4/2-D22	9-D22
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@100	□-D13-@200	□-D13-@200	▣-D13-@100	□-D13-@200	□-D13-@200
腹 筋	2-D13	2-D13	4-D13	2-D13	2-D13	6-D13	—
備 考							

符 号	R'G10	
位 置	全断面	
R-1,500階		
上 端 筋	4-D22	
下 端 筋	4-D22	
スターラップ	□-D13-@200	
腹 筋	2-D13	
備 考		

符 号	2G12	2G12A	2G12B	2G12C	2G12D	2G12E	2G12F	2G31
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
1階基礎伏図								
上 端 筋	4-D22	4/4/4-D25	4-D22	4/4-D22	4/4/2-D22	4/4/2-D22	4/1-D22	2-D22
下 端 筋	4-D22	4/4/4-D25	4-D22	4/2-D22	4/4-D22	4/4/2-D22	4/1-D22	2-D22
スターラップ	□-D13-@200	▣-D13-@100	▣-D13-@200	□-D13-@200	▣-D13-@200	▣-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@200
腹 筋	2-D13	2-D13	—	4-D13	4-D13	2-D13	4-D13	2-D13
備 考								

符 号	1G14	
位 置	全断面	
1階基礎伏図		
上 端 筋	4-D22	
下 端 筋	4-D22	
スターラップ	□-D13-@200	
腹 筋	2-D13	
備 考		

小梁リスト 1/40 特記なき限り 1. 巾止め筋 D10-@1,000

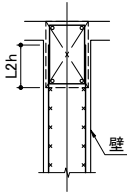
符 号	B2	B4	B12A	B13	B14
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面					
上 端 筋	4-D22	4/4-D22	6/6-D22	4/4-D22	4/4/2-D22
下 端 筋	4/2-D22	4/4/2-D22	6/6-D22	4/4/2-D22	4/4/2-D22
スターラップ	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200
腹 筋	2-D13	4-D13	2-D13	4-D13	4-D13
備 考					

壁リスト 1/40 特記なき限り 1. 巾止め筋 D10-@1,000

符 号	W20	W25	W30	W50	
鉛直断面					
縦 筋	D13-@200(ダブル)	D13-@200(ダブル)	D13-@200(ダブル)	D13-@150(ダブル)	
横 筋	D13-@100(ダブル)	D13-@100(ダブル)	D13-@100(ダブル)	D13-@75(ダブル)	
縦 筋	3-D13	3-D13	3-D13	3-D13	
開口部 横 筋	3-D13	3-D13	3-D13	3-D13	
斜め筋	3-D13	3-D13	3-D13	3-D13	
備 考					

符 号	EW20	EW25	EW30	EW50	
鉛直断面					
縦 筋	D13-@200(ダブル)	D13-@200(ダブル)	D13-@200(ダブル)	D13-@150(ダブル)	
横 筋	D13-@100(ダブル)	D13-@100(ダブル)	D13-@100(ダブル)	D13-@75(ダブル)	
縦 筋	3-D16	3-D16	3-D16	4-D16	
開口部 横 筋	3-D16	3-D16	3-D16	4-D16	
斜め筋	3-D16	3-D16	3-D16	4-D16	
備 考					

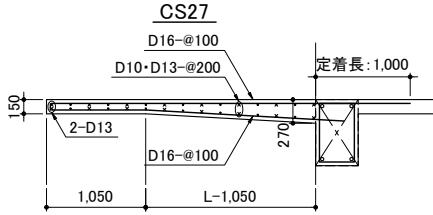
壁厚が梁幅より大きい場合の配筋要領図



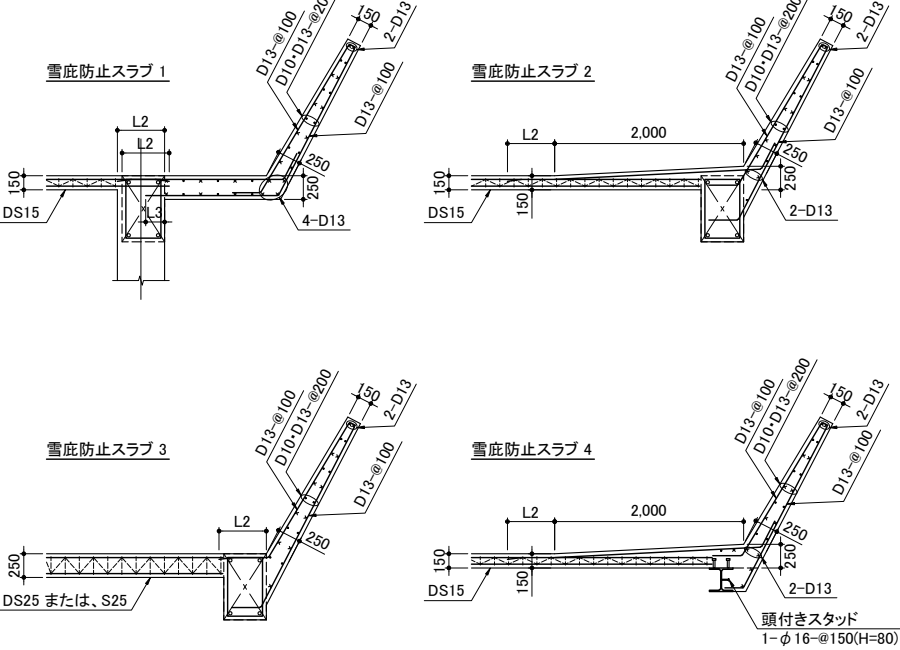
スラブリスト 特記なき限り 1. 巾止め筋 D10-@1,000

符 号	版 厚	位 置	短 辺 方 向 (X)	長 辺 方 向 (Y)	型 枠	備 考
S15	150	上端筋	D13-@200	D10・D13-@200	在来型枠	
		下端筋	D13-@200	D10・D13-@200		
S20	200	上端筋	D13-@200	D10・D13-@200	在来型枠	
		下端筋	D13-@200	D10・D13-@200		
S25	250	上端筋	D16-@100	D13-@100	在来型枠	
		下端筋	D16-@100	D13-@100		
S30	300	上端筋	D16-@100	D13-@100	在来型枠	
		下端筋	D16-@100	D13-@100		
CS27	270~150	上端筋	D16-@100	D10・D13-@200	在来型枠	
		下端筋	D16-@100	D10・D13-@200		
CSR25	250~150	上端筋	D13-@100	D10・D13-@200	在来型枠	
		下端筋	D13-@100	D10・D13-@200		

CS27取合要領図 1/40



雪底防止スラブ詳細図 1/40



鉄骨柱リスト

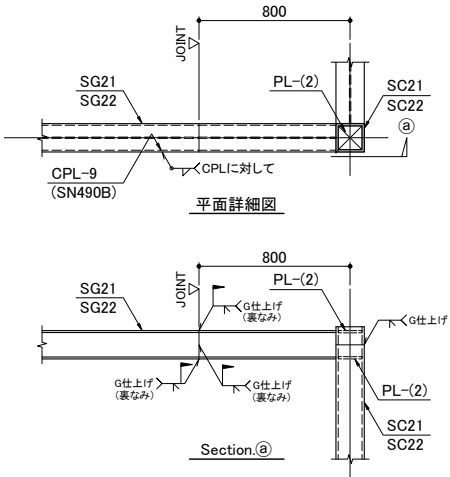
特記なき限り 1. 鉄骨材質 SN490B 3. アンカーボルト長さ L=20d(U字/定着板付き) 5. BPL・GPL・SPL材質 母材と同材質
2. 高力ボルト F10T 4. アンカーボルト材質 ABR490 6. 外部鉄骨は溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

符 号	部 材	鉄骨材質	RC柱脚接合部		鉄骨接合部		RC柱脚			備 考
			ベースプレート t×B×D	アンカーボルト	添板	H.T.B	サイズ	主筋 X方向 / Y方向	フープ	
SC21	B□-150×150×12	SN490B	BPL-22×350×200	2-M16(建方用)			450×450	2-D19/2-D19	□-D13-@100	
SC22	B□-150×150×12	SN490B	BPL-22×350×200	2-M16(建方用)			450×450	2-D19/2-D19	□-D13-@100	
SP1	○-165.2×32	STK490B	BPL-40×400×400	4-M32		4-M20		—		
SP2	○-190.7×32	STK490B	BPL-40×400×400	4-M32		4-M20		—		
SP3	○-244.5×32	STK490B	BPL-40×500×500	4-M32		4-M20		—		
SP10	■-100×85	SN490B	BPL-22×300×250	4-M20	PL-22×250×300	4-M20		—		
SP11	■-100×100	SN490B	BPL-22×300×250	4-M20	PL-22×250×300	4-M20		—		SRFG100と接合される部材は、SN490Cとする
SP12	■-125×100	SN490B	BPL-22×300×250	4-M20	PL-22×250×300	4-M20		—		SRFG100と接合される部材は、SN490Cとする
SP13	■-200×100	SN490B	BPL-22×300×250	4-M20	PL-22×250×300	4-M20		—		SRFG100と接合される部材は、SN490Cとする
SP14	B□-200×100×9×9	SN490B	BPL-22×300×250	4-M20	PL-22×250×300	4-M20		—		
SP15	■-60×60	SN490B	BPL-22×260×160	4-M20	PL-22×250×300	4-M20		—		
SP16	■-150×100	SN490B	BPL-22×300×250	4-M20	PL-22×250×300	4-M20		—		SRFG100と接合される部材は、SN490Cとする

SC21・SC22柱頭詳細図

1/20

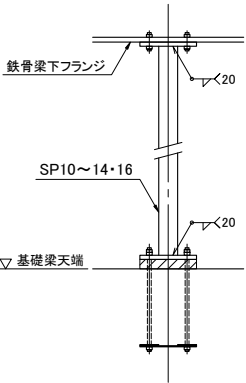
PL-(2): 接合する柱・梁フランジの最大厚以上とし、同材質とする



SP10～14・16柱頭・柱脚詳細図

1/20

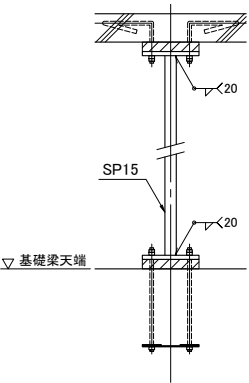
※.南通ファサードの柱脚は、S-35参照



SP15柱頭・柱脚詳細図

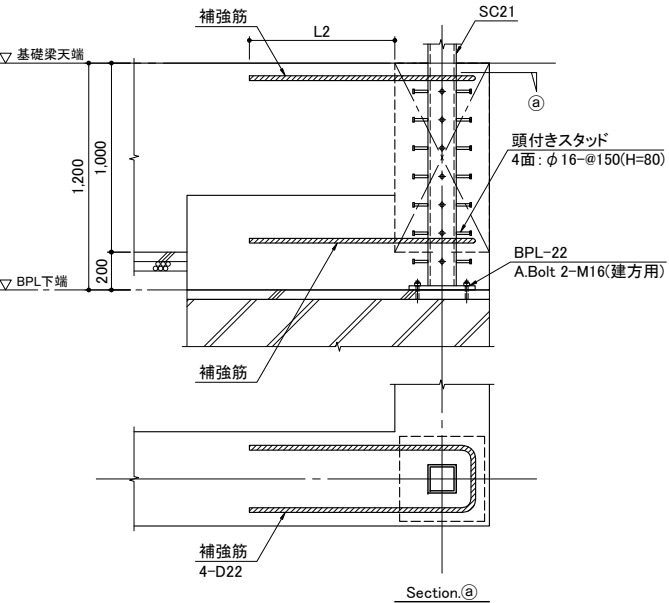
1/20

※.南通ファサードの柱脚は、S-35参照



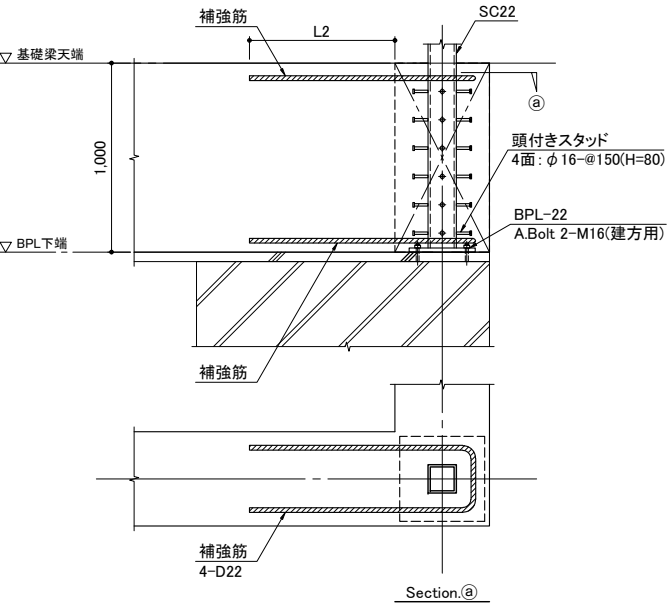
SC21柱埋込柱脚詳細図

1/20



SC22柱埋込柱脚詳細図

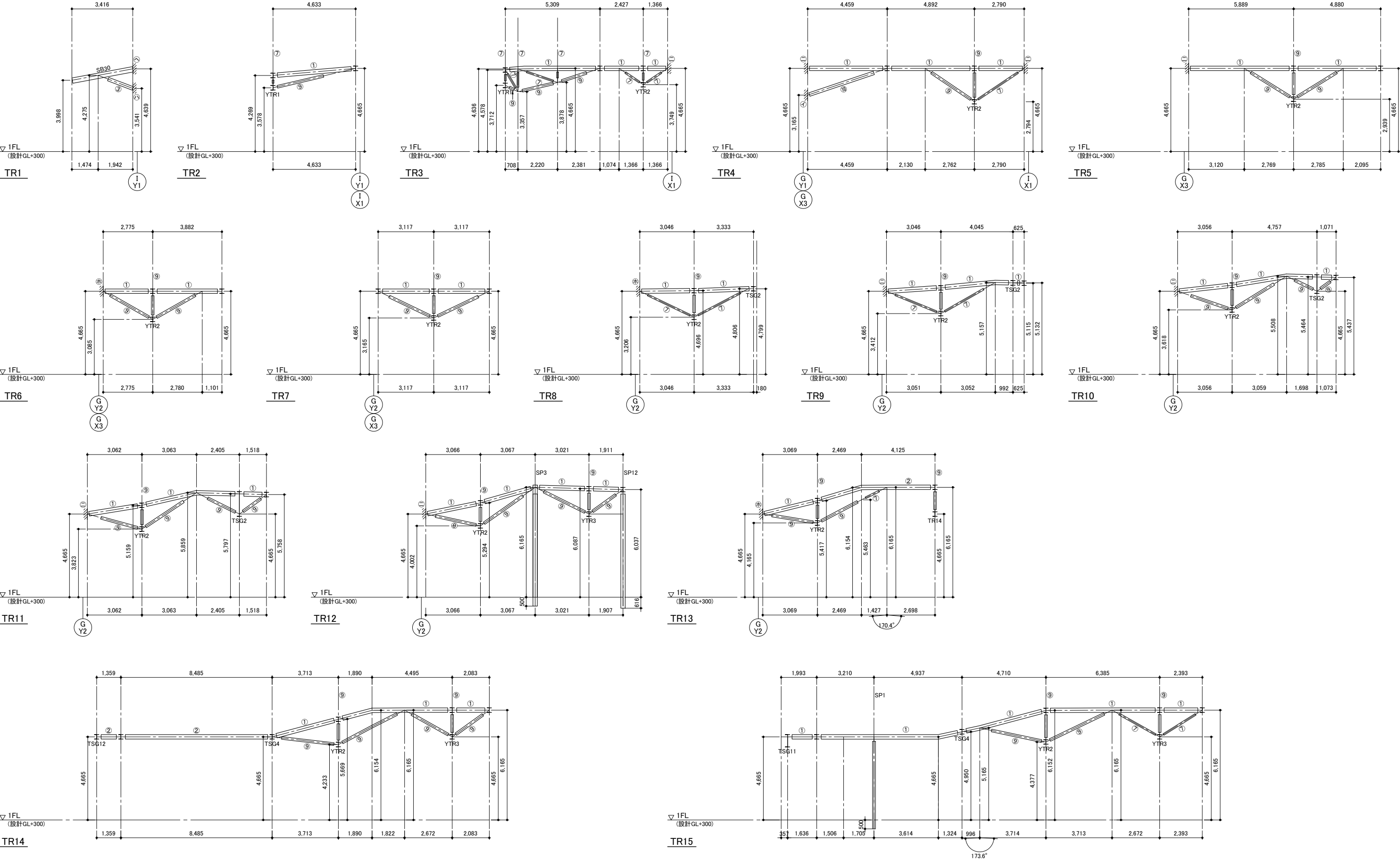
1/20



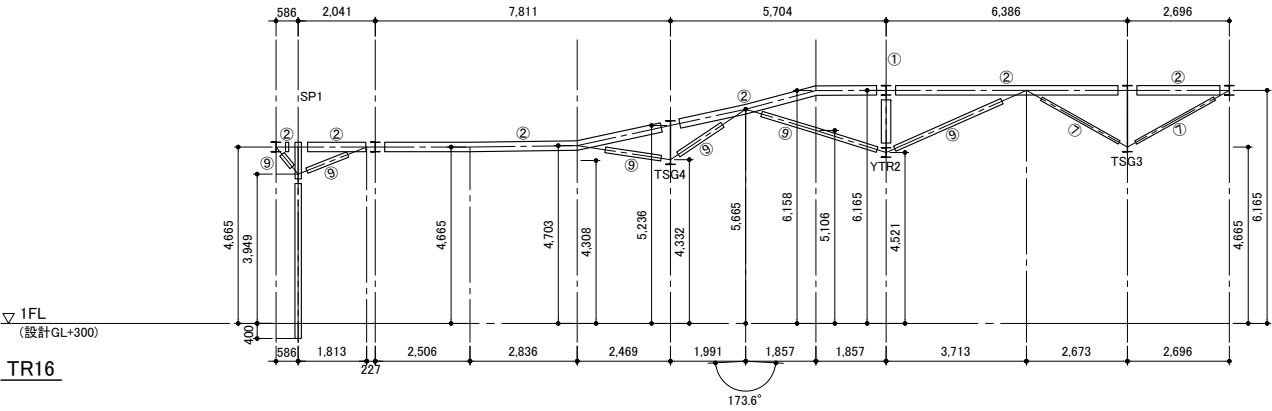
符 号	部 材	鉄骨材質	ピン接 継手 (鉄骨部材)						剛接 継手								備 考
			位 置	TYPE	添板		H.T.B	Pc	位 置	ボルト径	フランジ			ウェブ			
											H.T.B	外添板	内添板	H.T.B	添板		
					nF x mF	厚 x 長さ					厚 x 幅	mW x nW	Pc	厚 x 幅 x 長さ			
TSG1	BH-1,236～1,750x250x16x19		始点		—												
			終点	④	GPL-16x1,040	—	9x1-M20	120									
TSG2	BH-250～1,382x250x12x19		始点	⑤	GPL-16	2SPL-16x140	2x2-M20	60									
			終点	④	GPL-16x1,160	—	10x1-M20	120									
TSG3	BH-250～1,750x250x16x19		始点	⑤	GPL-16	2SPL-16x140	2x2-M20	60									
			終点		—												
TSG4	BH-250～1,606x250x16x25		始点	⑤	GPL-16	2SPL-25x140	2x4-M24	60	終点	M24		溶接	14x2	60	16x1,010x350		
			終点	④	GPL-16x1,340	—	22x1-M20	60									
TSG5	BH-250～1,750x250x16x25		始点	④	GPL-16x140	—	2x3-M20	60									
			終点	④	GPL-16x1,520	—	13x1-M20	120									
TSG6	BH-250～1,337x250x12x25		始点	⑤	GPL-28	2SPL-16x140	2x2-M20	60									
			終点		—												
TSG7	BH-250～1,242x250x16x19		始点	④	GPL-16x140	—	2x2-M20	60									
			終点		—												
TSG8	BH-250～1,593x250x16x19		始点	⑤	GPL-16	2SPL-16x140	2x2-M20	60									
			終点	④	GPL-16x1,400	—	12x1-M20	120									
TSG9	BH-515～1,593x250x16x19		始点		—				中点	M24		溶接	8x2	60	16x590x350		
			終点	④	GPL-16x380	—	6x1-M22	60									
TSG10	BH-250～515x250x16x19		始点	④	GPL-16x140	—	2x3-M22	60									
			終点		—												
TSG11	BH-250～966x250x16x19		始点	⑤	GPL-16	2SPL-16x140	2x3-M22	60	終点	M24		溶接	9x2	60	16x660x350		
			終点		—												
TSG12	BH-966～1,650x250x16x19		始点		—				始点	M24		溶接	9x2	60	16x660x350		
			終点	④	GPL-16x1,400	—	23x1-M22	60									
TSG13	BH-250～1,650x250x16x19		始点	⑤	GPL-16	2SPL-16x170	2x3-M22	90									
			終点	④	GPL-16x1,340	—	15x1-M20	90									
TSG14	BH-250～1,650x250x16x19		始点	⑤	GPL-16	2SPL-28x140	2x4-M24	60	終点	M24		溶接	14x2	60	16x1,010x350		
			終点	④	GPL-16x1,460	—	24x1-M20	60									
TSG15	BH-250～1,650x250x16x19		始点	⑤	GPL-16	2SPL-32x140	2x5-M24	60									
			終点	④	GPL-16x1,460	—	24x1-M20	60									
TSG16	BH-1,242～1,593x250x16x19		始点		—				中点	M24		溶接	16x2	60	12x1,150x350		
			終点	④	GPL-16x1040	—	9x1-M20	120									
TSG17																	

<p>剛接合タイプ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高力ボルトは特記なき限り、「SCSS-H97」（鉄骨構造標準接合部H形鋼編）に準拠する。 ・ボルトは高力ボルトS10T（S10T）（摩擦係数≧0.45）のみ適用する。 ・スプライスプレート（SPL）は、母材と同材質とする。 ・2枚のスプライスプレートで挟んで接合される場合、板厚に1mm以上の差があれば FILLER-PL を挿入する。 ・表示内容については下記による。 nF x mF：フランジボルト配列でnFは材軸方向のボルト列数を、mFはフランジ幅方向のボルト数（千鳥配筋の場合には、mF=2で表示）を示す。 nW x mW：ウェブボルト配列でmWは梁成方向のボルト数を、mWは材軸方向の列数を示す。 ・応力方向に3本以上ボルトが並ばない場合の繰端距離は、ボルト公称径の2.5倍とする。但し、SCSS-H97による部材断面はそれに従わなくてもよい。 ・標準ボルトピッチPcは下表による。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>M16</th> <th>M20</th> <th>M22</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P_c</td> <td>60 $\begin{pmatrix} 90 \\ 120 \end{pmatrix}$</td> <td>60 $\begin{pmatrix} 90 \\ 120 \end{pmatrix}$</td> <td>60 $\begin{pmatrix} 90 \\ 120 \end{pmatrix}$</td> <td>()内はウェブボルト打ちに使う場合あり</td> </tr> </tbody> </table> <p>接合部の符号表示</p> <p>フランジ現場溶接タイプ</p>		M16	M20	M22	備 考	P _c	60 $\begin{pmatrix} 90 \\ 120 \end{pmatrix}$	60 $\begin{pmatrix} 90 \\ 120 \end{pmatrix}$	60 $\begin{pmatrix} 90 \\ 120 \end{pmatrix}$	()内はウェブボルト打ちに使う場合あり	<p>ボルトピッチ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>B</th> <th>150</th> <th>200</th> <th>250</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>g</td> <td>90</td> <td>120</td> <td>150</td> </tr> </tbody> </table>	B	150	200	250	g	90	120	150
	M16	M20	M22	備 考															
P _c	60 $\begin{pmatrix} 90 \\ 120 \end{pmatrix}$	60 $\begin{pmatrix} 90 \\ 120 \end{pmatrix}$	60 $\begin{pmatrix} 90 \\ 120 \end{pmatrix}$	()内はウェブボルト打ちに使う場合あり															
B	150	200	250																
g	90	120	150																
<p>ピン接合タイプ</p> <p>TYPE A 2面せん断 TYPE B 1面せん断 TYPE C 1面せん断</p> <p>小梁せい : --- 大梁フランジ幅 : 200 ≦ ガセット厚 : ≧小梁ウェブ厚かつ ≧6mm ()内は大梁端のピン接合の場合を示す</p> <p>小梁せい : ≦500 大梁フランジ幅 : --- ガセット厚 : 小梁ウェブ厚の1サイズUP</p> <p>小梁せい : ≦500 大梁フランジ幅 : --- ガセット厚 : 小梁ウェブ厚の1サイズUP</p>																			
<p>スタッドコネクタ(頭付きスタッド) スラブ支持梁全共通</p> <p>※. スタッドコネクタはデッキを貫通して小梁に溶接しても良い ※. スタッドコネクタはデッキ納まりにより、列数を変更してもよいが、本数は上図と同等とする事</p>	<p>鉄骨小梁・間柱継手標準</p> <p>※L=12mを超える部材に準用する</p>																		
<p>梁段差納り標準詳細</p>																			

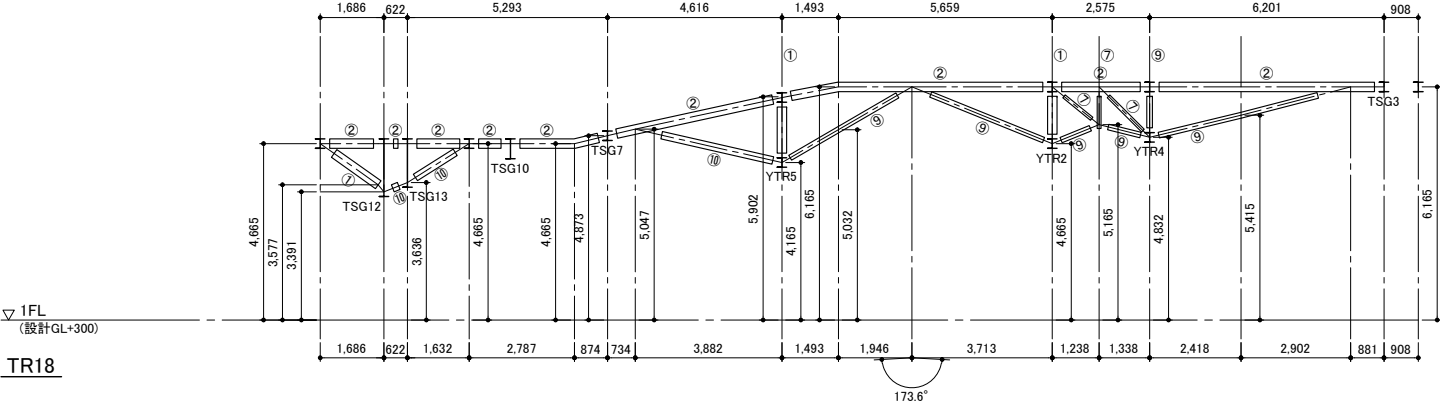
- 特記なき限り
1. ⊗ は、鉄骨梁・RC接合部のタイプを示す
2. ≡ は、端部ピン接合を示す



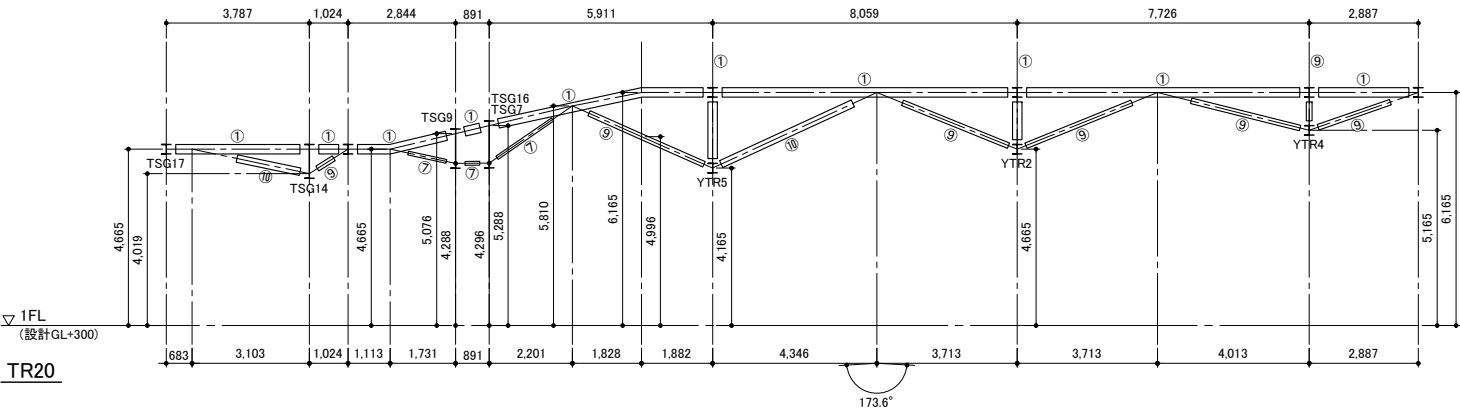
- 特記なき限り
- ② は、鉄骨梁・RC接合部のタイプを示す
 - ≡ は、端部ピン接合を示す



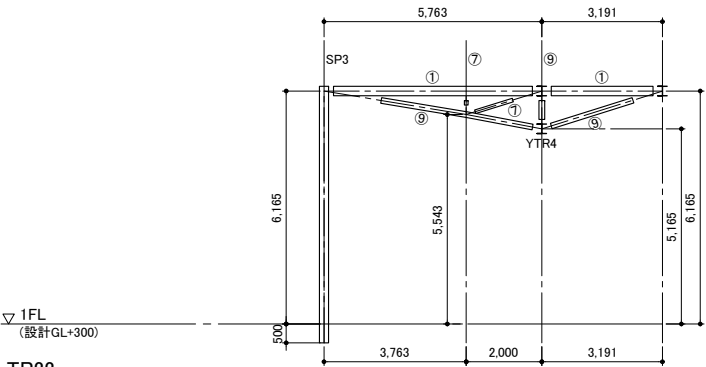
TR16



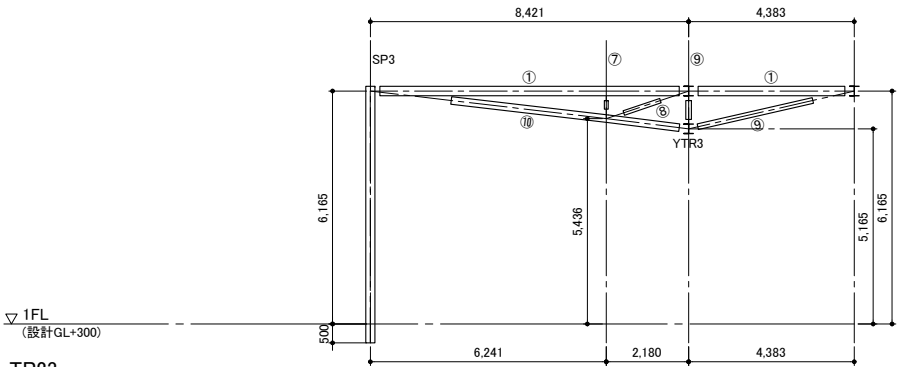
TR18



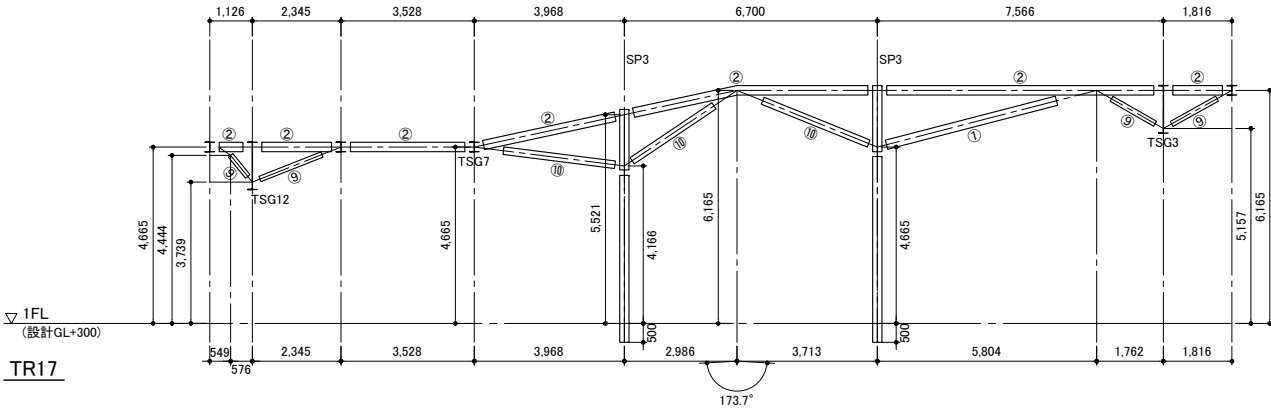
TR20



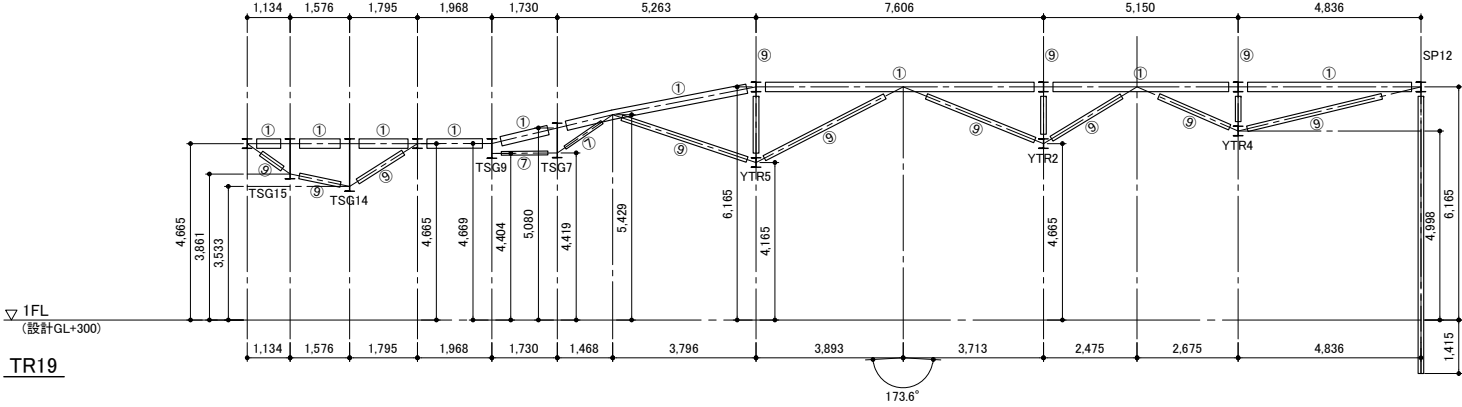
TR22



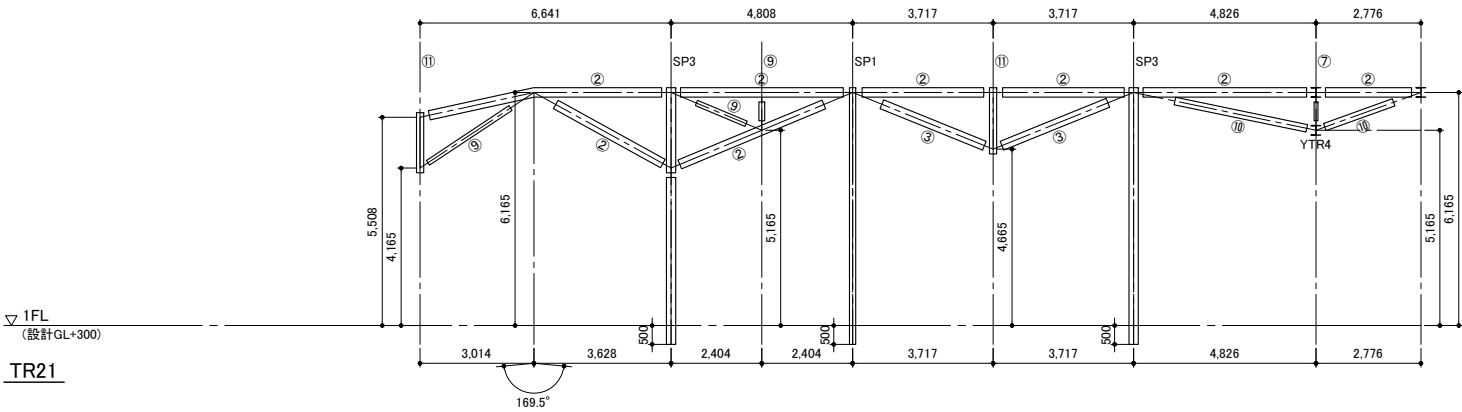
TR23



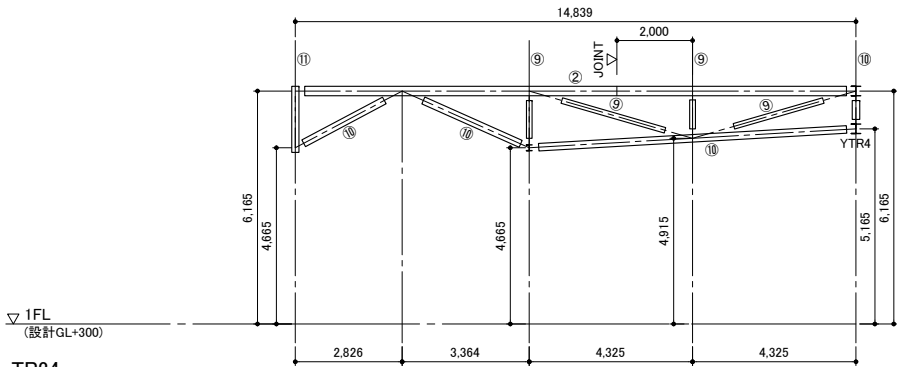
TR17



TR19

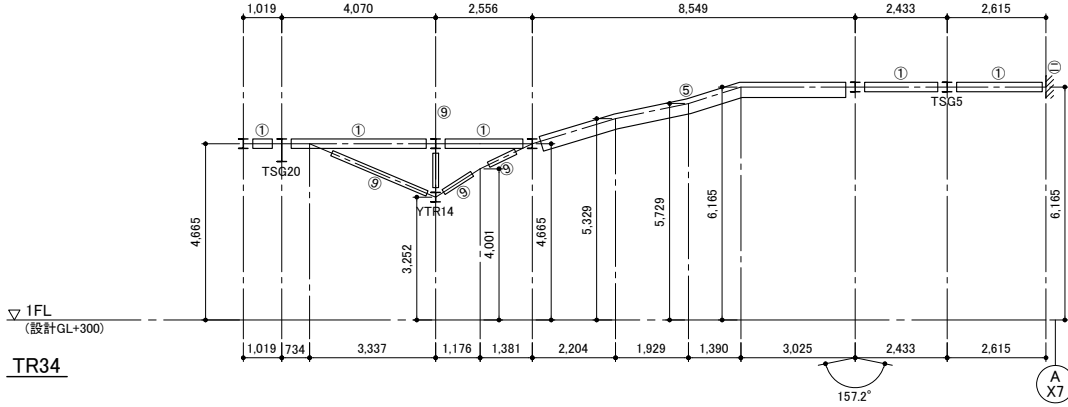
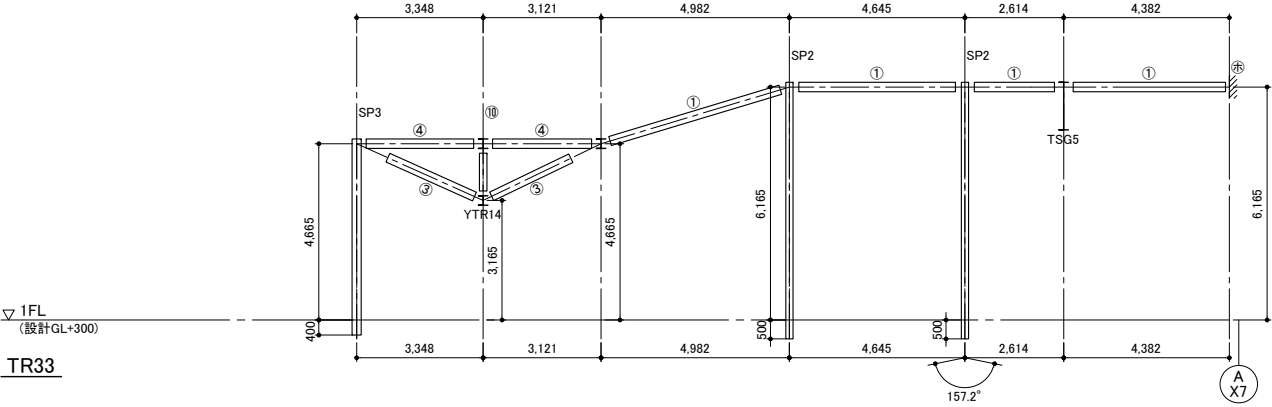
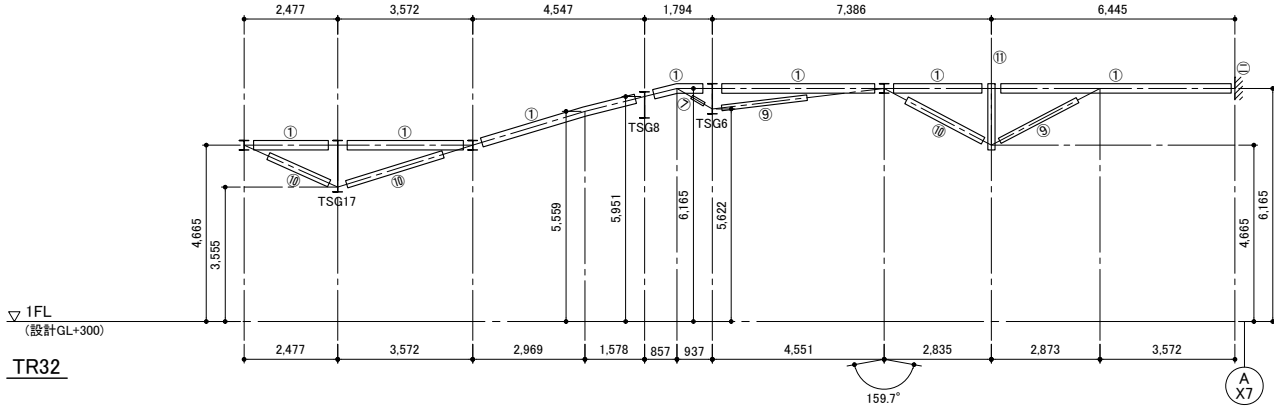
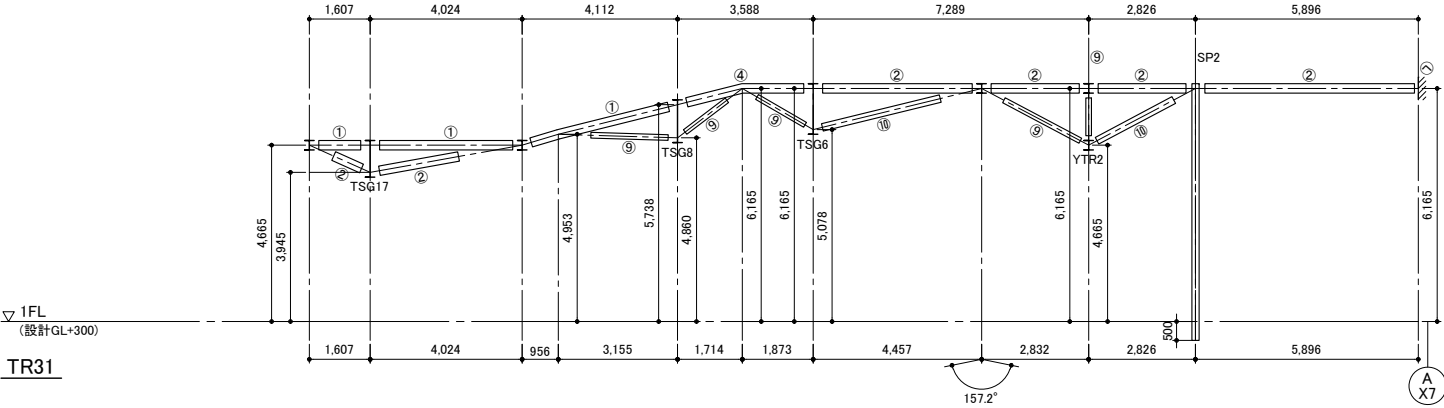
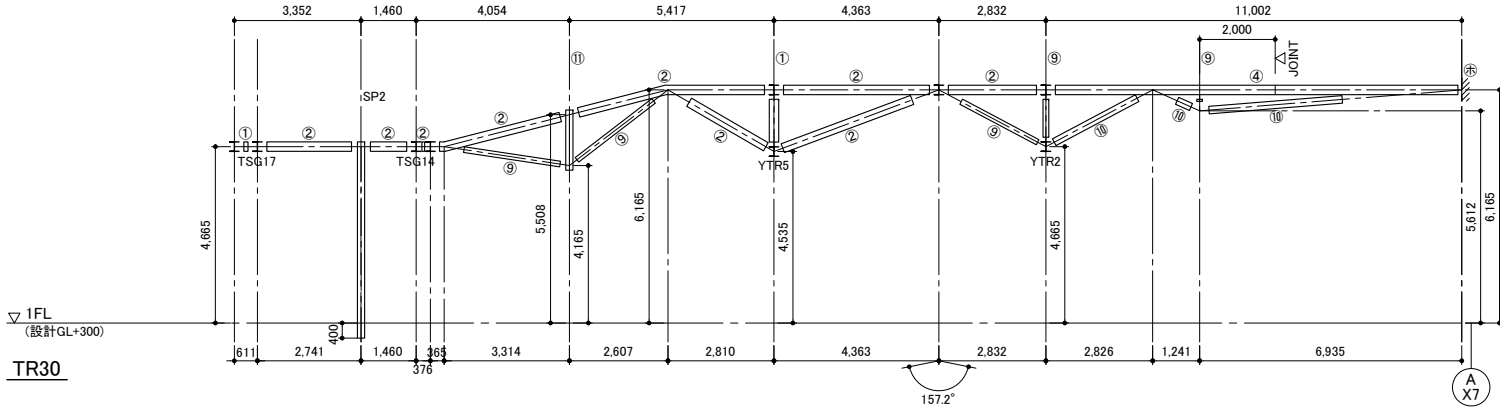
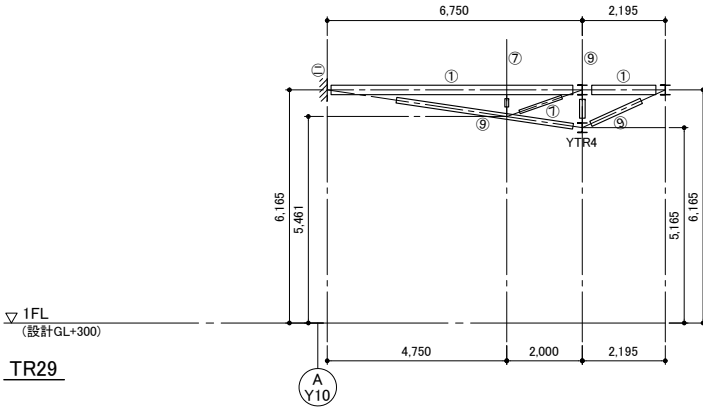
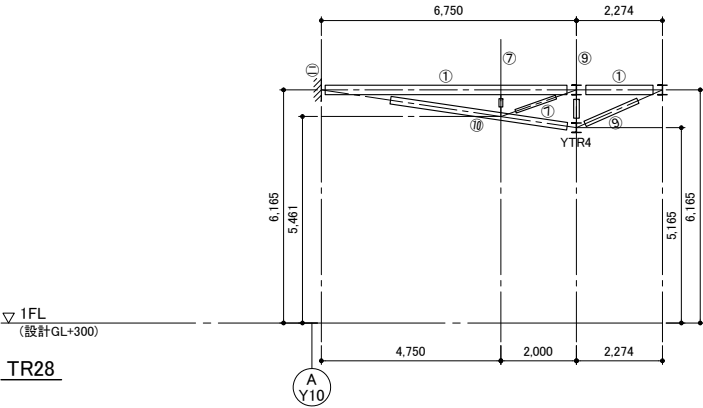
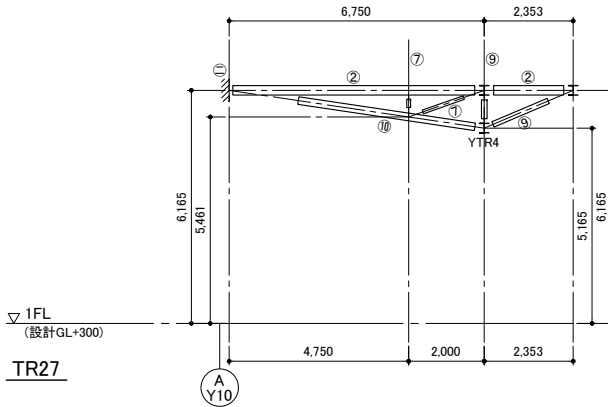
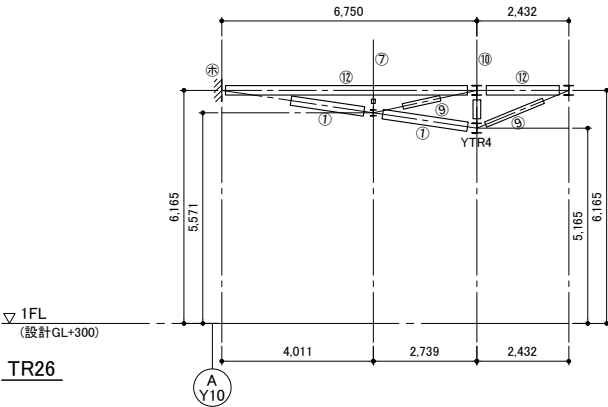
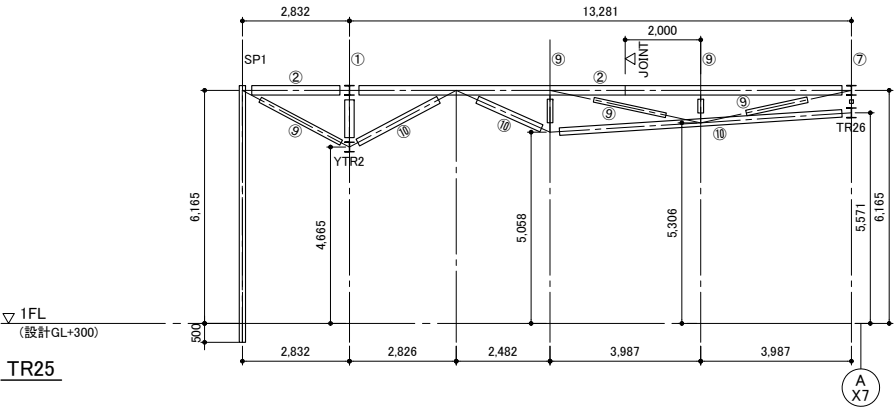


TR21

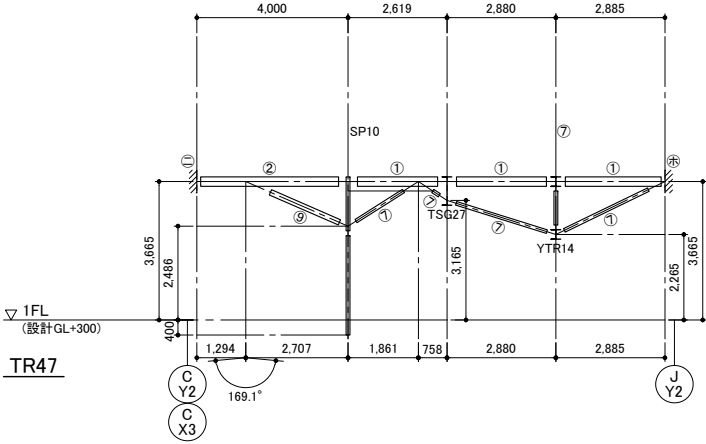
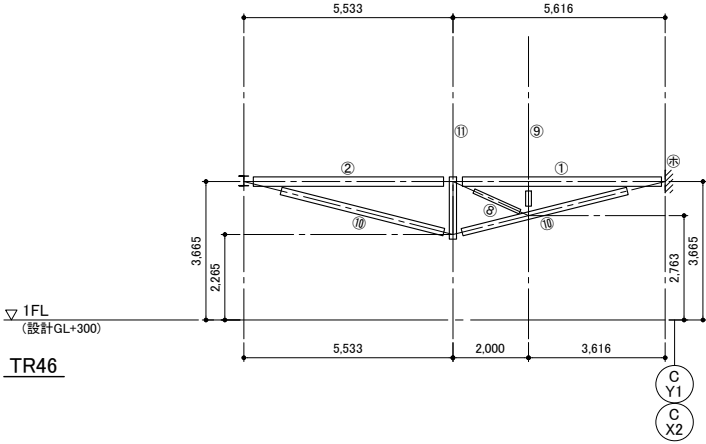
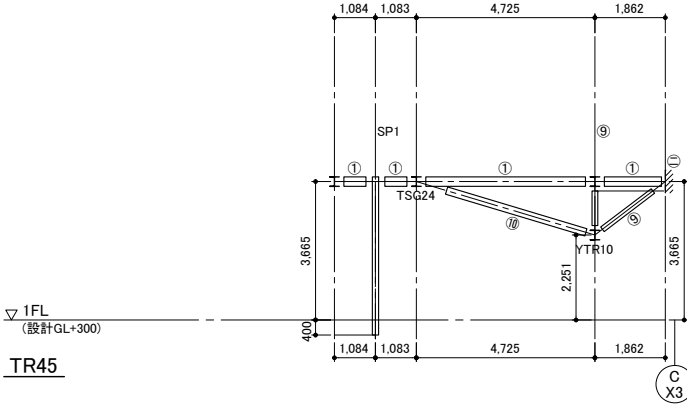
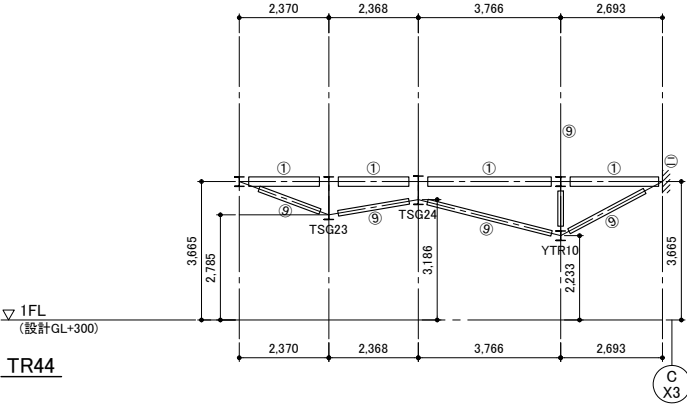
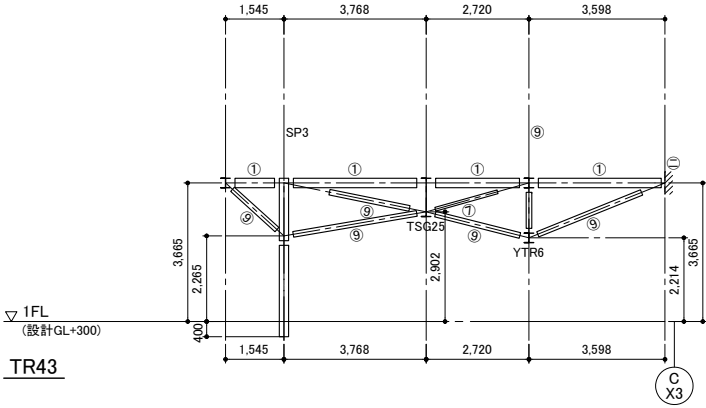
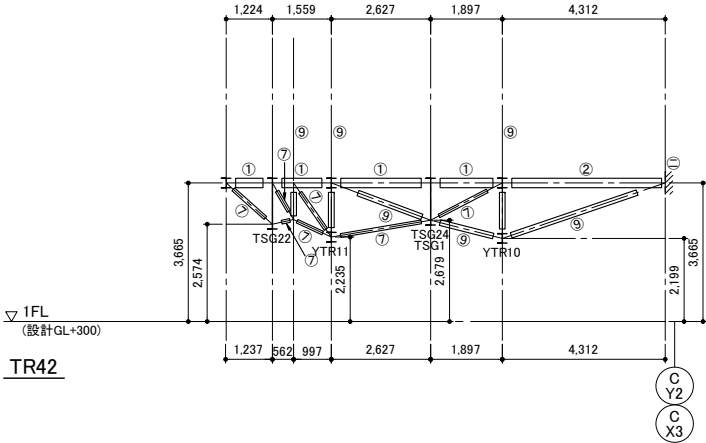
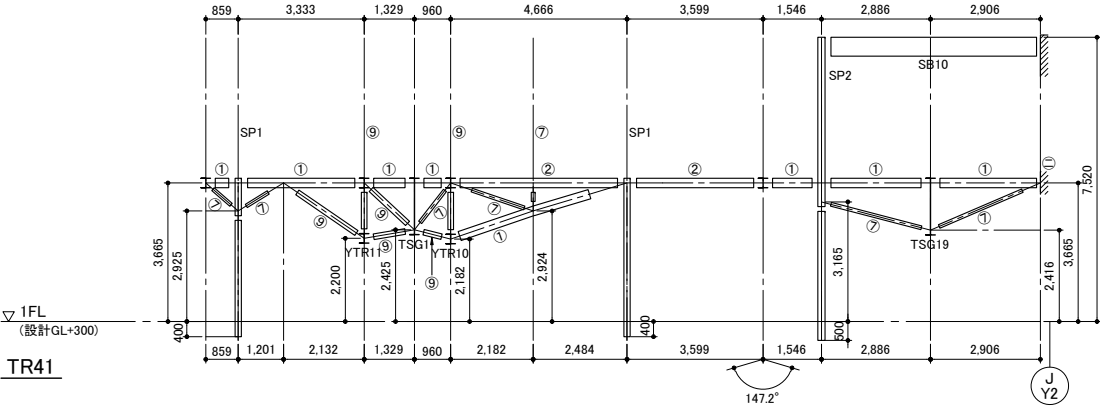
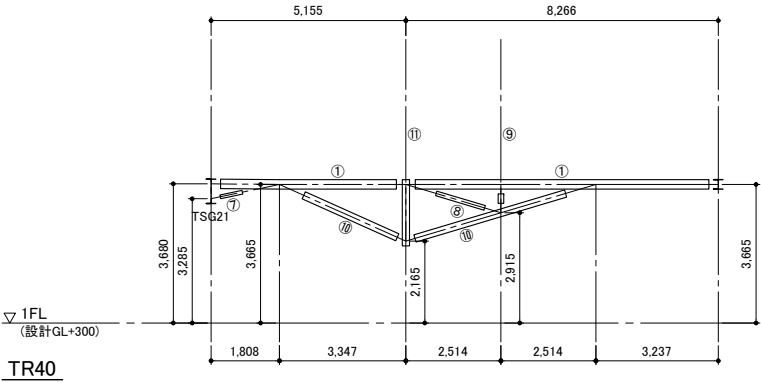
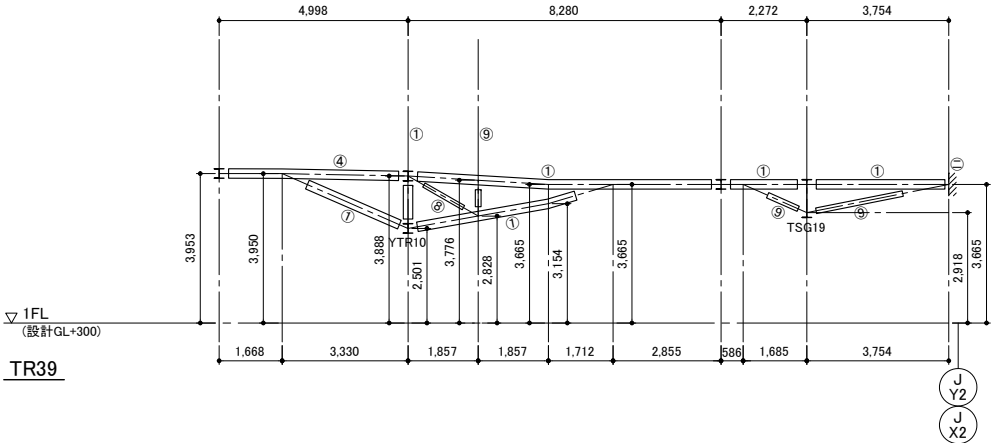
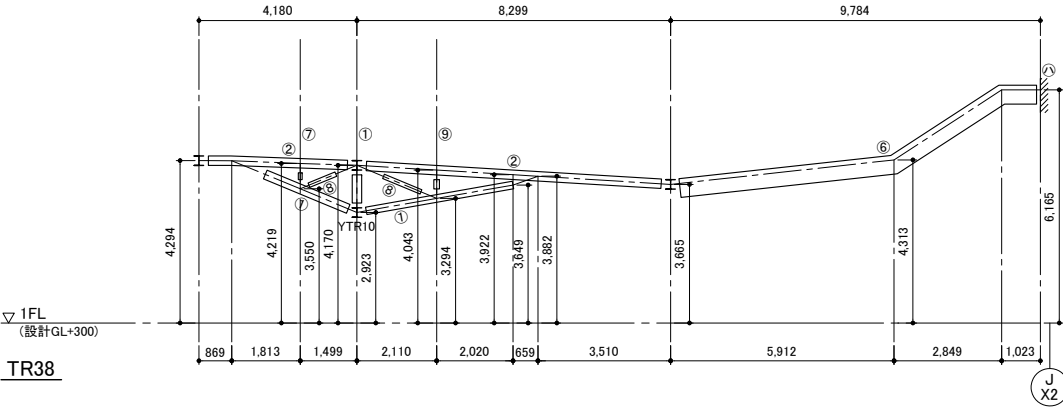
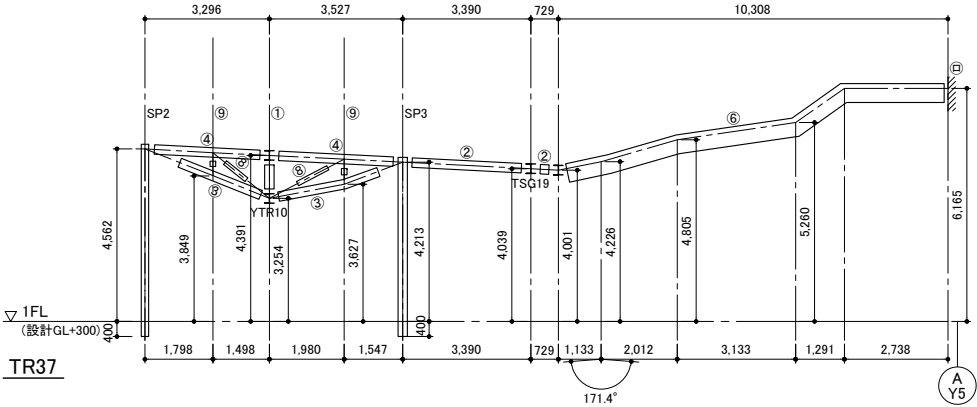
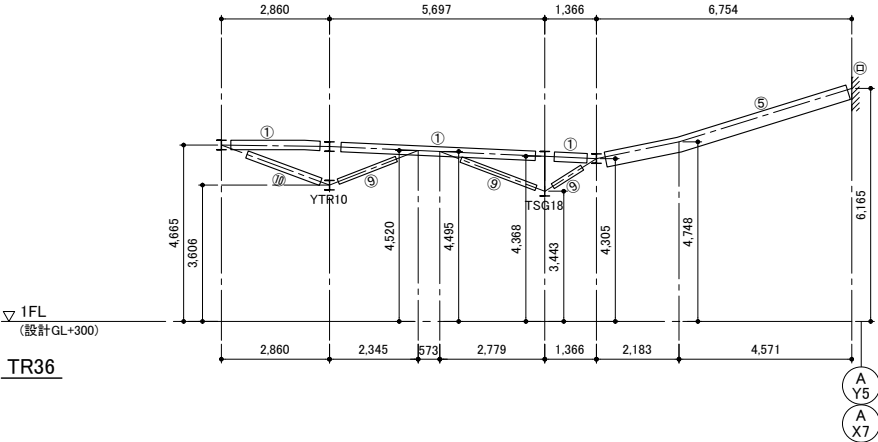
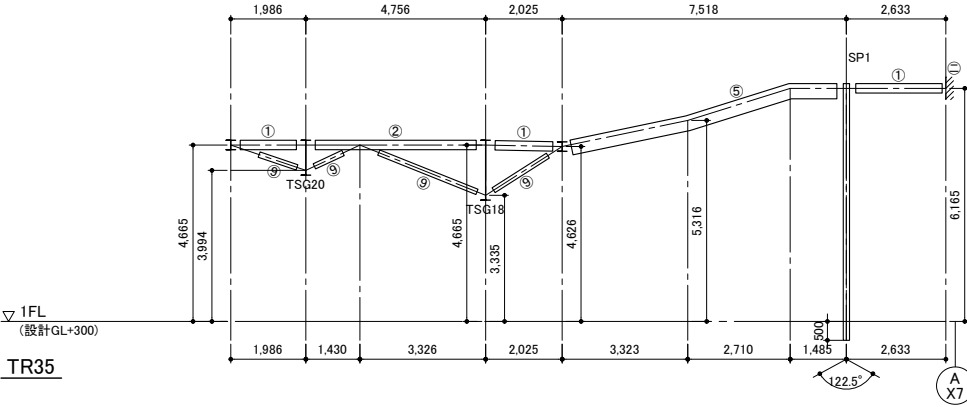


TR24

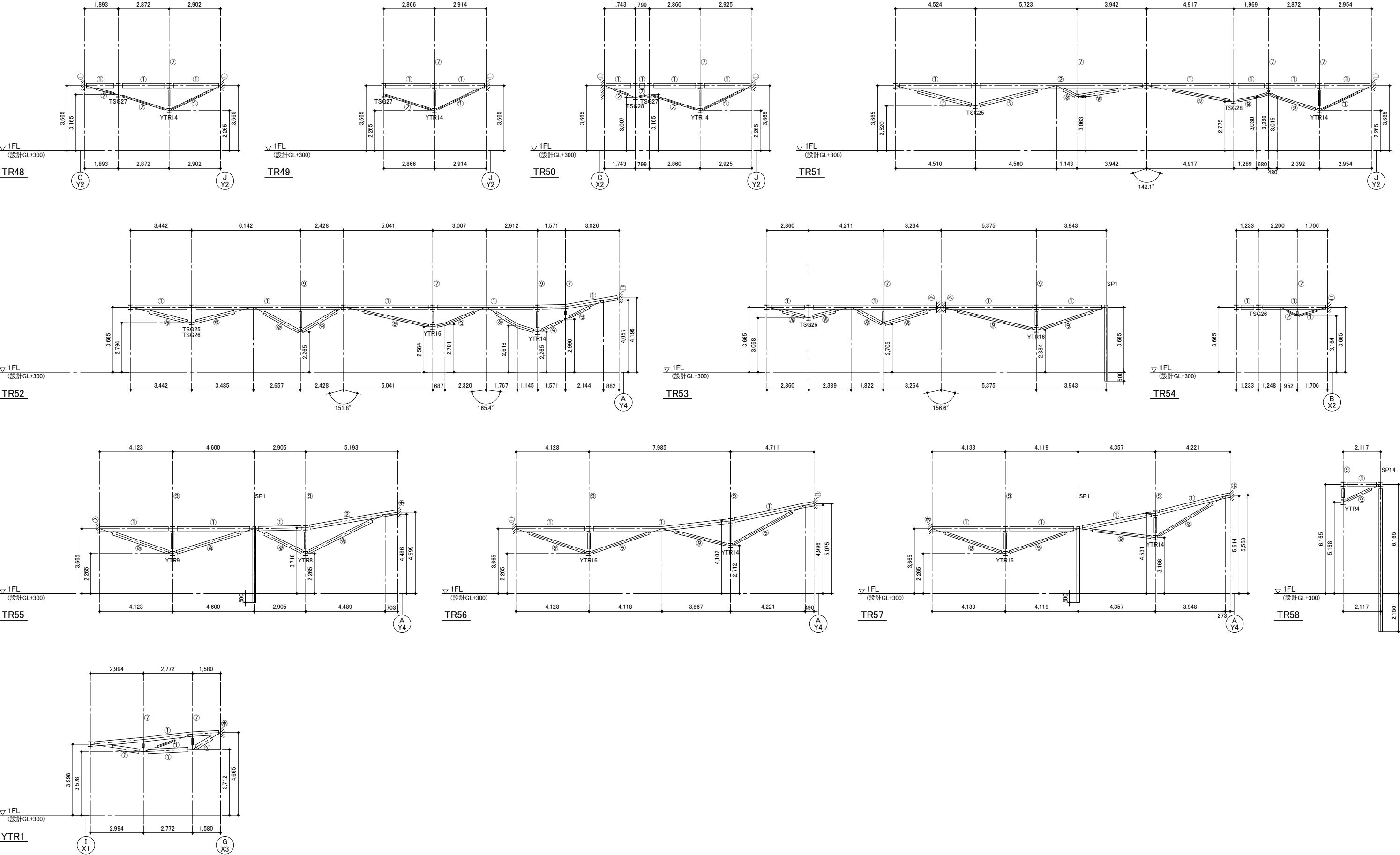
- 特記なき限り
- ⊗ は、鉄骨梁・RC接合部のタイプを示す
 - ≡ は、端部ピン接合を示す



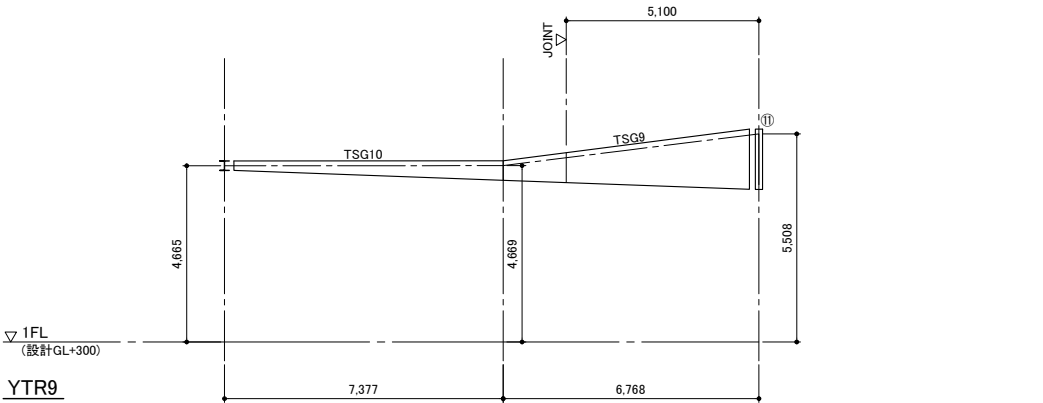
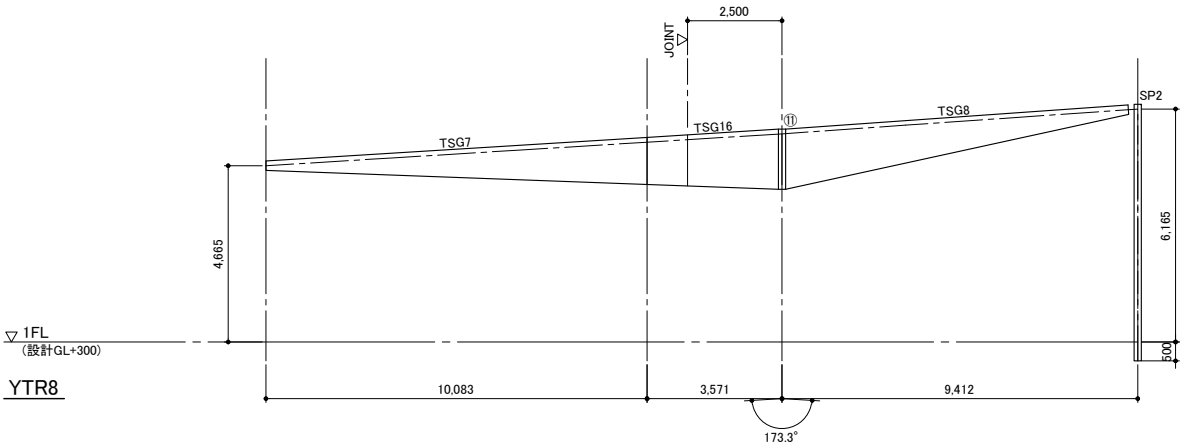
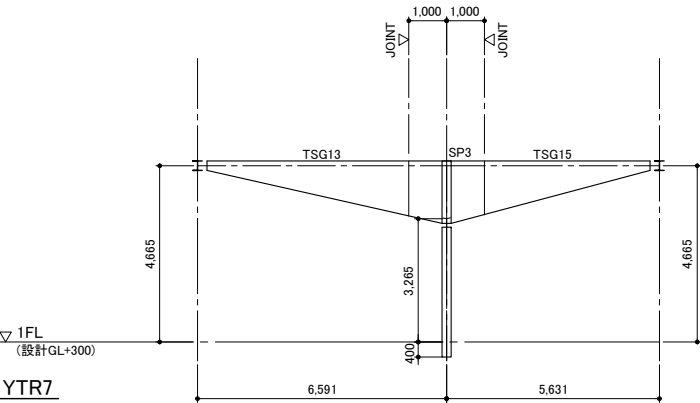
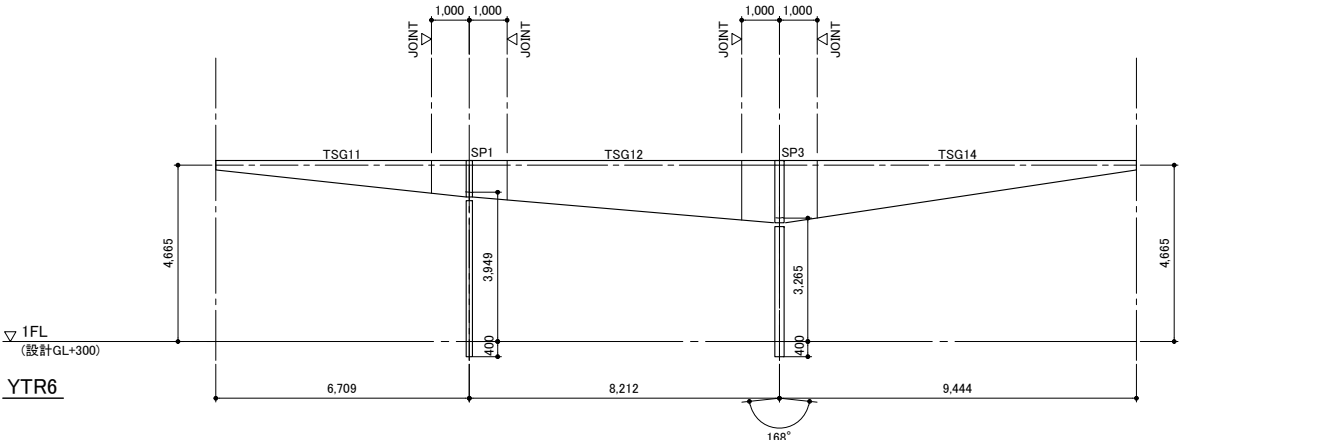
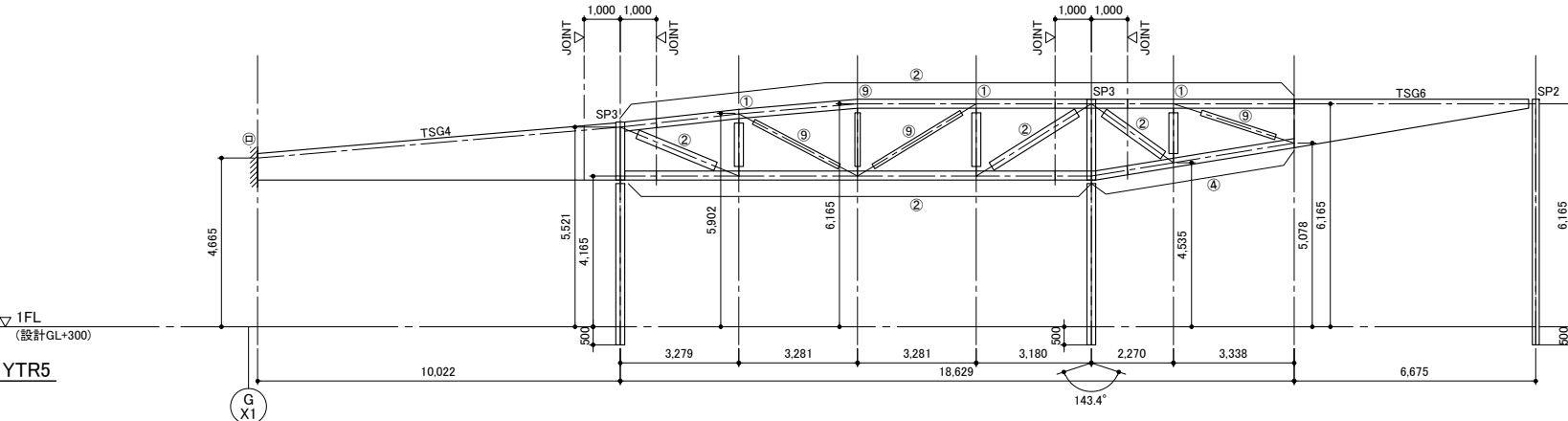
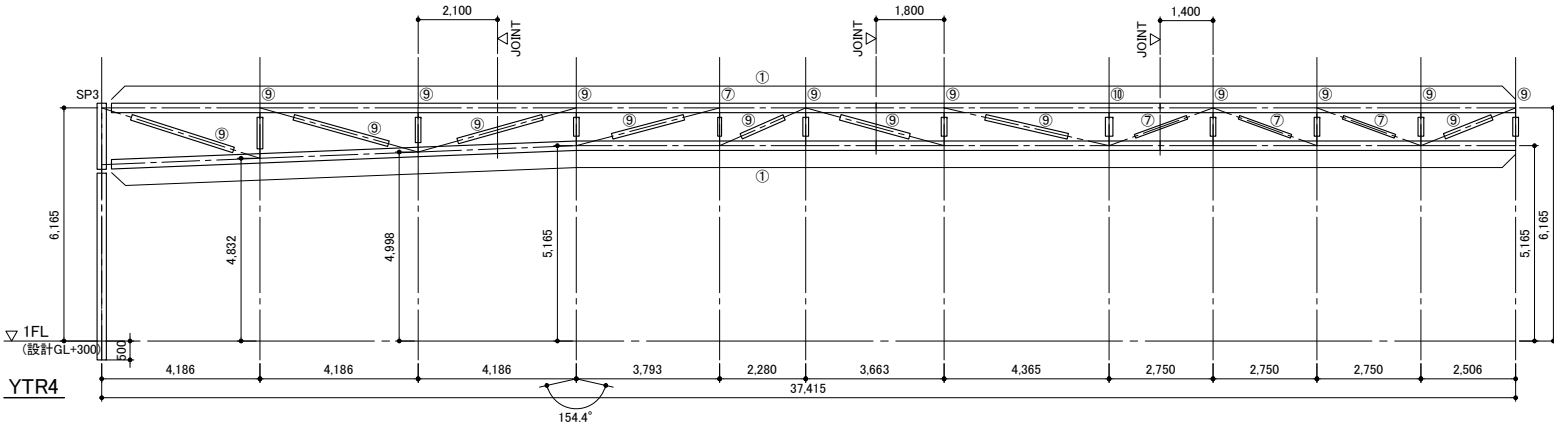
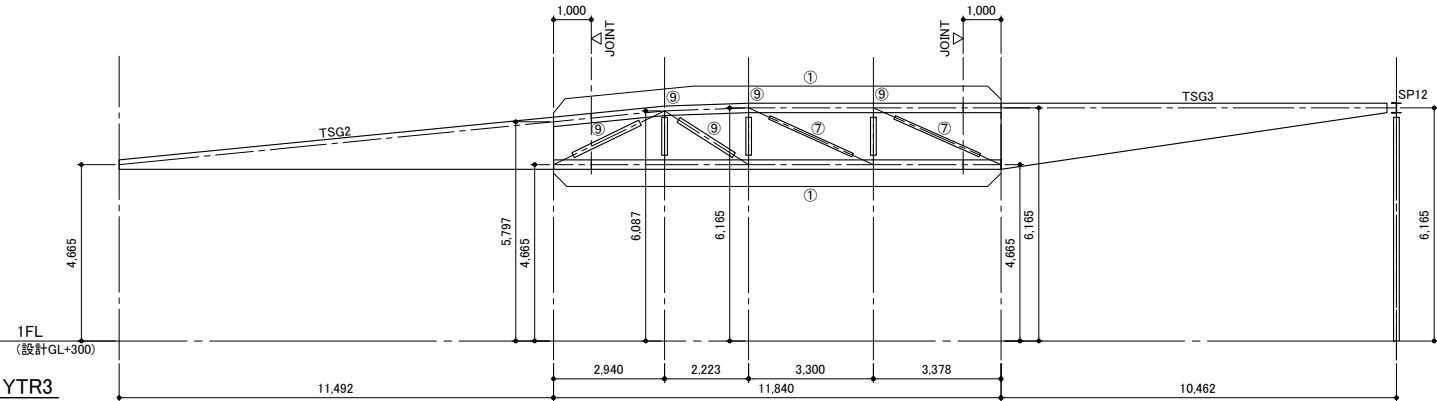
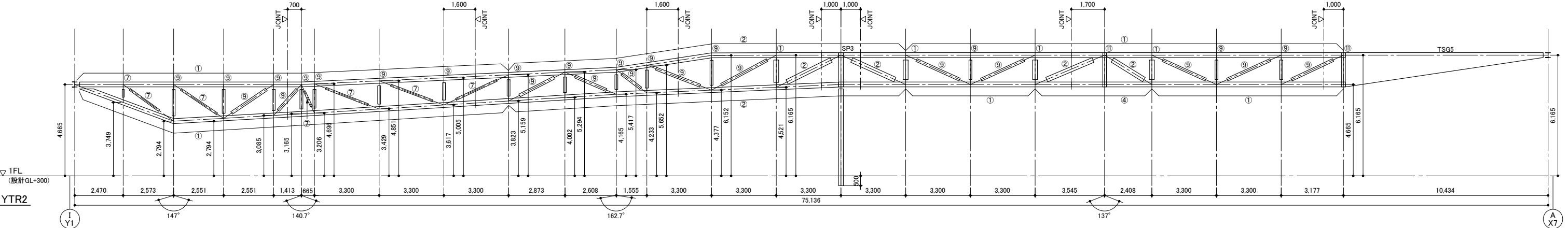
- 特記なき限り
- ⊗ は、鉄骨梁・RC接合部のタイプを示す
 - ≡ は、端部ピン接合を示す



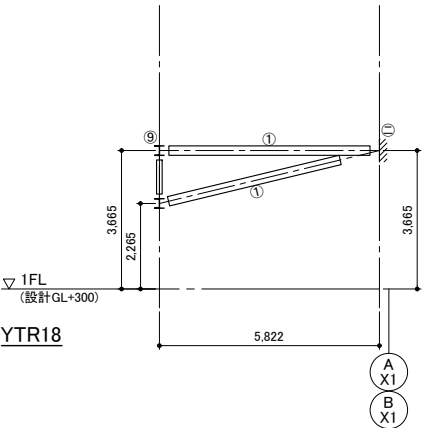
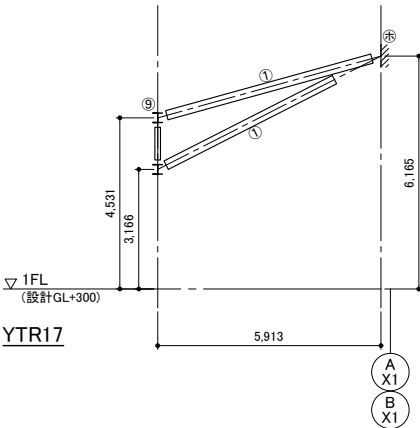
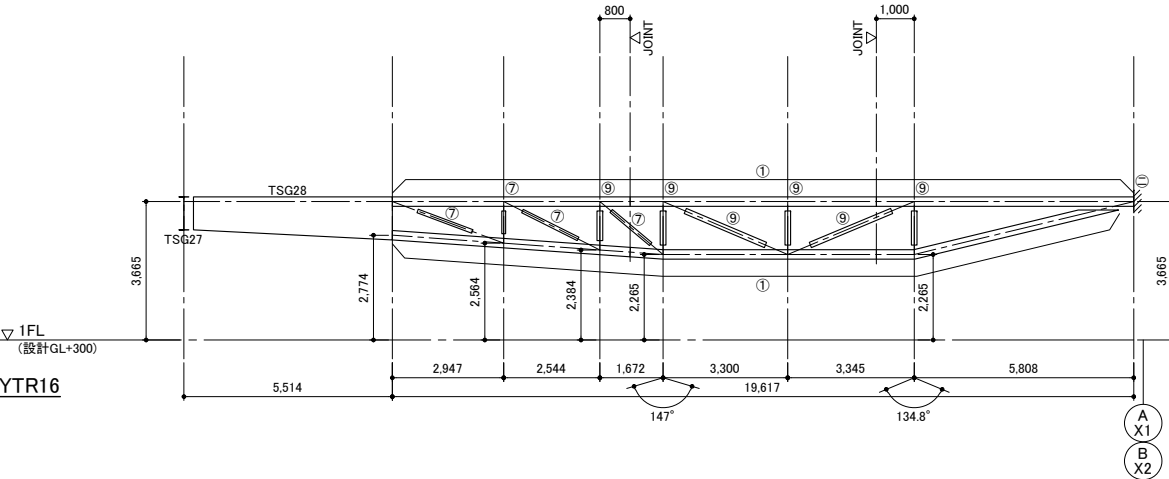
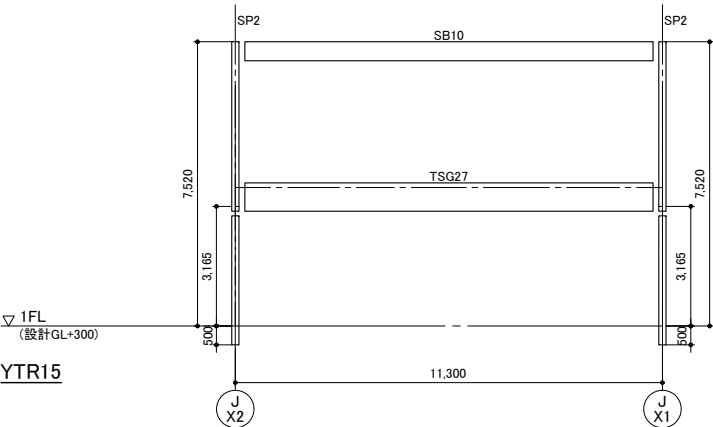
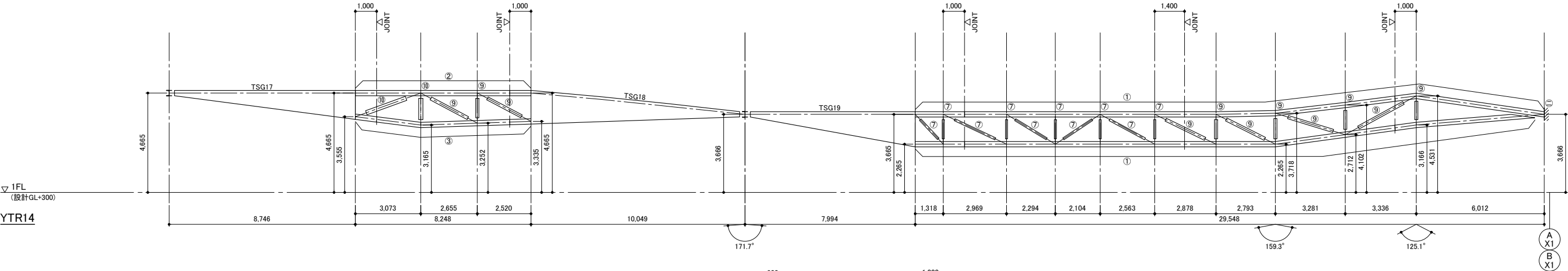
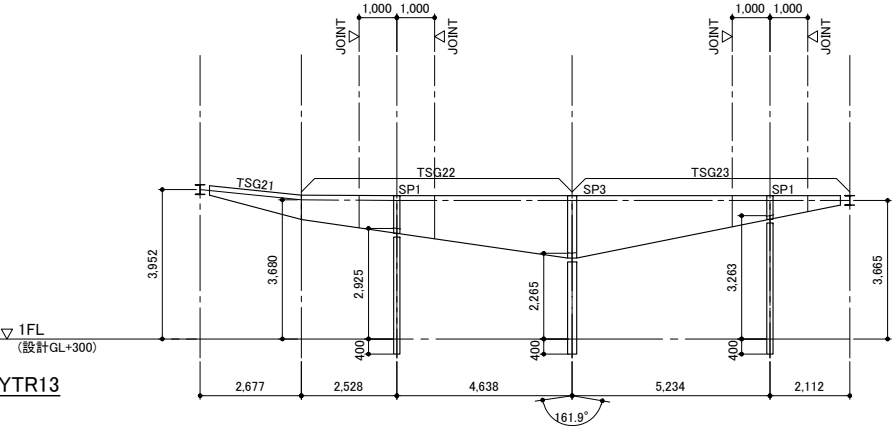
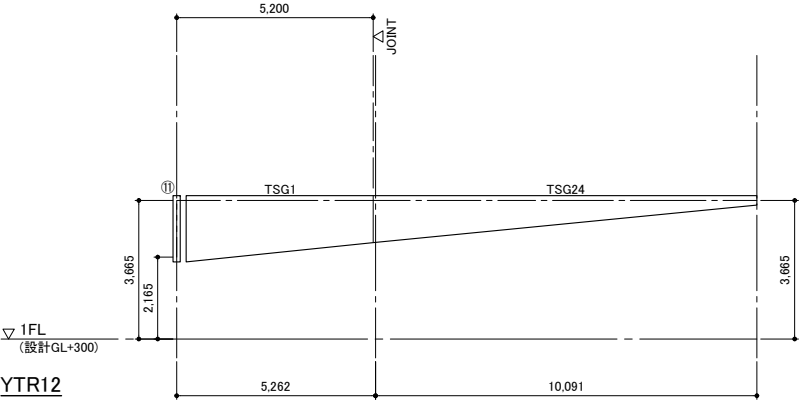
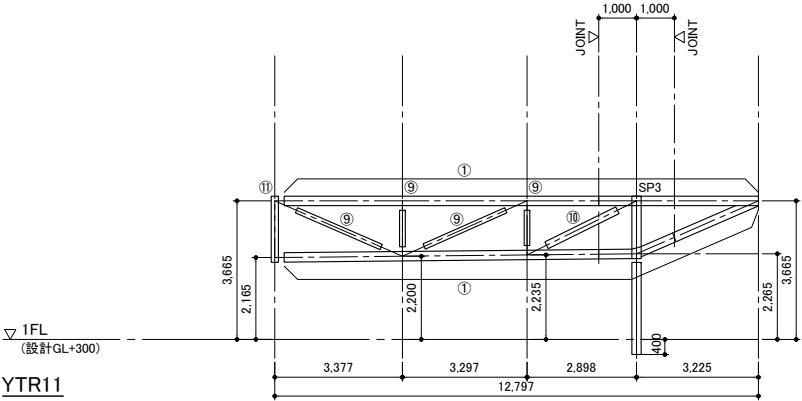
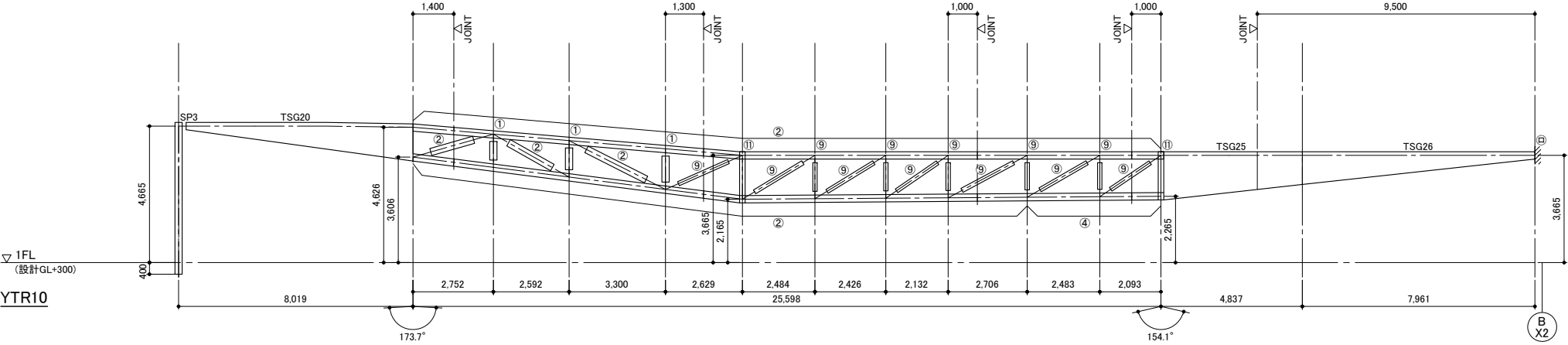
- 特記なき限り
1. ② は、鉄骨梁・RC接合部のタイプを示す
2. ≡ は、端部ピン接合を示す



- 特記なき限り
- 1. ⊗ は、鉄骨梁・RC接合部のタイプを示す
 - 2. ≡ は、端部ピン接合を示す



- 特記なき限り
1. ⑨ は、鉄骨梁・RC接合部のタイプを示す
2. ≡ は、端部ピン接合を示す



鉄骨梁リスト

特記なき限り 1. 鉄骨材質 SN490B 3. GPL・SPL材質 母材と同材質
2. 高力ボルト S10T 4. 接合部要領は、A～Cは、S41:ピン接合タイプにより、④～⑥は、トラス接合部要領による

[illegible]

鉄骨梁・RC接合部リスト

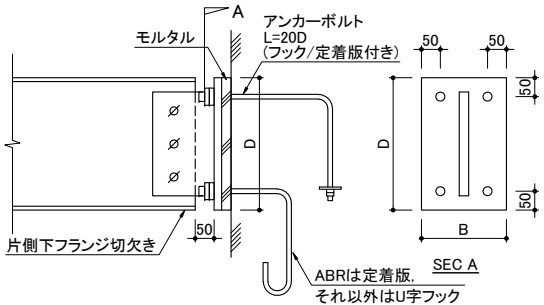
特記なき限り

1. 鉄骨材質 母材と同材質以上
2. アンカーボルト ABR490
3. 接合部要領は、鉄骨梁・RC接合部要領図、アンカーボルト標準詳細図による

TYPE	アンカーボルト		ベースプレート
	ボルト径	本数	厚x水平幅x鉛直幅
①・㊦	M30	2x2	BPL-40x300x290
㊧・㊨	M30	2x4	BPL-40x450x290
㊩・㊪	M30	2x6	BPL-40x650x320

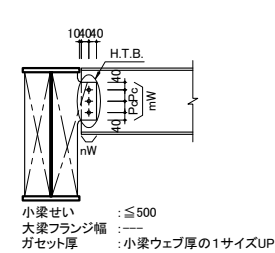
アンカーボルト標準詳細図

※アンカーボルト定着板はアンカーボルト協議会推奨サイズとする



ピン接合GPL形状

TYPE B 1面せん断

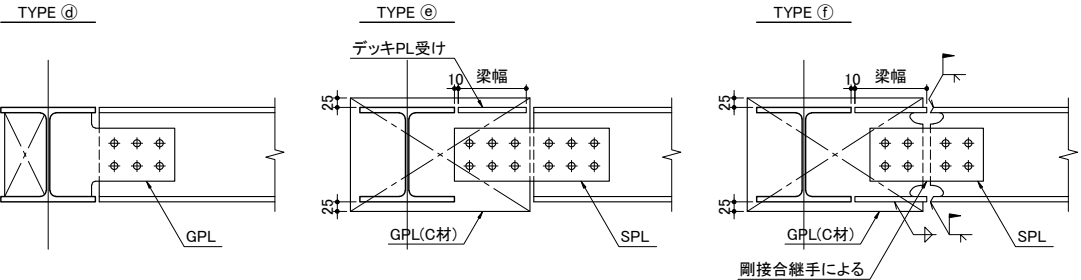


トラス部材リスト

特記なき限り 1. 鉄骨材質 SN490B 3. GPL・SPL材質 母材と同材質
2. 高力ボルト S10T 4. 接合部要領は、トラス接合部要領による

[illegible]

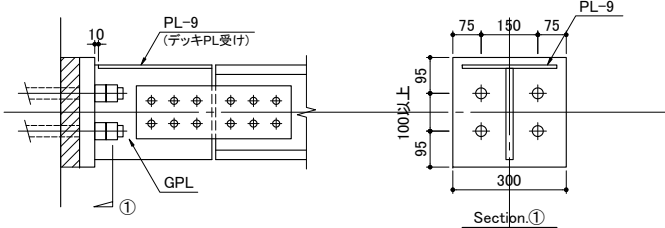
トラス接合部要領図



鉄骨梁・RC接合要領図

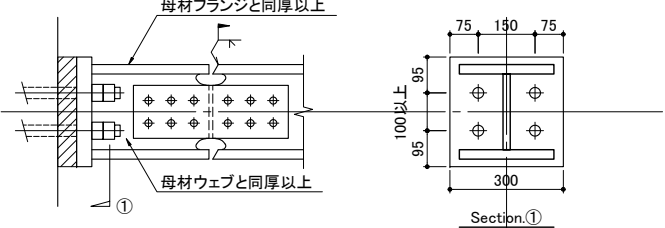
ウェブのみのボルト接合とする場合

TYPE ①

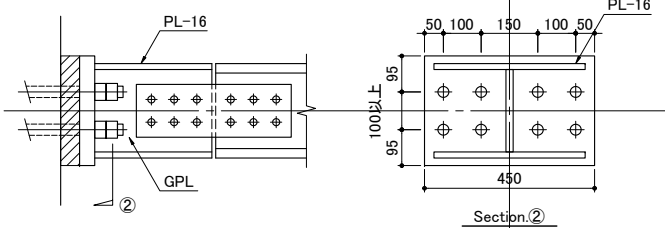
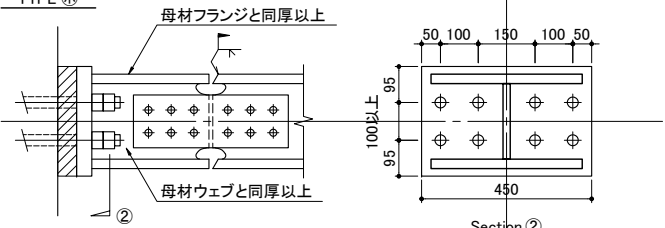


フランジを現場溶接する場合

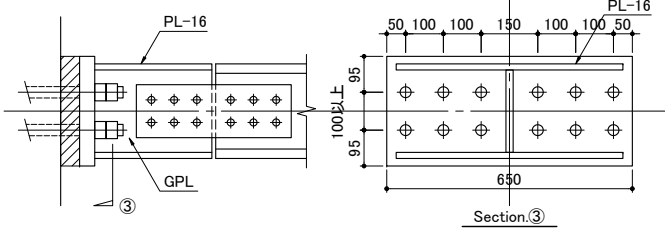
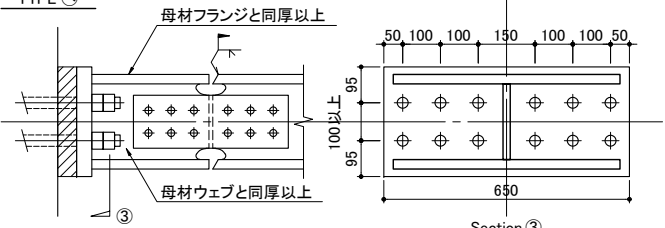
TYPE ②



TYPE

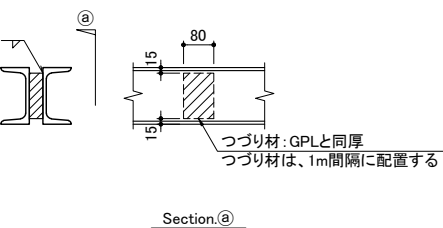
TYPE \oplus 

TYPE ㉧

TYPE 

2L断面つづり材要領図

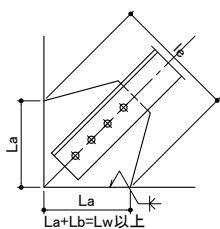
S=1:10

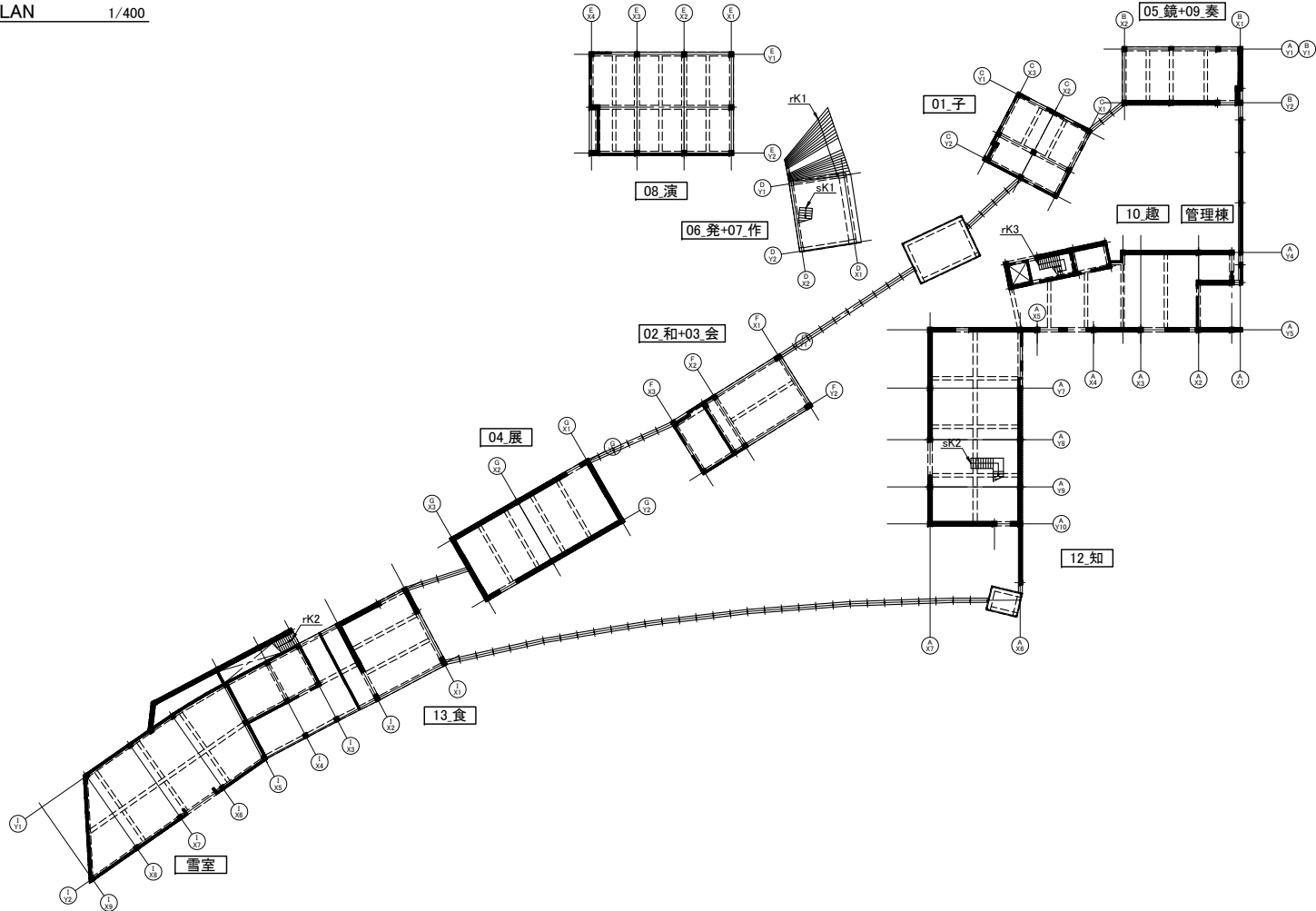


トラス部材接合部溶接長さリスト 特記なき限り 1. Lwは、完全溶け込み溶接(UT外)の必要長さを示す

特記なき限り 1. Lwは、完全溶け込み溶接(UT外)の必要長さを示す

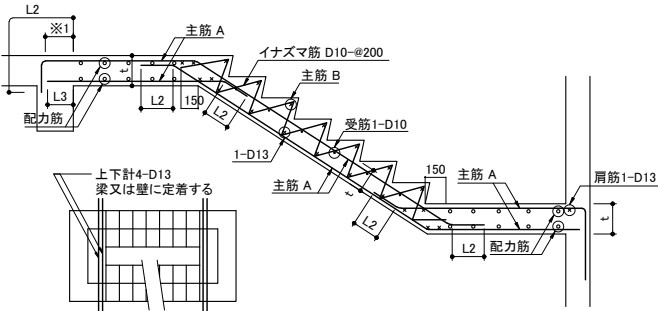
符 号	le	Lw
①	300	300
②	250	250
③	300	300
⑤	260	260
⑥	320	320



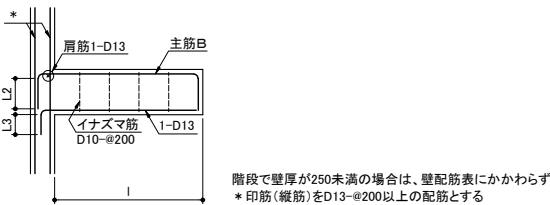


RC階段

1) 標準配筋



※1. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4以上かつ La 以上)

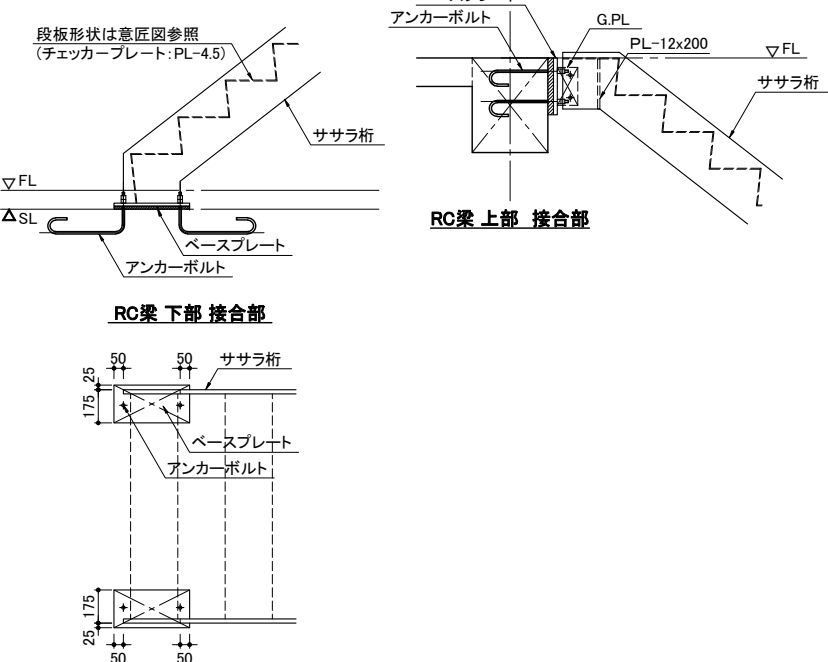


2) 配筋リスト

階段符号	厚さ t	配筋			備考
		主筋 A	主筋 B	配筋筋	
rK1	250	D13-@100	2-D13	D10・D13-@100	
rK2	200	D10・D13-@200	2-D13	D10・D13-@200	1方向階段
rK3	200	D10・D13-@200	2-D13	D10・D13-@100	1方向階段

鉄骨階段

1) 標準架構



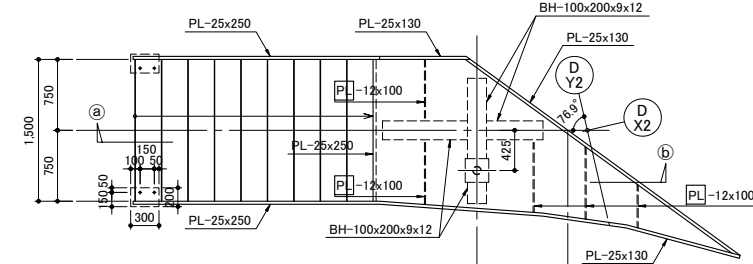
2) 架構断面

階段符号	ササラ桁		RC接合部		S接合部		備考
	断面	材質	ベースプレート	アンカーボルト	G.PL	HTB	
sK1	PL-25x250	SN400B	PL-32	2-M24 (2ヶ所)	—	—	踊り場支持V柱
	φ139.8x6	STK400	PL-22	2-M24	GPL-12	2-M20	
sK2	PL-25x250	SN400B	PL-25	2-M24 (2ヶ所)	GPL-22	2-M24	踊り場吊り材(振動防止材)
	1-φ25	SNR400	PL-25	2-M24	GPL-22	—	

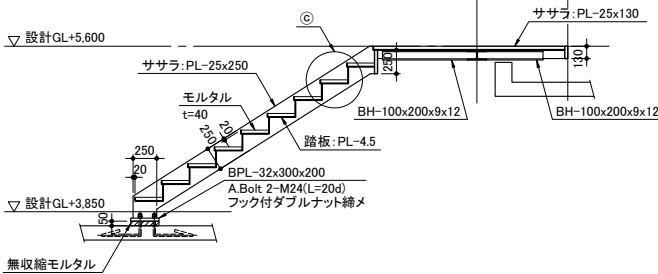
特記なき限り 1.鉄骨材質 SS400 2.高力ボルト S10T 4.BPL・GPL・SPLは、母材と同材質とする
3.アンカーボルト ABR400

特記なき限り 1. 鉄骨材質 無印 SN400B □印 SS400 2. アンカーボルト ABR400
○印 SN400C S10T (屋内階段) 3. 高力ボルト 4. GPL・SPL材質 母材と同材質
F8T (屋外階段) 5. 外部鉄骨は溶融亜鉛メッキ仕上とする

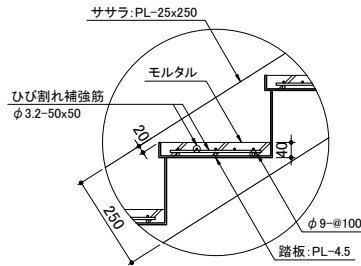
06 発+07 作
屋外階段



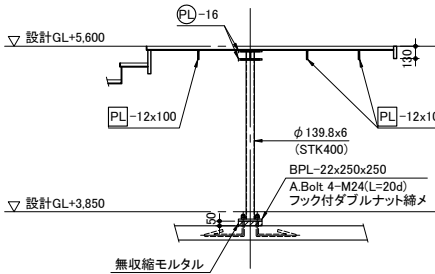
平面詳細図



Section.④



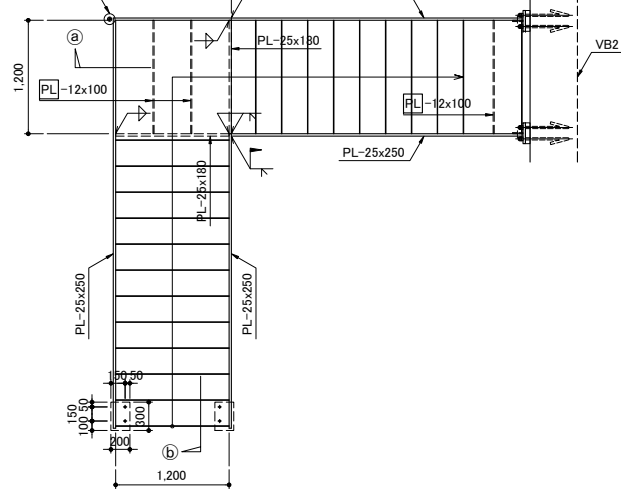
Section.③ 1/10



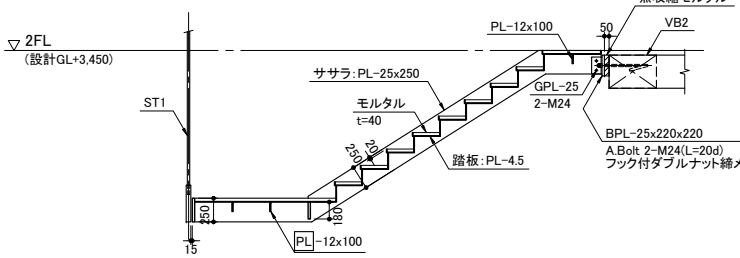
Section.⑤

12 知

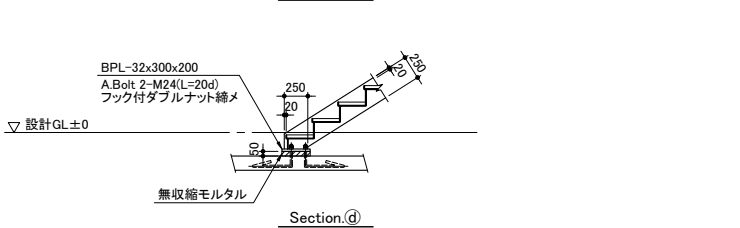
屋内階段



平面詳細図



Section.④



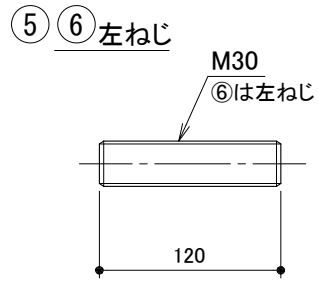
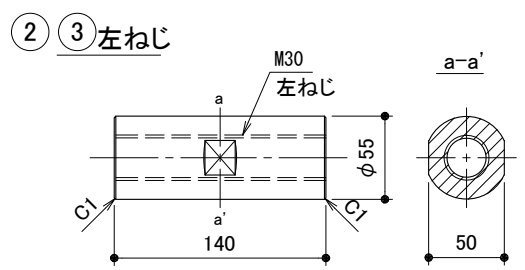
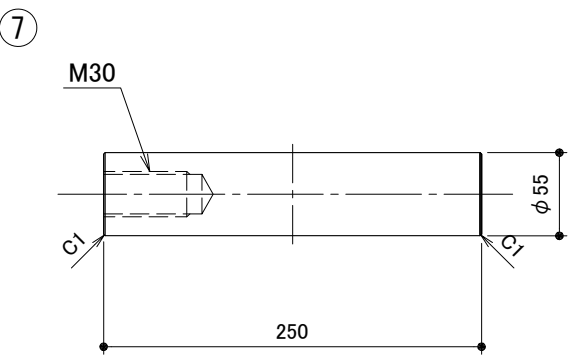
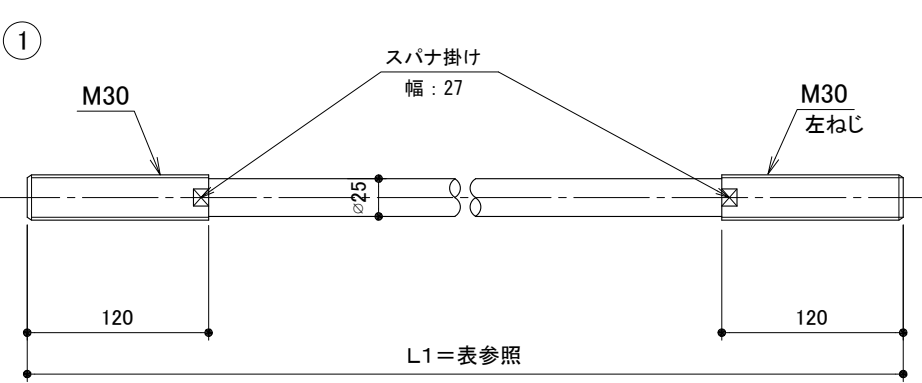
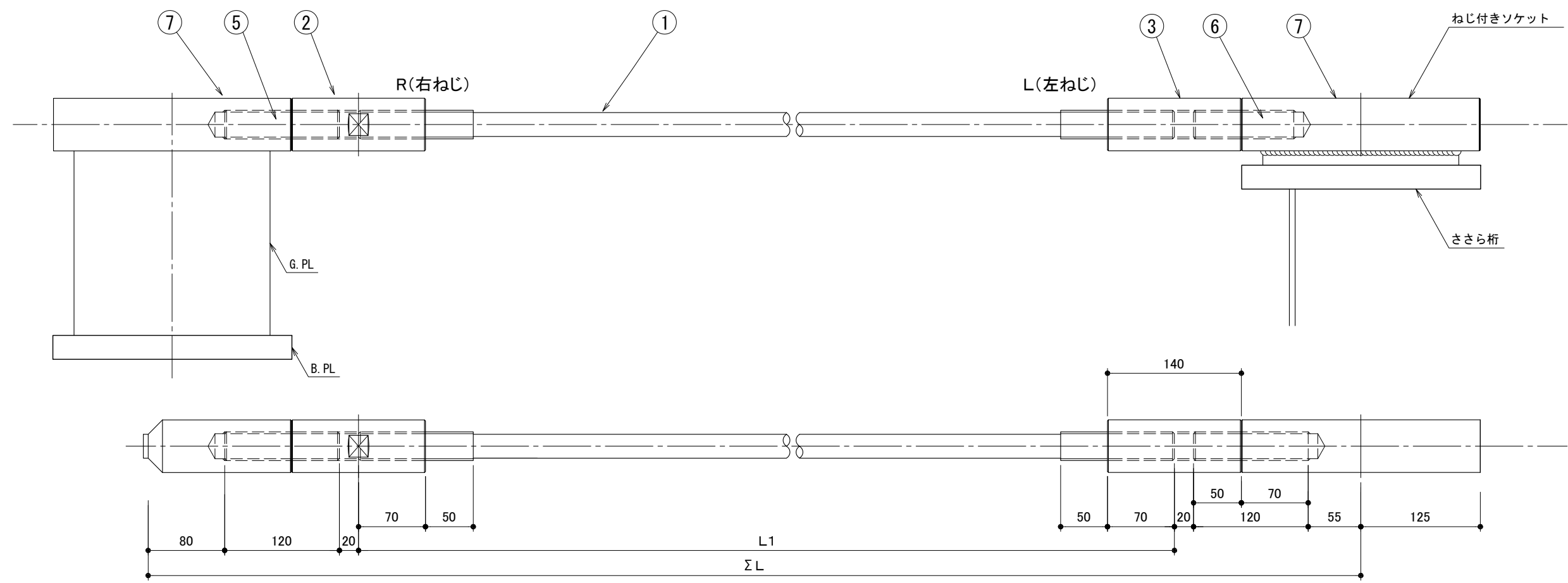
Section.⑤

ST1詳細図

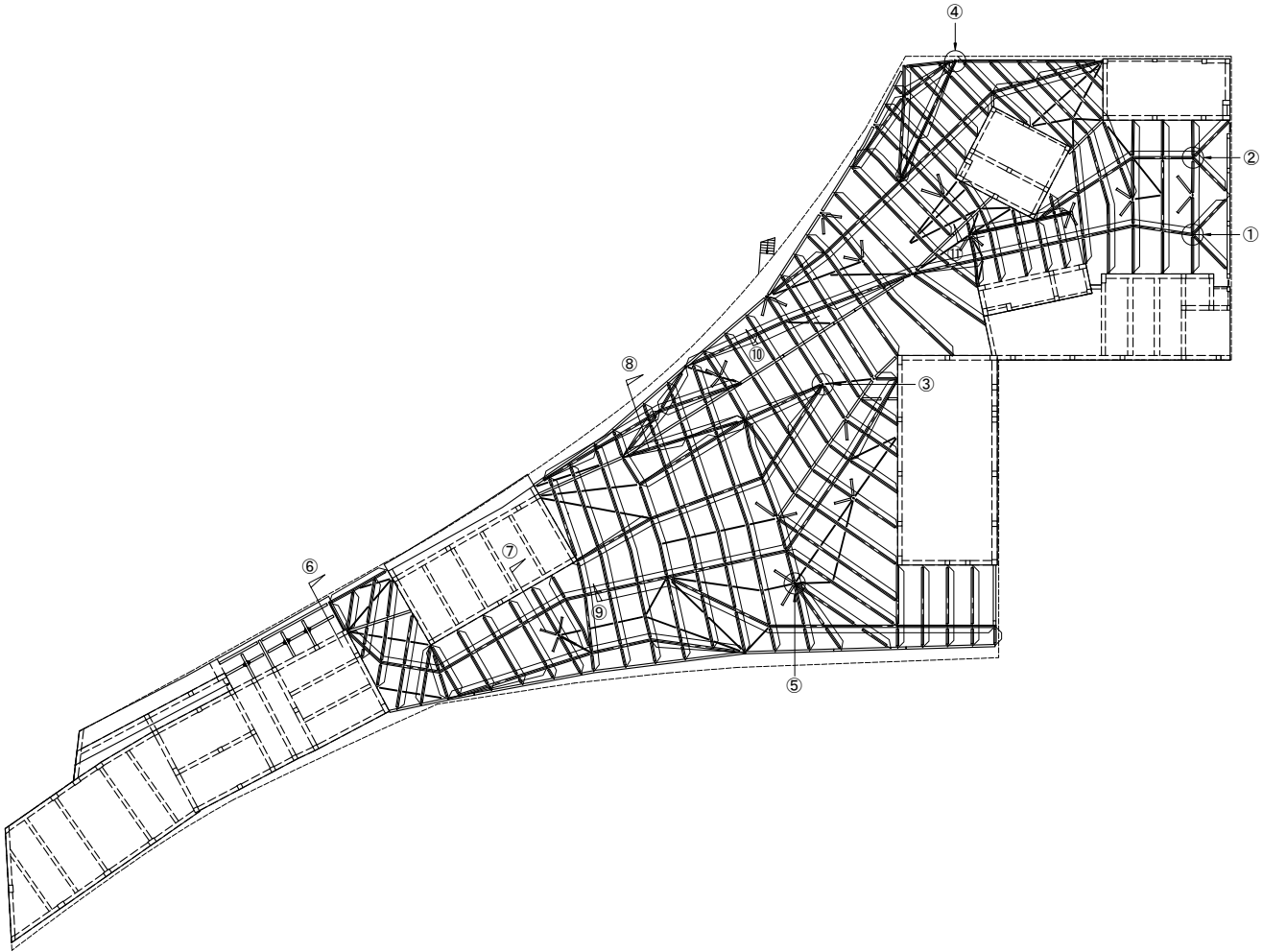
特記なき限り

1. カブラー材質

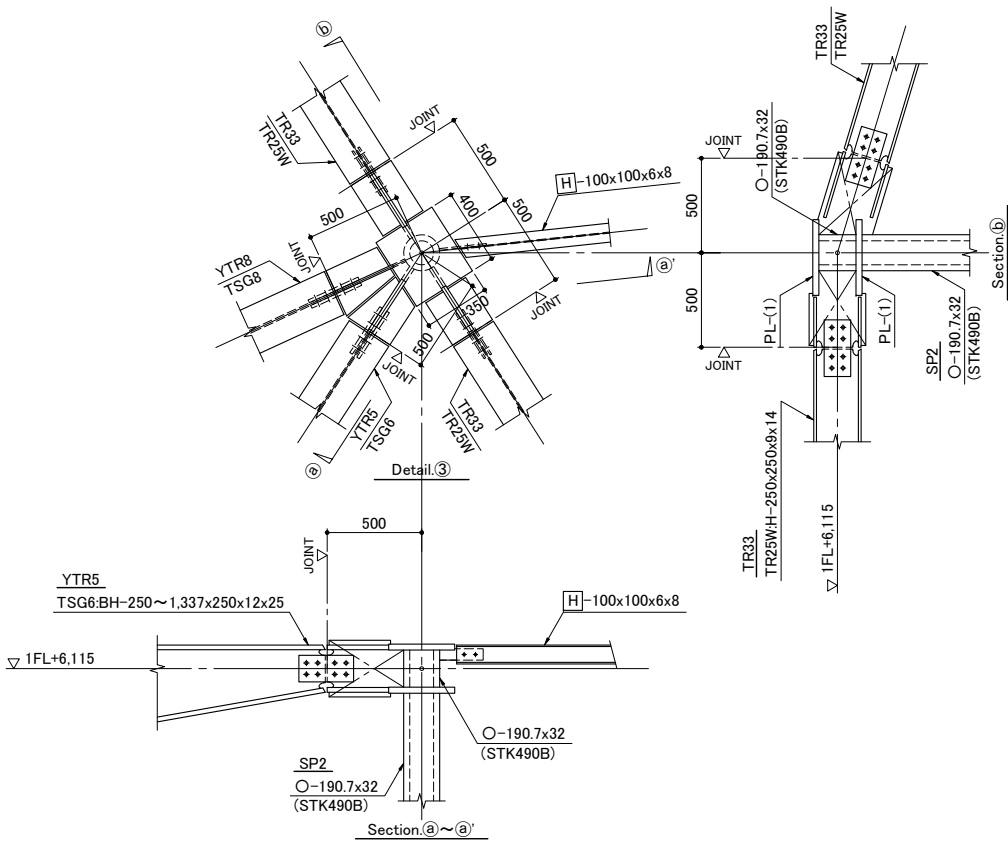
SN490B または SM490A



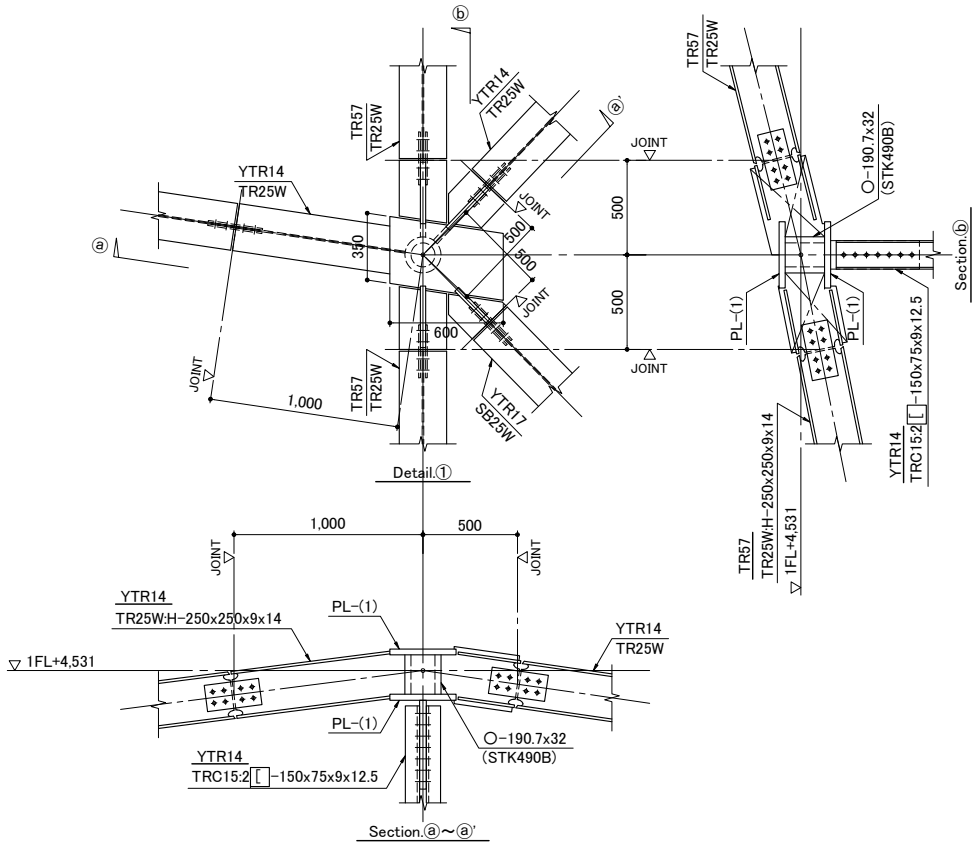
KEY PLAN



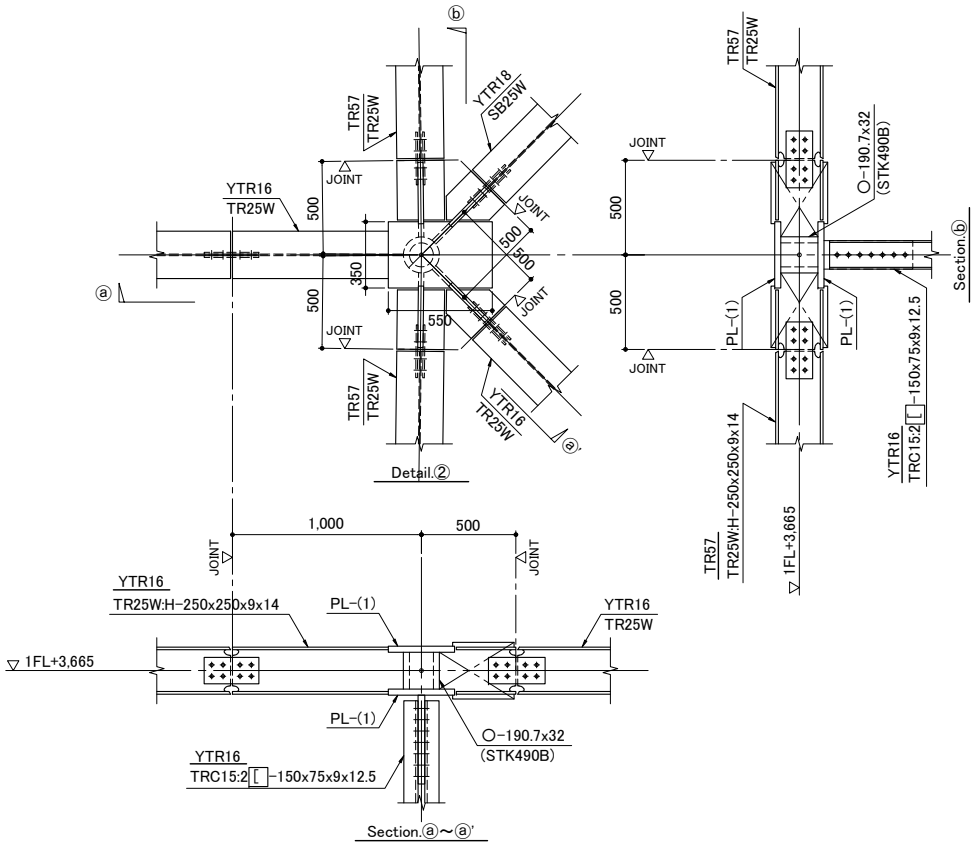
接合部③



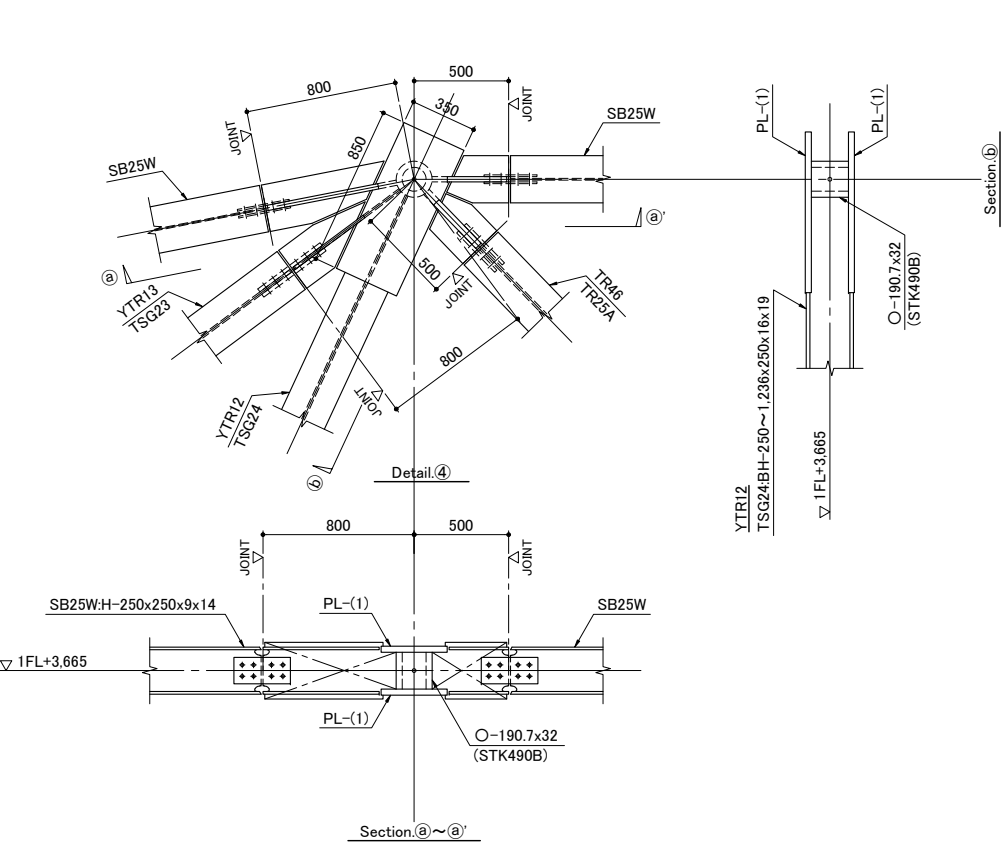
接合部①



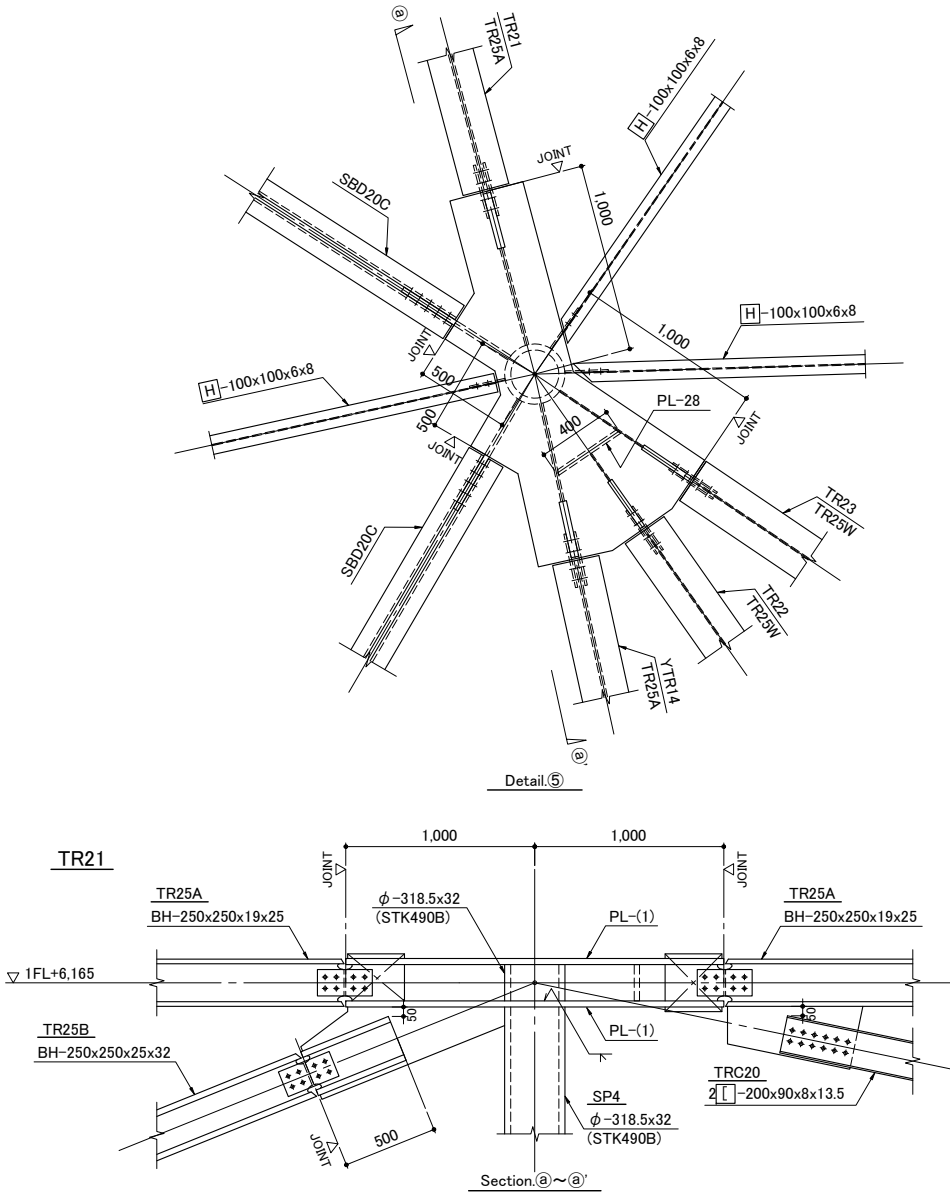
接合部②



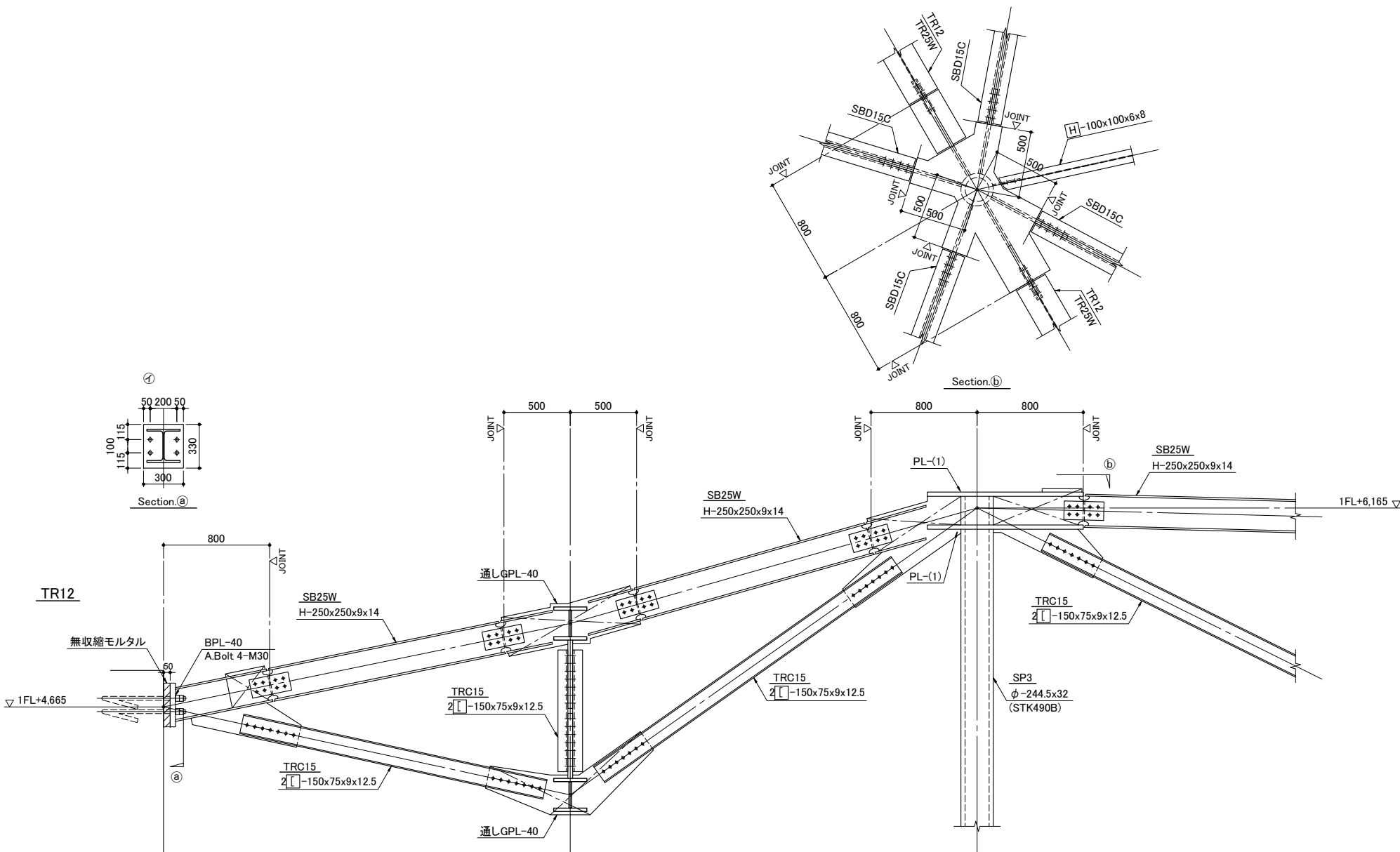
接合部④



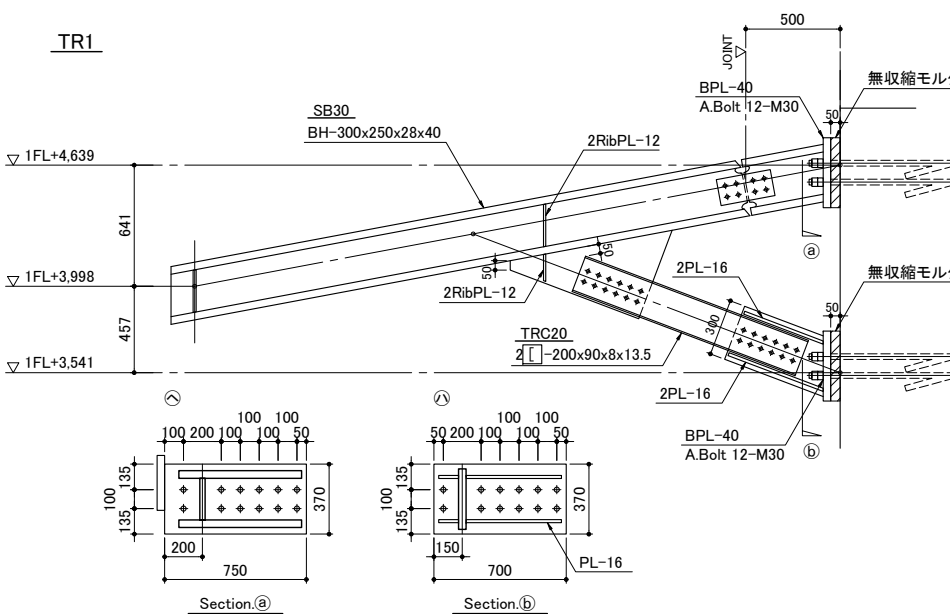
接合部⑤



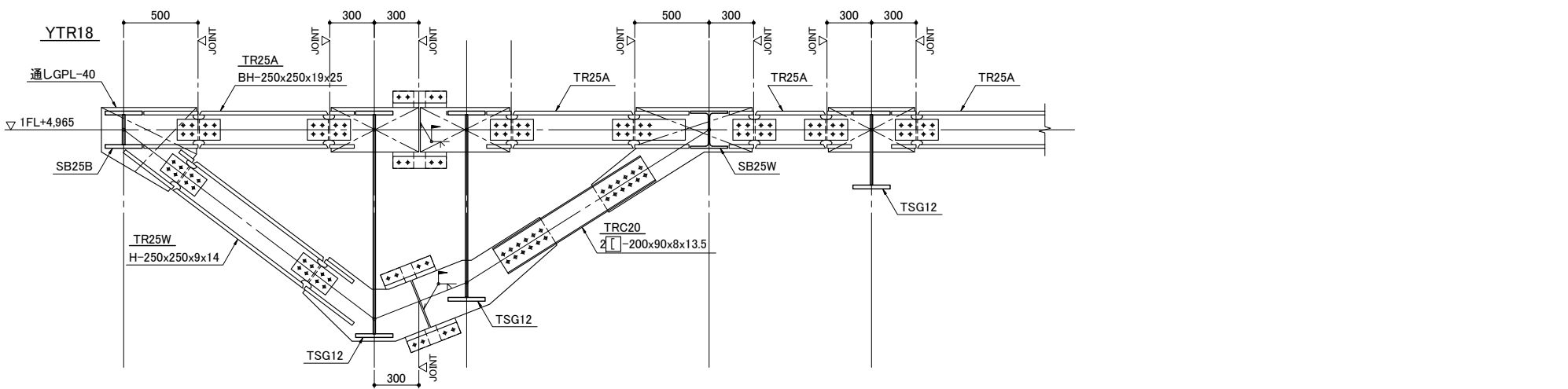
接合部⑦



接合部⑥



接合部⑧

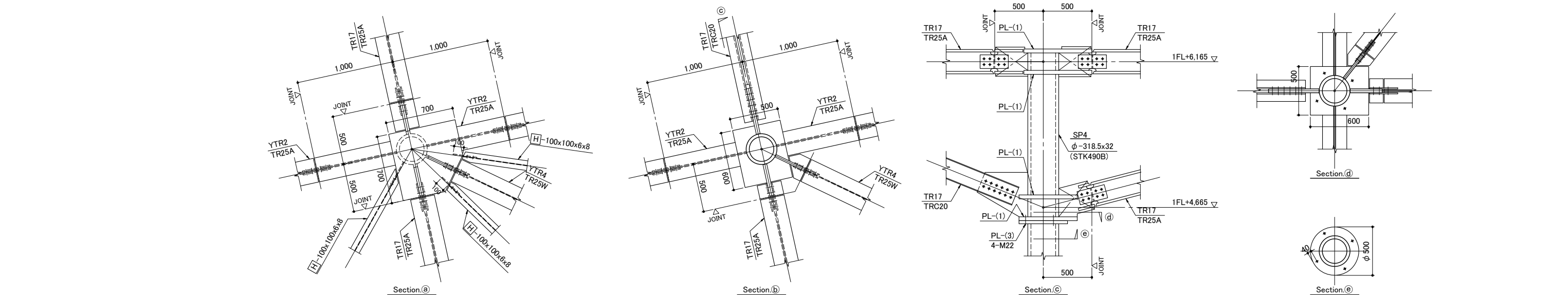


PL-(1): 接合する柱厚以上、かつ、梁フランジ最大厚の2サイズ又は5mmアップとし、鉄骨材質はC材とする。

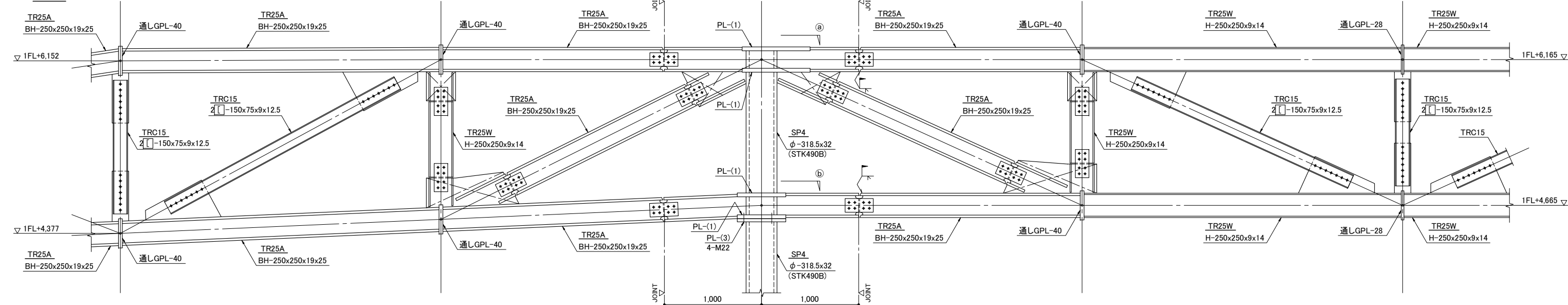
PL-(2): 接合する柱・梁フランジの最大厚以上とし、同材質とする。

PL-(3): 接合する柱と同厚とし、鉄骨材質はC材とする。

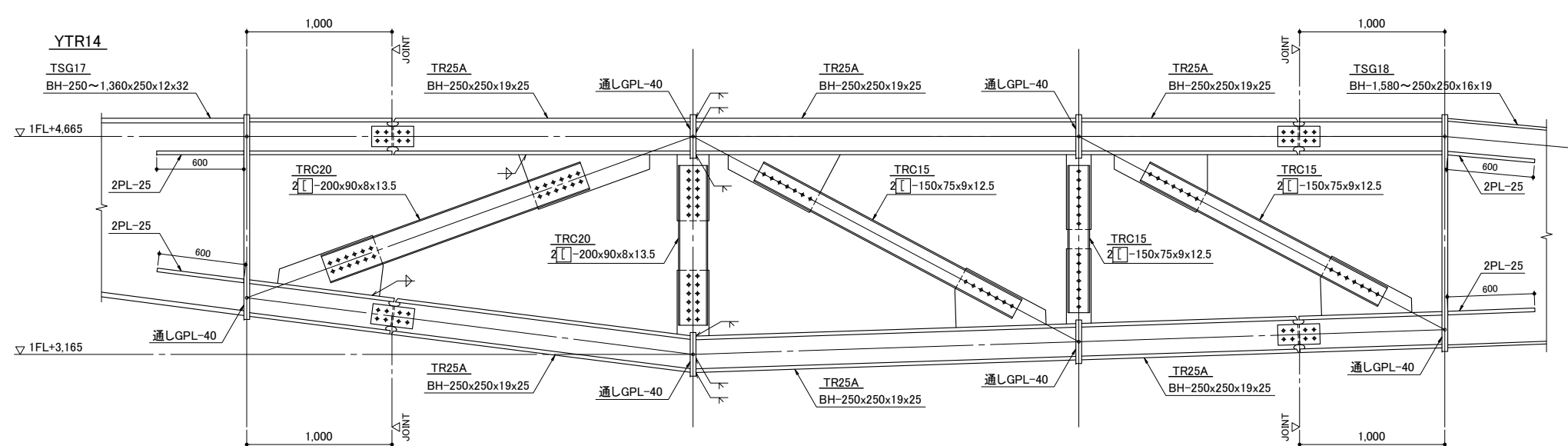
接合部⑨



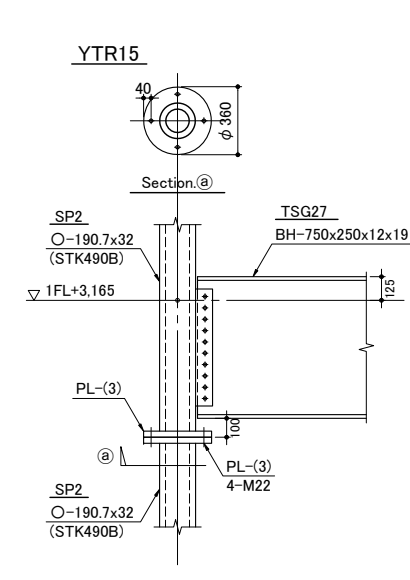
YTR2



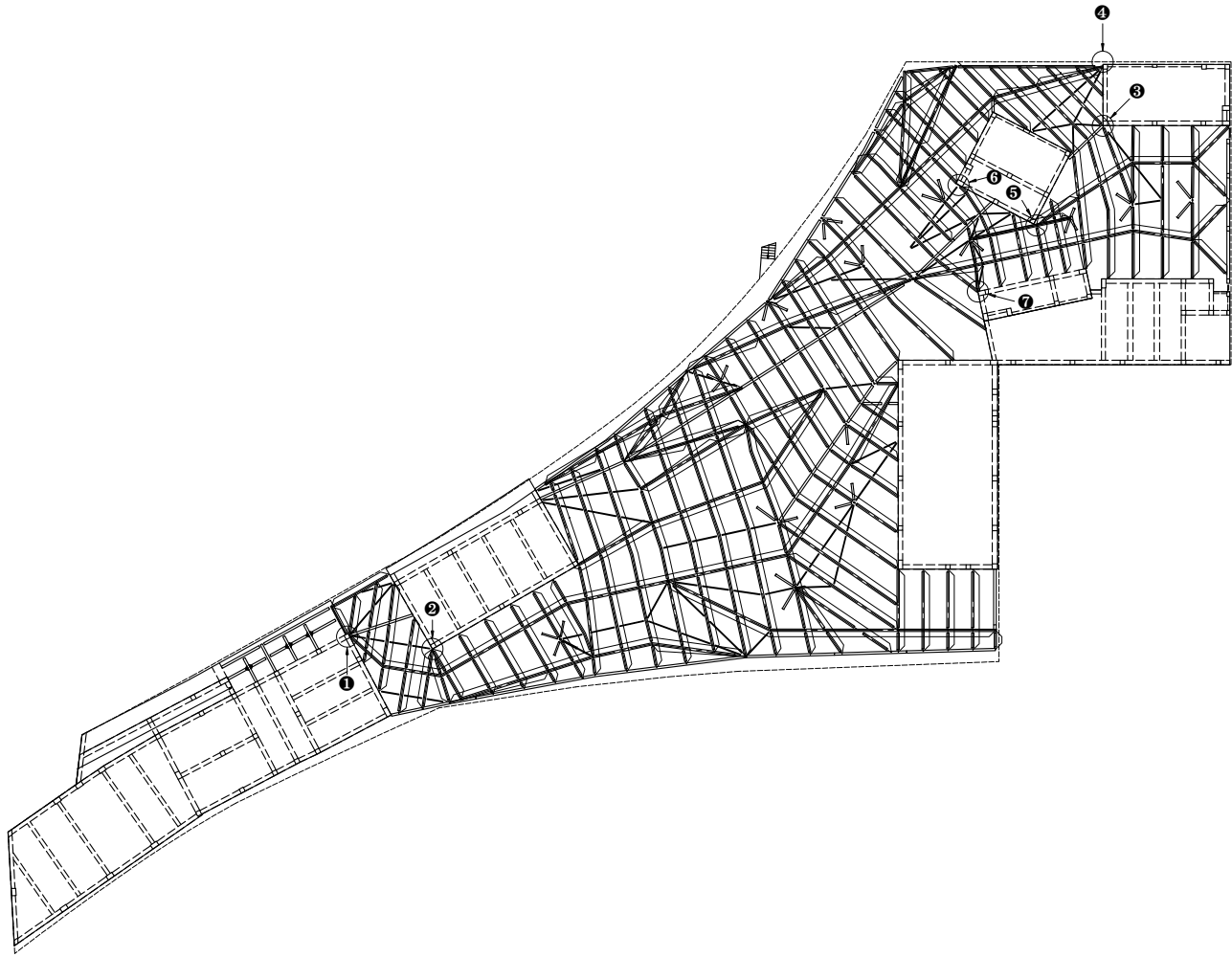
接合部⑩



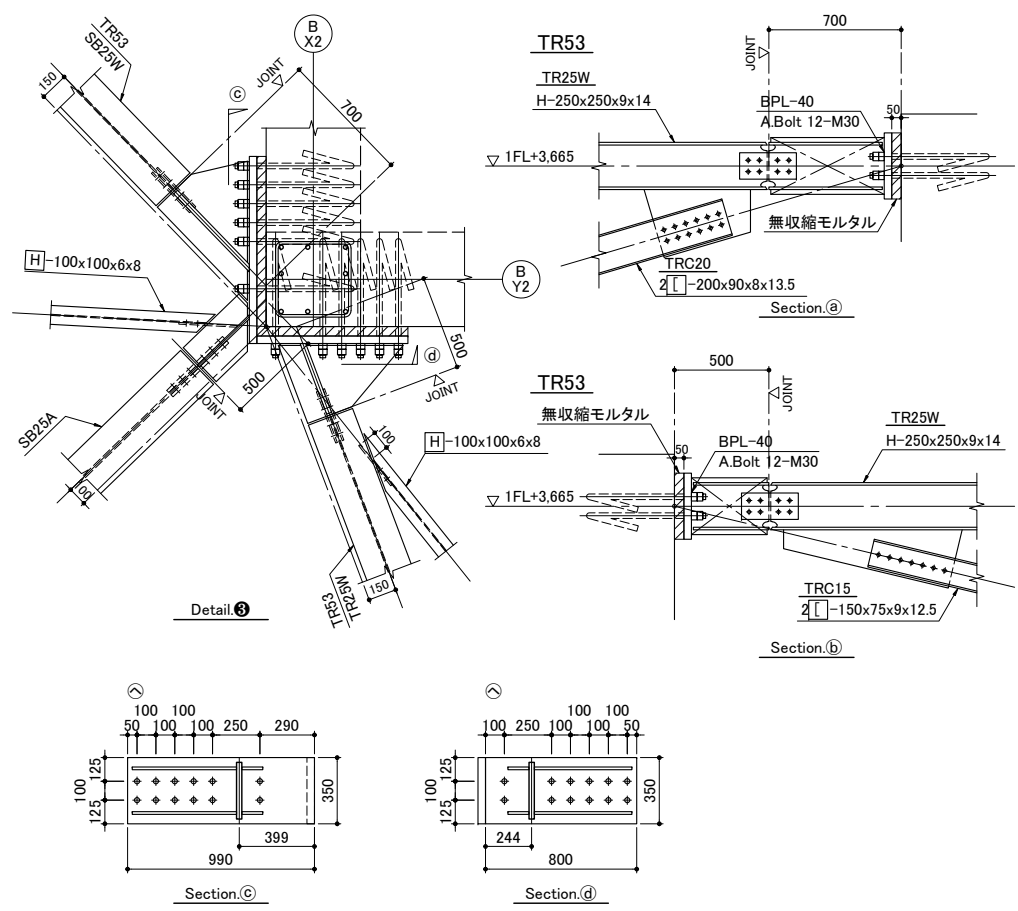
接合部⑪



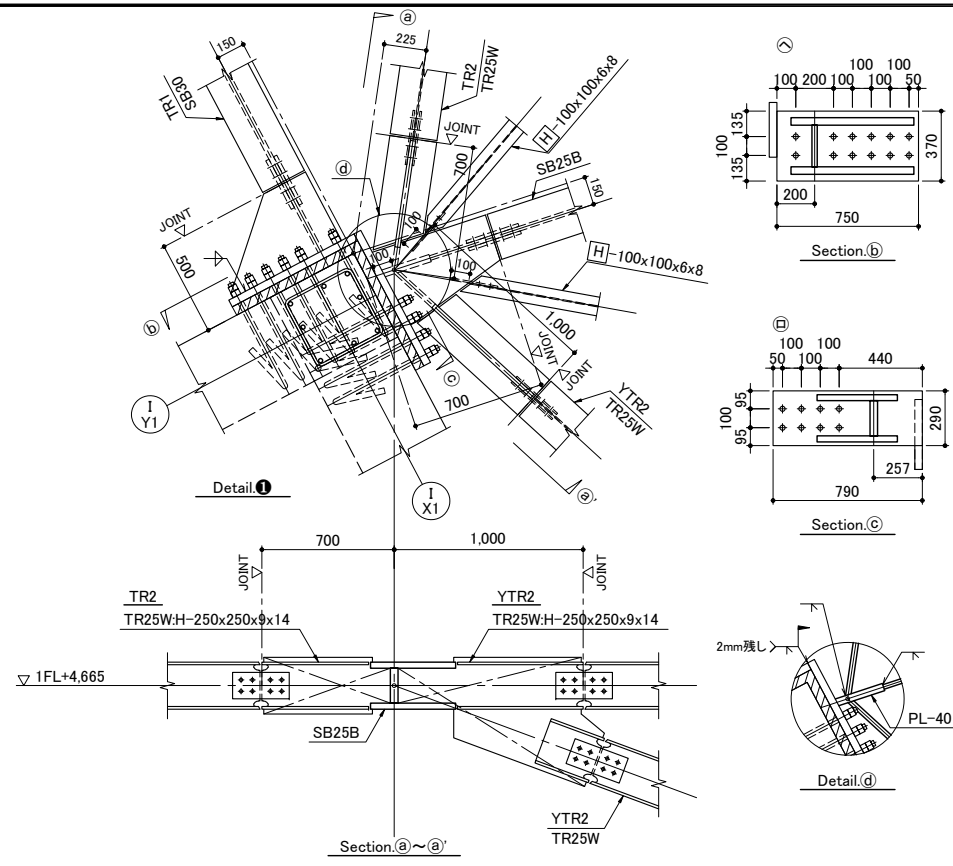
KEY PLAN



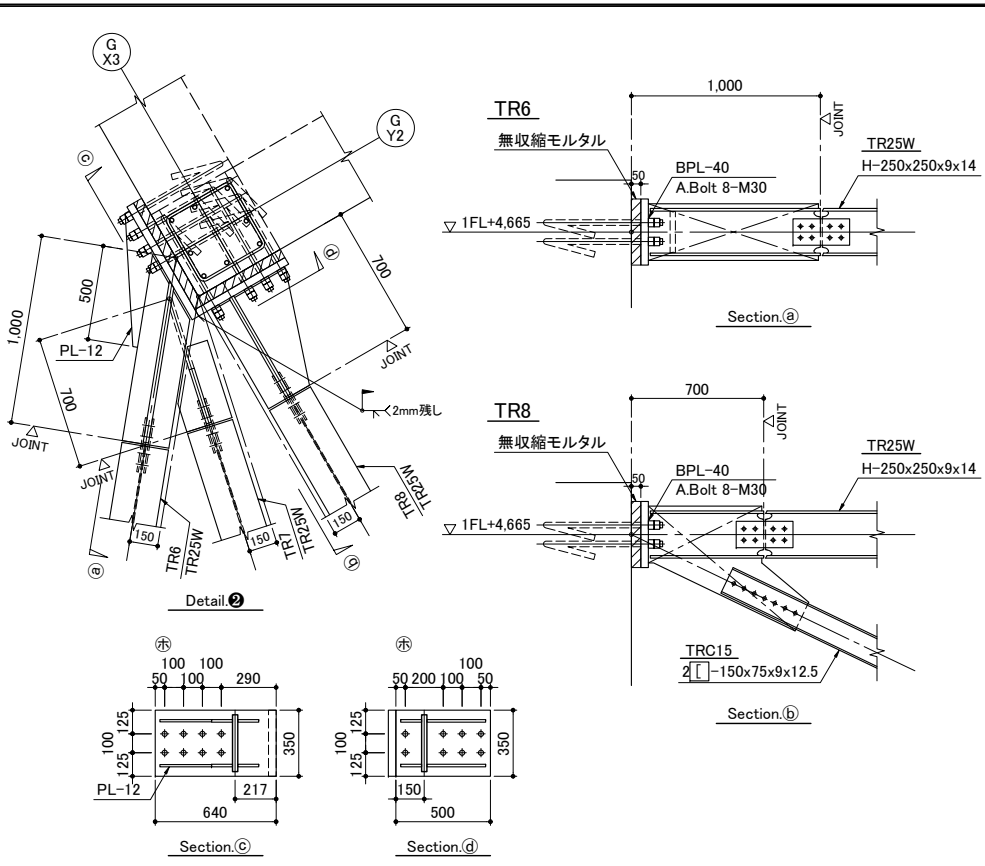
接合部③



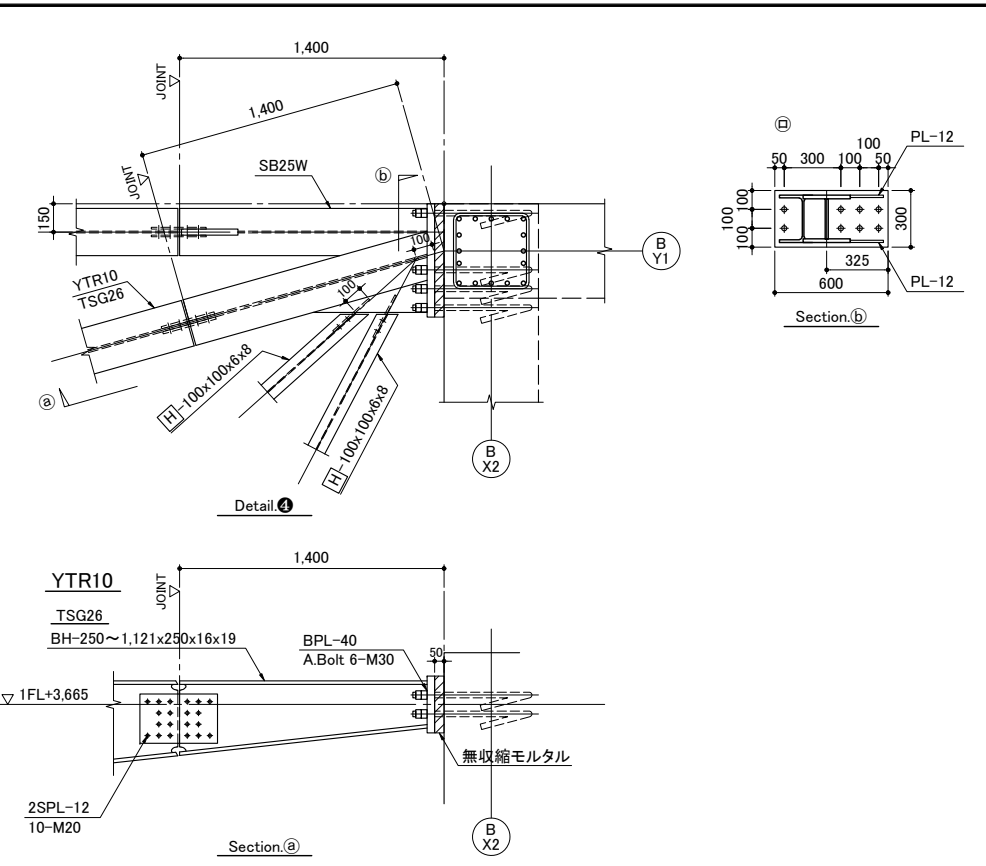
接合部①



接合部②



接合部④



特記なき限り 1. 鉄骨材質

無印 SN490B □印 SS400

2. 高力ボルト

S10T

4. アンカーボルト材質

アンカー詳細図-2 1/20 ○印 SN490C 3. GPL・SPL材質 母材と同材質 5. アンカーボルト長さ L=20d(フック付ダブルナット締め)

○印 SN490C

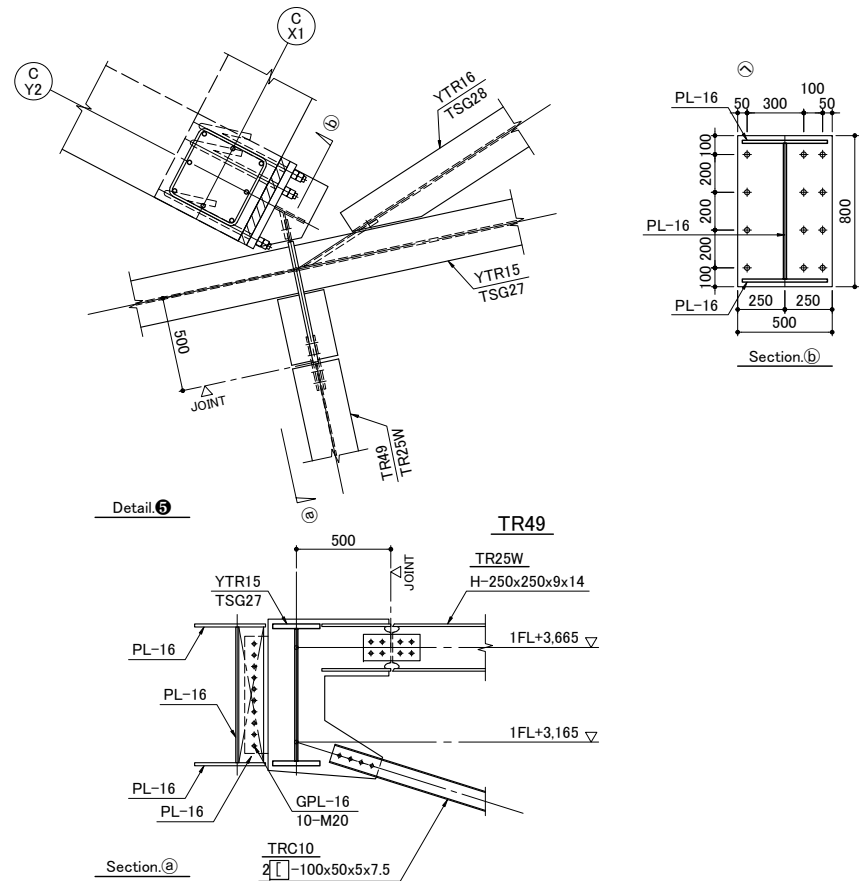
3. GPL・SPL材質 母材と同材質

PL-(1): 接合する柱厚以上、かつ、梁フランジ最大厚の2サイズ又は5mmアップとし、鉄骨材質はC材とする。

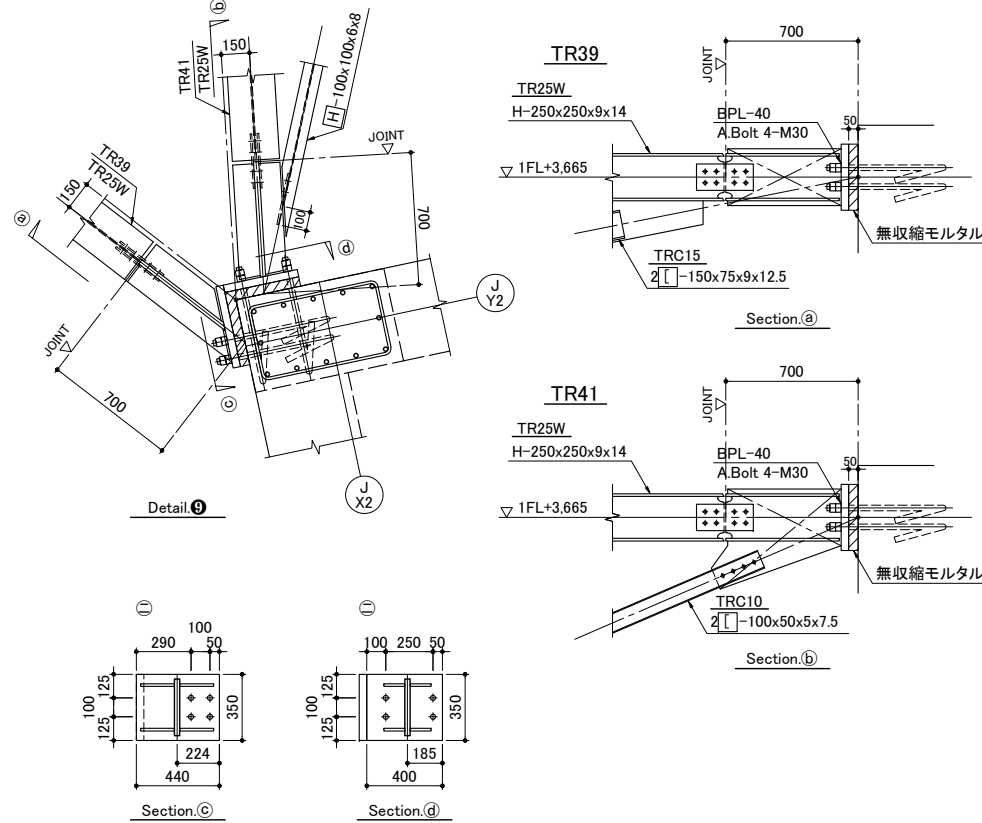
PL-(2): 接合する柱・梁フランジの最大厚以上とし、同材質とする。

PL-(3): 接合する柱と同厚とし、鉄骨材質はC材とする。

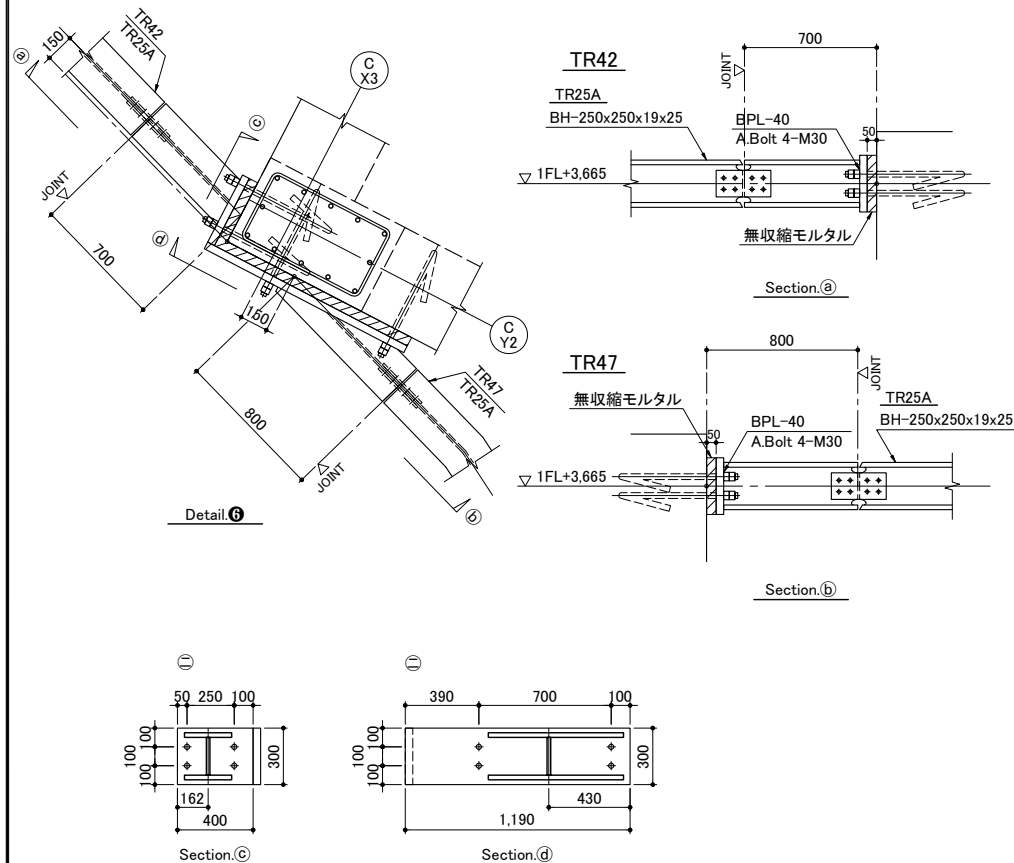
接合部⑤



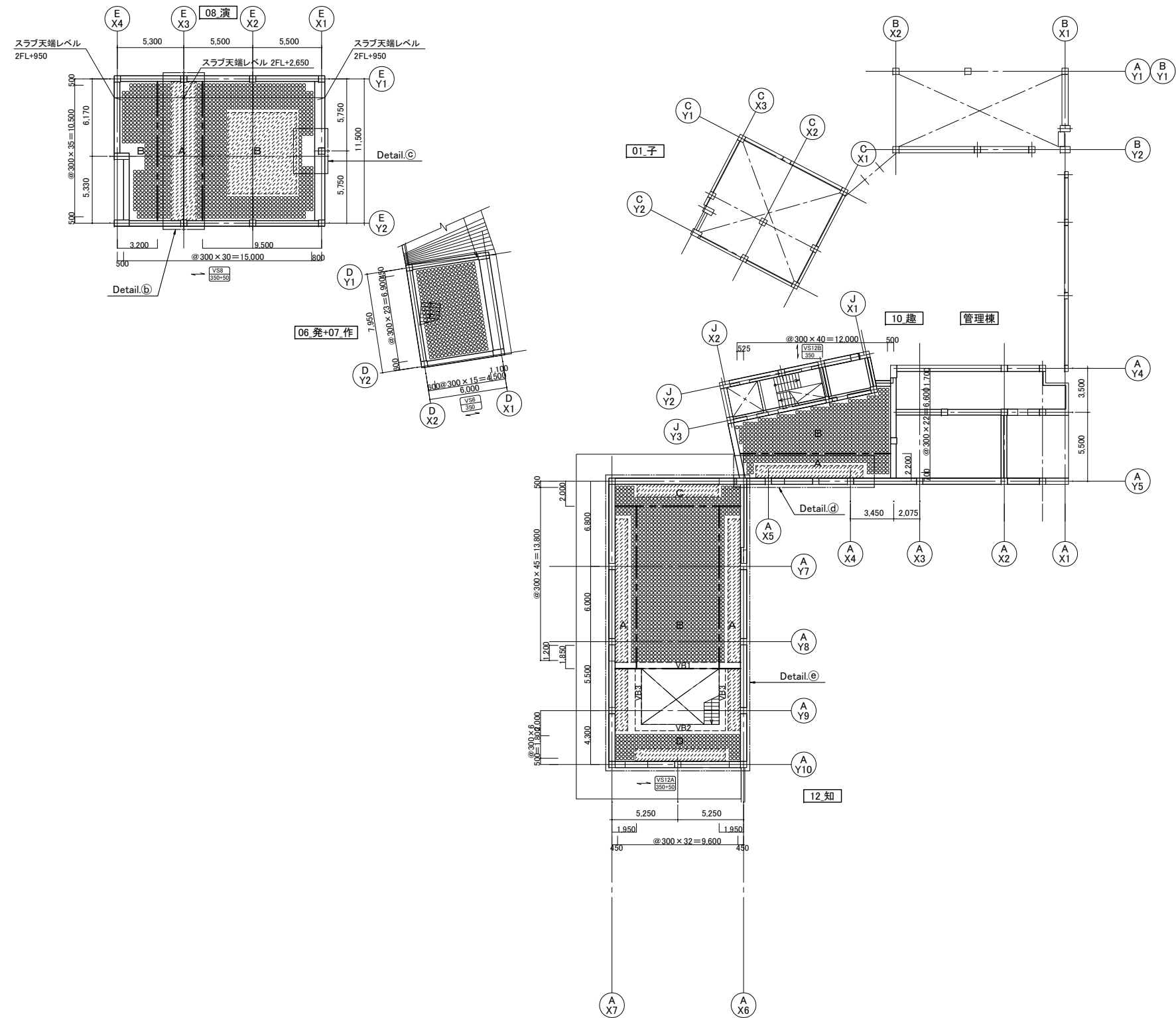
接合部⑦



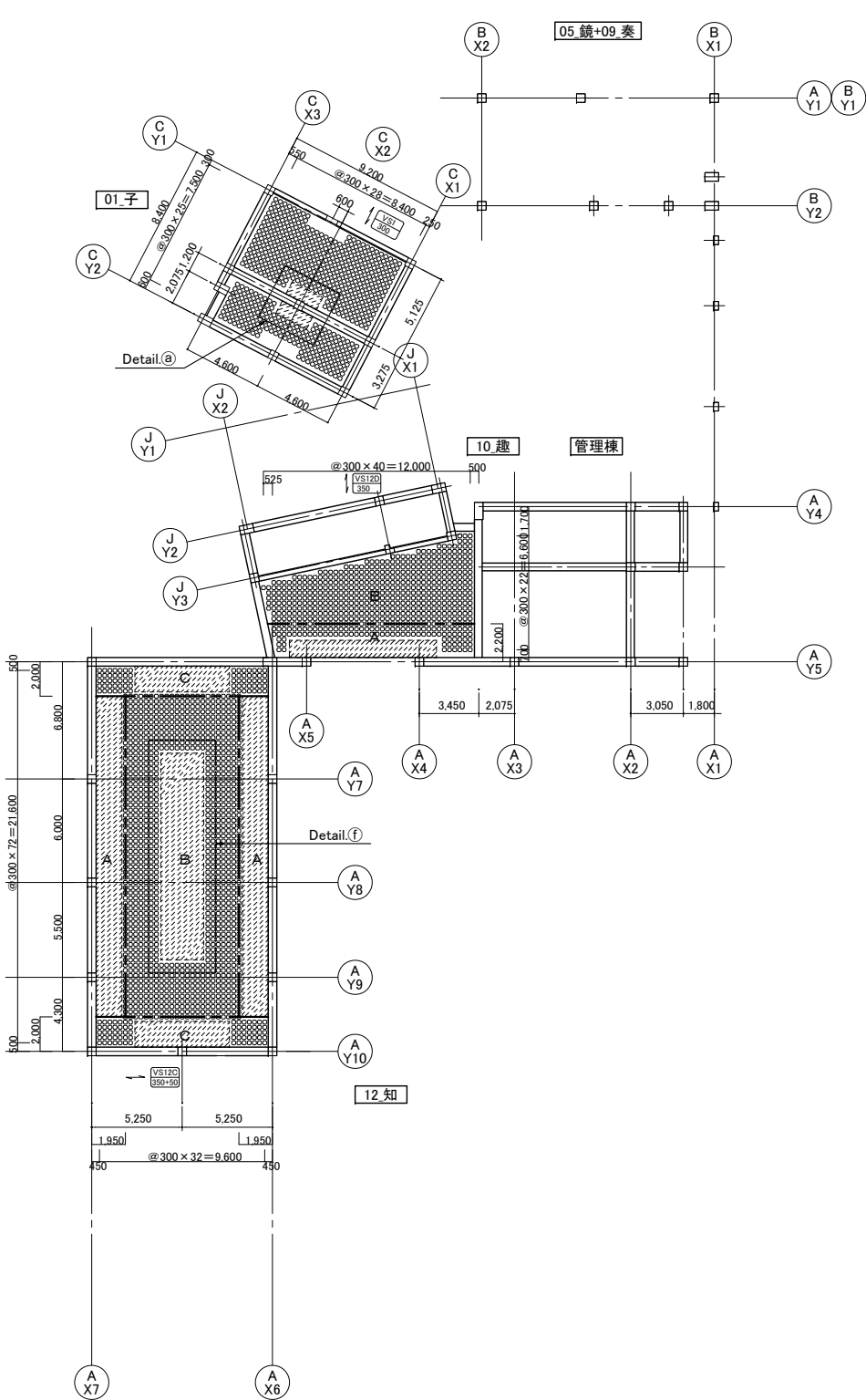
接合部⑥



- 特記なき限り
- は、スラブ主筋方向を示す
 - A～Cは、配筋範囲を示す
 - ZZZZ は、スラブ補強範囲を示す
 - ダイヤモンド配置寸法は、納まりによりダイヤモンド最多割付を優先するものとする
 - 梁天端レベル SL±0

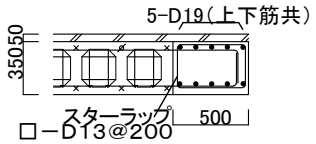


- 特記なき限り
- は、スラブ主筋方向を示す
 - A～Cは、配筋範囲を示す
 - ZZZZ は、スラブ補強範囲を示す
 - ダイヤモンド配置寸法は、納まりによりダイヤモンド最多割付を優先するものとする
 - 梁天端レベル SL±0

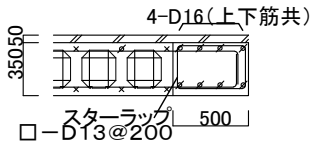


◆ ダイヤモンドボイドスラブ配筋リスト										900ピッチ当りの配筋を示す ()内は、ダイヤモンドボイド乗せ筋及び押え筋を示す																							
VS1 D=300 LL	主筋 方向	符号	全 域							主筋 方向	符号	全 域																					
		上筋	3-D16+3-D13 [+3-D10]								上筋	1-D16+5-D13 [+3-D10]																					
		断面									断面																						
		下筋	1-D16+5-D13								下筋	6-D16																					
	配力筋 方向	巾止メ筋	2-D10							巾止メ筋	2-D10																						
		符号	全 域							符号	全 域																						
		上筋	1-D16+2-D13							上筋	1-D16+5-D13																						
		断面								断面																							
下筋	4-D13 [+6-D10]							下筋	6-D13 [+6-D10]																								
VS8 D=350 +50 XO	主筋 方向	符号	A							主筋 方向	符号	B																					
		上筋	4-D16+2-D13 [+3-D10]								上筋	1-D16+3-D13 [+3-D10]																					
		断面									断面																						
		下筋	3-D13								下筋	4-D16+2-D13																					
	配力筋 方向	巾止メ筋	2-D10							巾止メ筋	2-D10																						
		符号	A							符号	B																						
		上筋	1-D16+2-D13							上筋	1-D16+2-D13																						
		断面								断面																							
下筋	3-D13 [+6-D10]							下筋	4-D16+2-D13 [+6-D10]																								
VS12A VS12C D=350 +50 XO	主筋 方向	符号	A							符号	B							符号	C							符号	D						
		上筋	6-D16 [+3-D10]							上筋	1-D16+2-D13 [+3-D10]							上筋	1-D16+5-D13 [+3-D10]							上筋	4-D16+2-D13 [+3-D10]						
		断面								断面								断面								断面							
		下筋	3-D13							下筋	6-D16							下筋	3-D13							下筋	3-D13						
		巾止メ筋	2-D10							巾止メ筋	2-D10							巾止メ筋	2-D10							巾止メ筋	2-D10						
		符号	A							符号	B							符号	C							符号	D						
	配力筋 方向	上筋	1-D16+4-D13							上筋	1-D16+2-D13							上筋	1-D16+5-D13							上筋	1-D16+5-D13						
		断面								断面								断面								断面							
		下筋	3-D13 [+6-D10]							下筋	6-D13 [+6-D10]							下筋	3-D13 [+6-D10]							下筋	3-D13 [+6-D10]						
		VS12B D=350 XO	主筋 方向	符号	A							符号	B																				
				上筋	6-D16 [+3-D10]							上筋	1-D16+4-D13 [+3-D10]																				
				断面								断面																					
配力筋 方向	下筋		3-D13							下筋	3-D16+3-D13																						
	巾止メ筋		2-D10							巾止メ筋	2-D10																						
	符号		A							符号	B																						
VS12D D=350 XO	主筋 方向	上筋	1-D16+4-D13							上筋	1-D16+2-D13																						
		断面								断面																							
		下筋	3-D13 [+6-D10]							下筋	6-D13 [+6-D10]																						
	配力筋 方向	符号	A							符号	B																						
		上筋	6-D16 [+3-D10]							上筋	1-D16+4-D13 [+3-D10]																						
		断面								断面																							

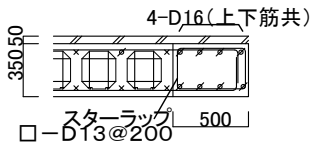
VB1



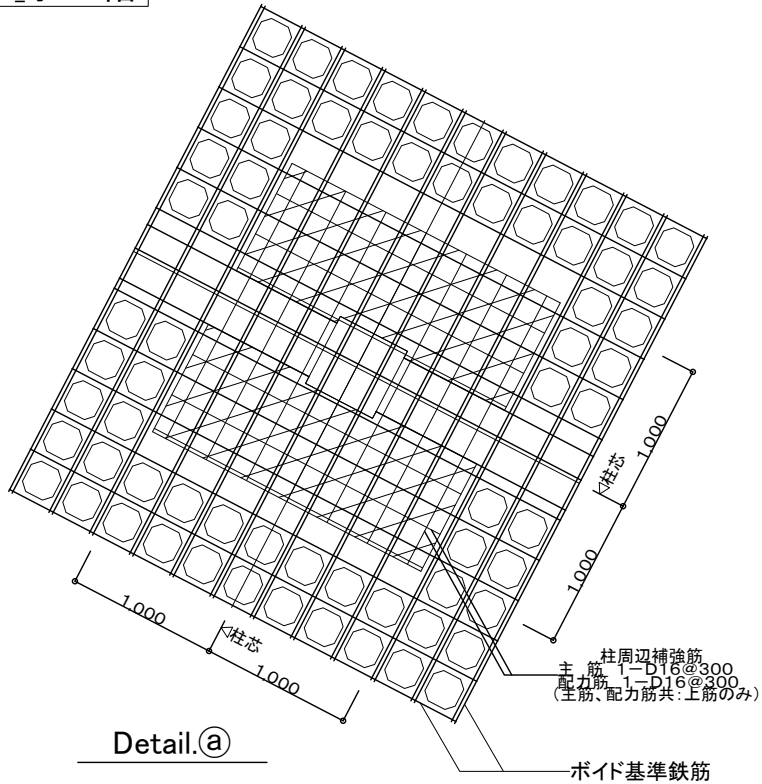
VB2



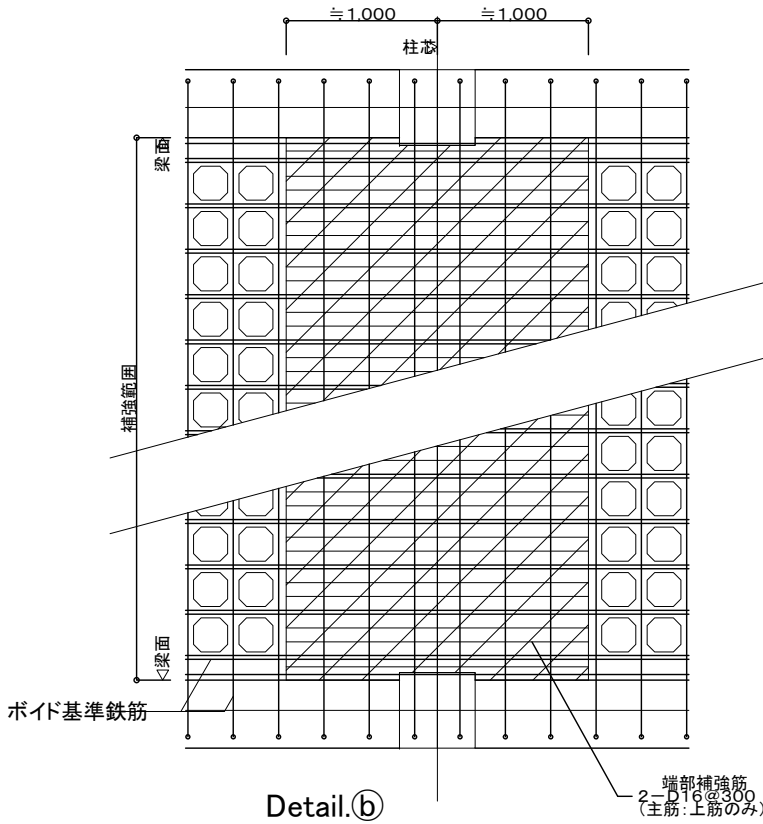
VB3

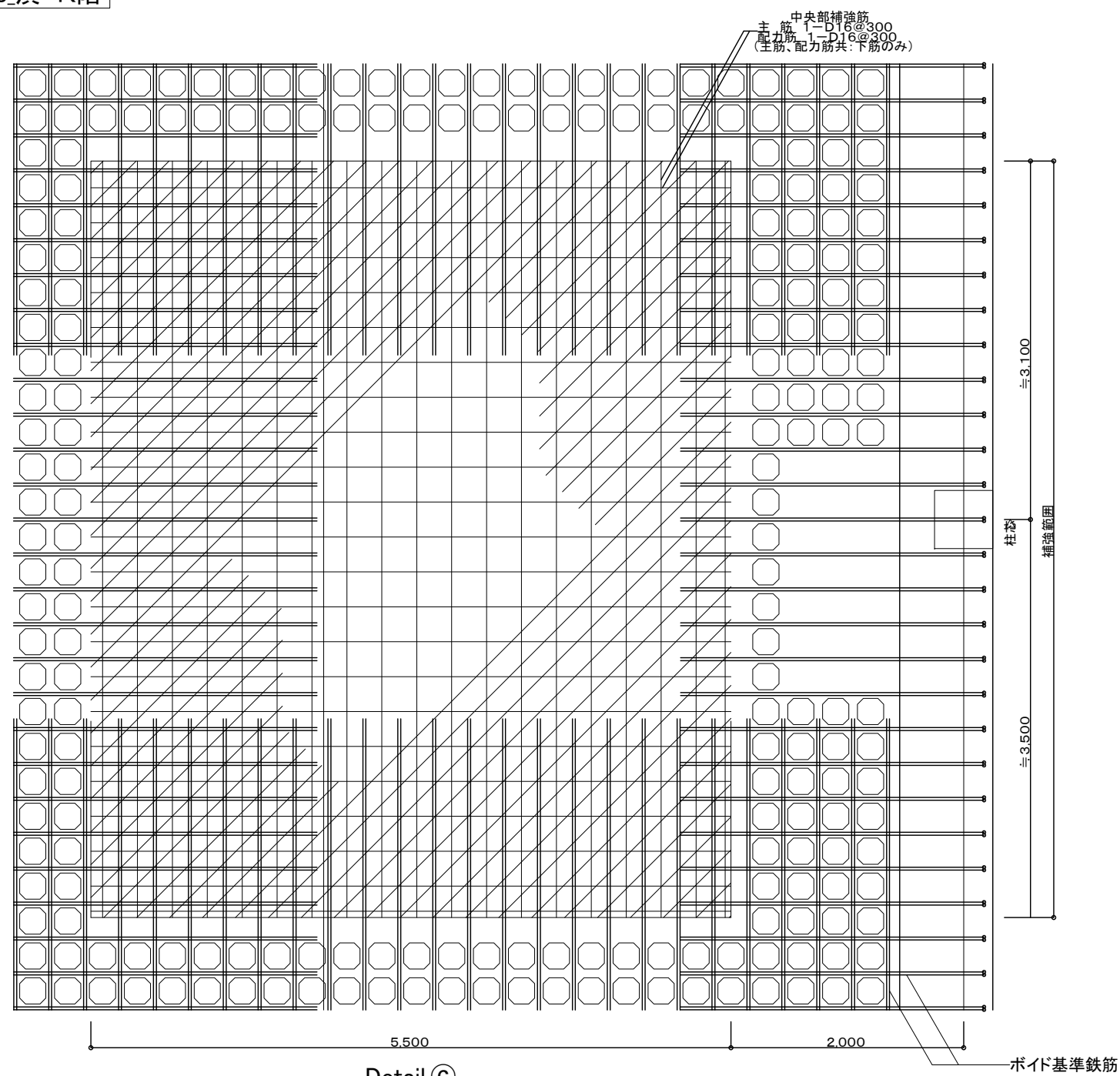


01_子 R階

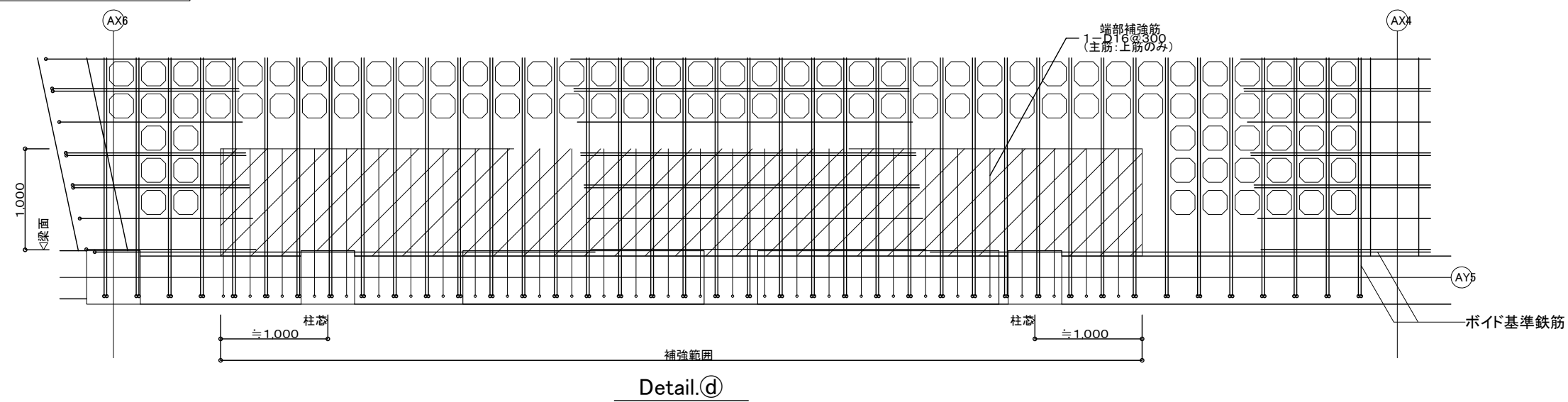


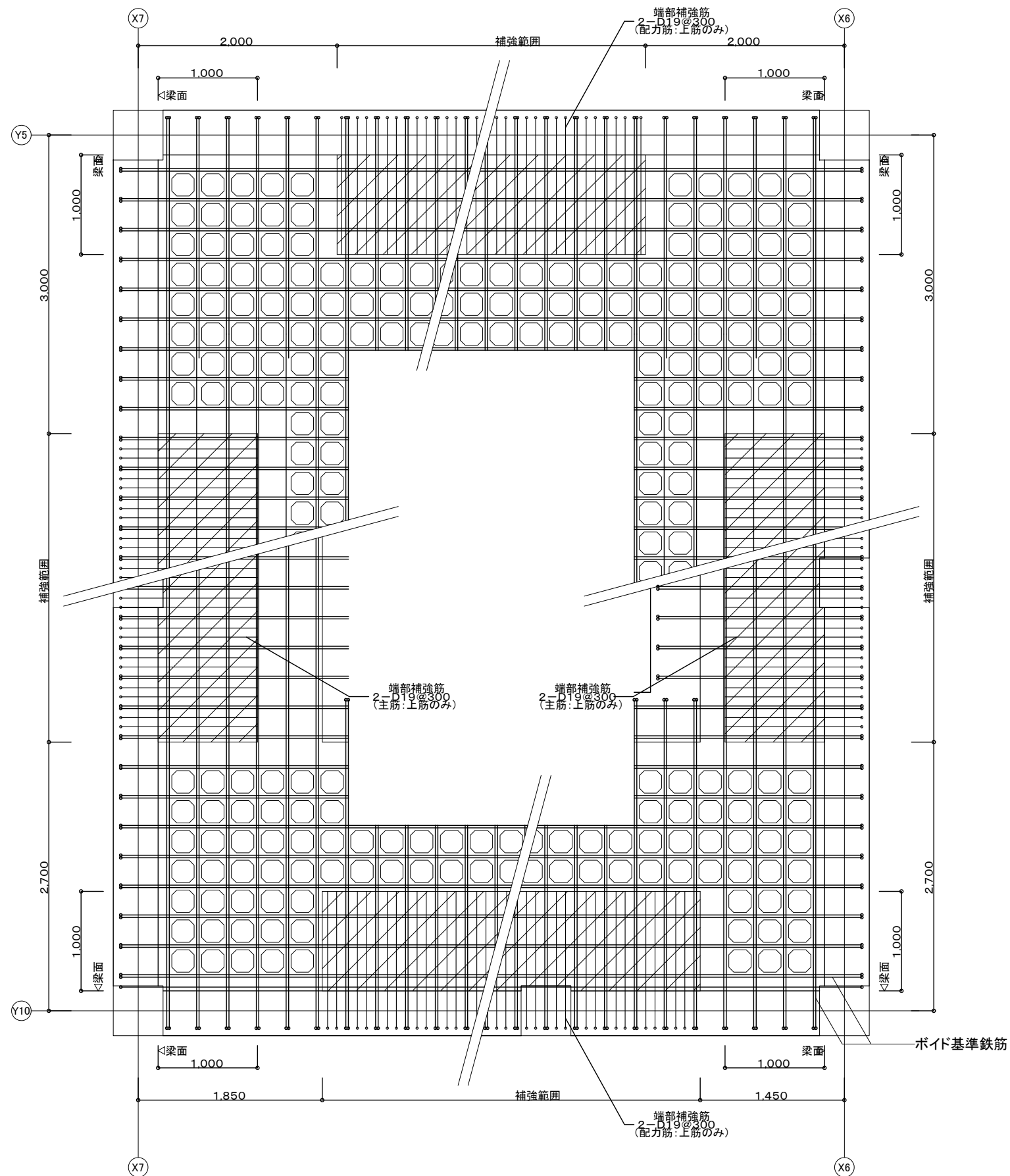
08_演 R階



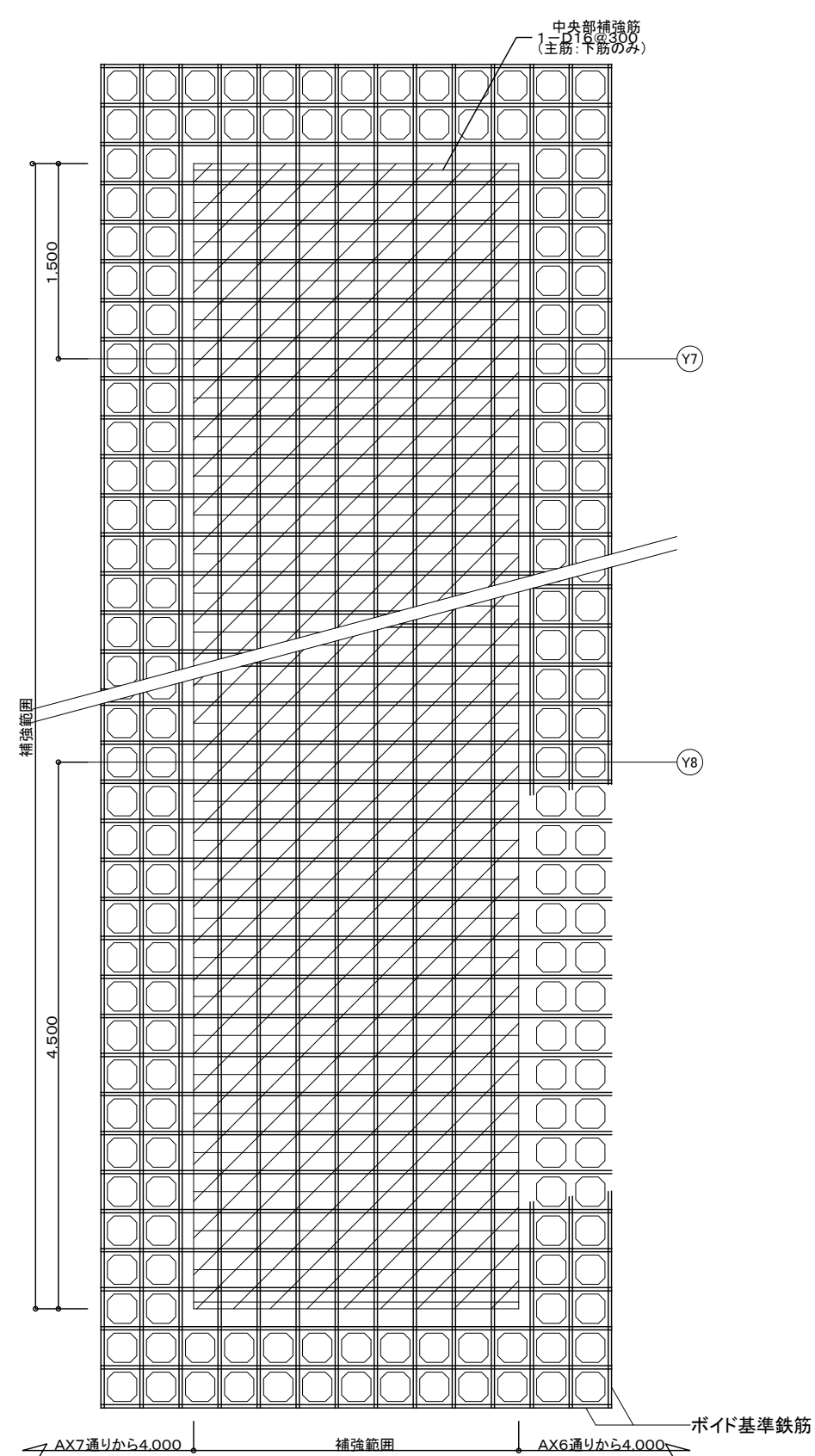


管理棟 2階・R階共通





Detail.e



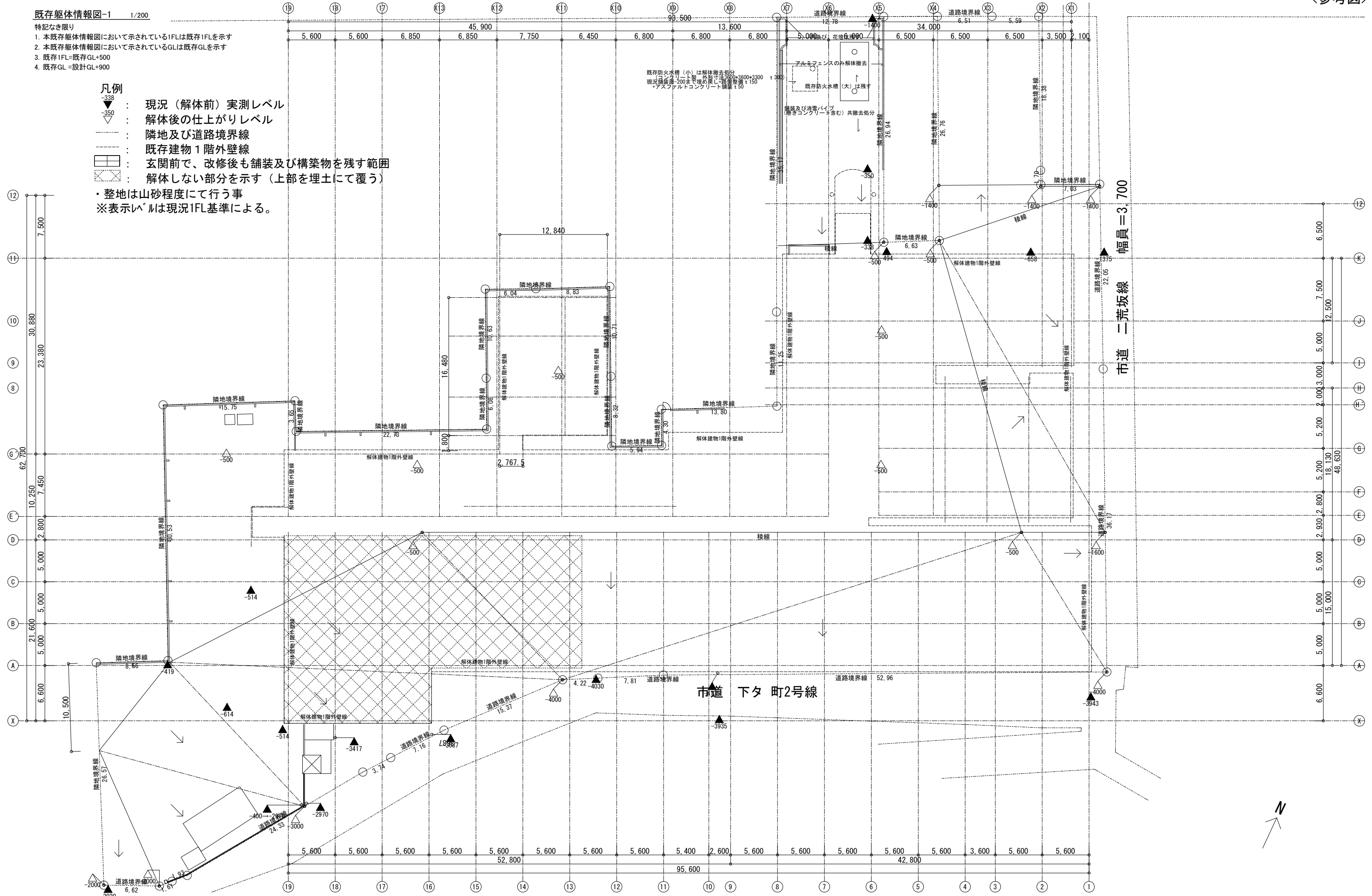
Detail.f

- 特記なき限り
1. 本既存躯体情報図において示されている1FLは既存1FLを示す
 2. 本既存躯体情報図において示されているGLは既存GLを示す
 3. 既存1FL=既存GL+500
 4. 既存GL=設計GL+900

凡例

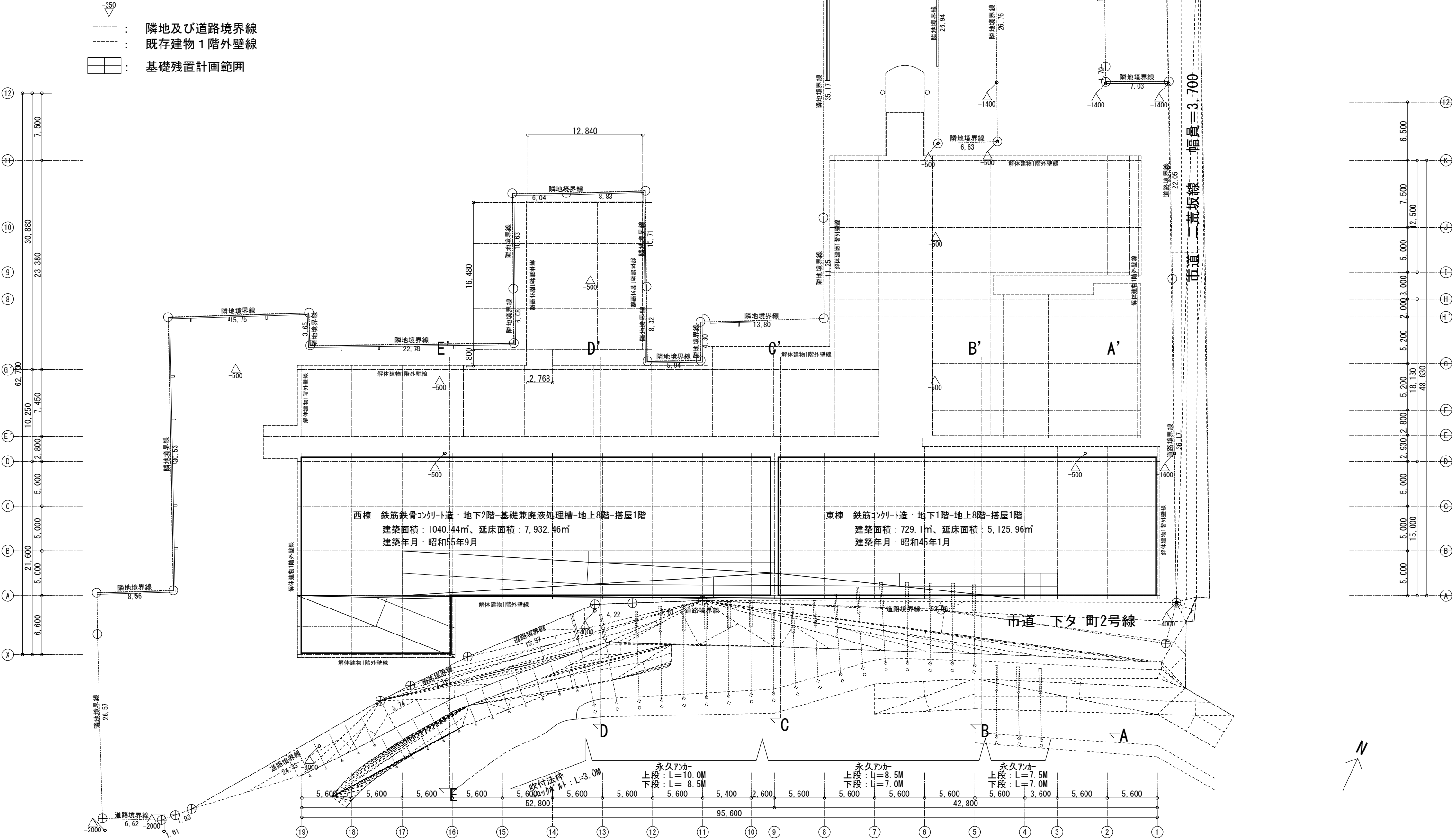
- ▲-338 : 現況（解体前）実測レベル
- ▼-350 : 解体後の仕上がりレベル
- - - : 隣地及び道路境界線
- - - : 既存建物1階外壁線
- ▬ : 玄関前で、改修後も舗装及び構築物を残す範囲
- ▨ : 解体しない部分を示す（上部を埋土にて覆う）

・整地は山砂程度にて行う事
※表示レベルは現況1FL基準による。



既存躯体情報図-2 1/200

- 特記なき限り
1. 本既存躯体情報図において示されている1FLは既存1FLを示す
 2. 本既存躯体情報図において示されているGLは既存GLを示す
 3. 既存1FL=既存GL+500
 4. 既存GL=設計GL+900



project	図書館等複合施設新築(建築主体)工事	akihisa hirata architecture office 一級建築士第339532号 杉山征利 一級建築士事務所 東京都知事登録第 57148号	株式会社平田晃久建築設計事務所 106-0031 東京都港区西麻布2-8-13F西麻布ビル 2-8-13 nishi-azabu minatoku tokyo 106-0031 tel 03-3409-1455 fax 03-3409-1458	オーブ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 一級建築士事務所 東京都知事登録 第 35571 号 構造 一級建築士 第339507号 構造一級建築士 第9408号 伊藤 潤一郎	date	R04.06.30	scale	1/200	subject	既存躯体情報図-2	S-102
---------	--------------------	--	---	--	------	-----------	-------	-------	---------	-----------	-------

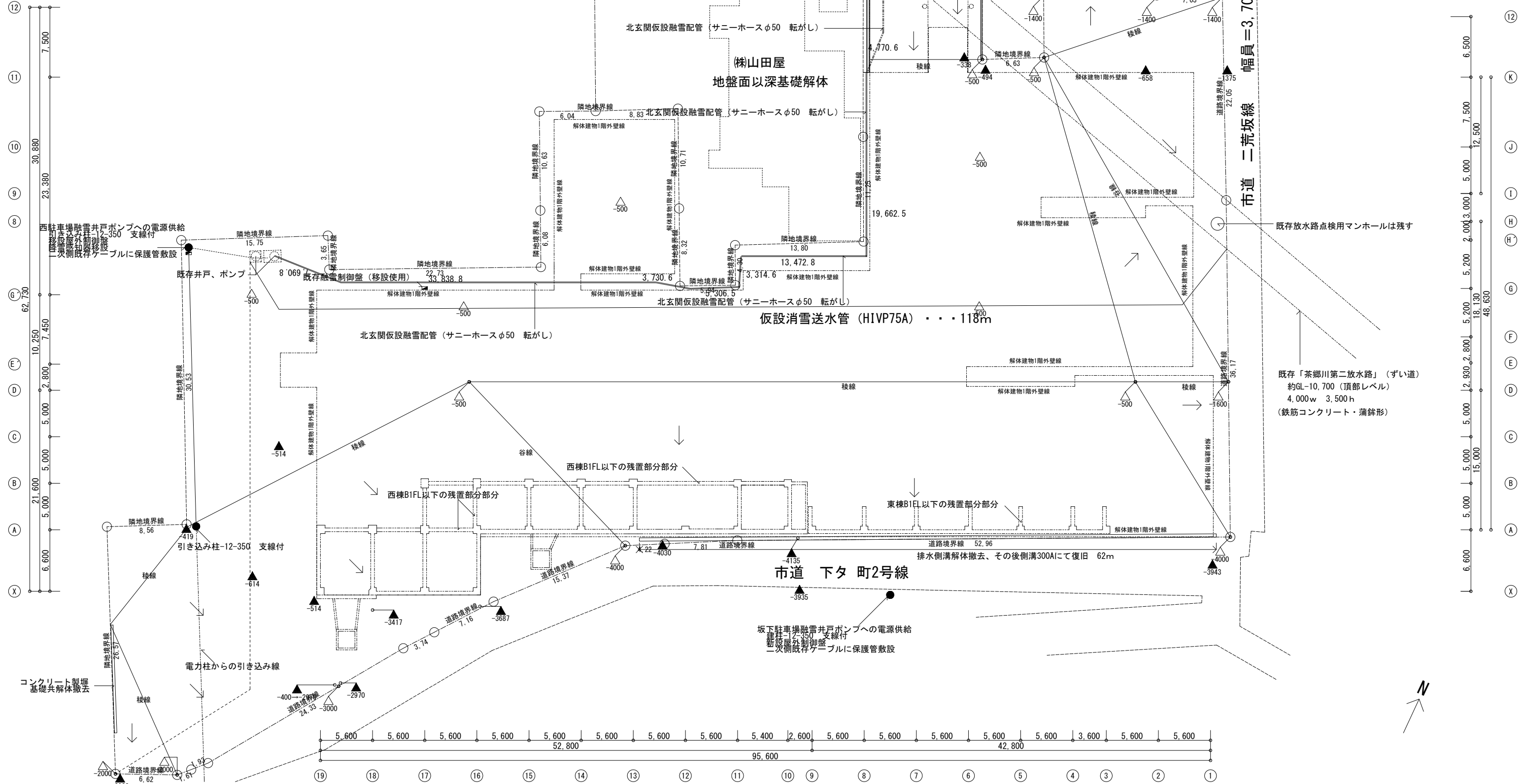
既存躯体情報図-3 1/200

特記なき限り

1. 本既存躯体情報図において示されている1FLは既存1FLを示す
2. 本既存躯体情報図において示されているGLは既存GLを示す
3. 既存1FL=既存GL+500
4. 既存GL=設計GL+900

凡例

- ▼⁻³³⁸ : 現況（解体前）実測レベル（東棟1FL基準）
- ▼⁻³⁵⁰ : 解体後の仕上がりレベル（東棟1FL基準）
- - - : 隣地及び道路境界線
- - - : 既存建物1階外壁線
- ・ 舗装を残す部分及び、新設舗装部以外は山砂を転圧整地し再生クラッシャーラン t 60を転圧する



既存躯体情報図-4 1/200

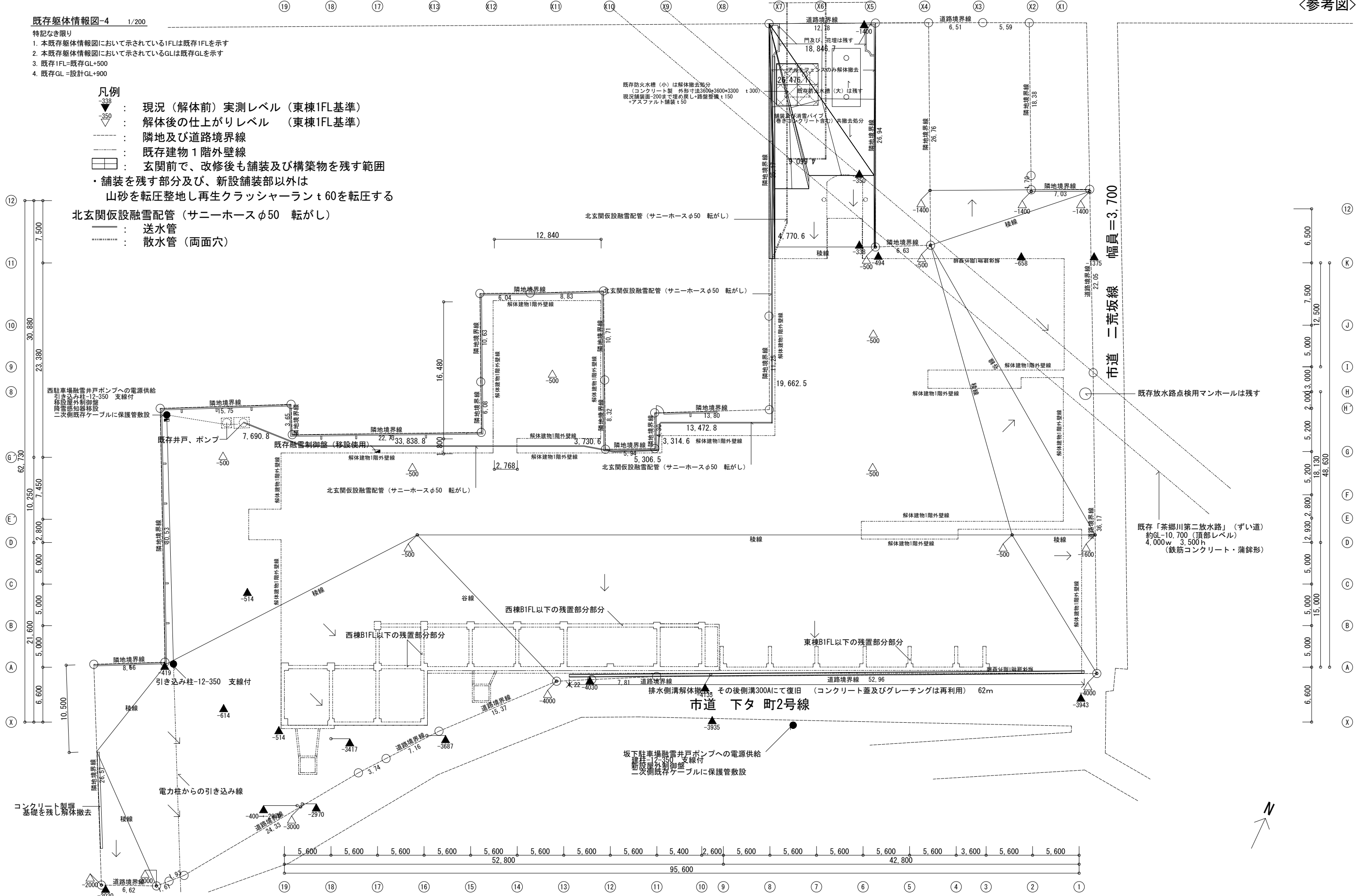
- 特記なき限り
1. 本既存躯体情報図において示されている1FLは既存1FLを示す
 2. 本既存躯体情報図において示されているGLは既存GLを示す
 3. 既存1FL=既存GL+500
 4. 既存GL =設計GL+900

凡例

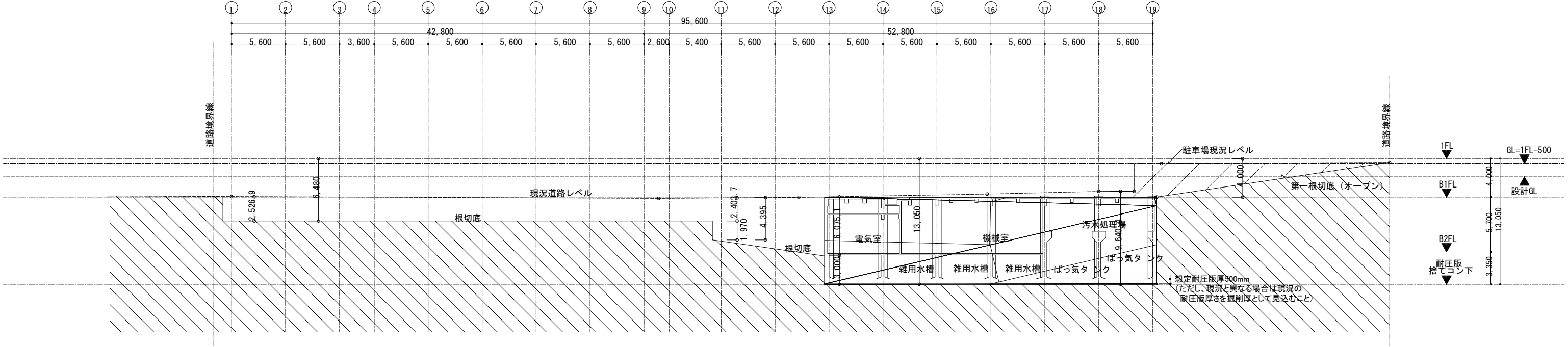
- ▽⁻³³⁸ : 現況（解体前）実測レベル（東棟1FL基準）
- ▽⁻³⁵⁰ : 解体後の仕上がりレベル（東棟1FL基準）
- - - : 隣地及び道路境界線
- - - : 既存建物1階外壁線
- ▢ : 玄関前で、改修後も舗装及び構築物を残す範囲
- ・ 舗装を残す部分及び、新設舗装部以外は山砂を転圧整地し再生クラッシャーラン t 60を転圧する

北玄関仮設融雪配管（サニーホースφ50 転がし）

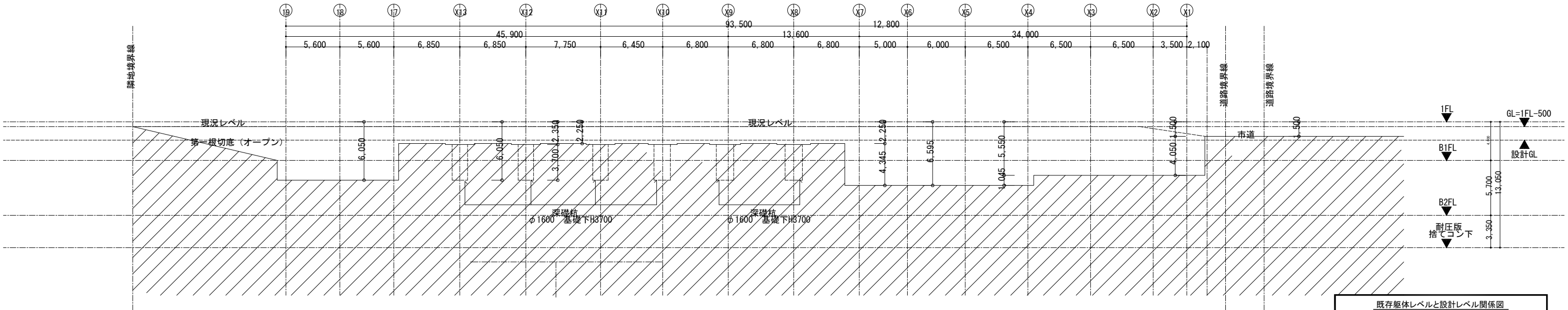
- : 送水管
- - - : 散水管（両面穴）



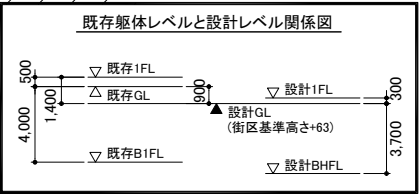
- 特記なき限り
1. 本既存躯体情報図において示されている1FLは既存1FLを示す
 2. 本既存躯体情報図において示されているB1FLは既存B1FLを示す
 3. 本既存躯体情報図において示されているB2FLは既存B2FLを示す
 4. 本既存躯体情報図において示されているGLは既存GLを示す
 5. 既存1FL=既存GL+500
 6. 既存GL =設計GL+900



A通り、X通り【A-A´】
【南面境界】

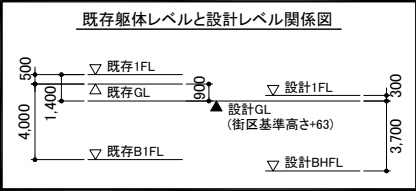
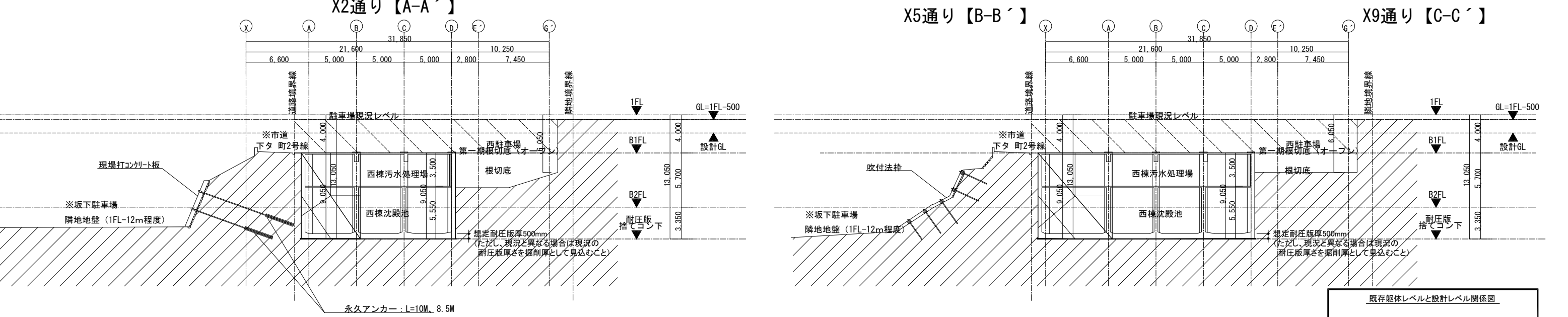
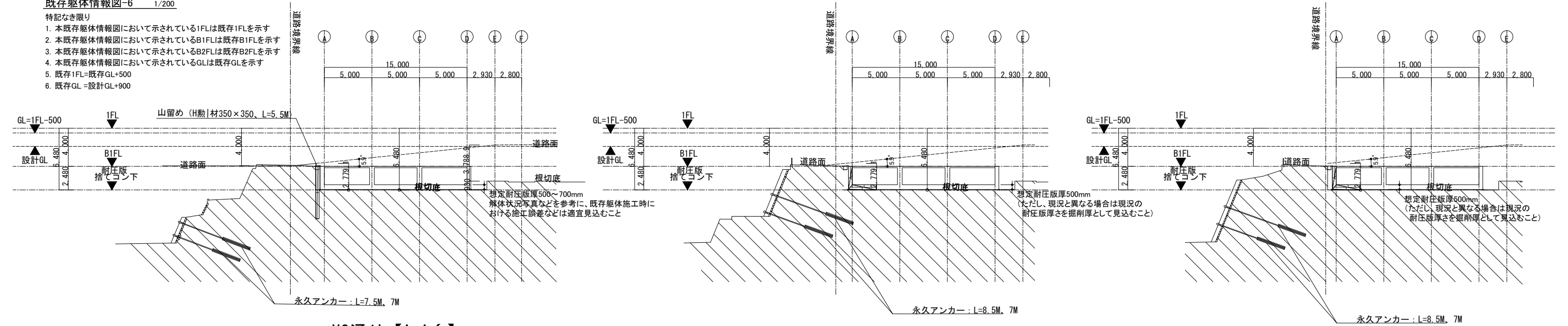


G´通り【B-B´】
【北面境界】



既存躯体情報図-6 1/200

- 特記なき限り
1. 本既存躯体情報図において示されている1FLは既存1FLを示す
 2. 本既存躯体情報図において示されているB1FLは既存B1FLを示す
 3. 本既存躯体情報図において示されているB2FLは既存B2FLを示す
 4. 本既存躯体情報図において示されているGLは既存GLを示す
 5. 既存1FL=既存GL+500
 6. 既存GL=設計GL+900



既存躯体撤去状況写真

